25th

社会医療法人 全仁会

二十五周年記念誌

Anniversary

1988-2013

社会医療法人 全仁会

二十五周年記念誌

25 周年を迎えて

前　へ

全仁会グループ　代表
高尾　武男

開院・改名

病院開設以来、前へ前へ進んできた。理事長交代を機にその道をふり返ってみようと思う。

神経内科医として仕事をしていて、継続医療の必要性を痛切に感じていた。患者本位の医療ができる病院構想、継続した地域医療実践の構想が「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」という病院理念となった。患者さんが安心して廊下の真ん中を歩ける病院、退院後のいつでも受診できるという安心、そういう期待に応えたいという思いが新病院開設のエネルギーであった。

昭和 62 年当時の地域医療計画では、岡山県南西部医療圏は病床過剰地域であり病床規制があったが、当病院の目指すリハビリテーション病院は不足しており、病院開設が認可された。

病院名は「高尾リハビリテーション病院」の予定でいたが、労働省管轄と違い当時の厚生省では、「リハビリテーション」は病院名にも診療科名にも許可されず、医療法人全仁会「高尾病院」という名称で昭和 63 年 1 月 11 日に開院した。それは四国と本州が結ばれる瀬戸大橋開通の 3 ヶ月前であった。

開院から 1 年後、元号が昭和から平成に移るとほぼ同時の平成元年 3 月、病院名を「高尾病院」から「倉敷平成病院」に改名した。

感謝

病院開設に至るには、地域の各界の多くの方のご尽力を賜った。とりわけ、老松町に病院敷地として 2,700 坪を譲って下さった 故 西藤秀男氏、福山市の（株）大宗建設会長 故 村岡聡明氏、岡山市の八晃会グループ会長の八田武志氏は、囲碁の先輩・遠縁そして患者と主治医だったりした偶然の縁なのに深い理解と協力で後押しして下さった。法人の敷地は、その後隣地であった日通や岡山県貨物等の移転という幸運に恵まれ現在 5,300 坪となっている。

病院開設にあたり、私の恩師鳥取大学神経内科学教室高橋和郎教授がきびしい教室運営の中、医師派遣をして下さり、その後、岡大・広大・川大等の諸教室からも協力が得られた。看護師・介護士他コメディカルスタッフも、病院理念に共鳴し集まった人達を核に人数が増えていった。しかし、医療を実践するには手順の統一・意識の統一等越えねばならない事柄が山積していた。開院前後の困難を共に乗り越えた職員の面々と、温かい目で育てて頂いた患者さん達に改めて感謝を捧げたい。

のぞみの会

全仁会の 4 本柱の 1 つ、のぞみの会は、病院開設前に既に誕生していた。脳卒中を経験され、継続して診て欲しい患者さん達の希望と、診療では得られなかった患者さんの生の声を聞きたい医療者側の願いから自然発生的に会が生まれていた。病院建設中の昭和 62 年 6 月に隣の老松小学校で第 10 回（約 600 人参加）を、昭和 63 年 1 月 9 日（土）に、ピカピカのリハビリセンターで第 11 回を開催し、病院を見学して頂いた。9 日のぞみの会、10 日竣工式、11 日開院の順であった。その後も老健や新しい施設が出来る度、先ずのぞみの会会員の

方に披露するのが習慣となっている。

のぞみの会の会員さんは入れ替わっているが、病院へ寄せられる関心と温情は変わらず続いており、私達職員も感動を貰っている。平成 25 年 11 月 17 日第 48 回のぞみの会も参加約 1,000 人の盛会であった。毎回工夫を凝らし周到に準備する職員の皆さんにも敬意を表したい。

在宅支援

“救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します”の実現は、病院だけでは明らかに不可能であった。

老人保健施設が制度化された昭和 62 年、全国 76 施設の第 1 期生として、岡山県に 3 ヶ所開設許可が下り、その中の 1 つとして病院開設とほぼ同時期の昭和 63 年 12 月、倉敷老健 100 床の開設となった。

核家族化、女性の社会進出が進み、家庭の介護力は次第に低下する社会の変化に伴い、「在宅」が困難な時代となった。「高齢者対策 5 カ年計画」等の下、国の政策や制度も次々に打ち立てられ、一方で、病院の在院日数は短縮を求められた。「在宅」へは、訪問診療に、訪問看護ステーション・ホームヘルプステーション・在宅介護支援センター（倉敷市委託事業）等を整備し、既に稼動していた通所系・訪問系・相談サービスを平成 11 年「倉敷在宅総合ケアセンター」に統合して利用者にわかりやすい体制とし、平成 12 年介護保険制度開始を迎えた。医療制度も変遷し、220 床の病床を、急性期病床に介護力強化病棟（平成 4 年）から回復期リハビリ病棟（平成 13 年）導入と、新制度を取り入れながら「救急から在宅まで」患者さんを継続して診ていける体制を維持した。

医師陣容

社会構造の変容に負けず劣らず、この四半世紀の医学の進歩は目ざましかった。創設期の病院は組織が未熟であり、人作り・組織作りに励む一方で、歴代院長の下医療の水準を保つ為の努力も継続された。

初代院長高尾武男（昭和 63 年～平成 1 年）、2 代目 故 西川清方氏（平成 1 年～平成 13 年）、3 代目高尾武男（平成 13 年～平成 18 年 3 月）、 4 代目鈴木健二現名誉院長（平成 18 年 4 月～平成 21 年 12 月）、 5 代目平川訓己現院長（平成 22 年 1 月～）の下、各々の時代の常勤医師・非常勤医師の勤勉さ・努力・協調性に支えられた。療養中の西川院長の支援に始まり、神経内科部長として内科系副院長として長く病院を支えて貰っている高尾芳樹副院長の功績も特筆したい。また、救急部長として救急医療の体制作りに力を注ぎ、一方ではのぞみの会責任者として会の発展に努力して下さっている篠山英道副院長にも感謝したい。

昭和 63 年の開院から半年後に県南西部初の MRI（0.5T）を導入し、脳ドックを早期から開始した。全国的に珍しかった脳ドックは、MRI が他病院からの依頼もあり平日はフル稼働であった為、西川院長と私とで土・日を利用した脳ドックであった。

増改築工事で平成脳ドックセンター整備（平成 5 年）、倉敷生活習慣病センター（平成 14 年姫井孟センター長、青山雅先生招聘）、総合美容センター（平成 16 年吉岡保センター長、華山博美先生招聘）、認知症疾患医療センター（平成 24 年）が開設された。

社会医療法人化・私の信条

平成 22 年には、地域の救急医療への貢献により社会医療法人として認可され、より公的な医療機関としての責任を負うこととなった。

病院の来し方を眺める時、ほぼ順調であるのは、高齢者が急速に増える時代に、病院の基本理念が社会の支持を得たことに尽きると思う。

社会がどの様に変化しようとも、患者さん･家族の声を聞き、地域に必要とされる予防･医療･福祉を志し、質･水準を保つ為のたゆまぬ努力をもって、わかりやすい･やさしい医療･介護を提供すれば、必ず社会に支持される、評価されるというのが、私の信条である。

前へ

人づくり、組織作りは永遠のテーマである。病院創設からの四半世紀を私の理事長としての区切りとし、次なる成長と充実を期待して理事長のバトンを渡したい。

全仁会グループのビジョン

救急から在宅まで
何時いかなる時でも対応します

―― 限りないQOLを求めて ――

クオリティ　オブ　ライフ
Quality of Life
人生の充実

- 臨床・教育・研究分野で患者本位の国際的水準の病院を目指します。
- 急性期から在宅医療まで質の高い効果的な継続的医療を目指します。
- 生活習慣病予防を基礎に予防医学を確立します。
- 患者本位四原則のもとに質の高いチーム医療を目指します。
- 患者さんの安全に配慮し、尊厳を尊重し、患者本位の原則を守り、患者さんに選ばれる病院を目指します。

患者本位四原則

- 患者さんのニーズを第一に最短でよくなる**正しい目標**を設定し、全人的に対応し、科学的根拠のある医療を行う
- 治療効果を上げるため**正しい配置**につき統合された質の高いチーム医療による患者本位の最善の医療を追求する
- 共に学び合う仲間を作り切磋琢磨し、全仁会医療人として個々のレベルを向上させ、**正しい機能**を発揮する
- 日々研鑽を惜しまず、やさしくわかりやすい医療サービスを提供し、患者さんから**正しい評価**を受ける

目 次

社会医療法人 全仁会　二十五周年記念誌

目　　次

25 周年を迎えて　全仁会グループ　代表　高尾　武男　2
全仁会グループのビジョン・患者本位四原則　4
目　　次　5

祝　　辞
鳥取大学　名誉教授・元学長　高橋　和郎　12
岡山大学大学院　脳神経内科学　教授　阿部　康二　13
岡山大学大学院　脳神経外科学　教授　伊達　　勲　14
川崎医科大学　神経内科学　教授　砂田　芳秀　15
川崎医科大学　脳卒中医学　教授　木村　和美　16
倉敷中央病院　院長　小笠原敬三　17
岡山県医師会　会長　石川　　紘　18
岡山県医師会　理事　江澤　和彦　19
倉敷市連合医師会　会長　守安　文明　20
岡山県病院協会　会長　小出　尚志　21
岡山県知事　伊原木隆太　22
倉敷市長　伊東　香織　23
総社市長　片岡　聡一　24
参議院議員　片山虎之助　25
衆議院議員　橋本　　岳　26

●序　編
25 周年によせて
（社医）全仁会　理事長　高尾聡一郎　28
（社医）全仁会　副理事長　高尾　公子　29
（社医）全仁会　倉敷平成病院　名誉院長　鈴木　健二　30
（社医）全仁会　倉敷平成病院　院長　平川　訓己　31

25 周年記念事業
岡山大学大学院　医歯薬学総合研究科　脳神経外科学　教授　伊達　勲　記念講演
「インテリジェント手術室での脳神経外科手術最先端」　32
桜並木計画　32
全仁会グループロゴマーク　33
座 談 会
「全仁会グループ 25 年のあゆみを振り返る　今後のさらなる発展のために」　34

●部門編
社会医療法人　全仁会
倉敷平成病院
診療部門
神経内科　神経内科部長　副院長　高尾　芳樹　44
脳神経外科　脳神経外科・救急部長　副院長　篠山　英道　44
整形外科・スポーツ整形外科　整形外科部長　渋谷　　啓　45
スポーツ整形外科部長　平川　宏之　45
消化器科　消化器科部長　前田　憲男　46
内視鏡室　内視鏡室室長（部長）　吉岡　　毅　47
循環器科　循環器科　循環器センター長　伊東　政敏　47

呼吸器科	呼吸器科医長	矢木　真一	48
総合診療科	総合診療科部長	内田　叔宏	49
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科部長	森　　幸威	50
形成外科	形成外科医長	石田　泰久	51
皮膚科	皮膚科医長	嶋田　八恵	51
眼科	眼科医長	石口奈世理	52
リハビリテーション科	リハビリテーション科部長	池田　健二	52
	リハビリテーションセンター長	高尾　祐子	52
放射線科	放射線科部長	塚本　和充	53
麻酔科	麻酔科部長	和田　　聡	53
和漢診療科	和漢診療科（中医）	甄　　立学	54
歯科	歯科医師	芦田　昌和	54
倉敷生活習慣病センター	診療部長	青山　　雅	55
総合美容センター	センター長	吉岡　　保	56
美容外科・形成外科	美容外科・形成外科部長	華山　博美	56
婦人科	婦人科医長	太田　郁子	57
認知症疾患医療センター	センター長	涌谷　陽介	58
平成脳ドックセンター	センター長	大橋　勝彦	60
平成南町クリニック	院長	玉田　二郎	60
看護部門			
看護部	副院長（看護担当）	有光　育代	61
	看護部長	武森三枝子	62
教育	教育担当師長	小山恵美子	62
外来	外来師長	立尾　且子	63
救急	救急　副主任	本田　俊江	63
手術・中央材料室	主任	那須　裕美	63
２階病棟	師長（兼）副部長	榊原一二三	64
３階西病棟	師長	岡本なおみ	64
３階東病棟	師長	加納　由美	65
４階西病棟（回復期リハビリ病棟）	師長	奥村美智子	65
４階東病棟（回復期リハビリ病棟）	師長	吉岡　文美	66
医療技術部門			
リハビリテーション部			
理学療法科	課長（兼）副センター長	津田陽一郎	66
作業療法科	課長	新崎佐江子	67
言語聴覚科（臨床心理士）	課長	藤本　憲正	67
訪問リハビリ	科長	荻野　誉子	68
放射線部	課長	嶋津　浩二	68
臨床検査部	課長	森山　研介	69
薬剤部	部長	市川　大介	69
栄養科	主任	小野　詠子	70
医療福祉相談室	課長	森　　智	71
事務部門			
事務部門	事務長	家村　益生	71
経営企画部　財務課	部長	石川　英知	72
経営企画部　経理課	課長	安田　寛行	72
経営企画部　医療情報室	部長	秋田　　望	72
人事部	部長（労務担当）	板谷　尚昌	73
	部長（採用担当）	西坂　孝治	73
秘書・広報室	課長	三宅　裕代	73

医療事務部　医事課	科長	高見　尚生	74
医療事務部　DPC 課	課長	三宅　　徹	74
医療事務部　病歴管理室	副主任	栢野　浩行	75
医療事務部　医療秘書課	主任	金光　ルミ	75
業務サービス部　施設管理課	課長	金光　秀彰	76
業務サービス部　搬送管理課	主任	小坂　聡弘	76
地域連携室	室長	渡邉　英子	76
医療安全対策室	室長	立尾　且子	77
保育室	副主任	佐藤　玉貴	77
介護老人保健施設　倉敷老健	施設長	大浜　栄作	78
	副院長（介護系施設担当）	山田奈々子	79
倉敷在宅総合ケアセンター			
倉敷在宅ケアセンター居宅介護支援事業所	課長	難波　　忍	79
老松・中洲高齢者支援センター	副主任	青木　菊江	80
倉敷平成病院通所リハビリテーション（予防リハ）	主任	樋野　稔夫	80
倉敷老健通所リハビリテーション（通所リハ）	師長	山下　澄枝	81
ヘイセイ訪問看護ステーション	所長	濵田ゆりか	81
住宅型有料老人ホームローズガーデン倉敷	施設長	高尾　公子	82
社会福祉法人　全仁会			
ケアハウスドリームガーデン倉敷	施設長	武部美智子	83
デイサービスドリーム	介護主任	坂本　晋也	83
倉敷在宅総合ケアセンターショートステイ	師長	清水　蕗子	84
複合型介護施設ピースガーデン倉敷	施設長	内山　順治	84
デイサービスゆかいな広場	介護科長	柳井　健司	84
地域密着型特養ピースガーデン	介護科長	佐々木嘉信	85
ピースガーデン倉敷ショートステイ	介護科長	江口　美樹	85
グループホームのぞみ	介護科長	赤澤　吾郎	86
(有)医療福祉研究所ヘイセイ			
(有)医療福祉研究所ヘイセイ	代表取締役	矢野　英彦	87
ヘイセイ鍼灸治療院	院長（中医）	甄　　立学	87
サービス付き高齢者向け住宅グランドガーデン南町	ゼネラルマネージャー	竹下　　穣	88

●委員会・会議編

委員会編 90
会議編 98
全仁会４本柱 102

●写真編

写真でみる全仁会（平成 15 年度後半～平成 25 年度） 111
倉敷天領夏祭りと倉敷平成病院 128
消火技術訓練大会 129
部・サークル活動 130

●資料編

全仁会グループのあゆみ 132
全仁会グループ概要 133
全仁会グループ年表 134
数字で見る全仁会 180
外来患者数 180
紹介率 180

救急搬入件数 180
入院患者数・平均在院日数 181
病床変遷 181
手術件数 182
脳ドックセンター受診者数 182
リハビリ部実績（理学療法実施単位数／作業療法実施単位数／言語聴覚療法実施単位数／心理療法実績） 183
放射線部実績（全件数／ MR 件数／ CT 件数／マンモグラフィ件数） 184
臨床検査部実績（血液学的検査件数／生化学検査件数／免疫学的検査件数／一般検査件数／生理検査件数） 185
薬剤部実績（処方箋枚数（院内）／服薬指導件数） 186
栄養科実績（特別食と一般食の食数／栄養指導件数） 186
老健入所者数 187
倉敷在宅総合ケアセンター 187
ケアプラン件数 187
通所リハ利用者数 187
デイリハ利用者数 188
予防リハ利用者数 188
訪問看護ステーション件数 188
訪問リハ件数（訪看 St） 188
訪問リハ件数（病院） 188
訪問介護件数 189
訪問入浴件数 189
福祉用具貸与件数 189
介護タクシー 190
鍼灸治療院患者数 190
倉敷在宅総合ケアセンターショートステイ利用者数 190
ピースガーデン倉敷 191
デイサービス　ゆかいな広場 191
地域密着型特養　ピースガーデン 191
ピースガーデン倉敷　ショートステイ 191
グループホーム　のぞみ 191
ローズガーデン倉敷平均入居者数 192
ドリームガーデン倉敷平均入居者数 192
デイサービスドリーム平均利用者数 192
グランドガーデン南町平均入居者数 192
南町ケアプラン室ケアプラン件数 192
ヘルプステーション南町平均利用者数 192

各メディアに紹介された全仁会 193
FM くらしき「平成健康アラカルト」 204
院内コンサート 209
永年勤続者（二十五年／二十年／十年） 210
協力企業 211
全仁会グループ組織図 212
職員名簿 214

編集後記 222

祝 辞

社会医療法人 全仁会　二十五周年記念誌

祝　辞

倉敷平成病院の発展を願って

鳥取大学　名誉教授・元学長
高橋　和郎

25 周年記念お目出度うございます。高尾君とは神経病理時代ご一緒したのが初めでした。

脳研神経病理部門は一般病理学教室に頭が上がらず共に苦労した時代でした。君は人との交わりがうまく、当時島根医大に赴任して来た小林教授（現学長）とも交わりを持ち私の家にお連れしたのも君でした。その後私は神経内科に移り、君も神経内科に移って来ました。

その頃から君は倉敷の地に病院を起こすことを計画し現在に至りました。その間君一流の交際を通じここまで病院を大きく発展させてまいりました。まことに御同慶の至りです。

「救急から在宅まで」と云うのが君のモットーであり、その間患者さんを第一に考え、時には君自身が患者さんを背負い移動することもあったと聞いております。この様な病院が発展しないわけがありません。今後益々発展されることを祈って私のお祝いの言葉とします。

祝 25 周年

岡山大学大学院　医歯薬学総合研究科　脳神経内科学　教授
阿部　康二

この度は倉敷平成病院が開院 25 周年を迎えられたということで誠にお目出度うございます。また 2013 年 4 月から高尾聡一郎先生が全仁会の理事長に、また高尾武男先生が全仁会グループ代表に新しくご就任され、改めてお祝い申し上げます。日頃から私共神経内科教室の若い人達が、高尾理事長先生始め平成病院の職員の皆様に大変お世話になり有難うございます。私自身が平成病院に時々診療のお手伝いに来させて頂くようになったのは、15 年ぐらい前かと思いますが、丁度その頃に平成病院開院 10 周年記念祝賀会がありまして私も出席させて頂いた記憶があります。

いま思い出しますと、あの時は故橋本龍太郎先生が総理大臣の大役を終えられた頃かと思いますが、ご出席されてお祝いのスピーチをされました。その時のスピーチでは、「平成病院が開業 10 年でこれほど急速に発展されたことは大変喜ばしいけれども、余りに急速に発展し過ぎて却って大丈夫なんだろうかと少し心配もしている」、というような内容だったような記憶があります。

早いもので、あれからもう 15 年も経つのかと思いますが、あの時の故橋本龍太郎先生のニコニコしながら「平成病院の今後ますますの発展を期待しています」というお祝いの言葉通りに大発展されて、今日の 25 周年を迎えているものと拝察しております。

この 25 年間は高尾武男先生を中心として、公子先生、芳樹先生、平川先生はじめ代々の院長先生方の大変なご尽力があり、また職員皆様方の日頃のご努力の賜物であると拝察しております。2013 年 4 月からはご長男の聡一郎先生が新しく理事長になられまして、今後ますますご発展されますよう私自身も大変期待しております。この度は誠にお目出度うございます。

全仁会　倉敷平成病院
25周年をお祝いして

岡山大学大学院　医歯薬学総合研究科　脳神経外科学　教授
伊達　勲

全仁会 倉敷平成病院開院25周年、誠におめでとうございます。倉敷平成病院は、高尾武男先生の「救急から在宅まで」のコンセプトを開院以来引き継ぎ、非常に大きな組織に成長して、地域医療に多大の貢献をされていることに深く敬意を表します。

倉敷平成病院には、岡山大学脳神経外科同門の鈴木健二先生、篠山英道先生、高尾聡一郎先生の3名がいらっしゃり、普段から大変深いお付き合いがあります。鈴木先生は、私が昭和57年に岡山大学脳神経外科に入局したときに医局長をされていて、臨床的な指導はもちろんのこと、医師としての姿勢や社会人としての生き方を情熱的に教えてくださいました。篠山先生は私の弟と同級生で、岡山市の中山中学校のときからよく存じあげており、岡山大学病院でも機能的脳神経外科の手術などを一緒にさせていただきました。また、高尾先生は、ノイヘレン（新入局）の時に私のウンテンで、夜遅くまでよく働いてくれたことを思い出します。岡大の医局は大変スポーツが盛んですが、高尾先生は学生時代に野球やゴルフの経験が豊富で、どのスポーツでも中心選手として活躍していました。結婚の時は既に私が教授になっていたこともあり、仲人を務めさせていただきました。

丁度1年前に25周年の祝賀会を倉敷のアイビースクエアで開催されたときに、前述のような深いお付き合いの関係もあって、「インテリジェント手術室での脳神経外科手術最先端」の題で記念講演をさせていただきました。祝賀会には、政界、財界、医学界、マスコミなどの方が多数こられていて、倉敷平成病院が「救急から在宅まで」のコンセプトの下で、多くの皆さんに愛される組織を作り上げてこられたことに深い感銘を受けました。

昨年4月には高尾武男先生が名誉理事長に、高尾聡一郎先生が理事長に就任されました。高尾聡一郎先生のバイタリティーで全仁会倉敷平成病院が今後も益々発展されることを祈念申し上げます。

祝開院 25 周年

川崎医科大学　神経内科学　教授
砂田　芳秀

倉敷平成病院開院 25 周年おめでとうございます。

四半世紀という時間のなかで、全仁会グループを率いてここまで発展させてこられた高尾武男代表のご功績に対して最大限の敬意を表します。「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」との理念の下、急性期医療からリハビリテーション、在宅医療・介護、高齢者住宅まで切れ目のない一貫したサービスを提供する素晴らしい体制を築かれました。先日の新年祝賀会でのご挨拶で、武男代表が「自分はやれるだけのことをやり尽くした」と言明されたことに心から敬服いたしました。ここに至るまでには、どれほど多くの苦労を乗り越えてこられたか私には想像もできませんが、男子の本懐をとげられた一種のすがすがしさのようなものが感じられました。

私は 14 年前に川崎医科大学に赴任してきましたが、神経内科という専門を同じくすることから、武男代表には親しくお付き合いいただいてきました。また高尾芳樹先生とは同世代ということもあり、様々な研究会で一緒に勉強させていただいています。平成病院はこの地域における神経内科診療のレベルアップを図るためには、なくてはならない大切なパートナーです。とりわけ平成 24 年 3 月からはともに認知症疾患医療センターに指定され、備中地区の認知症の医療と介護の連携を推進しています。これからも、一層緊密な協力体制を築きながら、発展してゆくことを期待しています。

平川病院長の就任祝賀会で、平成病院は石原慎太郎（元東京都知事）のようなコントローラータイプの武男先生と理想的なサポータータイプの平川先生という絶妙のコンビで今後益々発展するはずと申し上げましたが、私の予想は見事的中したわけです。この度、武男先生から理事長を引き継がれた聡一郎先生の堂々とした力強い挨拶を拝聴し、新体制の元でも着実に発展されることは間違いないと確信いたしました。どうぞ、引き続き公私にわたるご厚情をお願い申し上げます。

倉敷の医療を支える倉敷平成病院

川崎医科大学　脳卒中医学　教授
木村　和美

開院25周年おめでとうございます。私は、倉敷に赴任して今年で11年目を迎えます。この10年を振り返ってみますと、私は赴任当時より倉敷平成病院と一緒に倉敷の脳神経疾患を支えてきたのだなと改めて思います。倉敷平成病院は、現在、倉敷においてなくてはならない脳神経疾患専門病院と基幹病院となっていることは言うまでもありません。私は、赴任当時より高尾武男名誉理事長、高尾芳樹副院長には、大変お世話になりました。倉敷平成病院の25年を支え、これほど大きな施設に発展させた高尾武男名誉理事長には、感服いたします。多くの試練や岐路があったかと思います。本当にご苦労様でした。多くの倉敷市民が助かったことでしょう。高尾武男名誉理事長には、私が倉敷に赴任当時より温かく迎え入れていただき、患者の連携、当科の医局員のご指導など、本当に感謝しております。理事長の高尾聡一郎先生には、患者の連携、医療システムの構築など大変お世話になっております。高尾芳樹副院長には、多くの研究会で一緒に勉強させていただき色々教えていただき、また、名誉院長の鈴木健二先生には、倉敷で行った臨床研究にボランティアで参加していただき本当に感謝しております。リハビリ科の高尾祐子先生や池田健二先生には、研修医のころから親しくしていただき、今も連携で大変お世話になっております。また、私の熊本大学の先輩である鳥取大学名誉教授の大浜栄作先生も在籍されており、色々とご指導いただき本当に感謝しております。医療とは、このように人との繋がりの重要性を強く感じます。

これから日本の脳神経疾患は、脳卒中と認知症の時代を迎えます。脳卒中は、これからも倉敷平成病院と当大学が強力な連携で、急性期から回復期・維持期と多くの倉敷市民に貢献できればと思います。倉敷を日本で代表される脳卒中診療のモデル地域となるように一緒にがんばりましょう。認知症は、ケアの時代から治療の時代に大きく変わろうとしています。倉敷平成病院は、岡山県認知症医療センターの指定を平成24年に受けておられます。いち早く、認知症対策に手を打たれたことは、倉敷市民にどれだけ安心を与えたことでしょう。すばらしい取り組みだと思います。

医療は住民のためにあります。今後も倉敷平成病院と当大学が一緒にタッグを組み、倉敷市民の福祉と健康を守っていきましょう。倉敷平成病院のこれからの発展を祈念しております。

祝　辞

公益財団法人　大原記念倉敷中央医療機構　倉敷中央病院　院長
小笠原　敬三

倉敷平成病院開院25周年を迎えられましたこと誠におめでとうございます。倉敷中央病院を代表いたしまして皆様に衷心よりお慶び申し上げます。

倉敷平成病院は、「急性期から在宅までいついかなる時でも対応します」という理念の下に、倉敷市民を中心に岡山県の西部80万人の期待を背負って地域医療を支えておられます。

私が倉敷にまいりましたのが昭和56年、高尾武男先生は倉敷中央病院在職中でご活躍しておられました。その頃既に「のぞみの会」という脳卒中の患者会を組織しておられ、患者さんを初期診療から在宅まで温かい目で見守っておられました。現在、いろいろな疾患で患者の会ができていますが、当時としては非常に珍しく、先見的かつ先進的な活動でありました。

その後、先生は開業され、倉敷平成病院を建設され、併せてクリニック、老健施設、有料老人ホーム、介護施設、ケアハウスなど全仁会グループを経営し、急性期から在宅医療までの対応という困難な道を突き進んでおられることには誠に感服いたします。

倉敷平成病院は、倉敷中央病院にとりましてもなくてはならない存在であり、特に整形外科疾患、循環器疾患、消化器疾患の患者さんをお互いに得意とする医療分野において協力しています。今後とも、一層互いに緊密に連携して地域医療の発展に尽くしたいと存じます。

全仁会グループの皆様が、今後とも医療から介護に至るまですばらしい業績を上げられますことを祈念いたします。

高尾武男代表との思い出

公益社団法人　岡山県医師会　会長
石川産婦人科医院　院長
石川　紘

全仁会 倉敷平成病院が開院25周年を迎えられましたことに、衷心よりお慶び申し上げます。

前身の高尾病院開院当初より「救急から在宅までの一貫医療」を追求され、「倉敷老健」をほぼ同時に開設して、翌年には既に「倉敷平成病院」と改名されたスピードとその実行力に、当時、ほぼ同年代の我々は舌を巻かれっ放しだったことをつい昨日のことのように思い出します。

高尾代表と私との偶然の出会いは1985年（昭和60年）の或る晩、阿知の小さなスナックでした。恐らく倉敷中央病院神経内科医長を退任され高尾内科・小児科を開設されて間もなくの頃でしょう。兎に角、豪快に飲みまくっており、「酒豪」と自負している私でさえ恐怖を感じました。お連れさんはいつも当時倉敷中央病院電算事務室長のＴ課長で、午前２時頃まで夜な夜なお互い豪語しながら銚子を嗜んでいたと記憶しております。

その後私は零細診療所を死守しながら倉敷医師会理事、副会長、更に平成６年からは途中途切れた時期もありましたが岡山県医師会に移り、理事、副会長、会長と現在に至っており一貫して医師会畑を歩んでおります。一方、代表は在宅介護支援センター、訪問看護ステーションを矢継ぎ早に開設、極めつけの「平成脳ドックセンター」を平成５年に開設し、平成22年には県下５番目の「社会医療法人」に認定される等、正に救急から在宅までの地域医療･介護を全うし､特に脳神経疾患を中心として地域住民の安心･安全な医療･介護を提供し続け、地域貢献が多大なことは申すまでもありません。

この様にわれわれ二人は同じ臨床家でありながら別々のルートで岡山県の医療・保健・介護に少なからず寄与して参った点は期せずして一致したと言えましょう。しかし我々はもう若いとは言えず、臨床家としてまた、経営者としての活動は限られております｡しかし高尾代表には立派な後継者と夥しい施設が有ります｡未来永劫、倉敷地域と云わず岡山県の地域医療に貢献し続けられることを切にお願いし、お祝いの言葉と致します。

全仁会グループ 25 周年に寄せて

公益社団法人　岡山県医師会　理事
医療法人和香会　倉敷スイートホスピタル　理事長
江澤　和彦

全仁会グループの創立 25 周年誠におめでとうございます。「救急から在宅までの一貫した医療」を見事に実践され、数多くの実績を残されましたことに心より敬意を表します。これまでの全仁会グループのご発展を拝見いたしますと、とても 25 年で成し遂げることのできない業績であります。高尾武男先生の見事な経営手腕と職員の皆様の熱意が一丸となって築き上げてきた成果の賜であり、稀に見る成功モデルであると実感いたしております。どれほどの市民が全仁会グループの恩恵に与ったかと思いますと感慨深い気持ちでいっぱいです。高尾武男先生をはじめ、皆様の相当なるご尽力により成し得た業績であり、社会への貢献度は果てしなく大きく、まさに称賛に価するものであります。

高尾武男先生、高尾公子先生のご夫妻におかれましては、私どもの運営する病院や介護施設に見学がてら足を運んで頂き、恐縮した経験が幾度かございます。その際に、ゆっくりとお話をさせて頂く機会があり、ご夫妻の先生方とお仕事の話や世間話などで有意義なひと時を過ごしたことを覚えております。お二人のとても優しい人柄に心温まり、人生経験豊かな懐の深さに惹かれた思いが今も記憶に残っています。

現在では、ご子息の高尾聡一郎先生が全仁会理事長に就任され、益々のご発展を遂げられることを確信しております。高尾聡一郎先生は、私よりちょうど一回り若手の同じ丑年であります。高尾聡一郎先生は、これからの地域医療を担っていくにふさわしい新進気鋭の若手のホープであり、将来をとても楽しみにしております。全仁会グループにおかれましては、今後とも、地域を支える医療を実践する「雄」としてリーダーシップを発揮されると共に、私どもにもご指導頂きたく存じます。これからの益々のご繁栄と皆様のご健勝を祈念いたし、結びの言葉とさせて頂きます。

倉敷平成病院開院25周年によせて

公益社団法人　倉敷市連合医師会　会長
医療法人信和会　守安外科胃腸科整形外科クリニック　院長
守安　文明

倉敷平成病院の開院25周年おめでとうございます。

高尾武男先生は「限りないQOLを求めて、救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」との高い理念を掲げ脳神経疾患専門病院として高尾病院を開院されました。その後、倉敷平成病院と改名され、高齢化社会の到来を見据えていち早く老健施設を立ち上げられ、更に在宅介護支援センターや訪問看護ステーションやケアハウス等も次々に開設され、今日の貴院の礎を築いてこられました。ここまでになられたのは、先生の理念に共感された従業員の皆様が一丸となって頑張って来られた賜物と思います。

さて、今年は第6次医療法改正が予定されており、医療を取り巻く環境の変化は必至です。今後はその点に対応した、より効率的で質の高い医療供給体制の構築を目指し、特に、病院・病床の機能の明確化、在宅医療・連携の推進を図っていくとのことです。一般病床の機能分化を進め、急性期病床の集中化をはかり、不足している亜急性期病床や回復期病床への移行が促されるようです。そして、地域をひとつの医療ネットワークとして位置づけ、各医療機関の特性を活かした機能分化を促して、相互の連携により患者が住み慣れた地域で、自分の状態にふさわしい医療を受けられる体制づくりを目指すとされています。

この点、倉敷平成病院は既に急性期医療から在宅医療まで幅広く行なっておられ、素早い対応が出来る環境がそろっていますので、シームレスな医療を地域の患者様に提供して頂けるものと確信しております。そして、病病・病診連携を一層緊密にし、倉敷医師会員を支えて頂きますようお願い致します。

今後30周年に向かって、倉敷平成病院が更に飛躍されますことを心から祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせて頂きます。

祝　辞

一般社団法人　岡山県病院協会　会長
医療法人誠和会　倉敷紀念病院　理事長・院長
小出　尚志

社会医療法人全仁会倉敷平成病院が設立25周年を迎えられ、心よりお慶びを申し上げます。

高尾病院としてスタートした全仁会グループは、この四半世紀で目ざましい発展を遂げられ、地域医療に大きく貢献されてこられました。

「救急から在宅まで」を理念に掲げる倉敷平成病院をグループのflag-shipに、多様な介護施設や在宅サービス部門を順次整えながら医療・介護のall-round one-stop serviceを実現し、さらに疾病予防事業も加えて、県下でも最大級の自己完結型の医療・介護・福祉の統合型ネットワークを構築されました。また、地域の連携も重視され、平成22年には救急医療活動により県内5番目の社会医療法人の認定を受け、また平成24年には認知症の専門医療機関として認知症疾患医療センターの指定を受けられました。

岡山県病院協会は、健全な病院経営と良質な地域医療を提供できる病院づくりを支援する病院団体で、全ての病院が加盟しています。高尾病院が入会した昭和63年の会員数は190でした。平成7年の194病院をピークに減少に転じ、現在は169病院です。全仁会グループが歩んだ四半世紀で約25病院が診療所への移行や廃院、あるいは統合されたことになります。増加の一途にあった病床の整理・規制に沿った幾多の医療法改正や診療報酬改定を乗り越えて病院の発展を維持することは容易な時代ではなかったはずです。高尾武男代表の卓越した先見性と強力なリーダーシップ、そして全仁会グループの職員の皆さまの強い結束の賜物である現在の全仁会グループに深く敬意を表する次第です。

我が国は未曾有の少子高齢社会を迎えます。爆発的に増加する医療介護ニーズに対応し、かつ持続可能な医療提供体制へのパラダイムシフトが進められていく中、医療・介護、とりわけ医療経営を取り巻く環境は一層厳しくなってくると思われます。

このたびの設立25周年を契機とされ、全仁会グループがさらなる発展を遂げて地域医療の向上と住民の健康の増進に邁進されますことをご期待申し上げ、祝辞とさせていただきます。

祝　辞

岡山県知事
伊原木　隆太

社会医療法人全仁会倉敷平成病院が、このたび開院25周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

また、貴院の皆様方には、日頃より、本県の保健福祉行政の推進に格別のご理解とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

貴院におかれましては、開院当初から「救急から在宅までの一貫医療」を目標に掲げられ、一貫して地域医療の充実に邁進してこられました。また、わが国の高齢化が進み始めた頃より高齢者の医療、介護分野にも積極的に取り組まれるなど地域の発展や県民生活の向上に多大な貢献をしてこられました。高尾代表をはじめ、関係の皆様方の熱意と多大なるご努力に対しまして、深く敬意を表するところであります。

岡山県では、平成26年4月から全ての県民が明るい笑顔で暮らす岡山を目指して「晴れの国おかやま生き活きプラン」を強力に推進してまいります。このプランには、県民誰もが、いつでも、どこでも、良質な保健・医療・福祉サービスを受けられる環境を整備し、健康で生きる喜びを感じられ、住み慣れた地域で自立して暮らせる社会の実現を図るためのプログラムを盛り込み、様々な施策を推進していくこととしています。皆様方には、引き続き、県政の推進に一層のご理解、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

我が国の高齢化は世界に類を見ない速度で進行し、世界のどの国もこれまで経験したことのない高齢社会を迎えていますが、高齢者はもとより、地域で生活する人々が住み慣れた地域で安心して生活できる環境の整備と併せ、医療・介護サービスの充実が求められています。貴院が、25周年という記念すべき節目の年を契機とされ、地域医療、高齢者福祉の拠点としてさらに飛躍されますことを心より期待しております。

結びに、貴院のますますのご発展と関係の皆様方の一層のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

御　祝　辞

倉敷市長
伊東　香織

この度、全仁会グループの皆様が設立25周年という大きな節目を迎えられ、記念誌を発刊されますことは誠に喜ばしく、心からお祝いを申し上げます。

全仁会グループにおかれましては、「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」という理念の下、昭和63年に高尾病院が脳神経疾患専門病院として開設されて以来、多くの市民の方の命を助け、また、けがの治療にあたってこられました。こういった御尽力により、平成22年12月に社会医療法人として認定されるなど、着実に発展してこられました。

この間、倉敷平成病院の発展を先頭に立って引っ張ってこられたのは、全仁会グループの高尾武男代表であります。高尾代表は、当初から「患者さん本位」を掲げられ、病院を中心とした地域医療の受け皿づくりに努めてこられました。また、昨年4月には、高尾聡一郎理事長が就任されましたが、高尾理事長は、地域に対してどんな貢献ができるかということを常に考えられておられる方でございます。

全仁会様におかれましては、昨年2月に地域密着型特別養護老人ホームを倉敷市白楽町に開設されるとともに、同じく12月にはサービス付き高齢者向け住宅を倉敷市南町に開設されておられます。こういった全仁会様の取組みは、本市における介護施設の待機者解消を初めとした保健福祉行政に大きく寄与していただけるものと考えており、大変ありがたいことと思っております。

本市におきましても、団塊の世代の高齢化が進み、医療や介護サービスの需要が最も高まる時期に備え、施設の充実を図り、「高齢者が健康で、生涯現役で暮らせるまち」の実現に向けて努力してまいる所存でございますので、今後とも全仁会の皆様方の御理解と御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、全仁会グループの皆様方のさらなる御発展と、関係者皆様方のますますの御健勝、御多幸を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

倉敷平成病院創設25周年に寄せて

総社市長
片岡　聡一

ふり返れば、25年前のあの頃が昨日のようによみがえってきます。

当時の開院を前にした高尾武男先生と橋本元総理の深い友情や、病院に対する思い入れの強さを私は傍らで拝見しながら、お互いの友情が素晴らしく、うらやましくさえ思えました。

橋本元総理は茶目っ気たっぷりに武男先生のことを「青年暴走族」などと冗談を言いながらも、武男先生の崇高な理念と爆発力に限りなく高い評価をしていましたね。

私はよく車中で橋本元総理から「一医師がなかなかできることではないよ」と諭すように聞かされたものでした。

スタートされた日から、爆発的な推進力で全仁会は伸びていきました。誰もが目を見張るものがあります。

それは一見、武男先生の猪突猛進的に見えるバイタリティが推進力になっていたことも当然のことではありますが、私は本来、実は武男先生が持つヒューマニズムに溢れた、弱者に対する愛が、ここまで引っ張ってこられた最も大きな原動力だと思っております。

幸いにもこのたび聡一郎先生が理事長に就任され、また武男先生はグループ代表に就任されて、新たな組織としてスタートを切られるということであり、これからますます岡山県南の地域医療の核となり、さらなる発展を続けられることと私は確信しております。

そして、多くの総社市民が高次救急の受け入れ先として倉敷平成病院および全仁会グループにお世話になっておりますことに対し、また、本市の重要政策であります障がい者千人雇用政策に対しても力強いご協力をいただいていることに対しまして、総社市民を代表してあらためてここにお礼を申し上げます。

全仁会よ、永遠なれ！これからも地域医療のリーダーとして雄々しく立ち向かっていかれることを心から願い、私のお祝いのご挨拶とさせていただきます。

祝　辞

参議院議員
片山　虎之助

この度、社会医療法人全仁会倉敷平成病院が開院25周年を迎えられましたことは、誠にご同慶の至りであり、心からお祝いを申し上げます。また、今日に至るまで、高尾武男代表、高尾聡一郎理事長のリーダーシップのもと、地域医療の向上に邁進してこられた関係の皆様の弛まぬご努力、ご精進に対し深甚なる敬意を表する次第です。

「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」という理念の下、脳神経疾患専門病院として、倉敷平成病院が開院された昭和63年は、私が政治家としての道を歩むことを決意した年です。当時を思い返すと、岡山県では、瀬戸大橋の開通など大型プロジェクトが次々に完成し、夢と希望にあふれていましたが、我が国を取り巻くメガトレンドとしては、人口の高齢化が注目され、介護システムの整備が指摘されるようになってきていました。そういった状況の中での倉敷平成病院の開院は、まさに時代の魁と言えるものであります。そして、地域のニーズに合わせ、倉敷老健をはじめ、倉敷在宅総合ケアセンター、ドリームガーデン倉敷、ローズガーデン倉敷、ピースガーデン倉敷が次々に整備され、一貫した継続医療が提供されるとともに、在宅支援機能も拡充されてきており、こうした取組は、少子高齢化社会における地域医療のあるべきモデルでもあります。

病院開設25周年という大きな節目を迎え、関係の皆様におかれましては、これまでの足跡を顧みるとともに、地域においてこれから求められるサービスの質と量についてもご高察頂き、保健・医療・福祉のパートナーとして地域医療の発展に一層のご尽力をお願い申し上げます。

結びに、社会医療法人全仁会倉敷平成病院の今後益々のご発展並びに関係の皆様のさらなるご活躍、ご健勝をお祈り申し上げ、私のお祝いの言葉といたします。

倉敷平成病院開院 25 周年記念誌
挨拶

衆議院議員　自由民主党　厚生労働副部会長
橋本　岳

社会医療法人全仁会倉敷平成病院開院 25 周年おめでとうございます。倉敷平成病院は昭和 63 年に高尾病院として開院されて以来、「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」という基本理念のもと、倉敷市民のみならず近隣住民の保健・医療・福祉の中核病院として住民の生活の確保と健康の維持・向上に多大なる貢献を果たされてきたことは誠に喜ばしく、心から尊敬申し上げます。

これもひとえに、全仁会グループ高尾武男代表、倉敷平成病院高尾聡一郎理事長、並びに歴代スタッフ、関係各位の皆様の並々ならぬ熱意とご努力の賜物であり、深く敬意を表します。

さて、近年における超高齢社会、生活習慣病の増加、生活水準の向上などにより、市民の健康意識はますます高まっており、保健・医療・福祉分野に対するニーズも多様化、高度化しております。そのような中、倉敷平成病院は早くから脳神経疾患に関する予防を呼びかけ、最先端の機器を駆使した治療を導入され、術後のリハビリテーションの重要性に着目し実践されてきました。また、介護保険施行前より老健やケアセンターの開設など、いち早く介護事業に取り組まれるなど、常に地域に密着した医療・介護の提供に努められ市民の信頼にこたえられてきました。今後も、地域医療・介護等のリーダーとしてご尽力賜るようお願い申し上げます。

最後になりましたが、高尾聡一郎理事長と私は中学・高校の同級生です。高尾理事長には何時も現場で起こっている様々な問題点や課題などをお伺いし、自民党厚労副部会長として国政の場で反映させて頂いています。また、個人的にも怪我や病気をした際には大変お世話になっております。今後も、我々世代が地域医療・地域介護の充実と発展に貢献できるよう理事長とタッグを組んで全力で邁進してまいります。開院25周年を契機に、倉敷平成病院がますます発展されますことと職員の皆様のご健勝、ご多幸を祈念しお祝いの言葉といたします。

序 編

社会医療法人 全仁会　二十五周年記念誌

25周年によせて

創立25周年によせて

理事長
高尾　聡一郎

昭和63年1月に高尾病院が誕生した当時、私は中学2年生でした。そのお正月には様々な方が開院のお祝いのため自宅を訪れ、子ども心に父と母は大きな仕事にこれから取り組むのだなと思いました。

時がたち、大学を卒業して私も医師となり、倉敷平成病院に平成19年に脳神経外科医として着任いたしました。その時には病院本体、倉敷老健だけでなくケアハウスドリームガーデン倉敷・倉敷在宅総合ケアセンター・ローズガーデン倉敷など全仁会のトータルヘルスケアを支える様々な施設がすでに完成しており、そしてその後も前進を続け、25周年の節目の年である平成25年に複合型介護施設ピースガーデン倉敷、サービス付き高齢者向け住宅グランドガーデン南町をスタートさせ、高尾武男代表は自身の医療・介護の夢の形を実現させ、次世代へとバトンを渡されました。

平成25年4月より私が新しく理事長の職を受け1年になりますが、組織の方向性や全ての責任を担う事に対して、職員の協力を得ながら、苦労や重圧を受けつつも何とか全うしています。25年間もの長きにわたり、医師として患者と真摯に向き合いながら、経営者として様々なプレッシャーや逆境を乗り越え、また、組織のリーダーとして職員全員を牽引されてきた高尾武男代表のご苦労や、必ず夢を実現させるという強い精神力に改めて感服し、そして尊敬の念を禁じ得ません。

また、全仁会は平成22年に社会医療法人として認可を受け、公益性を持つ医療機関となりました。これはそれまでの全仁会の歩みが正しい方向に、そして地域の要望に沿って行われてきたことの証でもあると思います。社会医療法人取得へと舵を切った高尾武男代表の決断力が全仁会の未来を切り開いたともいえるでしょう。

そして、これから全仁会は公益的な存在として、医療・介護を通じて社会に対する貢献をしていかなければなりません。また、これからも地域のための歩みを更に進め地域とともに発展していかなければなりません。その際の我々の最も大事な指針は、開院当初から存在する「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」という当院の理念であり、これまでの25年間に実践し、地域に受け入れられてきた我々の医療・介護に対する考え方、関わり方であると考えています。全仁会のこれからの発展はこれまでの25年間と切り離して考えるのではなく、その努力や苦労の礎の上に積み重ねていくからこそ、よりしっかりとした足跡を刻むことができるのではないでしょうか。全仁会の新たな時代を担う一人として、これまでの25年のご苦労をねぎらうとともに、同じ理念を胸に掲げ、全員で全仁会が更なるステージに進めるように努力することをお約束し、創立25周年の寄稿とさせていただきます。

今後とも全仁会に対し変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。

来し方、行く先

副理事長
高尾　公子

倉敷平成病院の来し方四半世紀を振り返る時、私はその出発点からの参加者であり、言葉に尽くせない感慨を覚えます。

私が医師となった1970年代には、神経内科はマイナーな科と評されていました。その神経内科領域を専門として病院が船出する時、見方によれば冒険とも思えるこの病院に、数人の医局員を送って下さり、大きな精神的支柱になって頂いた、創設者高尾武男の恩師、鳥取大学医学部神経内科高橋和郎教授のご英断に改めて頭が下がります。そして、開院1年目、当時教室の助教授だった西川清方先生の院長就任が決まりました。それはちょうど元号が昭和から平成に代わり、病院名を高尾病院から倉敷平成病院に変える時と重なった為、「病院名や経営が代わろうとも、私は理事長先生についていきます」との真剣な文面の手紙を貰いました。「そ〜か、巷では高尾病院は潰れた、と思われているのだな。」と苦笑しましたが、むしろ職員の優しい気持ちを知り、嬉しかったものです。

高尾武男理事長と西川院長は1学年違いの医学生時代を隣り合わせの下宿で過ごし、同じ神経内科（高尾は初め神経病理）の道を志した者同志。「神経系の一流の病院を作りましょう」と意気投合したのです。頼り甲斐ある同志を得て、病院内外の目が、評価が変わるであろう時、私は全く別の思いで安堵していました。短距離走のフルスピードで、マラソンを走っている高尾は短命で50歳までは生きられないのでは…との、確信にも似た不安を日頃感じていたので、もしその様な事態が生じても病院の水準は継続できる…との安堵でした。しかし、その西川院長は10年余りで、ご自身の専門分野である神経難病で闘病の末、56歳の若さで逝去されたのです。常に紳士的でゆっくり構える性格の西川院長の方が先立たれるなど、考えられないことでした。

ご本人の無念さは勿論、私達も大変残念で過酷な運命を嘆きましたが、病院という組織には立ち止まっていることは許されません。その時、その時、知恵と力をふり絞って前進するしかないのです。

病院設立以来病院の歩みに貢献し続けて下さった人達、今を支えてくれている職員への感謝は勿論、四半世紀の道程の礎となり、このフィールドで、ある役を担い足跡を残して去って行った人達へも深く感謝を捧げます。

医療法人から社会医療法人となり、地域社会に対してより公的な役割を担うべき存在、より安定した存在になった訳ですが、めざましい医学の進歩、社会の変化、医療制度の変革に適応するには、私たちにも常なる研究・変革を求められています。

一方で、「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」という病院設立の理念は、高邁であるが故に、いつまでも新鮮に追求し続けられる理念です。

そして、「限りないQOLを求めて…」のサブテーマも、全仁会グループの予防・医療・介護のどこかの分野に携わる人達が、患者さんやご家族に接する時の、専門職としての姿勢を示す普遍的なテーマとして大切にしていきたいものです。

昨年、理事長を高尾聡一郎新理事長に交代しました。次に続く四半世紀に向けて、時代と地域の要請に応えつつ、全仁会医療・全仁会介護・全仁会マインド実現の為、若い力を結集して下さい。

その道程が関係する人々の私的な幸せをもたらす道でもありますよう願ってやみません。

創立25周年によせて

名誉院長
鈴木　健二

創設期から揚げられた力強い理念「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」の元に、常に前進あるのみと励んでこられた高尾代表は、保健・医療・福祉における数々の付属施設等々をつくられ、素晴らしい功績を残されています。会社や組織を立ち上げ、成功へ導いた尊敬に値する創設者は「立ち止まることは、落ちて行くこと」と常に思っておられます。代表は、25年という長きに亘り、立ち止まることなく、目的を持ち続け、常に前進して来られました。その過程はいかに困難なことであったかと思います。そしてこの度、社会医療法人という、己のものから社会の組織にする覚悟は、大変大きな決断であったと思います。このことにより、組織はより進化し、さらに社会的に高く評価されるものと確信します。

また、理事長交代の決断も、的確であったと思われます。一般的な交代より、少々早めに勇断をもって行うことにより、次期理事長の研修期間が増し、より安定した引き継ぎとなるのです。今後、少し現場から距離をおいた立場からのアドバイスは、組織にとって、とても有り難く、力強いものになると思います。何卒宜しくお願いします。

さて、これからの私達組織人としての生きる道ですが、まずは、今までの理念を踏まえそれをかみ締めた上で、力強く継続し、より具体的に行動を取ることであると思います。全仁会も、様々な部署に分かれており、それぞれがかなり独立した組織になってきています。そのため、今後ますます組織間の連携を強めなくてはなりません。それにより、全体が強化されると考えます。

次に個人についてですが、それぞれの組織、部署の中で、自分はどういう存在であり、何をすればいいのかを考える時、小さくてもいいから目的を持って日々活動することを心掛けてはどうかということです。そして上の立場の者は、その活動を色々な面で具体的に評価する。それにより、個人は生きがいを持つことが出来るはずです。

己を知り、組織を進化させることはとても大切なことです。それぞれ現場の者は、日々の忙しさのため、第三者的に己を見ることがかなり難しい状況にあります。それらのことが出来る立場にあるのが、事務系の方々であると思います。よく言われることですが「事務系が強いと組織は進化する」。それは、世の中での己達の組織の立場が分かるからです。当組織では、すでにかなり出来ていますが、これからの組織作りに必要なことと思います。「進化する組織には若いものがつく」、すなわち、進化する魅力的な組織であれば、自分の一生、将来を考えた時、進化する組織で生きることにより己の人生の生きがいを感じ、安定感を得ることが出来るのです。

当初からの力強い理念を今一度かみ締め、高尾代表にこたえるべく、今後さらに団結と連携を強め、一人一人目的を持って、進化し続ける組織であることを祈ります。

創立25周年によせて

院長
平川　訓己

私が倉敷平成病院にお世話になったのは、平成８年４月のことでした。

それまで米子に住んでおりましたが、母も高齢となり転倒して骨折したり、一人暮らしが心配となった頃でした。高尾武男先生と、特に今は亡き西川清方院長には米子に出張の度に熱心に御勧誘いただいておりましたものですから、郷里の福山に近い倉敷なら実家も近いし何かと好都合とお世話になりました。「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」のビジョンを掲げた全仁会の一員となりました。

それから18年、全仁会は大きく変わりました。私が着任した時期はケアハウスが完成し半年たった頃でした。その後も病院ビジョンに沿った施設が次々と整備されて行くことになります。バブルの時代に病院創設期はあったものの、さらに組織拡大の時期はバブルがはじけておりました。幾多の難関、試練を乗り越えた結果、創立25周年を記念する形で、複合型介護施設ピースガーデン倉敷の竣工と、サービス付き高齢者向け住宅グランドガーデン南町の相次ぐ竣工は文字通り「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」のビジョンを全うし自己完結型組織の完成となりました。

わき目も振らず一直線に信念を貫き通した高尾武男代表の決断力そして指導力、人を引き付ける人柄、そして代表を支えてこられた公子副理事長のお力が有ったればこそ叶ったと思います。組織を大きく発展させるには私利私欲を捨て、世のため人のため「利己」の追求ではなく「利他」を貫かなければ人はついて来るものではありません。常にプラス思考で物事に向かっていく。稲盛和夫氏の受け売りになりましたが、高尾代表は常にそれを実践しておられたと思います。組織作りにおいても、のぞみの会、神経セミナー、看護セミナー、全仁会研究発表大会、と組織全体での取り組みを通じて職員の団結、まとまりを作ってこられました。いろいろな取り組み、その実践が多くの職員を引き付け、育ててきたのだと思います。

今、我々は新たな出発点に立っております。25年かけて築いたこの組織をさらに磨きをかけて活用しなければなりません。折しも国は地域完結をうたい在宅に向けて舵を切り、強化を図っております。我々全仁会は患者様、利用者様の如何様な状況にも対応できる様に医療、介護、住宅と自力でも解決出来る環境にありますが、この強みを生かしながら、更に他施設とも地域連携を図り、地域のお役に立てるように高尾聡一郎理事長のリーダーシップのもと全仁会プライドを持って、職員皆で力を合わせて頑張ってまいりましょう。

25 周年記念事業

❖ 創立 25 周年記念講演

平成 25 年 1 月 12 日　於：倉敷アイビースクエア

「インテリジェント手術室での脳神経外科手術最先端」

岡山大学大学院　医歯薬学総合研究科　脳神経外科学　教授　伊達　勲

❖ 桜並木計画

平成 26 年秋　社会医療法人全仁会　倉敷平成病院　北駐車場　東側
現在の桜並木の一画に、全仁会創立 25 周年を記念し、植樹を予定

❖ 全仁会グループロゴマーク

＜決定までの流れ＞

平成 24 年

３～５月	全仁会グループ全職員対象に応募呼びかけ（57 名 66 作品）
	職員案のブラッシュアップおよび新たにプロによる案の作成を依頼
７月	関係デザイン会社８社に作成依頼（６社 46 作品）
	選考委員会発足、委員選定
９月４日	全仁会グループロゴマーク選考委員会にて選定
10 月	デザイン会社３社にそれぞれ改定案作成依頼
	事務局にて集計
	院長、委員長、理事長へ結果報告および決定
	理事会で報告
11 月	内定

平成 25 年

１月 12 日	25 周年記念式典で発表

ZENJINKAI
GROUP

※ P. 125 にカラー掲載

＜コンセプト＞

- 人と人、心と心を結ぶ３本のかけ橋であるように。
  - 社会医療法人 全仁会
  - 社会福祉法人 全仁会
  - ㈲医療福祉研究所ヘイセイ
- 全仁会の頭文字“Z”を用いて表現。
- 色は倉敷平成病院のコーポレートカラー紺を基調。

座 談 会

全仁会グループ 25 年のあゆみを振り返る

今後のさらなる発展のために

開催日：平成 26 年 2 月 17 日
司　会：大浜栄作　倉敷老健施設長

出席者：

高尾　武男　全仁会グループ　代表
高尾聡一郎　社会医療法人全仁会　理事長
高尾　公子　社会医療法人全仁会　副理事長
鈴木　健二　社会医療法人全仁会　倉敷平成病院　名誉院長
平川　訓己　社会医療法人全仁会　倉敷平成病院　院長
高尾　芳樹　社会医療法人全仁会　倉敷平成病院　副院長
篠山　英道　社会医療法人全仁会　倉敷平成病院　副院長
山田奈々子　社会医療法人全仁会　倉敷平成病院
副院長（介護系施設担当）
武森三枝子　社会医療法人全仁会　倉敷平成病院　看護部長
嶋津　浩二　社会医療法人全仁会　倉敷平成病院　放射線部課長
津田陽一郎　社会医療法人全仁会　倉敷平成病院
リハビリテーションセンター　副センター長
家村　益生　社会医療法人全仁会　倉敷平成病院　事務長
大浜　栄作　社会医療法人全仁会　介護老人保健施設
倉敷老健　施設長
矢野　英彦　(有)医療福祉研究所ヘイセイ　代表取締役
有光　育代　社会福祉法人全仁会　ケアハウス
ドリームガーデン倉敷　施設長
（前　社会医療法人全仁会　倉敷平成病院　副院長（看護担当））
武部美智子　社会福祉法人全仁会　ピースガーデン倉敷　施設長
（前　社会福祉法人全仁会　ケアハウスドリームガーデン倉敷　施設長）

倉敷平成病院の成り立ち

大浜施設長：倉敷平成病院をはじめとする全仁会グループが設立されて 25 年が経ちました。本日は、その 25 年のあゆみを振り返り、今後の発展につなげたいと思います。全仁会グループの始まりは、昭和 63 年 1 月 11 日に開設された医療法人全仁会高尾病院です。病院開設にあたり、“全仁会”という名前はどのような思いでつけられたのでしょうか？

高尾代表：“医療これ仁なり”という言葉がある通り、全ての医療を指してつけました。

公子先生：当院の目指す医療は、病気だけを診るのでなく、病気を患っている患者さんの全てを診る、継続的に診るという意味をもっており、プライマリーケアにも通じる言葉です。患者第一主義に貫かれた医療理念を的確に表す名称として代表が命名しました。

全仁会グループ代表　高尾武男

高尾代表：高尾病院は

180床から始まりました。開設してすぐの頃は満床とはいかず、実際に稼動していたのは150ほどでしたね。その後岡山県に認められ、220床となりました。

倉敷老健　施設長
大浜栄作

大浜施設長：昭和63年12月1日には倉敷老健が開設されました。こちらは入所100名、通所20名で始まったようです。

高尾代表：昭和62年の秋に全国に老健の第一期生が指定されて、それに岡山県は3ヶ所指定され、そのうちの1つでした。昭和62年といえばまだ病院は診療所の頃で、同時期に指定されたのが倉敷老健と岡山市と津山市の老健の3ヶ所でした。

大浜施設長：当時の院内報“鬼手回春”に、代表が老健について書かれています。「病院と老健の関係は、身体でたとえるならば、右半身と左半身の関係だと思います。大脳にいいかえれば、右半球と左半球の関係にあたり、相互に機能して初めて充分な機能を発揮できると思います。」と書かれておられます。大変感銘致しました。

高尾代表：それはその通りであったと思います。病院を活かすのは老健、老健を活かすのは病院ということですね。全国で始まったばかりの施設でしたので、病院開設からほぼ1年経過しての老健開設でしたが、機としては大変よかったと思います。

大浜施設長：高尾病院開設の翌年平成元年3月に病院名が倉敷平成病院に変わり、院長に西川清方先生、高尾武男先生は理事長に就任されました。高尾病院から倉敷平成病院へ名称を改めるにあたり、どんなお考えがあったのでしょうか。

高尾代表：私の恩師であり、元鳥取大学学長である神経内科高橋和郎教授に「高尾病院では人は来ないぞ」と言われました。「医者も患者も高尾病院では聞き慣れない」というのが高橋教授のご意見でした。その頃天皇陛下がご逝去され、国民が喪に服した期間が1ヶ月ほどあり、明けて2月に申請、3月に認可されました。

大浜施設長：現在では全国的に見ると“平成病院”という名称の病院はいくつかあるようです。それに“倉敷”をつけて“倉敷平成病院”とされたのですね。“平らかに成る”という意味の新しい年号平成が発表され、これを機に倉敷平成病院と名前が変わります。西川先生は鳥取大学神経内科の助教授でしたが、先生を招聘されるにあたりご苦労はありましたか。

高尾代表：西川先生は当時助教授だったことで、大学に残ることを希望されていました。ですから当時の鳥取大学神経内科の教授として高橋和郎先生は断腸の思いであったろうと思います。

多様な形で寄り添う介護

大浜施設長：平成3年10月に在宅介護支援センターが開設になりました。

公子先生：倉敷市からの委託事業として倉敷老健に委託された形でした。

山田副院長：これは困った方がいつでも駆け込める相談所として運営しました。現在の生活習慣病センターのフロアでデイケアをし、その一角に在宅介護支援センターが作られました。

大浜施設長：続けて翌年平成4年に訪問看護ステーションが開設、平成7年にはケアハウスドリームガーデン倉敷、平成8年にはヘイセイホームヘルプステーション、11年に倉敷在宅総合ケアセンターが開設になるなど、介護系が充実します。病院、介護系、在宅サービスが当初から粛々と進められてきたことがよく分かります。代表は当初からこういった構想が頭にあり、順次具体化していったということですね。

ピースガーデン倉敷　施設長
武部美智子

武部施設長：ケアハウスドリームガーデン倉敷は平成7年10月にオープンしました。当時、全国で17の施設がありました。岡山県では2番目の施設にあたり、全国からも注目されました。

高尾代表：実際は、病院開設と同時に往診も訪問看護もやっていたのが訪問看護ステーションという制度が出来た。それから平成11年、倉敷在宅総合ケアセンターを、行政と折衝に折衝を重ね医療法人・社会福祉法人初の合築型として開設しました。1F相談業務、2F通所系、3F短期入所、4F訪問系とサービスが集約され、利用者にわかりやすくなって介護保険制度のスタートを迎えた。この事も大きかったで

すね。

病院が誇る画期的リハビリ環境

大浜施設長：平成８年４月に平川訓己先生が副院長で着任されました。

平川院長：前年秋に施設を見学に来た時に建設中のケアハウスも見せていただきました。

大浜施設長：その頃高尾芳樹先生は医局長をされています。また平成５年には総合リハビリ施設が許可され、芳樹先生がリハビリテーション部長に就任されました。

倉敷平成病院　副院長
高尾芳樹

高尾副院長：私は開院当初は当直などで勤務をしており、常勤で就任したのは平成２年でしたが、病院が出来た時からリハビリセンターは現在の位置・広さでスタートしました。

大浜施設長：あの時代にあれだけ大きなリハビリ施設を展開したのは先見の明があったと言えるでしょう。

平川院長：私も病院開業の時、新聞にリハビリを中心に頑張るという話が載ったのを見たことがあります。（P. 203 毎日新聞）その記事を拝読し、それから見学に来たのですが、記事通りの大きさで驚きました。当時私のいた病院では必死でかき集めてPT・OTがせいぜい３～４人。平成病院に来た時はリハビリに対して凄く点数がついて、厚労省が梯子をかけた時期でして、その後どんどんセラピストも増えていったので、非常に先を見ているなと思ったものです。

高尾代表：厚労省は後からついてくるんです。ある時には厚労省と通じているだろう、スパイがいるんじゃないか、もしくは盗聴しているんじゃないかという疑いすらかけられたほどです（笑）。それぐらい先を見越して動いていたので。

大浜施設長：今でこそ“なんとかリハビリ病院”という施設は増えましたが、当時は無かったでしょうね。

津田副センター長：私は平川院長と同じ平成８年に入職しました。それまでにも色々な病院に実習に行っていたのですが、当時はやはり総合リハビリテーションセンターはかなり先進的でした。今でこそスタッフが増え、スペースが手狭になってきていますが、あの当時、PT・OTがまだ少なかった時代、あれだけのスペースを持っている病院は岡山県でもありませんでした。

社会医療法人全仁会　副理事長
高尾公子

公子先生：600m^{2}のリハビリセンターには初め設計段階では柱が何本か入る予定だったのですが、代表が鹿島建設ほどの建設会社であれば柱の無い工法も研究できるだろうと指示して、現在のような形になりました。

津田副センター長：あの形は他の病院・リハ施設からも羨ましがられました。柱が一本も無いというのは大変珍しいことです。更にPT・OTが同スペースというのも無かったですから、先見性があったとしか。あの当時は他の病院ではどこも完全に理学療法室・作業療法室と分かれていました。

公子先生：あれは戦い取ったものですね。私は後で聞いたのですが、行政から中に壁を作れと言われたそうです。折角柱を無くする交渉をしたのに壁を作ったのでは意味が無い。せめてテープを床に貼って線で分けることで、やっと許可されました。

津田副センター長：今ではPT室・OT室隔てなくというのはスタンダードになっています。今は更に進んで病棟にリハセンターを作ってしまうという流れになってきていますが、当時は考えられなかったですね。

大浜施設長：リハスタッフの多さは倉敷平成病院の特徴の一つですね。

倉敷平成病院
リハビリテーションセンター
副センター長　津田陽一郎

津田副センター長：当時は今の３分の１程度だったと思います。それでも多い方です。PT・OT合わせて30名ぐらいだったでしょうか、今の医局の半分がリハビリのスタッフルームでしたが、スタッフが余裕を持って入れるぐらいでした。早い時期にリハビリスタッフをどう集めるかというところで、代表にはかなりご尽力していただいたのではないかと思います。お蔭様でその後も、人が少ないということ

は感じません。回復期リハビリテーション病棟が出来た時にも人員に対する苦労は一切無かったです。また回復期リハの365日体制は制度化される前よりいち早く当院では始めていたわけですから、制度化されてから「セラピストが要る」「365日しないといけない」と、周りの病院は慌てたようです。当院に関しては全くそういった施設基準がどうという問題はなく、更にその上の、質の部分をどうするのかというところに集約して考えることが出来たのは有り難かったです。

高尾副院長：津田君が入る前、一時期リハビリのスタッフが減ってしまって、大変な時もあったようです。それをなんとか乗り越えてスタッフを集めてもらい、総合リハビリ施設の認可を取得できた訳です。

倉敷平成病院
副院長（介護系施設担当）
山田奈々子

山田副院長：当時の歌声広場はギターの上手なOTさんが主導で運営していました。病院の入院患者さんも集まられ、通所リハも皆で歌声をやっていましたね。忙しかったけど皆さん楽しんで下さって。病院のリハビリだけでなく今通所リハ等はリハスタッフが12人いますし、STが勤務する通所リハというのはどこにもありません。加算だけの問題ではなく、恐らくこれらがあるというのが凄く売りになっていますよね。リハビリがPT・OT・STと3種あってセラピスト12人配置、更に入所は別に5人いますので、そのような老健は他に無いです。リハビリを本当にしていますよと証明でき、短期集中リハビリ加算が取れていますので、それは病院だけでなく在宅にもきちんと流れていて、凄いことだと思います。

津田副センター長：現在リハビリテーションセンターの奥にあるST室がまだ空いていた時、そこにはリハビリ看護部がありました。リハをしながらお預かりしますよというのを、武部施設長が当時その部署をまとめてやっておられましたね。リハ付きでお預かりしますといって外来扱いでした。

武部施設長：スタッフは看護師は私ともう一人、あとはSTと介護士が2名で。リハセンターの中でお預かりし、外来受診とリハビリの適応というのが全コストになっていました。

津田副センター長：それが介護保険が始まるかなり前の話なので、介護保険が始まって、さて通所リハへ行きましょうとなった時にある程度モデルが出来ていたというのが素晴らしいことでした。今になって驚いています。

大浜施設長：介護保険制度がスタートするのは平成12年ですが、それまでにそういった出来事があったのですね。

MRに見る時代の移り変わり

大浜施設長：嶋津さんは病院開設時からの勤務でしたね。

倉敷平成病院　放射線部課長
嶋津浩二

嶋津課長：昭和63年の1月4日からです。

高尾副院長：昭和63年9月にMRの1号機、平成5年6月には2号機が入っています。

嶋津課長：開院1年目でしょうか、当時、MRI装置が世に出て間もない頃で、岡山県西部では当院が第1号機として導入しました。私も実際の機械も画像も見たことが無く、先生方も恐らくご覧になられた方は少なかったのではないでしょうか。装置の稼動が始まると周辺地域の病院の先生方からも大変な反響がありまして、1日の患者さんの殆どが紹介患者さんだったこともありました。当時の装置は撮影に要する時間も長かったので、朝一番から昼休憩も無く19時くらいまで検査枠を拡大して撮影を行っていました。

高尾副院長：最初に入ったのは0.5テスラでした。

嶋津課長：暫くしたらMR懇話会といって、西川先生が近隣の先生方を当院へ招いてMR画像についての勉強会を発足されました。大勢の先生方が参加されていたのを覚えています。

大浜施設長：0.5テスラの1号機が平成5年の2号機として1.5になり、最新のものでは平成21年に3.0テスラになりました。

嶋津課長：MRI装置の2号機が稼動開始した平成5年度の検査件数は約3,700件でしたが、平成24年度は約7,600件と2倍以上の検査件数に増えています。CT検査についても平成5年度で約3,000件でしたが去年は約7,500件となり倍増しました。これはMRIやCTの需要

が増えてきたことの証明でありますし、病院がその需要に応える為に、時代相応の検査機器に惜しみなく幾度も更新して対応してきた結果だと思います。そして、私たち放射線技師も最新の検査機器に触れられる機会も多いですから、刺激になって大変ありがたいと思っています。

予防医学を含めた総合的な医療体制

大浜施設長：平成14年6月に倉敷生活習慣病センターがオープンしました。姫井孟先生と青山雅先生も同時に着任されました。この年は更に篠山英道先生と伊東政敏先生も着任されました。

高尾代表：「生活習慣病予防を基礎に予防医学を確立する」という全仁会のビジョンの一環として、姫井先生をセンター長に迎え、地域医療に根ざしたトータルヘルスケアの更なる充実を期待してセンターを開設しました。現在は青山先生が他科の先生方と連携をとり、様々な合併症を引き起こす糖尿病を中心に治療、患者さんの教育にあたってくれています。

大浜施設長：また、平成16年に総合美容センターがオープンします。センター長には吉岡保先生が就任されます。倉敷成人病センターをリタイアされて来られたのですが、総合美容センターは吉岡先生の着任を受けて作られたセンターだったのでしょうか。

高尾代表：そうですね。産婦人科医の彼が「女性を美しくしよう」と言っておられたのですが、医者がいなければ成り立たないと言ったところ、先生は神戸に探しに行かれました。そこで華山博美先生を見つけ、彼女のおられた神戸大学の教授が、配慮してくださいました。

大浜施設長：さらに平成24年3月に県から認知症疾患医療センターの指定を受けます。初代は芳樹先生、現在は涌谷陽介先生がセンター長を務めていらっしゃいます。その礎になったのは代表がずっと続けてこられたもの忘れ外来です。代表がもの忘れ外来を始められたのはいつでしょうか。

高尾代表：診察自体はずっと以前から行っていましたが、看護師・リハビリなどチームで取り組むようになったのは平成9年頃からです。脳ドックは平成5年の平成脳ドックセンター開設より前、平成3年ですね。西川清方先生と始めたのですが、平日はMRが患者さんでフル稼働しているので、土日で私と西川先生がドックの患者さんを普通の診察室で診ていました。

病院初の機能評価認定

大浜施設長：平成15年に日本医療機能評価Ver.3の認定を受けました。病院としては最初の機能評価です。この時には平川先生が随分頑張られたことを当時の資料で拝見しました。

倉敷平成病院　院長
平川訓己

平川院長：機能評価の認定において、必要となってくるビジョンなどが当院の場合は初めからびしっとありました。それを特に意識したのは、平成12年頃、代表から病院経営塾に勉強に行ってくるよう言われた時です。月の終わりの土日に6ヶ月間東京へ通いました。そこで一番に出てくるのがビジョンなのです。ロマンをきちんと持って、それに向かって進みなさいという講義がありました。それを拝聴し、当院ではそれが既に出来ていると感心したものです。ですから他院が最初に少し手間取るようなところが、当院は問題なく進みました。ただ機能評価認定の際はそれらを文言にする必要がありましたので、現在の4原則などの形にするにあたり、代表が掲げられたキーワードを基に文章化して、それを平成12年9月に全職員へ明示、配布しました。ほぼ同時期に、元メイヨーメディカルセンター実践ディレクターのサンドラ・ジョンソン女史を講師に、グレードアップ委員会研修も院内でなされて、そこでも刺激をうけました。また、機能評価では、診療の標準化が促進されているか、クリティカルパスの作成の有無を問われましたが、私がアメリカに2週間ほど視察に行った時、パスに関する研修がありました。その前、平成8年に視察に行っていた武森さんから実はこういうパスがあるという話は聞いていました。帰国してから、彼女らの力を借りながら、整形外科だけでもパスを作っておこうと準備し、平成11年には整形外科関係の手術を中心に9種類のクリティカルパスを作成していて、ちょうど間に合ったのです。今ではパスも各科にお願いして、出来るところはやっています。

高尾副院長：当時はパス全盛でしたね。確かパス学会の設立が平成11年だったので、当時は海のものとも山のものとも分からない状況で、当院は早めに取り組んだな

と思います。

ニーズに応える施設展開

大浜施設長：平成16年、老健が100床から150床へ増床しました。9月1日にはローズガーデン倉敷もオープンします。

高尾代表：老健の150への増床は経営的に見てどうでしたか。

家村事務長：経営的には安定感が増したと思います。増床に伴い、経費も増えますが利益の幅が増えていきますので、増床はよかったと思います。

大浜施設長：入所定員150名の老健は岡山でももう一つあります。通所については他の老健では定員0～84人ですが、当老健の通所は定員180人、実質150人前後でやってきています。

高尾代表：スペース的には定員180人で行政からの認可が下りていますが、利用者が余裕を持って日常生活を送っていただくためには、最大でも160人程度でしょう。

大浜施設長：ローズガーデンは住宅型有料老人ホームです。

高尾代表：倉敷平成病院が有料老人ホームを建てるのはいかがなものかという声はありました。平成16年当時の医療法では医療法人に有料老人ホームは許可されていなかったので、株式会社全仁会というのをローズガーデンのために設立しました。この施設を作る意味は、ひとつ上のシニアライフを安心して自由に送ってもらう場所が無い、ということからでした。

大浜施設長：ニーズは勿論あったと思います。そういったニーズに応えることも大事だったのですね。全仁会グループとしてそういった施設を有しているのは非常にいいことだと思います。

高尾代表：やはりステータスですね。また立地も自慢の施設です。当時はあんなに広いところをどうするんだと言われましたが、現在ではグランドガーデン南町とあわせて2つも施設が建っています。美観地区まで徒歩5分という恵まれた環境の広い土地は、今では倉敷市内にはありません。

大浜施設長：(有)医療福祉研究所ヘイセイの設立はいつ頃でしたか。

矢野代表取締役：平成元年に、全仁会グループの1つとして設立されています。最初は倉敷平成病院の院内売店運営や法人・個人の不動産・駐車場管理が主でした。その後医療法人主催のヘルパー2級養成講座の手伝いや、ヘルパーステーションを開設し、在宅への訪問を始めました。訪問入浴・介護タクシー等々が揃い、やっと「医療福祉研究所」という名前にふさわしい会社になりました。そして平成25年暮にはサービス付き高齢者向け住宅「グランドガーデン南町」の運営も始まりました。

(有)医療福祉研究所ヘイセイ
代表取締役　矢野英彦

高尾代表に惹かれて

大浜施設長：平成18年に鈴木健二先生が院長として着任されました。

鈴木名誉院長：3月いっぱいで日赤を退職し、4月1日に着任しました。私が平成病院に来た理由は高尾聡一郎先生です。彼が研修医として日赤に来てくれて、それからもう一度来てくれて、そこでいい奴だなと思いました。自分の第二の人生を一緒に過ごしてもいいかなと考えました。篠山先生もおられましたし、脳神経外科の強化のためにもと思いました。

篠山副院長：鈴木先生と私は同じ岡山大学脳神経外科医局としての繋がりがありました。

高尾代表：日赤時代と比べていかがですか。調子は変わりましたか。

倉敷平成病院　名誉院長
鈴木健二

鈴木名誉院長：最初は違いを感じるところはありました。まず理事長（武男先生）に驚きました。最近はこういったタイプの男性があまりいなくなりましたね。我々の先輩の世代にはこういったタイプの方が大きな病院を作り上げられたというのはありますが、私より下の年でこんなことを精力的に、かっかと燃えてやっていることにびっくりしました。

高尾代表：当時食堂が患者さんと職員の区別がないとか、珍しいことだったと思います。

鈴木名誉院長：『救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します』という理念を本気で実行に移して、しかも開設から25年間ずっと継続してきている、更にそれを私より若い人がここまでやってきたということに驚かされるばかりです。

７：１看護体制への課題

大浜施設長：平成19年に７：１看護を実施するようになりました。それまでは10：１でした。

ドリームガーデン倉敷　施設長
有光育代

有光施設長：25：１から10：１に、そして７：１になりました。７：１の施設基準取得のため、看護師獲得の争奪戦がありました。７：１を取得維持するために、病棟を閉鎖しているところも結構あります。

大浜施設長：現在もなお看護師は不足しています。国はもっと多くの看護師養成の政策をとるべきでしょう。

高尾代表：国としては７：１を厳しくすれば、病院を淘汰できます。全体がそんなに多く要らなくなってきます。

大浜施設長：現在看護の現場では７：１ですが、将来的に５：１とかになるのか、あるいは10：１でもいいのか、どうなっていくと思われますか。

倉敷平成病院　看護部長
武森三枝子

武森看護部長：実際７：１で足りているかと言えば、介護量の多い当院の患者さんの状況等からしても７：１では看護師はギリギリです。超急性期の病棟だけでも５：１などになればとは思います。現実は７：１がなかなかクリアできない状態です。看護師をきちんと確保・維持することが先決です。

高尾代表：７：１を構成するメンバーの質が重要です。これが適材であれば、７：１で充分やれると思っています。そこへ少しアシストすることはあっても、５：１までは不要でしょう。

武森看護部長：看護の質を上げるという面では苦労している状況です。資格は持っていても働けない環境にある潜在看護師さんの掘り起こしと、働き盛りの彼女らが働ける環境作りを一生懸命やっているところです。

社会医療法人の意義

大浜施設長：平成22年にはいよいよ社会医療法人に認定されます。平川先生が院長に、鈴木先生が名誉院長に就任された年でした。医療法人から社会医療法人に変わる意義やメリットを教えていただけますか。

倉敷平成病院　事務長
家村益生

家村事務長：一番大変だったのは代表の決断だったと思います。それまでは病院の建物・敷地などの一部は代表個人のものであり、医療法人全仁会がお借りしていたという形です。それが個人の資産では社会医療法人は認められませんので、手放していただいたことが取得に関する一番大きな要因でした。

高尾代表：非常に大きな額でしたが、個人持ちでは社会医療法人は認められないとのことで寄付しました。

家村事務長：メリットとしては公共性が増すということで、税金が軽減されることです。救急を受け入れるということで社会医療法人を取得しています。ひとたび救急の受け入れ件数が減っていきますと、社会医療法人は取り消しになり、今まで免除されていた税金を一括で払わないといけません。継続が大事ということです。

高尾副院長：社会医療法人に認可される大元である救急の要件というのはやはり平成14年に篠山先生が着任され、救急部長になられてからの救急の実績があったからこそ出来たことです。

倉敷平成病院　副院長
篠山英道

高尾代表：病院の歴史上非常に大きな出来事でした。

篠山副院長：当時は消防署を回っても、「平成病院は救急車はどこから入るのですか」「病院はどこにあるのですか」と訊かれていました。平成病

院の救急の入口を知らない救急隊員がまだいました。それから何度も何度も消防署回りをして。

高尾副院長：昨年では約 1,900 件の救急搬送がありましたから、今ではとても考えられないことです。

大浜施設長：全仁会の理念「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」について、この理念はいつから制定されたものでしょうか。

高尾副院長：私も倉敷中央病院に勤務していた頃、代表がのぞみの会を中央病院でやっている時に参加しました。神経系の病気では、急性期だけでなく患者さん全体を見ないと分からないことが結構あります。２、３年したらこうなると思っていたのに実は別だった、ということもたくさんあります。家族の方も含めて患者さんを支えていかなくてはならないケースが多いので、中央病院勤務時代に既に「救急から在宅まで…」という強い思いが代表にあったと思います。のぞみの会で代表がその当時中央病院にいながら実践を試みられたけれども、当時の中央病院ではそれが困難で、病院を創ろうと出られた、というのが根本ではないでしょうか。

高尾代表：そう、倉中時代から「救急から在宅まで…」と思っていましたね。

新体制で臨む次の時代の全仁会

大浜施設長：昨年平成 25 年 4 月に高尾聡一郎先生が理事長に就任されました。理事長は今までのお話を聞かれて、いかがでしょうか。

高尾理事長：全仁会開設から今までの出来事について振り返ってみましたが、各出来事は全て「全仁会をこうしたい」という信念に基づいて歩んできた結果なのだなと改めて思いました。ニーズに応え拡大する施設、そして各部署の実績がそれを証明しています。それらの功績を

社会医療法人全仁会　理事長
高尾聡一郎

成し得てきた代表の実行力、皆さんに支えていただくカリスマ性は尊敬に尽きます。では今後はどうか。新体制になり全くの模倣となるのではなく、突き詰めていくということが重要になってくると考えます。軸をぶらさないよう、理念やビジョンをしっかりと踏まえ、我々の一番のストロングポイント、つまり救急だけでなく、在宅も同じようにずっと力を入れてきたその総合力を打ち出し強化していくこと、職員一人一人、組織ひとつひとつがレベルアップをしていくということが今後の課題です。

高尾代表：質の向上だね。

高尾理事長：この間の出来事や代表が当時どういった思いで起こしたのかを知ること。それを基に次へどう繋げていくのかを考えることが、これからの全仁会において非常に大事かなと思います。

高尾代表：25 周年の最高の記念すべきことは理事長交代ですね。

大浜施設長：全仁会のあゆみについてまだまだ触れることのできなかったところが多々ありますが、この 25 年の発展の様子がよく分かりました。代表と公子先生を中心にお話を展開させていただきました。これが次の四半世紀の基礎になるものと思います。今日は本当にありがとうございました。

部門編

社会医療法人 全仁会　二十五周年記念誌

社会医療法人　全仁会

倉敷平成病院

診療部門

神経内科

神経内科　部長
副院長
高　尾　芳　樹

病院創設期から診療にかかわってきたものの一人として、四半世紀を経てきたというのは、感慨深いものがあります。

神経内科の診療は、高尾代表の恩師である当時の鳥取大学医学部神経内科高橋和郎教授（現名誉教授）の御支援もあり、病院開設時より始まりました。当初は精神科との勘違いがかなりあって、精神科関連患者さんの救急受診、入院の相談が多々ありました。当時、鳥取大学医学部神経内科で助教授を務められていた西川清方先生を平成元年より院長に頂いてから、神経内科教室の若手の先生方の御協力も得て、倉敷での神経内科診療施設として認知されるべく日々診療活動に励んでおりました。

高橋和郎先生が平成７年に鳥取大学学長に栄進（平成 13 年に御退官）され、また、西川先生も病に倒れられて、神経内科の診療体制維持すら困難な時期もありましたが、平成 11 年以降は岡山大学医学部神経内科阿部康二教授、川崎医科大学脳卒中科木村和美教授、川崎医科大学神経内科砂田芳秀教授の御支援を順次頂くことができ、各教室の多くの先生方のお手助けも頂き、何とか診療を継続できました。この数年は常勤医師３名、月曜日から土曜日までの毎日の午前診と一部午後診の外来診療体制を維持できております。継続とは大きな力で、最近では倉敷市の神経疾患診療施設の一つとして地域で認知されてきております。

平成 20 年以降、神経内科にとって最も大きな出来事としては、平成 24 年３月の岡山県認知症疾患医療センターへの認可が挙げられます。平成 11 年に認知症治療薬アリセプトが発売されましたが、そのずっと以前から、高尾武男代表が取り組んでこられた認知症診療が実を結んだものと思います。センターとして活動開始した平成 24 年４月以降、神経内科関連の外来診療数、入院診療数とも順調に伸びてきています。

患者さんや、地域の方々、関連の諸先生方、職員の皆さんに支えられて、現在に至ったものと思います。今後も御期待に沿えるようスタッフ一同精進してまいりたいと存じます。

脳神経外科

脳神経外科・救急部長
副院長
篠　山　英　道

これまでの歩み

昭和 63 年の開院当初から、当院の最も力を入れている部門の一つである脳疾患の診断、治療、そして予防などの為に、脳神経外科専門医が診療を行っています。

須方肇部長が、平成８年１月から平成 14 年 10 月まで勤務して、近隣で開業された後を引き継いで、篠山英道が、平成 14 年 10 月から現在に至るまで診療を行っています。また、鈴木健二名誉院長が、平成 18 年４月に倉敷平成病院長として就任し診療されてから、脳神経外科診療全般の質が格段に向上することとなりました。そして、高尾聡一郎脳神経外科部長（現理事長）が、平成 19 年４月から診療にあたる様になってからは、手術症例が飛躍的に伸び、診療実績が大きく向上しました。

また、岡山大学医学部脳神経外科医局からの積極的な診療支援も続いています。平成 13 年５月から平成 16 年３月までは小野恭裕先生が、平成 16 年４月から平成 18 年３月までは松井利浩先生が、非

常勤医師として勤務され、大学病院との診療協力や意見交換に貢献され、太いパイプを維持しています。そして平成 18 年４月からは、上利崇岡山大学医学部脳神経外科助教が、非常勤医師として診療に参加されています。上利崇先生は、外来診療や脳ドック診療だけでなく、専門領域の疼痛疾患に対しての脊髄電気刺激療法（SCS）の手術も施行しています。

長年、岡山赤十字病院およびその救急救命センターで診療していた高尾聡一郎先生が、当院の脳神経外科に着任してからは、脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血や脳腫瘍等の重大な脳疾患に対しても積極的な手術治療を施行しています。脳動脈瘤頚部クリッピング術、脳動静脈奇形摘出術、脳腫瘍摘出術等が増えています。また、脳出血に対する定位的脳内血腫除去術や、水頭症に対する脳室－腹腔シャント術等も数多く施行しています。

更に、神経内科、麻酔科、リハビリテーション科等とチームを組んで、脳卒中の診療に関しては、急性期から回復期、慢性期、更に維持期に至るまで力を入れています。超急性期の脳梗塞に対する tPA 療法が 43 例に施行され、１年 365 日、24 時間体制で急性期脳梗塞治療にも積極的に関与しています。

これから（展望）

今後更に、重大な脳神経外科疾患の入院患者が増加してくる見込みです。社会医療法人（救急部門）に認定されてから、救急搬送患者が増加しており、頭部外傷や脳卒中患者の搬入が増えています。地域医療の一端を積極的に担うべく、更なる診療実績の向上に努めてまいります。

整形外科

整形外科
部長
渋　谷　　啓

スポーツ整形外科
部長
平　川　宏　之

１．スタッフ

整形外科のスタッフは常勤医３名、非常勤医４名が在籍しています。常勤医は院長の平川訓己、整形外科部長の渋谷啓、スポーツ整形外科部長の平川宏之です。専門外来として脳卒中麻痺機能再建外来を渋谷啓が、スポーツ外来を平川宏之が担当しています。

２．機器・設備

Ｘ線撮影装置、Ｘ線透視装置、CT（16 列）、MR ２台（1.5T、3T）、超音波診断装置、DXA 法骨密度測定装置（HOLOGIC）、超音波骨折癒合促進装置、ハンドインキュベーター（加圧式エアバック）、無線式表面筋電計、筋機能解析運動装置（CYBEX NORM）

３．診療実績

平成 24 年の整形外科診療実績は、外来患者数延べ 34,651 人（１日平均 127 人）、入院患者数延べ 20,148 人（１日平均 55 人）でした。平均在院日数は 14.2 日（一般病床）、年間手術件数は 479 件でした。専門別の手術実績は脳卒中麻痺機能再建手術 80 件、スポーツ整形手術 74 件でした。手術件数の年次推移（図１）、および平成 24 年度の手術実績の内訳（表１）を示します。

４．施設の特徴

４．１　脳卒中麻痺機能再建外来

脳卒中、頭部外傷後遺症、脊髄損傷、脳性麻痺などの痙縮を伴う病態に対して筋解離・腱延長を中心

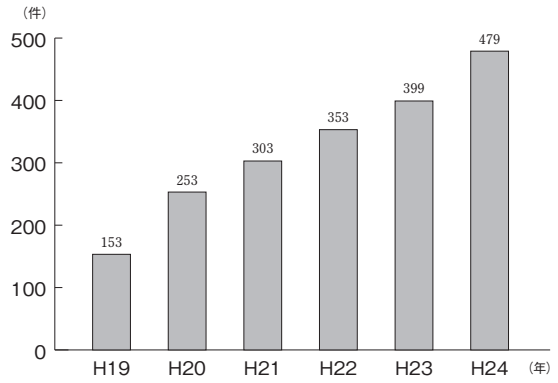


図１　手術件数の推移

表１　平成 24 年度手術実績

手　術	件　数
骨折手術	181
抜釘	51
人工関節置換術（股・膝）	11
人工骨頭挿入術（肩・股）	36
脊椎手術	8
靱帯断裂形成手術・関節授動術	24
内反足手術（麻痺性）	16
筋腱手術（筋解離・腱延長など）	60
関節鏡手術（肩・膝・その他）	17
腱鞘切開	24
手根管開放手術	20
腫瘍・感染・その他	31
総計	479

とした整形外科手術によって麻痺を改善しています。四肢の変形・拘縮、筋緊張、疼痛、関節可動域制限を矯正・軽減して運動機能を改善させます。上肢ではリーチ機能や手指の分離・巧緻機能が向上し、下肢では随意性、支持性が改善し、歩行能力や移乗能力が向上し、自立度が高まり、介助量が軽減します。運動機能が向上することにより、それまで使用していた装具を簡便化したり、なくしたりすることができます。術後のリハビリテーションは１～３ヶ月間の入院期間を確保して、十分に時間をかけて行っています。手術の評価は主観的評価だけでなく、無線式表面筋電計などの定量的検査を導入して客観的評価も行っています。治療成果については逐次、各種学会・研究会において報告しています。平成 20 年９月に脳卒中麻痺機能再建外来を開設して以来、平成 25 年３月までの４年６ヶ月の間に 104 例 289 件の手術を行ってきました。主な術式は腱延長術、股関節周囲筋腱解離術、内反足手術、観血的関節授動術です。手術の適応は幅広く、軽度から重度の麻痺まで、患者さんのニーズに合わせたオーダーメイドの治療を行っています。近隣だけでなく、遠方からも多くの患者さんが治療を求めて受診されます。

４．２　スポーツ外来

当院のスポーツ整形外科は平成 20 年に開設し、スタッフは医師１名、理学療法士 16 名、作業療法士１名でアスリートのスポーツ外傷、障害に対して、選手の対場に立ち、早期に復帰できるよう治療、サポートを行っています。またパフォーマンスの低下など選手の悩みに対しても積極的にサポートし、トータルケアを目指しています。現在スポーツに関する手術は膝関節（前十字靭帯再建手術、半月板手術）を中心に、肩関節、肘関節、足関節の鏡視下手術を行っています。さらに手術治療、保存治療を問わずリハビリテーションに重点をおき診療を行っています。選手層は年少者からシニアまで幅広く、成長や体力に合ったプログラムを提供しています。経過はサイベックス NORM で筋力を測定し、選手に達成度を示すとともに定期的に症例検討会にて検証しています。また、大会運営の補助やトレーナー業務などスポーツの現場での活動、傷害予防の啓蒙活動を行い、地域に密着した医療を実践しています。

消化器科

消化器科
部長
前　田　憲　男

消化器科は昭和 63 年に発足し、現在は消化器内科の常勤医師２名を中心とした診療体制です。さらに川崎医科大学消化管内科と肝胆膵内科から非常勤医師も加わり、専門外来を充実させています。外来患者数は徐々に増え、現在は月間 700 名余りになります。

ご高齢で併存疾患を有する患者さんは、食欲不振に至ることがしばしばあります。低栄養や内科的合併症を消化器科で積極的に管理し、各科をサポートできるように心がけています。患者さんに「食べられる喜び」を実感して頂くことを診療目標とします。

消化器科では上部消化管から下部消化管、肝胆膵領域と幅広い臓器を対象とします。診断と治療のツールとして内視鏡領域はとりわけ進歩が著しく、内視鏡室長の吉岡医師を中心に技術の向上と安全管理の徹底に努めています。内視鏡技師、脳ドックセン

ター、放射線部、栄養科、臨床検査部、薬剤部など多様な部署との連携が欠かせず、最新の知識を共有したいと考えます。手術の適応となる症例では、適切なタイミングで外科紹介し最善の治療を受けて頂けるよう、近隣の基幹病院や関連大学と緊密な連携を図っています。

また、市中病院の臨床医として日常診療から得られた知見をまとめ、積極的に学会発表することは大切な業務の一つです。平成 25 年には米国消化器関連学会週間、欧州臨床栄養代謝学会、日本消化器病学会大会、日本消化器内視鏡学会総会、日本東洋医学会学術総会にて発表の機会がありました。さらに川崎医科大学と共同で複数の臨床研究をおこなっています。

今後も、チームワークと向上心を持って消化器診療を継続してゆきます。

消化器科
内視鏡室　室長（部長）
吉　岡　　毅

当院の内視鏡室は昭和 63 年開設、これまでたくさんの先生に支えられ、今日まで受け継がれてきました。自分が着任した平成 21 年当初、常勤の内視鏡医が不在で、非常勤の田中先生が週３日内視鏡検査をされていました。その後週５日となり、平成 23 年には前田先生をお迎えして、内視鏡機器を含めてより一層充実した体制となり、検査数は最近４年間で上部内視鏡検査が 618 → 750 件／年、下部内視鏡検査が 179 → 248 件／年と増加しています。

手術件数は平成 21 年より平成 25 年 11 月までに大腸ポリープ切除術 415 件、上部・下部止血術 113 件、食道狭窄に対する拡張術 11 件、脳神経外科高尾先生が中心にされている胃瘻造設術 322 件でありました。また平成 21 年より早期胃癌に対する ESD（内視鏡的粘膜剥離術）を新たに導入し、これまでに 28 件施行し重篤な偶発症なく経過しています。

平成 23 年 12 月より前田先生と川崎医科大学の井上先生のご尽力によりヘリコバクターピロリ菌に対する自費外来が開設されました。これまで数多くの除菌治療を行い、また平成 25 年２月より慢性胃炎に対する適応拡大により、内視鏡検査の役割はますます重要なものとなっています。

検査数、手術数ともに着実に増加している内視鏡部門ではありますが、平成 24 年末人生で初めて入院・手術を経験いたしました。その際患者さんの気持ちを肌で感じる貴重な経験をし、また皆様の温かいお言葉にたくさんの勇気をいただきました。入院する事でこれまで見えていなかった様々な事を気付かせていただく時間に恵まれました。退院後内視鏡スタッフとともに、下記の【内視鏡室の心がけ】を内視鏡室の壁にかかげさせていただきました。

今後もスタッフ一同、患者さんがまたここで検査を受けたいと思っていただける、この病院だからこそできる内視鏡室の雰囲気を作っていければと思います。このような心がけを常日頃持ち続ける事は難しい事かもしれませんが、いろいろな場面でその都度振り返るようにしたいものです。

【内視鏡室の心がけ】

1．細やかな心配りで、みんな笑顔に。
2．「ありがとう」は魔法の言葉、周囲への感謝の気持ちを常に持って。
3．言葉選びは大切であるが、その言葉をどのような口調で伝えるかがより大切。
4．試練を成長の機会としてとらえる事ができる人は、限りある人生を豊かで実り多いものとし、周囲にもすばらしい幸福をもたらす事ができる。
5．幸せは求めるものではなく、感じるものである。幸せは日常、当たり前の中に存在し、自分の「心」が決める事。

循環器科

循環器科
循環器センター長
伊　東　政　敏

平成元年に倉敷平成病院が誕生しました。それから間なしの平成３年には非常勤ながら、循環器科が誕生しています。その後、紆余曲折はありますが、平成 14 年から週５日の外来診療を開始し、正規の循環器体制が整いました。平成４年頃の当科の年間外来患者数はほぼ 3,500 人でしたが、その後は次第に増加しここ数年は１万人強、１日平均 40 人強で推移しています。また、日本循環器学会認定専門医が常勤しており、同学会の研修関連施設と認定されています。

当科の最近の診療の概略を見てみます。

高血圧：
日本には４千万人の高血圧患者があるとのことで、当科でも沢山の高血圧の方を治療しています。血圧は大変微妙に変わります。病院の外来で測定するとかなり高めとなるので、家庭血圧を重視しています。受診の度に家庭で測定した血圧を記録した手帳をみて、血圧を評価します。患者さんとの共同作業としての降圧治療となるため、患者さんの治療参加意識が高まり、血圧管理に役立つものと考えています。

虚血性心臓病：
高脂肪食品の摂取が増えるなど生活習慣の変化に伴って狭心症や心筋梗塞が増えて来ています。冠動脈硬化が主な原因ですが、その診断は従来、冠動脈造影検査に頼っていました。近年、高機能 CT での診断が注目を浴び、侵襲が少ないため普及してきました。平成 26 年１月より、80 列 CT 装置が導入されました。虚血性心疾患の診断が比較的安全に、かつ簡便に診断できるようになる予定で、この分野での当院の役割がさらに充実するものと期待しています。

心房細動：
社会の高齢化に伴い心房細動の患者さんが増え続けています。左房内血栓防止のための抗凝固療法が必要ですが、近年、ワーファリンにかわる新しい薬が続々と登場しています。患者さんの状況に応じて薬剤選択を行っており、好評です。

慢性腎臓病：
以前はあまり見かけなかったこの病気ですが、近年は非常に増えてきました。特に高血圧患者での合併率が高く、注目されている疾患です。本症に対するこれといった有効な薬剤はなく、近隣の腎臓内科の専門医との連携を密にしつつ、減塩や適正な血圧管理などで対応しています。

最後に：
疾病構造の変化に伴って、高齢者の方がたの受診が増えて来ています。医者はともすれば病気のみを見て患者を診ないと言われます。これからの人生の時間が限られている高齢者であれば、ターゲットは病気の完治より当人の残された時間の充実、即ち QOL を優先させるべきと思われます。当科では、患者さんのライフ・ステージに対応した全人的な医療を提供したいと考えています。

呼吸器科

呼吸器科
医長
矢　木　真　一

倉敷平成病院呼吸器科は平成 14 年に玉田二郎先生（現：平成南町クリニック院長）が開設し平成 23 年１月から矢木が担当しています。外来診療は月･火･水・木・金曜日（水曜日は川崎医科大学呼吸器外科の沖田理貴先生）に行っており、加えて適宜救急対応で対処しています。

診療内容としては慢性呼吸器疾患（気管支喘息、COPD、間質性肺炎など）、肺炎の外来治療や肺結核の接触者健診も対応しています。肺がんは基本的に診断までで、手術・放射線療法適応例は速やかに上位施設に紹介しています。肺がんに対する化学療法は可能な範囲で行っています。睡眠時無呼吸症候群の診療も行っておりポリグラフィーは簡易・終夜ともに可能であり、CPAP、スプリント作成も対応しています。気管支鏡内視鏡検査も行っていますが、外科対応が必要な症例は紹介するよう心がけているため年間 10 例程度です。検査は鎮静下で行いますので苦痛なく受けることができます。禁煙外来（保険適応）、インフルエンザワクチン・肺炎球菌ワクチン接種も行なっています。リハビリテーションスタッフ（リハビリ専任医、理学療法士、言語聴覚士）が充実しており、効率的な呼吸法と排痰法の習得・呼吸リハビリテーション、下肢筋力アップを中心とした運動療法、日常動作の訓練トレーニングなど呼吸リハビリが可能です。当院は関連施設の入居者や認知症を合併した高齢者が多く、他院への紹介が困難な例が多いため自己完結性の高い呼吸器診療を目指しています。

平成 24 年度の呼吸器科の入院例は 245 件で救急での入院が 159 件（64.9%）、死亡例が 44 件（18.0%）であり救急入院の大多数は肺炎です。他科と比べても高い死亡率となっていますが、呼吸器科が死亡疾患の１位（悪性新生物：肺がん）、３位（肺炎）を診ていることと入院症例の平均年齢が 80 歳を超えており、神経疾患の合併例が多い事を考えると致し方ないと思われます。当院の診療の中核は神経疾患診療にあるものと考えており、その診療を高めていくには呼吸器科に何ができるか、外来通院、施設入所時から高い QOL を維持しながらどう看取

っていくかという所まで考えて診療しております。

総合診療科

総合診療科
部長
内　田　叔　宏

1．総合診療科の開設

近年の医療の進歩に伴い、高度医療やより専門的医療が求められてきた。総合診療科の必要性は、①この細分化されてきた現代医療の中で、全人的に人間を捉え特定の臓器や疾患に限定せず多角的に診療を行う部門が必要な事。②複数の問題を抱える患者にとって複数の臓器別専門医による診療のほか、病状経過によっては適切に判断・ケアする必要性がある事。③地域によっては、慢性疾患や心理社会的背景から問題に継続的なケアを必要としている患者が多い事。④高齢化に伴い、クリニックと連携し合同診察や介護施設・高齢者住宅入居者の健康・疾患管理、リハビリテーションの必要性、各種疾患の合併症も含め臓器や領域を超えた多様な問題を抱える患者が今後も増える事、などの視点が挙げられる。この時代背景による総合診療科の必要性をいち早く取り入れ、高尾武男（前理事長・現代表）先生のご提案で、平成 23 年９月１日より総合診療科が新設された。その直後 10 月には、厚生労働省より、新たに総合診療科の新設および総合診療科医の育成・設置教育指針が発表された。

当院での総合診療科の設置は、大学病院に次ぐ病院としては早期であり、患者本位に考えた非常にレスポンスの良い外来診療科体系（診療圏）となってきている。しかしながら患者の抱えている疾患の「重症度」や「ベネフィット（専門的治療の質の向上）」を継続的に診ていく上では従来の領域別専門的診療も非常に重要で、各種専門医と連携協力しながら、総合診療科は地域の医療・介護・保健予防事業に貢献し適切な対応として必要に応じた保険診療・予防医療を行っている。

当科は、岡山大学病院、川崎医科大学附属病院、九州大学病院、岐阜大学医学部附属病院、広島大学病院や倉敷市内近隣病院やクリニックと連携をとりながら患者の包括的な診療を行っている。

平成 23 年９月１日から１年３ヶ月は１人体制であったが、平成 25 年１月より福井三恵子先生が着任され２人体制になり、直接当科の診療実績には報告されていないが、外来ドック・健診業務や入院患者の副担当医も行っている。

2．総合診療科の診療

主に内科関連疾患を中心とする診療科で、不明熱や感染症、非感染性炎症性疾患からアレルギー・免疫疾患・原発不明癌などの診断や生活習慣病である高血圧、心不全、慢性腎臓病、メタボリック症候群、高脂血症、高尿酸血症等の診断・治療を行っている。これら複数の疾患を有し特定の専門診療科のみでは対応困難な場合、当科で優先順位の高い治療を目的とした診療を行っている。外来・救急外来での全身状態不良な患者、診断未確定患者の診断治療を行っている。

倉敷市健康診断や社会保険事務所一般検診等も行い、正常高値高血圧やメタボ予備軍などを含めて健康管理し疾患予防に努めている。

入院診療では、外来や救急外来での全身状態管理が必要な場合や内科以外の科から院内コンサルトとして発熱･感染･内科疾患の相談を受けることが多く、専門各科で入院受け入れ困難な場合は、当科へ転科し全身管理治療を行っている。

●外来患者の推移

平成 23 年９月１日以降の総合診療科患者数は、以下の通りである。平成 23 年度は、１日平均５名～８名であったが、平成 24 年度は１日平均８～ 14 名、平成 25 年度は１日平均 11 ～ 21 名前後で年々増加傾向である。

●入院患者の推移と内訳

平成 23 年９月１日以降の総合診療科受け持ち患者数は、８名～ 18 名前後で推移している。入院患者の内訳は、敗血症、DIC、尿路感染症･腎盂腎炎、急性細菌性肺炎・誤嚥性肺炎、慢性心不全の急性増悪、慢性腎臓病による腎不全、高血圧、狭心症、心筋梗塞、弁膜症などの合併症患者の治療が主である。他科より依頼患者の全身コントロールを行うこともしばしばで、人数はそれほど多くはないがご高齢な為合併症が多く、患者一人一人はかなりの重症で、24 時間持続点滴管理治療を必要とするような重症患者を受け持つ傾向である。

3．総合診療科計画

●神経内科、脳神経外科、整形外科などによる各種専門医療施設としての機能の充実とともに　臓器や領域を超えた多様な合併症を抱える患者の心臓、肺、肝臓、腎臓の全身管理、感染症やがん、免疫

疾患など各種精密検査を行う。
採血検査、尿検査、心電図検査、心エコー検査、レントゲン検査、CT 検査、MRI 検査、頸部腹部エコー検査、サーモグラフイー、CAVI･PWV 検査、内視鏡検査などを実施し早期診断に努める。

●市民、医療機関に対する研究成果の還元
のぞみの会等医療相談会実施、講演会への参加、各学会・地方会を含めた症例研究会、岡山大学附属病院、川崎医科大学附属病院と各領域別研究会に積極的に参加している。

●研究・研修の充実
倉敷中央病院を中心とした病－病連携会（毎月１回実施中）を通じて、しげい病院・笠岡第一病院、倉敷紀念病院、笠岡市立病院、重井医学研究所付属病院との患者症例検討会と毎月疾患テーマを設置した勉強会を、医師・看護師・医療スタッフとともに、患者本位の医療を研究検討し「医療の質の向上・治療の統一」に努めている。

４．総合診療科のこれから

高齢社会に伴い、認知症・睡眠障害など複数の問題を抱える患者や高血圧、心不全、慢性腎臓病、メタボリック症候群など生活習慣病、臓器や領域を超えた多様な問題を抱える患者、臓器別疾患での合併症を持った患者のがん・免疫力低下による感染症の患者が今後も増加する傾向にある（前述①～④）。上記検査や 3T、1.5TMRI および今年より新規導入の 80 列 CT を稼働し、頭から足まで全身検索、心臓～心血管系・心筋評価、肺臓や腎臓など内臓臓器や下肢動・静脈の動脈硬化性病変などの診断が可能となり、より鮮明な画像評価ができるものと期待されている。これからも総合診療科として各専門診療科と連携を深めながら患者診断治療を積極的にすることにより患者のニーズに合った検査・治療が期待される。また、入院患者に対しても、積極的な検査と重症度判定が的確に行えることにより各ガイドラインに基づいた重症患者の集中的診断・治療を行っていきたい。

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科
部長
森　　幸　威

倉敷平成病院の耳鼻咽喉科は、主に非常勤の先生が外来診療のみを行っていたが、詳細な資料は残されていないようである。常勤医は現在真備町で開業されている松田常男先生が、平成 13 年４月から平成 14 年５月まで勤務され、また川崎医大の医局の先輩である竹本琢司先生が平成 16 年４月から平成 20 年９月まで勤務されていた。その後、１年間の常勤医不在を経て、平成 21 年９月に私が川崎医大耳鼻咽喉科から着任した。現在、水曜日の午前の外来は川崎医大耳鼻咽喉科講師の福島久毅医師、土曜日の外来は川崎医大名誉教授の折田洋造先生に担当していただいている。

＜外来＞

近隣に古くからの開業医が３軒あり、また開院以来、常勤医が常駐していなかったので、知名度の不足から外来患者はさほど集まらないだろうと考えていた。しかし､年度を経るごとに順調に増加している。その理由の１つとして、耳鼻科の常勤医のいる病院として、地域の方々に、徐々に認知されてきたためと考えられる。

＜外来実績＞

延べ外来受診患者数（入院患者含む）

H21. 9 ～ H22. 3（H21 年度）	4,541 人
H22. 4 ～ H23. 3（H22 年度）	9,257 人
H23. 4 ～ H24. 3（H23 年度）	10,331 人
H24. 4 ～ H25. 3（H24 年度）	10,561 人

＜入院＞

当院の特色からか、めまいの患者が約半数を占めている。このうちメニエール病や良性発作性頭位めまい症などの内耳性めまいの患者は約４割である。残りの約６割は原因不明のめまいか堆骨脳底動脈循環不全によるめまいなどである。顔面神経麻痺、突発性難聴がその後に続く。

＜入院実績＞

H21. 9 ～ H22. 3（H21 年度）	74 人
H22. 4 ～ H23. 3（H22 年度）	140 人
H23. 4 ～ H24. 3（H23 年度）	128 人

H24. 4 ～ H25. 3（H24 年度）	137 人

＜内訳＞

内耳性めまい	88 人
その他のめまい	146 人
顔面神経麻痺	33 人
突発性難聴	32 人
急性扁桃炎	14 人
鼻出血	13 人
など	

＜手術＞

手術は鼻内視鏡手術を中心に扁桃摘出術、顕微鏡下喉頭微細手術、気管切開などを行っている。

＜手術件数＞

H21. 9 ～ H22. 3（H21 年度）	14 件
H22. 4 ～ H23. 3（H22 年度）	40 件
H23. 4 ～ H24. 3（H23 年度）	27 件
H24. 4 ～ H25. 3（H24 年度）	27 件

現在倉敷市内の病院で、耳鼻咽喉科が手術を行っている施設は、川崎医大附属病院、倉敷中央病院と当院の３施設しかない。

今後は紹介率を増やして、手術症例を徐々に増やしてゆきたいと考えている。

形成外科

形成外科
医長
石　田　泰　久

もともと平成 16 年６月より倉敷平成病院総合美容センター美容外科・形成外科として華山博美医師により形成外科診療が行われていましたが、平成 21 年７月より形成外科　森大祐医師の着任により、倉敷平成病院形成外科の診療が行われています。平成 24 年４月より石田が着任し現在に至っています。

形成外科外来では、形成外科一般を行う他に、特殊外来として足の病変に特化したフットケア外来、主に難治性皮膚潰瘍を扱う創傷外来を行っています。フットケア外来では私の診療と並列して、看護師や義肢装具士と連携し、フットケア処置外来、履物外来、爪処置外来を行っています。

手術に関しては平成 25 年の１年間で華山医師とともに表に示しますように年間 479 件（入院手術 146 件、外来手術 333 件）の手術を行っており、内訳としては、外傷、腫瘍に対する手術が多くなっています。

これからも地域の皆様に適切で迅速な形成外科診療が提供できるように、スタッフともども精進していく所存です。

	入院手術	外来手術	計
①外傷	59	82	141
熱傷	3	0	3
顔面・頭頸部軟部組織外傷	17	52	69
顔面骨骨折	18	1	19
上肢外傷	16	22	38
下肢外傷	5	7	12
②先天異常	2	1	3
③腫瘍	21	168	189
良性腫瘍	14	162	176
悪性腫瘍	7	6	13
④瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	5	13	18
⑤難治性潰瘍	17	0	17
⑥炎症・変性疾患	39	25	64
⑦美容	3	44	47
大分類計	146	333	479

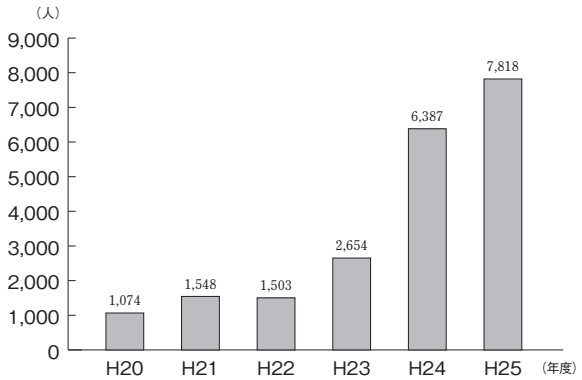
皮膚科

皮膚科
医長
嶋　田　八　恵

倉敷平成病院に皮膚科が開設されたのは平成 13 年でした。一時閉鎖期間も交え、非常勤の先生方により皮膚科外来は継続されました。私は前任２名の非常勤医の先生方を引き継ぐ形で平成 24 年１月より常勤として着任し、今日に至っております。

皮膚科外来患者数の推移と現状

未だに“平成病院に皮膚科があるのを知らなかった”といわれることもあるのですが、外来患者数は徐々に増加しております。患者さまご自身やご家族の方が他科に受診する際ついでに皮膚科を受診し、逆に皮膚科疾患から糖尿病や甲状腺機能異常など基礎疾患が見つかった際には他科を受診することもで



皮膚科年間外来患者数

きます。現在皮膚科では大きな手術は施行しておりませんが、皮膚科での生検を経て、形成外科へ紹介・手術することになる患者さまもいらっしゃいます。

倉敷平成病院の皮膚科としてのこれから

当院は複数の病院・医院に受診することが体力的・時間的に困難な患者さまにも対応できる病院ですし、さらに当科は常勤になり診療時間が増え、他科と一緒に受診しやすくなっています。また、他科の先生を信頼して診察依頼できる今の大変幸せな診療環境を維持できるように、疾患・患者情報の迅速かつ正確な提供・収集・共有に努めていかなくてはいけないと考えております。そして、スタッフと力を合わせ、患者さまの一つでも多くの不快な症状を治療していきたいと思っています。

眼科

眼科
医長
石　口　奈世理

当倉敷平成病院の眼科は平成５年より診療を行っております。医長は初代の高木茂医師より、竹林俊朗医師、亀山典子医師、楠理代医師と交代し、平成21年から３年間は常勤医不在となり非常勤体制で診療を継続しておりました。平成24年４月より石口が常勤医として着任し、現在に至っております。

現在、外来診療においては、結膜炎、角膜炎、白内障、緑内障、糖尿病網膜症など一般的な眼科疾患はもちろん、眼瞼痙攣に対するボトックス治療や斜視に対するプリズム眼鏡処方など、幅広い疾患に対応しています。眼科外来は２階生活習慣病センター内にあり、糖尿病患者の網膜症チェックも積極的に行っています。蛍光眼底造影検査や網膜光凝固術（レーザー治療）も外来にて行っています。

手術治療においては、白内障手術を中心に行っています。白内障は日帰り手術のイメージが強いかと思いますが、術後感染のリスク、術後の点眼指導の重要性を考え、当院では入院にて手術を行っています。入院中に薬剤師と看護師が連携し、患者さま一人一人に丁寧な点眼指導を行うことで、自宅に戻られてからも確実に、清潔に点眼治療を継続していただけると考えています。

ご高齢の患者さまが多い当院では、今後も白内障や緑内障、黄斑変性症など加齢とともに増加する疾患への対応が重要と考えます。また近年、VDT業務の増加やモバイル機器の発達に伴い、老若男女、眼精疲労を訴える方が非常に増えました。当院も平成25年12月より電子カルテが導入されました。モニター画面の字のちらつき、光の散乱、照明光の反射、スクロールした際の画面の動き、映像のだぶり、目が疲れるのもしょうがありません。現代病とも言える眼精疲労に対しても、積極的に環境調整・医療介入を行っていく必要があると考えています。

リハビリテーション科

リハビリテーション科
部長
池　田　健　二

リハビリテーション科
リハビリテーションセンター長
高　尾　祐　子

全仁会グループは高尾武男代表の『患者中心の医療がしたい』という思いから昭和63年にその歩みを始めました。開院当初から病気の治療だけでなく、患者様の人生の充実、Quality Of Lifeに着眼し、リハビリテーションに力を入れて取り組んできたリハビリテーション先進病院の一つです。病院西側の出入り口を見上げると『高尾リハビリテーション病院』

の看板が残っており、その歴史の一端を感じます。

開院当時にはリハビリテーション部は数名の小さな部署で人手がない中、協力し合いひたむきに治療をしていたと聞きます。今ではリハビリテーション科専門医２名、理学療法士 53 名、作業療法士 39 名、言語聴覚士 15 名、臨床心理士６名、リハエイド３名と 100 名を超える県下有数と言われる大所帯となり、急性期から回復期、また在宅とそれぞれのステージで患者様に包括的なリハビリテーション治療が提供できる部署へと成長しました。これだけの大きな部署へと成長できたのは、開院から続く患者様、治療に対する療法士のひたむきな想いと、関係各所の皆さまのご理解、ご協力のおかげと感謝しております。

今、リハビリテーション分野は変換期にあると言われています。世の中にリハビリテーションが認知され、リハビリテーションを謳う病院・施設が次々と増える中、リハビリテーションの質が問われるようになってきました。

リハビリテーション新時代の到来とも言えるこの変換期をどうのりきるか。患者様の機能改善、Quality Of Life にこだわってきた『私たちのリハビリテーションを貫くこと』それが答えだと思います。一人ひとりが目の前の患者様に最善の治療を提供すること。一致団結しみんなで前進していくこと。この情熱と団結力が私たちの最大の強みです。この強みを生かし、患者様を中心にチーム一丸となってリハビリテーションを実践すれば自ずと質の高いリハビリテーションを提供できるものと信じています。

『初心忘るべからず』全仁会の歴史を振り返り、私たちの原点を再確認できたように思います。みんなで協力し合って、患者様のためにひたむきに。開院当初のリハビリテーション部と同じ気持ちでこれからも成長しつづけたいと思います。

放射線科

放射線科
部長
塚　本　和　充

ここ数年の放射線部門領域、特に CT や MRI の断層画像領域の進歩は目覚ましく、日常診療においても大きなウエイトを占めるようになっています。それに伴い、検査件数は増加、また検査内容も複雑化しており、より専門性が求められる時代になっています。ここ 10 年では、当院においてもマルチスライス（16 列）CT や 3.0 テスラ MRI が導入され、検査件数も著明に増加して参りました。こういった状況においても、放射線技師の尽力により、限られた人数で、予定検査のみならず、急患対応に至るまで、比較的柔軟に対応出来てきたと思われます。

正直なところ、一昔前と異なり、ある程度の CT や MRI 検査は、そこそこの規模の病院であれば、どこでも施行可能な検査です。そのため当院では、「どこで撮っても同じ検査」ではなく、「ここでよかった」と思われる、より質の高い検査を実施していきたいと考えています。その為には、依頼された検査をただこなしていくのではなく、各診療科の先生方のご指導、ご協力の下、個々の症例を主体的に考え、理解し、検査を施行していく必要があると考えています。

医療の進歩、撮影機器の発達に伴い、今後もますます、検査件数の増加、個々の検査の多様化、複雑化が予想されます。それに対応すべく、当院でも平成 26 年 1 月より最新型の 80 列 CT が導入され、より高品質で高速な検査が可能となります。さらに冠動脈 CT や仮想大腸内視鏡のような高度な検査も可能となり、これまで以上に、より質の高い医療に貢献できるのではないかと考えております。

今後も、各診療科の先生方と協力し、より質の高い医療に貢献できる放射線科（部）を目指して行きたいと考えています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

麻酔科

麻酔科
部長
和　田　　聡

平成 19 年７月より倉敷平成病院麻酔科に勤務しております。

これまで麻酔科常勤医はおらずまだまだ手探りの状態でやっています。

当院の特色として、内科はもちろんですが、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、整形外科といった神経系に関係する診療科が全てそろっている事です。その他麻酔科が関与する科に形成外科、婦人科があります。患者様の幅も、幼児から高齢者までと幅の広

いものであり麻酔科では、これら全ての科での手術を受けられる患者様の術前、術中、術後に関与します。安全を第一に、24 時間体制でやっております。

和漢診療科

和漢診療科
（中医）

甄　　立　学

和漢診療科

高　尾　公　子

和漢診療科

青　山　　雅

「全仁会グループ 15 周年記念誌」によれば、当院の「和漢診療科」は平成４年に設けられました。視床痛等現代の西洋医学では難治の病気に対応するものとして、沈衛陵先生（中医）指導の下神経内科医を中心に和漢診療が始まりました。それは開設当初から病院が目ざした日中合作医療の一つでした。その後に高尾公子先生と沈衛陵先生が診療を担当し、診療日は週１回で、木曜日でした。

私は平成 20 年に沈先生の後任として和漢診療に携わるようになり、最初からやはり高尾公子先生と一緒に診療を行っていましたが、その後、青山雅先生も和漢診療のチームに加わって、今３人の体制で週１回（木曜日）外来診療を行っています。

現在、日本で医療保険に適用されている漢方処方（医療用エキスなど）は約 150 種、漢方生薬は約 200 品目だけです。これは中国に比べれば、大変種類が少ないので、さまざまな体質の患者に対応するには、かなり難しく感じます。更に私が着任した時、院内の診療用コンピューターシステム上に登録された医療用処方薬は保険適用されている処方薬の一部分だけで、生薬は殆ど登録されていませんでした。より幅広く患者さんに漢方医療を提供するために、薬剤部の市川部長に多大な苦労をかけて、保険に適用された漢方処方薬（主にツムラの製品）と生薬を全数登録していただきました。それとともに、病院隣のサエラ調剤薬局の広田店長にもお願いして、漢方エキスの在庫品目数を大幅に増やしました。お陰様で、今患者の体質に合わせて漢方薬の選択の自由度は大幅に改善され、湯液（煎じ薬）製剤も処方できるようになりました。

和漢診療科に来られる患者さんは、疾患の種類がかなり複雑で、ほぼ全臨床診療科の疾患が含まれています。いろいろな病院を転々としても病因が分からず、病名もつけられていない患者さんも少なくありません。当診療科で治療を行う際、体質類型の判断、「証」の把握を重要視していますが、それと同時に、現代医学の病因診断をできるだけはっきりさせるように心がけています。そのために、院内の各診療科の先生の力を借りる時がしばしばあります。これにより、患者さんがより安心して漢方治療を受けられると考えています。

これからも、和漢診療科は「何時いかなる時でも対応します」という全仁会の診療方針に従い、より高い質の漢方医療を提供できるように努力していきたいと存じます。

歯科

歯科
歯科医師

芦　田　昌　和

歯科は平成 13 年７月に開設されました。倉敷平成病院は創立 25 周年で、歯科は開設から 12 年半経ちますので、ちょうど半分の期間になります。私は平成 24 年４月に着任し、歯科医療に携わらせていただいていますが、前任までの先生方やスタッフの皆さんが築いてくださったシステムや患者さんとの信頼関係のおかげで、スムーズに日々の診療業務を行うことができています。

当科の売りの一つであるセレックは岡山県下の病院歯科では当院以外では導入している施設はありません。比較的安価で白いかぶせや詰め物が作成できるため、問い合わせも多いです。白い歯を諦めていた方、銀のかぶせや詰め物をやり替えたい方におすすめで、ほとんどの方に大変喜んでいただいています。

口腔ケアの重要性はよく言われています。誤嚥性肺炎のリスクを下げるだけではなく、糖尿病、心臓血管系疾患、消化器系疾患、呼吸器系疾患などの発症率を下げ、低体重児出産の可能性も低くします。

今後、現在の診療、口腔ケアの質を向上させるとともに、何か新しいことにも挑戦していきたいと考えています。お口の健康増進は体全体の健康増進に

繋がります。これからも当病院の診療科の一つとして、他科との連携を深めつつ、より良い歯科医療サービスを提供できるよう努力していきたいと思っています。

倉敷生活習慣病センター

倉敷生活習慣病センター
診療部長
青　山　　雅

15 周年の記念誌には前センター長の姫井孟先生が文章を書いておられます。当センター開設にあたっては、姫井孟センター長、青山、小見山百絵専任主任管理栄養士、地域医療連携室には鷹取康晴室長、尾崎一夫さん、看護師宮淳子さん、医事科受付の池田基郎さん、物部（秋田）章子さんの名前が挙がっています。当時より働いているのは、現在、私と池田さんだけになりました。現在は、医事科５名、看護師９名、管理栄養士５名が勤務しています。倉敷生活習慣病センターは昨年 10 周年を迎え、また KCT で制作・放映された、倉敷平成病院の番組「絆の医療を求めて」で当センターの活動を取り上げていただき、改めて、自らを振り返ることが出来ました。開設当初は教育入院のスケジュールを作ること、入院患者の血糖の報告を受けること、糖尿病療養指導士資格取得の勉強会をすること、糖尿病患者を対象にした料理教室を開くことなど基本的なことから始めました。そのうちに、この病院の糖尿病患者さんの特殊性を感じるようになりました。高齢であること、一人暮らしであること、認知症を合併しているなどから、自分では食事療法や運動療法、ましてやインスリンを打つことができない。栄養障害があり、経管栄養を開始してから、隠れていた糖尿病が明らかになり、急に高血糖になり意識消失や脱水になる。反対に、食べむらがあるのに、血糖降下薬を飲み続けて低血糖になって入院してくる。自己管理できる患者さんたちのほうが少ないのです。糖尿病の治療の３本柱、食事療法、運動療法、薬物療法をだれが行うか。もともと当院では、高齢者、認知症患者、リハビリ患者を対象に、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、MSW、介護スタッフが参加して、退院後の介護サービスの調整を行うカンファレンスが確立していました。「救急から在宅まで」のシステムが整っている当院は、スタッフ間、病院、訪問看護、在宅ケアセンター、老健、ケアハウス、ローズガーデンなどの施設間の患者情報交換がスムーズにいきます。そのおかげで高齢者、認知症の糖尿病患者を対象にした入院のクリティカルパスを早い時期から導入することが出来ました。一方では、病識があって自己管理ができる患者さんが１人でも入院した場合は、入院期間に合わせて、その時だけスタッフが集合して糖尿病教室が開かれます。患者さんには知識よりも、明日からどのように、食事、運動を実践していくかに焦点を当てた指導を行っていきます。

外来のほうは、１年間の実人数 950 名、１日平均 28 名の糖尿病患者さんを診察しています。定期的に管理栄養士さんの栄養指導を受けること、糖尿病手帳を利用することや、糖尿病の合併症を１年かけて検索する外来クリティカルパスは看護師さんのおかげで充実しています。糖尿病フットケア外来の開設は、形成外科の石田泰久先生の協力を得ることによって可能となりました。下肢閉塞性動脈硬化症の血管内治療は専門病院との連携によって現在までに 100 名近くの方を治療していただきました。算定が可能となった透析予防の療養指導の内容には 14 名の糖尿病療養指導士（100% の合格率）がかかわり、月に 30 名の実績をあげています。糖尿病認定看護師となった岩崎紀代美さんをはじめ、センターの専属の看護師さんたちが、インスリン手技の指導や自己血糖測定器の指導、フットケアも行っています。

医学的には、この 10 年で、DPP-4 阻害薬が発売になり、インスリン療法から内服薬に切りかえることが出来る症例が増えています。糖尿病と骨粗鬆症、糖尿病と認知症の関係などがトピックスとなっていますが、私たちは、開設当初から、認知症、骨粗鬆症を合併した糖尿病患者さんの治療にあたってきました。糖尿病という病気は、患者さんと長くかかわる病気です。10 年間、通ってくださった方達も多数いらっしゃいます。経過中に、糖尿病の合併症以外にも悪性腫瘍、内分泌疾患、膠原病などの病気を発症することがあります。今までと同様に、早期発見と、treatable disease の見逃しなく、診療を充実させていきたいと思っています。下肢閉塞性動脈硬化症、骨粗鬆症の治療に関しても、診療を継続し今後もさらに、高齢者や認知症の糖尿病患者さんの QOL の向上を目指して治療にあたっていきたいと考えています。

総合美容センター

総合美容センター長
婦人科・育毛外来
吉　岡　　保

私が倉敷平成病院に着任してきたのは平成 16 年６月でした。早いものでそれから 10 年になりました。35 才から 65 才まで倉敷成人病センターでは産婦人科医として手術とお産に明け暮れておりました。65 才になり退職を考えているときに倉敷平成病院の高尾武男先生からお誘いを受けました。医師としては産婦人科医は、大本佳恵先生を岡山大学より、形成外科医としては神戸大学より華山博美先生をリクルートしてきました。当時、神戸大学には美容外科なるものはありませんでした。

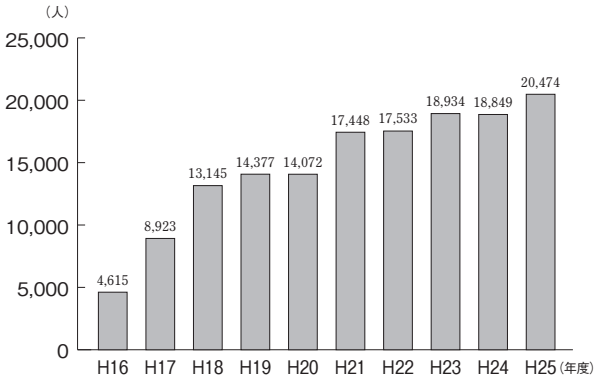
大本先生はその後福山市内で御主人と共に産婦人科医院を開院され今日に至っております。その後産婦人科は東京から平成 19 年 10 月に太田郁子先生が来てくれました。御主人も倉敷成人病センターに勤務されて一緒に楽しくやっていらっしゃいます。

開院当時はエステ部門も病院内にオープンしていましたが、病院内でのエステについては問題があるとの意見が出たのでエステは関連施設の「ローズガーデン倉敷」内に移しました。しかしそこではお客が集まりにくいということで JR 倉敷駅のルブラン３階に「琥珀（こはく）」として平成 19 年に開院しました。そのときからエステ部門は当院と切りはなして独立してやっておりました。しかしここも倉敷駅の改築に伴い移動して、現在は岡山市内で続けております。

また美容センターに乳腺外来を平成 17 年４月に開設しました。先生は川崎医大から週３回来て頂いております。

このほか私が数年前よりやっている育毛外来があります。いわゆる「ハゲ」の治療ですが「育毛外来」と呼んでおります。外来には毎回 10 名程度の人が通院してくれていますが、生えてきた人は本当によかったと喜んでくれております。薄毛になったといって心配して来院される人が若い人に多いのには驚いております。男性には主として「プロペシア」と、女性には「セファランチン」を処方しています。ヘアトニックには男女とも「リアップ」や岡山理大の浜田博喜先生が開発された「クルクミン」を使用しています。これらの育毛剤は６ヶ月くらい使ってみて効果がなければ中止しております。今後美容センターとしては内科や栄養士さんとも相談して肥満病についても検討せねばと思っております。

最後に美容センターの外来数の変化を表にしてみました。



総合美容センター外来患者数推移

美容外科・形成外科

美容外科・形成外科
部長
華　山　博　美

平成 16 年６月に、総合美容センターとして形成外科・美容外科が開設されました。当時、総合病院内にある美容外科は全国でも数える程しかなく、新しい試みといえました。レーザー類機器は当初から①Q-switch YAG レーザー　②光治療器（Ellipse Flex）③ CO2 レーザー　④脱毛レーザー　⑤V-beam レーザー（血管腫治療）など豊富に取り揃えて頂き、また美容外科手術も症例によっては入院・全身麻酔下手術が可能という、医療者にとっても患者さんにとっても、安心・安全な医療が提供できる環境にあります。レーザー治療、およびボトックス注射・ヒアルロン酸注入などのいわゆる肌治療から、重瞼（ふたえ）・隆鼻術・脂肪吸引・豊胸などの美容外科手術まであらゆる美容医療に対応しております。当科のことを知って頂く機会も少しずつ増していき、現在では倉敷市・岡山市・総社市を中心とした県下のみならず、遠く兵庫県・四国・九州より来院される患者さんもいらっしゃいます。

また、形成外科としても併せて診療を行なってお

り、小腫瘍の手術から、顔面骨折整復・皮膚の悪性腫瘍切除・乳房再建などを積極的に行い、手術のマンパワーが必要な場合は、神戸大学形成外科教室より応援を頂いていました。

平成21年7月よりは、森大祐医師が形成外科医長として着任し形成外科としては2名体制で診療に当たることが可能となりました。その後森医師に替わって、平成24年4月より石田泰久医師が着任し現在に至っています。それに伴い、創傷外来やフットケア外来を開設し、より幅の広い疾患に対応が可能となりました。現在では手術件数は年間約450件を数えています。

年間手術件数、学会活動、論文の執筆など実績を考慮され、平成21年4月より日本形成外科学会教育関連施設（美容）、22年4月より日本形成外科学会教育関連施設に認定され、現在に至っています。また、平成25年より乳癌切除後の乳房再建において人工乳房の使用が一部保険適応となりましたが、この手術を行なうことができる施設は厚生労働省と日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会より厳しく制限され、一定の条件をクリアーしなければなりません。当院は、平成25年12月より乳房再建用エキスパンダー／インプラント実施施設認定を受けることができました。乳癌の罹患率は年々増加の一途をたどっており、それに伴い再建を希望する患者さんも今後増加することが予測され、その方々に対応していきたいと考えております。

形成外科・美容外科は、病的な外観を正常に近づける、または病的な状態ではなくても自らのコンプレックスのもととなっている部分を理想に近づけるという点で、QOL（Quality of Life）の向上には必要な診療科です。今後も倉敷平成病院の一員としてより良い医療を提供できるよう努めて参りたいと思います。

婦人科

婦人科
医長
太　田　郁　子

当院婦人科は開設11年目を迎え、私自身が着任してから8年が経過しました。私が着任する前は妊婦エステや妊婦健診などが中心でしたが、エステ施設の廃止などに伴い、オフィスギネコロジーを中心とした婦人科の充実を目指してきました。着任当初は子宮癌検診やドックの婦人科検診がメインでしたが、妊娠人工中絶や小手術を始め、婦人科内分泌領域（月経不順、多のう胞性卵巣症候群、月経困難症、子宮内膜症、子宮筋腫、不妊症、子宮内膜増殖症、更年期障害、閉経後骨粗鬆症など）の疾患を中心になるべく最先端の治療法を提供することを目標としてきました。美容センターという施設の特性上、普通の婦人科としてのイメージがなく、当初は苦労しましたが、きれいな施設とほぼ女性のみの明るい待合室は患者さんに喜ばれ、年月が立つうちに私もこの施設の一員となれたような気がします。

初めは新しい手技に慣れていなかった看護師さんも、今では総勢6人となり、みなさんベテランで私の代わりができるくらいになりました。また、不妊治療を2年目から開始し、人工授精や自己注射などの幅を広げてきました。妊娠が成立して、出産後にまた受診してくれる患者さんも今では多くなりました。

現在当婦人科の特色は「子宮内膜症」と「更年期障害」です。この2つの疾患については学会へ積極的に参加し、この分野では全国的な施設として、東京や他県などから患者さんが来てくれるようになりました。

今後は診断、手技面の充実を計るとともに、待ち時間などのアメニティー部分を改善し、よりかかりやすい婦人科にしていきたいと思っています。また、低侵襲手術が普及してきており、子宮筋腫、子宮内膜症の保存療法を得意とする病院として、地域の役割の一端を担っていきたいと考えます。ありがたいことに、年月とともに倉敷市、岡山市の自科および他科のドクターとの交流も増え、連携をとった診療が可能になりました。患者さんにはいろいろな考えを持つ方がおり、同じ疾患でも目指す治療が違うことも少なくありません。私は特色のある婦人科として、倉敷平成病院で治療したいという患者さんを増やしたいと思っています。今年から東京大学産婦人科と聖路加国際病院と協力して3施設研究も行うことになりました。このような多施設研究によって当院の治療が標準化され、さらに子宮内膜症診断の拠点病院にできればという夢をもっています。

最後に私が外来の合間に手術ができるのは麻酔科の和田聡先生のご厚意の賜物であり、子宮内膜症の画像診断は放射線科の塚本和充先生のご高診のおかげです。倉敷平成病院の優秀なドクターやスタッフに支えられ、初めて臨床研究が成立することを身をもって実感し、感謝しております。また自由に診療に当たらせてくださった高尾武男代表、高尾聡一郎理事長、公私に渡り女医としての生活を支えていた

だいた高尾公子先生、そして婦人科疾患に対して、常にご指導を賜りました吉岡保先生に熱くご御礼申し上げます。11 年前に産声をあげた小さな婦人科ですが、総務、医事課、リスクマネジメントなど皆さんの協力の下、時には怒り、時には笑いながら育ってきました。今後もご迷惑をおかけすることがあるかもしれませんが、いつまでも暖かいご協力をよろしくお願いいたします。

認知症疾患医療センター

認知症疾患医療センター長
神経内科　部長
涌　谷　陽　介

倉敷平成病院では、高尾武男代表が病院を開設されて以来 25 年の長きにわたり、全仁会全体として認知症の人やその家族を支えて来ました。倉敷平成病院としては、これまで神経内科・もの忘れ外来での外来診療が中心となり、他科の先生がたには認知症の人の様々な身体合併症治療のための外来・入院診療を担ってきていただいています。その長い歴史のなかで、平成 24 年３月 28 日に当院が「岡山県認知症疾患医療センター」に指定され、新たな役割が生まれました。

国が推進する「認知症疾患医療センター運営事業」は、平成 20 年に策定された「認知症の医療と生活の質を高める緊急プロジェクト」の中で策定されたものです。認知症疾患医療センターの主な役割を表１に示しますが、認知症疾患医療センターが、認知症に関わる地域連携の中で中核的な存在となることが期待されています。特に認知症の早期発見、早期治療、早期対応、早期連携の要と位置づけられています。

認知症疾患医療センターに指定されてからの当院のもの忘れ外来体制としては、精神保健福祉士２名による相談業務、神経内科医４名による新患外来が柱となっています。相談件数は月 40 ～ 60 件あり（図１）、病歴、認知機能障害の症状･程度、身体状況、家族関係などを詳細に聴取することに加えて、介護保険の説明、地域包括支援センターや他の介護施設との連携、介護･ケアへのアドバイスも行っています。この丁寧な初期対応により、ご家族・介護者に安心感が生まれます。受診までの流れの概略を図２に示しますが、ご本人、ご家族・介護者、さらにはかかりつけ医の先生のニーズに応じて柔軟に予約を取得しています、月に 40 ～ 50 人の初診診療と、最近ではいわゆる BPSD や身体疾患の合併が疑われるケースでの早期対応の件数も増加しています（図３）。

初診時には、病歴再確認のための問診、認知機能検査（MMSE、HDSR、FAB、CDR、NPI、コース立方体テスト等）、頭部 MRI（あるいは CT）、脳研脳波、胸部レントゲン、心電図、血液検査を行っています。認知機能のアセスメントのみならず、認知症の人はセルフケアの力が衰える中で体調管理も難しくなることもあるので、身体状況の確認や検査は非常に重要です。これらの一連の検査をスムーズに行うために、医事課、看護師、放射線部、臨床検査部、臨床心理士の方々の連係プレーも大切で、本当にお世話になっております。また、平成 25 年度からは、放射線科塚本和充先生により迅速・的確な MRI・CT 画像所見をご教示頂いております。診察医師の役割は、身体所見・神経所見をとり、これらの情報を総合して適切な診断と加療方針の決定、ご本人、家族・介護者への説明を行うことにあります。初診時の診断の内訳は、図４の通りアルツハイマー型認知症が多いですが、認知機能に問題ないと考えられる方や軽度認知障害（MCI）の方が３割以上にものぼっています。

また、かかりつけ医の先生との病診連携はさらに重要となってきており、これまで以上に質の高い認知症の診断やアドバイス、情報・資料提供を行うべくスタッフ一同研鑽を積んでいるところです。さらに、診察後ケアマネジャーや包括支援センター、介護施設との連携が必要である場合も多くなっています。最近では、初診時に介護関係者が受診同伴されるケースも増えており、診察室自体が個別支援の第一歩と位置づけることも出来ます。

視点を変えると、当院は救急指定病院であり、たくさんの高齢者が救急受診し、その中に認知症の人も数多くおられます。日々の救急外来や入院病棟業務の中で、認知症の人に関わることが非常に増えています。各職種が認知症への理解を深めることが、認知症の人への適切な医療と対応を提供する最も重要な部分であるため、院内の研修等も充実させる必要があります。認知症疾患医療センターとしても今後の課題の一つであり、皆様の協力により色々な取り組みもなされています（表２）。介護施設スタッフへの啓発活動も座学を中心に行っています。

認知症に関する医療、介護、地域、行政を含めた「連携」の重要性が叫ばれるようになり、当センターでは認知症に関わる地域連携の様々な活動にも参加しています（表３）。かかりつけ医の先生方への講演、

地域での認知症に関する啓発活動や事例検討会にも積極的に関わっています。

今後も皆様の協力を得ながら、地域の中で信頼される認知症疾患医療センターであり続けるべく、努力を続けて行きたいと思います。

表１　認知症疾患医療センターの業務内容

①患者・家族からの相談の受付
②認知症の鑑別診断とそれに基づく初期対応
③かかりつけ医・病院との医療連携
④身体合併症・周辺症状への対応
⑤医療機関等への紹介
⑥地域包括支援センター（高齢者支援センター）等との連携
⑦認知症医療に関する情報発信・研修会等の実施
http://www.heisei.or.jp/ninntisyoucenter.htm

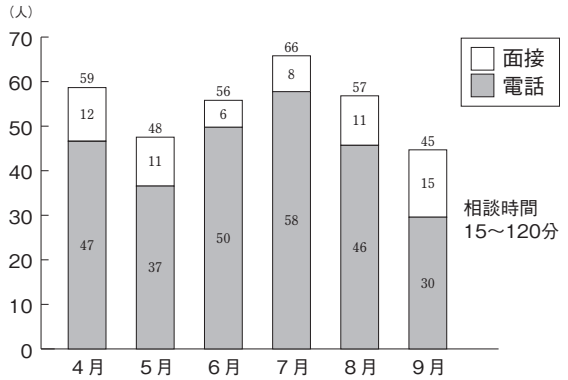


図１　平成 25 年度　（４月～９月）　相談件数

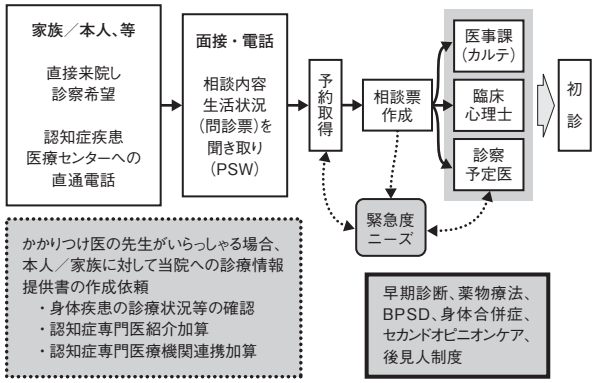


図２　倉敷平成病院認知症疾患医療センター初診の流れ

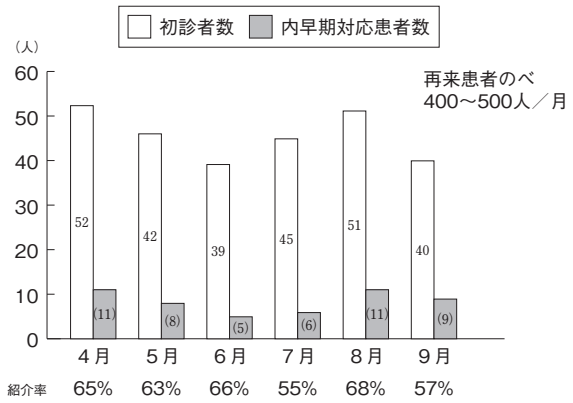


図３　平成 25 年度（４～９月）　もの忘れ外来

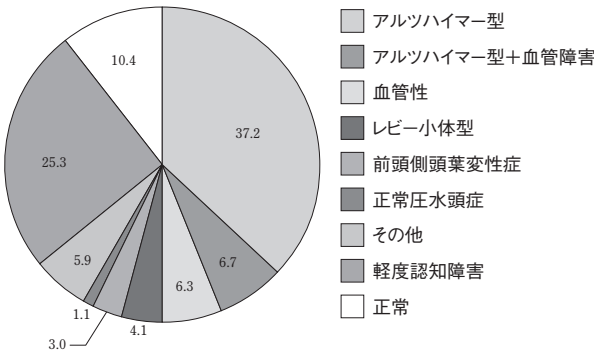


図４　平成 25 年度（４～９月）
もの忘れ外来　初診者診断内訳

表２　認知症に関する院内の取り組み

・外来受診する認知症患者および家族への対応（心理士）
・入院中の認知症の人への対応力向上
・認知症カンファレンス（４階病棟院内研究）
・認知症患者を中心としたせん妄対応（２階病棟院内研究）
・NST 活動（前田先生、栄養科）
・認知症に関する介護スタッフ研修
・認知症サポーター養成講座
・認知症疾患医療センター主催　院内セミナー
・在宅支援、施設入所支援、転院支援
・家族会・本人交流会
・院内認知症・せん妄サポートチーム（仮称）
その他

表３　認知症に関する情報発信研修会等の実施

もの忘れフォーラム（川崎医科大学と合同）
のぞみの会
倉敷平成病院神経セミナー
倉敷平成病院認知症講演会（映画会）
地域認知症事例検討会（隔月）
かかりつけ医認知症対応力向上研修
認知症に関する医師会講演会
製薬会社講演会
認知症キャラバンメイトスキルアップ講座
市民向け認知症講座　　その他

平成脳ドックセンター

平成脳ドックセンター
センター長
大　橋　勝　彦

脳ドックは昭和 63 年（1988 年）に、札幌の一脳神経外科病院で始まったとされています。当院ではその３年後から、土日のみ外来の先生方が手伝う形で行われていたようです。「平成脳ドックセンター」として設立されたのは、平成５年 10 月からで、初代センター長は今の高尾武男代表です。当時としてまだ珍しかった脳ドックが人間ドックと一緒に行われ、順調に推移していました。

しかしその後の経済不況の影響を受け、各健保組合も人間ドックの補助額の削減などあり、人間ドック受診者数もその後しばらくは増加がみられませんでした。

平成 16 年４月に専属医師として大橋が着任しましたが、その後センター長を任され、平成 17 年には日本人間ドック学会から県下で３番目に人間ドック健診施設認定を受けることが出来ました。その後、鈴木健二名誉院長の脳ドックへの協力や平成 21 年６月から 3.0T MR の導入があり、平成 22 年には脳ドックも日本脳ドック学会から施設認定を受け、当センターは名実共に誇れる存在になりました。その後は非常勤医師の採用や一昨年からは常勤医師として澤田ちづ子医師の参加も得て、また岡崎浩部長の教職員や公官庁職員など受診者の開拓があり、全国の人間ドック受診者数の伸び悩みに反し、順調に受診者数を増加、平成 15 年の受診者数は約 1,100 人でしたが昨年では 6,200 人余りとなり、収入金額も２億円に達する成績を上げることが出来ました。

そして脳ドックセンターは非常勤職員を含め現在総勢 21 名に成長し、またこの度、当施設は日本人間ドック学会から正式に人間ドック健診研修施設としての認定を受けることが出来ました。

現在、人間ドックは多くのオプションが追加され、個人の希望に沿った所謂“テーラーメイド”検診の趣があり、ますます複雑になっております。また健診後、特に精査後のフォローアップは大切です。このフォローアップ体制を如何に整えるかは今後の課題です。

ドックは一般の医療と異なり、ある面所謂サービス機関でもあります。ドック受診時に鍼やエステを体験したり、ホテルでの宿泊、ホテルや旅館で食事をするなど、非日常を経験して頂くなどの企画が好評です。なお最近受診者が増えるに伴い高齢者や障害者の受診もあります。スタッフ一同、より細やかな心遣いを心掛け、より親しまれる平成脳ドックセンターを目指し努力して参ります。

平成南町クリニック

平成南町クリニック
院長
玉　田　二　郎

ローズガーデン倉敷に入居されている方々の利便性や訪問診療の将来性を見据えて平成 23 年１月５日にローズガーデン倉敷の１階に、全仁会　平成南町クリニックが開院しました。標榜科目は内科・呼吸器科ですが、現在下記の内容で診療しています。

診療時間　午前診療開始８：30　受付終了 12：00（第 1、3、5 土曜日診療なし）平日午後診療開始 13：30　受付終了 17：00　木曜日の午後には一般診療はせず、在宅訪問診療とピースガーデン倉敷の診療（特養に入所されている方やショートステイを利用されていて平成南町クリニック医師が主治医になっている方が対象）を行います。月・火・水・金曜日の 13：30 ～ 14：30 はグランドガーデン南町に入居されている方々の訪問診療や予約外で来院される方の診療に当てます。ローズガーデン倉敷やグランドガーデン南町に入居されている方への要請時の往診もおこなっています。

病院とは異なる良さとしては、こじんまりしたアットホームな雰囲気・どんな症状にも対応する（皮膚疾患・排尿に関する相談などは多い）・多科に亘る治療薬の総合的判断を行うなどがあります。常勤の医師１人・看護師１人・医事職員１人ですので、検体搬送に手が回らない時もあり、ローズガーデン倉敷の職員の方々に応援をお願いすることもあります。また、私が診療に従事できない時には、高尾公子副理事長の診療になります。

個人的に重点的に取り組んで行きたい点は、抗菌薬の適正使用（できるだけ狭域生剤を使用）・身体診察による疾患の絞り込み・下腿・足の浮腫の鑑別・糖質制限食による糖尿病治療・高山病予防などの旅行医学・エピペン処方などのアレルギー対策、怪我・熱傷の湿潤療法（ネット検索にて湿潤療法希望で受診の方が多い）などです。

電子カルテ・医事システムは倉敷平成病院と共通ですが、クリニック内検査（心電図・肺機能・検尿・インフルエンザウィルス検査などの迅速検査）は検査科システムとは共通にできていません。将来的にはこれらの検査も病院と共通システムとし、携帯端末機器による訪問診療・配置医診療の電子カルテ化を進めたいと考えています。

看護部門

看護部
副院長（看護担当）
有　光　育　代

倉敷平成病院創立 25 周年、おめでとうございます。

私は、平成 21 年４月１日付で看護部長を拝命し、着任させていただきました。着任時の鬼手回春に「全仁会の看護の質向上に貢献できるように職責を果たすべく努力をしてまいります」と書かせていただきました。

病院は、平成 20 年 12 月に日本病院機能評価 Vr.5 を受審、平成 21 年５月に認定病院となりました。質の指標には構造、過程、評価があり、今後の受審では過程と評価が問われていくと考え、全仁会理念の下に看護部の理念「専門職業人として資質の向上を図り、安全・安心な看護を提供し、地域の保健、医療、福祉に貢献します」を掲げました。看護部の理念を達成していくために、看護部の組織を円滑に動かすツールの一つである看護部委員会を設置し委員会活動を通してスタッフ個々の自己成長を図るとともに、看護の質向上に取組むため計画、実践、評価の PDCA サイクルで各委員会活動を進めています。

平成 21 年度に開校した山陽学園大学看護学部から３年次の老年看護学臨地実習の受入れ依頼がありました。看護学生の臨地実習は岡山県立倉敷中央高校、倉敷翠松高校の２校を受入れていましたが、学習課程の違う看護大学生の臨地実習は、看護の活性を図る要因の一つとなり、看護師確保にも繋げたいと考え、平成 23 年度から受入れております。看護大学生の臨地実習を受入れるにあたり、実習指導者講習会研修を受講しているスタッフが一人もいないことが判明しました。そこで、実習が始まる平成 23 年度に各階から推薦されたスタッフ３名全員が受講できるようにしました。スタッフ数が充足されていない中で看護師長の協力もあり、平成 24 年度は２名、25 年度は１名と継続して、実習指導者講習会を受講しています。実習指導者講習会受講はスタッフの自己成長を図る動機付けとなり、看護学生が少しでも達成感がもてる実習となるように努力しています。

平成 25 年７月に、当院で初の認定看護師が糖尿病看護分野で誕生しました。認定看護師は特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を有することが認められ、認定審査の試験に合格した者のことで、５年毎に更新試験があります。当院の機能を考慮すると、今後は認知症、脳卒中リハビリテーション、摂食嚥下、皮膚排泄の看護分野に認定看護師の取得を目指していきたいと思います。

平成 25 年 10 月に中国人看護師留学生４名を受入れました。留学生は、日本の看護師免許を取得するために午前中は日本語学校に通学し、午後は３階東西病棟・４階東西病棟で看護補助業務を行っています。彼らの素直で謙虚に学ぶ姿勢は、職員に良い影響を与えています。

12 月に入り、電子カルテの稼動が始まりました。IT の導入が業務の改善につながるようにしていくことが、職員の働きやすい職場作りになると考えています。

平成 26 年度の診療報酬改定では、2025 年を見据えた議論が行われています。課題は多くありますが、医療・介護を取巻く情勢を把握しながら全仁会理念の下の看護部の理念を達成できるように、看護部職員一同努力してまいります。

看護部
看護部長
武　森　三枝子

全仁会グループは、病院を開院して四半世紀、「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」という理念の下、地域との絆を深めながら成長しています。その中で、看護部は直接患者にサービスを提供するフロントラインとして大切な役割を担っています。

高齢化や医療費の抑制という社会情勢の中で、患者本位の医療を実践する為に、求められるものも年々大きくなってきました。特に私たち看護師に大きく影響を与えたのは在院日数の短縮です。平成 13 年度の在院日数は優に 30 日を超えていましたが、亜急性期病床開設や回復期リハビリテーション病棟増床などの戦略的展開に加え、皆の努力によって今や 14 日を切ろうとしています。病棟では病床回転率が上がり、師長たちのベッドコントロールに費やす時間が増えました。平成 19 年には７：１看護を導入していますが、人員の確保は困難で、看護の質の維持向上に日々悩みながら取り組んでいるところです。在院日数の短縮は大きな負荷となりましたが、同時に私たちが成長する機会となり、７：１看護体制による新しい取り組みも、少しずつではありますが軌道に乗ってきています。体制維持に必要な看護必要度に関して、評価者の院内指導者研修を 45 名が受講し、標準化された尺度で患者像を把握することが可能になりました。看護必要度の評価については厳格化される方向性が打ち出されており、今後は患者指導や意思決定支援などへの積極的な関わりが必要となってくると考えています。また、実習指導者の育成も図れ、３校から年間 100 名を超える看護学生の実習を受け入れるようになりました。指導の場面を通して私たち自身が成長し、看護師確保という面でも大きなルートとなっています。症度別看護方式（PPC 方式）をとっている為、認定看護師などのスペシャリスト育成の難しさはありますが、病院のサポートを受け平成 25 年には糖尿病看護認定看護師が誕生しました。褥瘡対策チーム･栄養管理チーム･感染制御チームなどに加え、糖尿病ケアに関してもチームとしての活動に看護の力がますます発揮されることを期待しています。看護は人格をもった個を対象にしており、複雑で不確実、成果を形として実感することが難しい仕事です。電子カルテの導入などでデータを得ることが以前より容易になることが考えられます。今後はそれらのデータを活用することで、自分たちの仕事をきちんと理解し、看護という仕事に誇りが持てるようにしていきたいと考えています。

平成 26 年の新年の挨拶で、代表は「和」、理事長は「挑戦」について述べられました。看護部の中だけではなく他部署とも「和」をもって上手に協働し「挑戦」の姿勢で看護が力をつけ、院内外にアピールできるよう努力していきたいと思います。皆様のご指導とご協力を宜しくお願いいたします。

看護部
教育担当師長
小　山　恵美子

創立から 25 年間の看護部での教育を振り返ると、ここ数年で病院の成熟とともに看護部の教育内容もずいぶん充実してきました。これまでは院内での勉強会やセミナー、岡山県看護協会主催の研修が中心でした。しかし、厚生労働省からの「新人看護職員研修ガイドライン」や「成長分野人材育成支援事業」を活用し、平成 23 年度には採血や救急蘇生などの訓練モデルやプロジェクターやカメラなどの研修機器の整備、平成 25 年度には院外講師による若手看護師育成支援研修を実施しました。また看護師全員が個別に医療、看護の自己学習できるよう e- ラーニングを導入しました。看護実習校も３校と増え、研修を終えた実習指導者が、各学校の先生方と共に学生指導にあたるようになりました。看護研究においては、院内研究発表大会だけでなく、専門分野での学会発表も増え、また学会認定看護師、日本看護協会認定看護師など個々の看護の専門領域を高める看護師も増えてきました。

このように少しずつ看護部の教育体制は整いつつありますが、当院の理念、「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応」できる質の高い看護力を身に付けるには課題はたくさん残っています。当院は急性期看護だけでなく回復期、施設、在宅までと幅広い分野で専門性の高い看護が求められます。また、疾患だけでなく超高齢化や認知症症状を有する患者さんにも対応できる能力も求められます。そのためには、個々の看護・介護力を高め、他職種と協力しながら当院の理念が達成でき、患者さんやご家族に喜んで頂けるような看護師・介護士の育成が必要と思

っています。教育から共育へ、共に成長できるよう、どうか今後ともご協力をお願いいたします。

外来
師長
立　尾　且　子

倉敷平成病院開設 25 周年が経過し、外来も着実に充実・成長をしてきています。

現在 23 診療科を擁し、倉敷生活習慣病センター、総合美容センター、認知症疾患医療センターが設置され、一人の患者さんへの診療が各科の連携のもと全人的に取り組まれています。なかでも、高尾武男代表が開設当初から取り組まれていた認知症診療の功績が認められ、平成 24 年に岡山県から認知症疾患医療センターとして、指定されました。より重要な使命をもって地域に貢献する立場となっています。

倉敷生活習慣病センターには、平成 25 年に外来看護師から院内初となる糖尿病看護認定看護師が誕生し、青山雅診療部長の指導のもと糖尿病に関する治療・看護について、外来・病棟、全仁会グループ横断的に各部署の看護師と連携を行い、知識・技術の向上を図るため活動を開始しました。外来患者数も医師団の充実に伴い増加し、１日平均 609.6 人（12 月度実績）となり、700 名を超える日もあります。平成 25 年 12 月から電子カルテも導入され、まだ慣れない状況の中で、外来看護師は診療体制に不備や過誤がないよう、また待ち時間の延長や人で溢れている環境が患者さんの体調の悪化に繋がらないように、工夫・配慮につとめています。平成 26 年１月からは受付時間の変更を行います。患者数の増加に伴い初診や予約外の患者さんに、早めに来院を促すものです。当院の理念として、来院された患者さんをお断りすることはしていません。しかしより適切に診療を受けていただき、安全・安心と納得・満足を得て頂けるよう努めています。

外来受診時、患者さんから「平成病院にくるとほっとするわ」等のうれしい言葉をいただきます。これからも外来看護職員一同『わかりやすい・やさしい医療・看護の提供』を意識して取り組み、関連部署との連携を密に取りながらより信頼される外来を目指していく所存です。今後ともよろしくお願いします。

看護部
救急　副主任（外来）
本　田　俊　江

当院の救急は、篠山英道救急部長を中心とし、全仁会理念である「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」をもとに日々業務にあたっています。

経験を重ねた医師・看護師・各分野のスタッフが 24 時間、365 日体制で対応しています。この 10 年で医師も増え、専門性の高い医療ができ、受け入れ可能な患者も増えました。救急車搬入件数は、平成 10 年度平均 47 件／月から、平成 15 年度は平均 105 件／月、平成 25 年度には平均 162 件／月（１～ 10 月）、多い月では 180 件を超え、年々増加傾向にあります。

平成 25 年 12 月にはグランドガーデン南町が新設され、全仁会グループとして地域の方々のさまざまなニーズに対応できる体制が徐々に確立し、病院はその中心部分として、しっかり根付いてきていると思います。

今後持続する高齢化の社会状況に対応する上で地域住民にとっても生活に近い存在であることは何より安心感を持っていただけると思います。

救急を必要とする方が増える中、安全・安心を第一にした医療や看護を提供できるよう、各専門スタッフとの協力連携体制を密にとり、よりよい救急外来となるように努めていきたいと思います。救急看護で必要とされる、適確かつ迅速な判断力と行動力・看護の面での専門性を高め、看護の質の向上が図れるようスタッフ一同頑張っていきたいと思います。

手術・中央材料室
主任
那　須　裕　美

当院手術室では現在、整形外科、脳外科、耳鼻咽喉科、眼科、形成外科、美容外科、婦人科と多種多様の手術を行っています。全身麻酔、局所麻酔合わせて年間 650 件と 10 年前に比べ約３倍と件数が増加しています。手術室で求められる業務は、手術

を受ける患者さんに対して手術を円滑かつ安全に実施することです。そのために私たちは手術中の集中力は勿論、高度な技術、知識も身につけなければなりません。また、非現実的な手術室という空間の中で、不安を抱えている患者さんは少なくありません。入室から麻酔導入までの短い間でも患者さんと密に関わり、少しでも不安を取り除くように声かけや音楽によるリラクゼーションを図っています。特に局所麻酔の患者さんに対しては、意識下での手術になるため、傍に付き添い疼痛の有無など、常に声をかけるようにしています。予定手術だけではなく、脳出血などの開頭手術、開放骨折、切断指の再接着などの緊急手術にも対応しています。スタッフ全員がいついかなる時でも、緊急手術に対応出来るよう同一レベルの知識、技術を備え迅速に行動できるようにしています。

一方、中央材料室における主な業務は、滅菌と各部門への衛生材料の供給です。感染を防止する上で、物品の十分な在庫の保管、管理も重要な役割の一つです。時代に即したリスク管理をも意識した安全対策の基で確実な業務をしなければいけないと考えています。

今後はスタッフ全員が専門知識を豊富に持ち適切な状況判断が行え、直接介助、間接介助とも迅速な行動がとれるよう努めていきたいと思います。

2階病棟　師長
看護副部長（兼）

榊　原　一二三

2階病棟は当初脳神経外科を主体とした急性期病棟からスタートし、現在は ICU・HCU を有し 50 床の外科系急性期病棟を担っています。7対1、3人夜勤の看護体制で昼夜を問わず救急入院の受け入れをしています。外科系とはいえ、神経内科、呼吸器科、消化器科等々の緊急入院もあり、当院で受け入れられるあらゆる疾病の治療看護が求められています。近年では生活習慣病は元より、認知症やせん妄を伴う患者が更に多くなりました。入院患者の年齢は1歳の小児から 100 歳以上の高齢者までおられます。骨折の患者であっても糖尿病・肺炎・褥瘡・認知症・消化器症状などあれば主治医だけでなく該当科医師の協力を得てチームで治療を行うのは当然になっています。看護も幅広い知識と技術、対応能力が求められていると感じますが、経験年数も少なく未熟でスーパーナースとは程遠い現状を諸先生方には理解してもらい、症例を通して勉強会やカンファレンス、ベッドサイドでは細やかな直接指導をしていただいています。全ての疾患、患者に対応できるスーパーナースになりたいと皆一生懸命がんばっていますが個々の力には限界を感じます。それでも1日 10 人の急な入院を受けるには 10 人の急な転棟退院をしなければならない事もあります。それは皆で協力し合い、助け合っているからこそ出来、若さ＆チームパワー全開にすれば…と可能性も楽しみなメンバーです。今後、在院日数の短縮、早期回復期リハビリ病棟への転棟等の目標を達成していくには看護・介護・コメディカルのチームワークが重要となるでしょう。皆が笑顔で楽しく仕事ができ、少々忙しくても、大変でも、満足感や充実感が得られ、患者や家族に「ありがとう」をたくさん言ってもらえる病棟にしていきたいと思っています。そこで、フィッシュ哲学を学んだメンバーを中心に、毎朝病棟ミーティングの後に Dr や学生、誰にでも声をかけて手を繋ぎ心が一つになるように「今日も1日みんなでがんばろー」という内容で掛け声をしています。もちろん、新理事長も喜んで（？）参加してくださいます。

3階西病棟
師長

岡　本　なおみ

3階西病棟は内科系の急性期病棟で、38 床に神経内科・循環器科・呼吸器科・消化器科・整形外科（保存的治療対象者）・耳鼻咽喉科・形成外科・糖尿病／代謝内科と幅広い科の患者さまが入院されてきます。また慢性期や終末期の患者さまも多く、看護師はたくさんの知識を要求されます。私は平成 24 年 10 月に3西病棟へ配属となりましたが、まず思ったことは認知症の患者さまが多いということと、働いているスタッフがとても認知症の方にやさしく接しているということでした。出来る限り患者さまの行動を制限せず、コールマットやセンサーマットで対応したり、せん妄の患者さまに付き合って病棟内を何周も歩き付き添い見守ったり、認知症の患者さまの特徴を理解しようとしている姿を見て、私が勉強させられました。認知症疾患医療センター開設にあたり、定期的に勉強会が開催され、そこで学んだことを看護・介護に役立てることができていると感じます。

若いスタッフも多く、明るく元気に患者さまにかかわっていますが、知識不足に対して時にはDrからご指導していただくこともあり、ありがたく思います。昨年度より後輩の育成や継続性のある看護が展開できることを目標に機能別看護からチームナーシングを導入し、さらに主任や副主任を中心に、各科の特徴的な疾患や処置について勉強会の計画を立て、知識の向上を図ったり、毎日ミニカンファレンスを開催し看護の質の向上にも取り組んで、病棟が少しでもレベルアップしていけるよう頑張っています。

みんな時にはくじけそうになることもありますが、患者さまの笑顔と良い看護・介護が提供できたときの達成感にやる気をもらい、「また頑張るぞ!」と毎日一歩を踏み出しています。

今後も３西病棟一丸となって精進してまいりたいと思いますのでよろしくご指導お願いします。

３階東病棟
師長

加　納　由　美

３階東病棟は脳神経内科疾患の慢性期病棟としてスタートしたそうです。これまでの時代の変化や医療情勢の変化に伴い、現在は病床数42床（一般病床27床・亜急性期病床15床）の病棟編成で運用しています。入院患者の多くは、脳血管疾患・骨折関連疾患・認知症・呼吸器疾患・内臓疾患などの急性期から慢性期の方が多く、時には在宅から褥瘡処置など外科系の処置の方まで様々な疾患に対応した看護を提供しています。

３階東病棟の特徴である亜急性期病床は、急性期治療が終了し、リハビリを行うと共に、在宅復帰支援や退院調整を主とした院内唯一の病床です。亜急性期病床を有効に活用出来るよう、入院基本料や在院日数を日々考えながら、スタッフ一丸となって取り組んでいます。退院調整をするにあたり、早期離床や在宅指導に取り組んでいますが、医師や看護師だけでは出来ない事が多くあるので、医療相談員・リハビリスタッフ･薬剤師･栄養士と連携を密に図り、患者さま中心で調整が出来るよう頑張っています。

看護職員は、新卒者から５年目までの看護師が６割を占めており経験不足や知識不足などまだまだ沢山あるため、他職種の方に迷惑をかける事があると思いますが、先輩看護師も指導について試行錯誤しながら頑張り、みんなそれぞれに努力してレベルアップを心がけています。

今後は、平成26年４月に診療報酬の改定が予定されており、亜急性期病床の運用が検討されています。しかし、３階東病棟に求められる役割は、急性期治療が終わり、リハビリや退院調整を要する患者の受け入れを継続する必要があると考えます。現在、行っている看護が継続的に取り組めるよう日々研鑽に努めて行きたいです。また、忙しい中で業務に振り回される事なく、スタッフ一人一人が目標を高く持ち、質の高い看護・介護が提供出来る病棟を目指したいです。これからも、３階東病棟を宜しくお願いします。

４階西病棟
師長

奥　村　美智子

当院に就職し10年間３東病棟で勤務しました。その間、回復期病棟について自分からすすんで内容を知ろうとしていませんでした。

しかし、平成24年10月に回復期リハビリ病棟に配属になりました。結果を残しながら自分はやっていけるのか不安でしたが、毎日の業務についていくのが精一杯で何もしないまま１年が経過してしまったように思います。一般病棟に比べ看護師が少なく、その反面リハビリスタッフが多いのが特徴です。リハビリを重点的にしているため、患者さんのところに何度も足を運ぶことでやっと会えるという病棟です。

今回の記念誌への寄稿にあたり、あらためて「回復期リハビリ病棟とは」について考えました。急性期治療を終了し、身体機能・能力の低下から元の生活に戻ることが困難な場合、障害を持った人の運動機能を最大限に生かし、自分らしく生きるために、回復期で集中的にリハビリを受け、日常生活動作の能力向上・寝たきり予防・家庭復帰を目指し、日々患者さんとかかわりスムーズに退院できることを目標にしている病棟です。リハビリだけではなく、心のケア・家族とのかかわりの比重も高くなっています。そこで、働いているスタッフのチームワークで達成できるかどうか左右されてくると思います。チーム連携をとり、統一をはかるため、リハビリ回診・カンファレンス・退院前訪問・退院調整など患者さんを中心にした活動を日々めまぐるしく繰り広げています。時として方向性・ゴールのくい違いが起こ

ることもありますが、家族を含め話し合いで解決しています。

今後は、診療報酬の改定・認知症患者の増加などで、厳しい状況となると思いますが、医師・一般病棟スタッフ･地域連携室長･回復期スタッフで協力し、事故のない元気で明るい回復期リハビリ病棟になれるよう頑張っていきたいと思います。

４階東病棟
師長
吉　岡　文　美

４階東病棟は、開院当初は脳血管疾患を主とした一般病棟として機能していましたが、平成４年に介護力強化病棟となり、初めて病棟に介護福祉士が配属になりました。当初は、今では当たり前となっている看護・介護の役割分担、チーム医療に苦慮しました。そして、平成 12 年には病棟再編成が行われ、再び一般病棟へと機能が変わり、更に、平成 15 年には回復期リハビリ病棟に移行しました。その後、現在に至るまでの 10 年間は回復期リハビリ病棟として機能しています。現在、病床数は 46 床で、看護体制 13：１、介護体制 30：１です。

リハビリ看護・介護の質の評価として、改善率や在宅率が求められるため、重症患者が少しでも改善して在宅に戻れるよう、スタッフ個々のスキルアップを目指し、更に、他職種と連携を図り、チーム医療を行っています。スキルアップの１つとして、平成 25 年度は、認知症患者に対する理解を深めるために、勉強会やカンファレンスを積極的に行いました。また、患者様が在宅療養を継続できるよう地域との連携を図り、現在、情報交換がより適切にできるよう情報提供の方法を検討しています。

平成 26 年度診療報酬改定では、更に回復期リハビリ病棟の質を問われるようになるため、日々のルーチン化された業務に追われることなく、より良いリハビリ看護・介護を提供し、他職種とのチーム医療を図りながら、「介護病棟」ではなく、「リハビリ病棟」としての機能を今以上に発揮したいと思います。そのためにも、スタッフそれぞれがモチベーションを向上させ、活き活きと働ける職場作りに取り組んで行きたいと考えています。

医療技術部門

リハビリテーション部

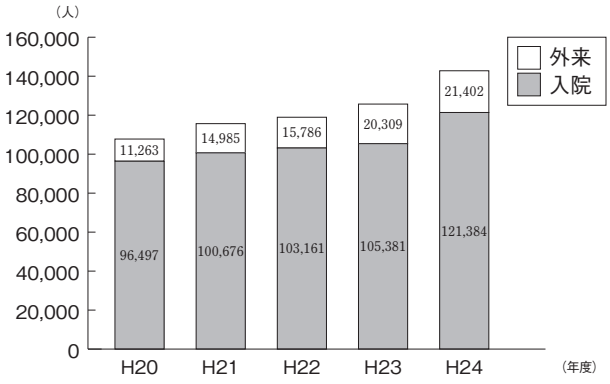
リハビリセンター副センター長
PT 科
課長
津　田　陽一郎

はじめに

現在、全仁会グループ全体では医療保険部門 35 名、介護保険部門 16 名、合計 51 名の理学療法士が配置され、県下でも５本の指に入るほどの大所帯となっております。医療保険部門（病院）においては急性期、回復期リハ病棟（４階東西病棟）、外来の４セクションに担当を分け管理職（リーダー）を配置し、リーダー管理の下で各セクションがそれぞれに機能を発揮してきております。また、理学療法科は急性期、回復期ともに 365 日勤務体制とし、早期から継ぎ目のない十分な理学療法の提供が可能となっています。

理学療法科実績

平成 20 年からの５年間において、年間総単位数は入院 25%、外来９%、病院全体では 32% 向上しています。365 日体制、スポーツ外来による増患、スタッフの増員等の要因が挙げられますが、各々スタッフが平均 18 単位／日という高い目標を達成すべく努力してくれた結果であり、感謝しております。



実績グラフ（PT）

おわりに

今後、若手の理学療法士が増員されている中、ど

のように知識・技術をいち早く向上させるか、理学療法士としての質の確保が大きな課題となります。理学療法科では科内での勉強会に加え、若手を中心とした勉強会を設けること、さらに各セクション内での検討会、また昨年よりプリセプター制を導入しています。加えて、各病棟におけるカンファレンス、病棟リハ回診、整形外科カンファ、整形外科的選択的痙性コントロール手術とのタイアップ、スポーツカンファ等、現場において多くの医師と関わり、手厚いご指導いただいていることそのものが大きな経験となっております。医師、病棟スタッフチームの一員として期待以上の結果を残し患者に貢献できる、そのような理学療法士を育成してゆくよう努力してゆく所存です。今後とも職員皆様のご指導宜しくお願い致します。

OT 科
課長
新　崎　佐江子

はじめに

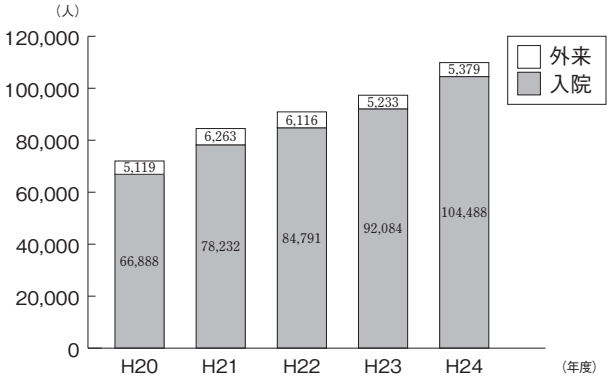
現在、作業療法科も 37 名（病院 27 名・病院通所１名・老健入所２名・老健通所４名・訪問リハビリ２名･社会福祉法人１名）と大所帯になりましたが、昭和 63 年１月に高尾病院として開院し、同年４月は作業療法士２名でスタートしたと聞いています。

私が平成 12 年に当院に入職してからも山あり谷あり多くの方々に支えられながらの道のりでしたが開院当初はおそらくそれをはるかに上回るご苦労があった事と、今日の私たちがあるのもその当時の先輩方のおかげと感謝いたします。

作業療法科実績

実績は平成 20 年から 24 年の５年間の実施単位数の推移で示しています。

入院はスタッフ数の増員によりセラピスト１人当たりの担当患者数が減少し個別リハビリ実施以外の業務が分散され、セラピスト１人当たりの実施単位数が増加、順調に実績を伸ばすことができ、５年間での成長率は 50% を超えています。外来に関しては診療報酬の改定により標準算定日数以降の実施単位数が制限され、外来リハビリより介護保険下でのリハビリへの移行が勧められていることから大きく減少すると予測されましたが、上肢の骨折、肩関節の炎症など運動器リハビリの処方数が伸びていることもあり、現状を維持しています。



実績グラフ（OT）

おわりに

平成 13 年に回復期リハビリテーション病棟が新設されて以来、病院を中心とした職員の配置を行ってきましたが、平成 26 年４月の診療報酬改定では今以上に急性期、回復期を経て退院後の生活期（維持期）のリハビリは介護保険サービスが担うことになるものと予測されます。今後は病院の外で活躍できる作業療法士を増やしていきたいと思っています。

ST 科
課長
藤　本　憲　正

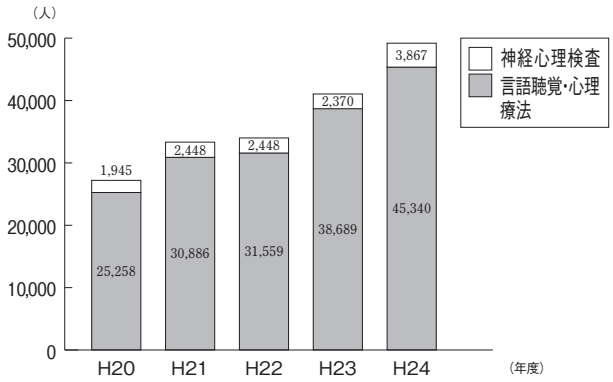
はじめに

創立 25 周年誠におめでとうございます。15 周年であった 10 年前は言語聴覚士７名、臨床心理士１名の計８名であったのが、現在では、言語聴覚士 15 名、臨床心理士６名の計 21 名となりました。全仁会のご理解があっての職員数と感謝しています。

言語聴覚科実績

業績も年度ごとに事業計画を立て始めたことによって、大きく低下する事はなく、経時的に見れば、右肩上がりの業績になっていると考えます。「ST と CP は収益の上がらない職種である」といわれた一昔前から比べると、その面では、少し胸を張って「がんばってます」と言えそうです。その功績は、当然現場で働く ST・CP の職員の力です。彼らが患者さんの為に頑張った結果が収益に結びついていると考えます。現場の介入以外でも、学会発表や論文投稿

が増えたこと、何人かは賞をいただいていること…。質的にも量的にも成長していると思います。みんなのおかげで今の言語聴覚科があるということをこの場を借りて感謝し、お礼を申し上げます。これからも、常にチャレンジしながら全仁会の中の一員として、引き続き貢献して行きたいと思います。



実績グラフ（ST）

おわりに

今後、結果の見えやすいリハサービスおよび介護保険下の言語聴覚士のニーズに対応するマンパワーの充実が必要と思われます。そのために新人教育はもちろんのこと言語聴覚科全体の質的向上を更に図って行きたいと考えています。

訪問リハビリ
管理者　科長

荻　野　誉　子

当訪問リハビリは、平成 20 年に開設され、５年が経過いたしました。訪問リハビリスタッフもこの５年間で増員され、利用者数も年々増加しています。ここ１、２年は、訪問リハビリの依頼も増えており、ニーズの高さを実感しています。介護保険スタート以降、介護保険サービスにおいてリハビリは重要視されてきてはいますが、全国的に訪問リハビリは他のサービスに比べて普及していない現状があります。当訪問リハビリでも、ニーズに対して人員が追いついていない状況で、必要な方に必要なサービスが提供できていないことに歯がゆさも感じています。必要性が高い反面、量的にも質的にも課題の多い分野と思います。

これから超高齢化社会を迎えるにあたり、今後の地域包括ケアの実現に向けて、訪問リハビリが担う役割は大変重要であると考えています。地域での生活を支える重要なサービスの一つとして、質の高い『訪問リハセラピスト』となること、質の高い訪問リハ事業所を確立していくことが急務となっていると思います。セラピストとしての専門的知識・技術だけでなく、より高い医学的知識から生活機能、多職種との連携、地域資源等など、多方向からアセスメントできる能力、多職種とコミュニケーションを図っていく能力が必要だと思います。まだまだ成長段階の訪問リハビリですが、地域に貢献できる、信頼される、なくてはならない事業所となれるよう、スタッフ一同がんばっていきたいと思います。

放射線部

放射線部
課長

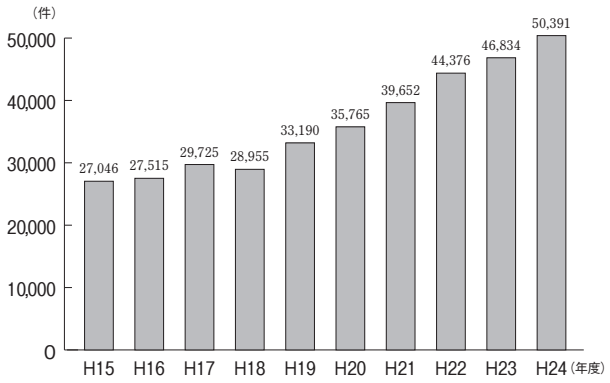
嶋　津　浩　二

画像診断機器は医療行為の高度化・効率化に貢献し日々進化を続けています。私たち、放射線技師の業務内容も開院当時と比べますと大きく様変わりしました。病院の成長と医療技術の進歩に伴い、画像検査部門に寄せられる需要は、量的に増加し質的には高度化しています。

放射線業務の検査件数は、過去 10 年間では約２倍になり、それに伴い技師の数は、開院当初の３名から 12 名まで増員されました。また検査機器類は、継続して質の高い医療提供が出来る様に幾度となく更新が行われ、現在では３テスラ MRI 装置をはじめとした時代相応の機器で構成されており、平成 26 年１月には最新型 80 列Ｘ線 CT 装置も稼働予定です。

平成 25 年春、念願でした放射線科専門医の塚本和充先生が放射線科部長として着任されました。専門医の画像所見は、病状の診断や治療方針において大変重要であります。撮影された画像に対して即座に所見が付けられ、主治医に報告される体制が確立されました。また、技師に対しては、撮影技術や撮影方法の面で、適時に指導して頂けるということで質の高い画像が提供出来るようになったと思います。

今後、私たち放射線技師は、各々が業務の専門担当を定めた上で自己研鑽し、部としてのチーム総合



放射線検査件数推移（件／年）

力を上げることが重要であり、全仁会の発展と患者さまへのサービス向上に貢献できるのではないかと考えます。

この 25 年間の全仁会の飛躍は、基本理念である「患者本位の医療」を推進してきた結果であると思います。これからもこの理念を念頭に置き、スタッフ一丸となって、なお一層の努力をしていく所存です。

臨床検査部

臨床検査部
課長
森　山　研　介

全仁会創立 25 周年おめでとうございます。常に発展を遂げ、地域密着型病院として定着した当院を一職員として誇りに想います。一貫したポリシーの推進に感服する次第です。

さて、前回記念誌発刊から 10 年の歳月が流れたわけですが、検査部においてこの歳月は幾つものターニングポイントをもった 10 年間でした。大まかに振り返ってみたいと思います。

平成 15 年度は検体・生理検査ともに絶対件数の大幅な UP がありました。そのため、生化学自動分析機を２台に増設、免疫自動分析機等のグレードアップを図り、また生理検査担当技師を増員して受け入れ体制の強化を図りました。

平成 16 年度は診療報酬改定で検体検査点数の削減があり、その対策としてコストの削減に奔走しました。また、救急患者受け入れ強化の一環として検査部の当直体制を上申し、９月より開始しました。現在の社会医療法人取得の一役を買ったのではないかと考えています。

平成 17 ～ 19 年度は収支的には安定期でしたが、コスト削減に追われる日々と、スタッフの育成が中心の時期でした。オーダリングシステムの導入に当たっては当院も新しい医療システムの構築に着手し、世間に肩を並べ始めたのだと内心喜んでいました。導入準備においては相当の労力が必要でしたが、オーダリングシステムを最大限に利用する改善策をスタッフ全員で提案し合い、効率的運営を第一目標に掲げて邁進していた時期でもありました。

平成 20 年度頃から診療報酬は（管理）加算を新設･強化し、院内検体検査の実施に重きが置かれるようになりました。これを背景に平成 21 年度は老朽化が始まる機器の大半を新規更新する案を掲げ、９月より新検体検査システムが稼働しました。７月からは DPC 施行があり、病院の持ち出しを抑える必要があります。コストパフォーマンスが優れている新システムは病院には負担をかけず、更にスタッフには心機一転する良いチャンスであったと思います。

平成 22 ～ 24 年度はドックに人員派遣を行いました。また、大きな人員変動を伴いましたが、診療体制が充実し検査件数は飛躍的に伸びた時期です。

そして､平成 25 年度｡ 生理機能検査室が移転され、人員も充足して新たな検査部が始動しました。秋からは電子カルテ導入準備に追われましたが、生理検査機器更新とシステム導入・検体検査システムの新調がなされ、検査部の新たな幕開けのために全員が労力を惜しみませんでした。

このように、検査部はシステムやモダリティーのスペックと質の向上に傾注してきました。結果的に 10 年前の 1.9 倍強の実績を収めましたが、これらを処理する体制の整備が功を奏しました。しかし、医療技術の進歩に歯止めはかかりません。機器充実も大切ですが、「知識と技術の研鑽を惜しむことなく診療支援を確実に実施し、信頼を得ていくことは自明の理である」をモットーに前進していきたいと思います。

薬剤部

薬剤部
部長
市　川　大　介

倉敷平成病院の発展とともに、この 25 年間、医

薬学の目覚ましい進歩と医療環境の変化のなかで、病院薬剤部の位置付けも大きく変わりました。病院薬剤部の主業務は調剤等を中心とした裏方的なものから、病棟でのチーム医療に積極的に関わる内容へと変貌し、病院薬剤師に求められる役割も大きく変わりました。当院では、平成４年に施設基準を取得して薬剤管理指導業務を開始しました。平成 13 年からは、外来患者への処方を全面的に院外処方とし、病棟活動を中心とした薬剤部業務を推進してきました。病棟業務をさらに進化させ、平成 24 年の診療報酬改訂からは週 20 時間以上の病棟薬剤師業務を展開し、薬剤師が担当病棟に滞在できる時間を確保できるよう業務運用を見直しました。その一方で、調剤業務についても平成 20 年から調剤支援システムを導入して調剤監査機能を強化し、調剤機器とのネットワーク連携を整備することで、人為的ミスを減少させて医療安全を促進し、合わせて業務効率の向上を図りました。また、更に医療安全を推進するために、平成 24 年からは薬剤師による経中心静脈高カロリー輸液の無菌調製も本格的に開始しました。

社会的な変化として、大学薬学教育が平成 18 年から６年制に移行し、平成 24 年に６年制課程を修了した薬剤師が誕生しました。これは、薬剤師の専門職としての役割に高い期待が寄せられていることを示唆しています。次々と登場する新薬やジェネリック医薬品について、また、年々解明される新しいエビデンスに基づいた診療ガイドラインの改訂など、医療環境も常に進歩しています。最新かつ的確な医薬品情報を理解して情報提供することで医療安全の確保を図り、個々の患者に最適な薬物療法を提供するために、常に変化する医療環境とチーム医療のなかで、薬の専門家として責任ある立場を維持する役割が強く求められています。今後、学会発表等を推進して薬剤師個々の資質向上を図ることや、専門薬剤師・認定薬剤師等を養成することは、病院薬剤部のレベルアップに欠かせない重要課題として取り組みたいと考えています。これからも、チーム医療の一員として、医師・看護師等の他職種と密接な連携を図り、質の高い安心安全な医療の提供に貢献できるように取り組みたいと考えています。

栄養科

栄養科
主任
小　野　詠　子

この 10 年の間に管理栄養士をとりまく加算状況は大きく変化しました。

入院患者様に対しては、後期高齢者退院時栄養・食事指導加算をきっかけに、平成 18 年には栄養管理実施加算が始まり、管理栄養士が患者様一人ひとりに対し、年齢、性別、状態に合わせた食事の提供、適切な栄養管理、また退院後の食生活のサポートなど、栄養管理計画に基づいて患者様のリスク管理をきちんと行うことが求められるようになりました。平成 22 年に栄養管理実施加算は入院基本料に包括されましたが、NST（栄養サポートチーム）加算の算定を開始しました。当院では平成 16 年に当時の栄養科長であった田中理香医師のもと NST を立ち上げ、静脈経腸栄養学会の「NST 稼働施設認定」も受けており、加算に必要な研修も管理栄養士は終了、看護師、薬剤師も速やかに受講していただいたため、加算開始にもスムーズに対応することができました。田中医師退職後は高尾聡一郎理事長、現在では前田憲男医師を中心に、看護師、管理栄養士、薬剤師、検査技師、言語聴覚士、介護福祉士でチームとなり、多職種の専門性を生かして栄養サポートを行っています。栄養管理では適切な栄養投与を行うとともに食事摂取量を維持することが大切です。ベットサイドを訪問し患者様と直接話をすること、きびしい意見にもできるかぎり速やかに対応すること、季節の食材を使用し、行事食や新しいメニューにも挑戦することなど、アイサービスとともに安全なのはもちろん、美味しく食べていただける食事を提供できるよう努力していきたいと思います。

外来患者様に対しては、従来の外来栄養指導の件数増加、質の向上に加え平成 20 年には特定保健指導、平成 24 年には糖尿病透析予防指導が始まり、外来患者様の食生活の改善や疾病の予防にも取り組んでいます。

また、法人内の倉敷老健、ドリームガーデン、ピースガーデン、グランドガーデン、ローズガーデン各施設にも管理栄養士が配置されていますので、よりよい食事提供、栄養管理を行うため今以上に連携を強化していきたいと思います。管理栄養士として

日々勉強を重ね、多様なニーズにいち早く対応できる力を身につけるとともに、栄養に関する教育や地域活動にも貢献していきたいと考えています。今後ともよろしくお願いします。

医療福祉相談室

医療福祉相談室
課長
森　　智

ソーシャルワーカーは、全仁会の理念である「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」を実現するために、病院と在宅を結ぶ橋渡しの役割を担ってきました。少子・高齢化の中で医療・介護情勢が目まぐるしく変化しています。急性期病棟では在院日数の短縮が求められ、患者・家族が安心できるスムーズな退院支援の実践が必要となっています。その退院支援においては地域の医療機関やケアマネジャー、介護施設などとの連携は重要です。そういった連携を実践することにより、地域完結型医療への転換が求められています。そのため、ソーシャルワーカーの業務において地域での連携業務の役割も大きくなっています。地域では医療機関・施設などとの連携の場が多く設定され「顔が見える関係づくり」のためにそういった場に参加する機会も増えました。ただ「連携」するだけでは意味がありません。患者・家族が安心できる退院後の生活を支えられるような「連携」を今後も実践していきたいです。

また、平成 24 年３月に認知症疾患医療センターに指定されました。その中で相談窓口として相談支援を行っています。本人、家族や地域の医療機関、地域包括支援センター、居宅支援事業所からの相談を受けています。相談件数も多く、内容も大きな問題を抱えたケースも少なくありません。地域に認知症による多くの問題が眠っていることに驚かされます。本人・家族だけでは生活を支えることが困難なケースもあり、地域全体でどう支えていくかが今後の課題であると考えます。

認知症疾患医療センター、ピースガーデン、グランドガーデンなどの施設が開設されました。法人内においてもソーシャルワーカーの活躍の場も増え、業務の幅も広がっています。また相談内容も多様化、複雑化しています。今後も院内、地域との「連携」を実践し、様々な相談に対応できるように日々努力を重ねていきたいと思います。

事務部門

事務長
家　村　益　生

事務部門では全仁会の理念である「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」に基づき、より質の高い医療サービスが提供できるように取り組んでいます。

事務部門は 13 の部課で構成されており、各診療科および関係部署と密接に連携を取りながら、患者さんへの対応や、診療のサポート、行政機関等への届出や調整、診療報酬請求、診療情報の管理、職員の雇用管理、医療安全、財務・経理、施設・医療機器の管理、病院経営の企画・実行など多岐にわたる業務を担当し、病院機能の中でも重要な役割を担っています。(詳しくは後述の部署紹介をご覧ください)

厚生労働省では 2025 年の地域包括ケアシステムの構築に向けた医療と介護の制度改革の施策が、診療報酬や介護報酬の改定のたびに盛り込まれ、医療・介護の経営において非常に厳しい環境になっています。

しかし、私たちには全仁会の揺るぎない理念があり、急性期医療から介護・在宅や高齢者住宅におよぶ幅広い範囲でのフィールドを持っており、国の政策に十分に対応できる体制があります。事務部門のこれからの課題は、日々変化する医療情勢をいち早くキャッチし、全仁会システムに組み込み、安定した管理運営を行うことにより、患者や利用者の方々へのサービスを向上させ、医師、看護師、介護職、医療技術職等のスタッフと連携・協働し、チームの一員として常に患者や利用者の立場で考え、医療・介護サービスに携わることです。また、グループ内の各部署が有機的に機能できるよう、その役割を事務部門の各部課が認識しながら、法人経営マネジメントの中心的な役割を担い、グループ全体の活性化と地域から信頼され続ける全仁会づくりに貢献することです。

経営企画部　財務課
部長

石　川　英　知

「25 年の節目。もうとまだ」

全仁会グループ創立 25 周年おめでとうございます。この度、その慶びを皆様と共感できることは、感謝の気持で一杯です。これも偏に全仁会グループの 25 年の歴史の重みと、それを築いてこられた高尾武男代表、高尾公子副理事長そして高尾聡一郎理事長をはじめとする皆様方のご指導、ご協力の賜物でございます。

さて私は、平成 25 年４月より財務部長の重責を拝命いたしております。財務部の職務としまして、①財務年度計画（貸借、損益、キャッシュフロー）の作成、管理　②収入・支出に関する会議の企画、運営　③経理課との連携、調整　④金融機関折衝の窓口　⑤財産（不動産）管理の５つを柱としております。そして高尾理事長のリーダーシップのもと、平川院長、家村事務長、武森看護部長他皆様のご協力を仰ぎながら日々全仁会グループの財政政策に貢献できるよう取組んでいます。

以上、簡単ではありますが財務部について説明させて頂きました。今後も皆様方の益々のご指導、ご協力を仰ぎながら、全仁会グループの発展の為に全力を尽くしてまいります。その為にも、表題に記しました、「もう 25 年とまだ 25 年」とのバランス感覚を大切に頑張ってまいります。引続き宜しくお願い申し上げます。

経営企画部　経理課
課長

安　田　寛　行

業務内容

●出納業務
　①現預金等の出納　②窓口収入処理
●資産管理
　①現預金管理　②有価証券等の管理
　③固定資産管理
●予算編成
　①収入計画　②費用計画　③利益計画
　④資金計画
●決算業務
　①年度決算　②月次決算　③予実管理
●資金管理
　①年間資金計画　②月次・日次資金計画
●各種契約業務
　①不動産売買・賃貸借契約　②火災保険契約
　③各種損害賠償保険契約　④リース契約
　⑤その他契約
●各種申告届出
　①税務申告　②法定調書作成・届出
　③償却資産申告書作成・申告
　④その他行政機関への各種届出
●その他
　①税務調査対応　②取引業者価格交渉他
　③スピード、正確性、報告･提案力、経営分析能力、改善提案力の精度向上

今後の展望

社会構造の変化に伴う医療制度改革が進められていくなかで、医療機関を取り巻く経営環境はよりいっそう厳しさが増していくことが予想される。そのような制度変化に柔軟に対応し、更に安定した経営基盤を構築できるよう常に経営者の視点で業務を遂行していかなければならない。

そして、財務諸表を作成するだけの財務会計業務ではなく、法人の意思決定に必要な管理会計業務が遂行できるよう経営管理のスキルを身につけ、法人が求める法人の利益に貢献できる部署になれるよう日々努力、精進していきたい。

経営企画部　医療情報室
部長

秋　田　　望

業務内容

全仁会グループの事業計画、情報システムに係る業務を行う部署で、主な業務内容は、以下の通りです。

１．事業計画策定に係る業務
　（１）事業計画の策定
　（２）事業計画の進捗管理
　（３）上記に係るデータ分析・資料提出
２．情報システムに係る業務
　（１）システム企画立案（システム開発、パッケー

ジの導入）
（2）ベンダー選定・契約
（3）システム導入
（4）システム保守

今後の展望
1．事業計画策定に係る業務
（1）制度環境の変化へのスムーズな対応
2025 年に向け制度環境の大きな変化が想定されるため、制度環境の変化に柔軟に対応できる管理フレームを再構築していきたいと考えています。
（2）中期経営計画の策定
当グループでは単年度事業計画の策定サイクルの定着度は一定の水準に達しており、今後は、中期計画策定サイクルの定着を図っていきたいと考えています。
2．情報システムに係る業務
（1）電子カルテの有効活用
平成 25 年 12 月より電子カルテが稼動。今後の課題は、以下の2点と考えています。
・電子カルテの運用整備を進め、業務プロセス改善による効率化を推進する。
・DWH（電子カルテデータの抽出機能）・医事統計機能の有効活用・共有を推進する。
（2）経営管理システムの整備
・原価管理システムの導入を検討し、損益ベースでの管理精度を上げていきたいと考えています。

人事部
部長（労務担当）
板　谷　尚　昌

人事部
部長（採用担当）
西　坂　孝　治

業務内容
全仁会で働く職員の採用から退職まで関わりを持つ部署で、業務内容は以下のとおりです。
1．人事
①採用計画　②学校訪問　③採用試験
④人事、処遇　⑤勤務状況　⑥入退職手続き
⑦慶弔関係

2．給与
①定期昇給・賞与にかかる資料作成
②給与計算（出勤簿の配布・点検、給与支払立案作成、有給・欠勤実績調査など）
③住民税処理　④生命保険料
⑤退職金計算・立案

3．福利厚生
①健康保険　②雇用保険　③労働保険

4．その他
新人職員研修など

今後の展望
次の項目に充実を図り、全仁会の理念を職員一丸となって推進できるように各部署との連携を保ちながら人事業務を実施し、魅力ある病院・職場づくりに貢献したいと思います。
●適正な人員配置のための計画と実施
●優良な人材確保に向けての人事考課と処遇の調整
●就業規則、給与規定などに基づく適正な執行

秘書・広報室
課長
三　宅　裕　代

主な業務内容
秘書：（理事長・院長・理事）
スケジュール、アポイントの調整・管理
出張手配
来客対応
学会発表資料準備の補助など
広報：記念誌・年報・院内報・院外広報誌の編集・発行
病院ホームページ・ブログ・フェイスブックの管理・運用
掲示物の作成・管理
各施設パンフレットの作成
各種イベントの記録・院外対応

施設内各部署からの依頼作成物
全仁会各種行事（４本柱）の事務局　など

今後の展望

私たちは、グループ内へ向け、トップの理念･目標･方向性を分かりやすく伝える事と、全仁会プライド（全仁会愛）の醸成につとめること。また、グループ外へ、我々の患者本位の医療・理念の浸透、適正な情報発信を行うことを目標としています。

新しい部門が開設するごとに、その部門のパンフレット・ホームページ等の作成にあたるため、全仁会の良いところをみて、知って、それを発信するという全仁会の事を好きにならずにはいられない部署です。どの部署にも負けない程の「全仁会プライド」を持ち、同じ目標・同じ方向で、切磋琢磨することが私たちの部署では必須だと理解しています。ただし、私たちの活動は、職員の皆さんのご理解・ご協力なくしては成立しません。いつも原稿や写真撮影でのお願いばかりですが、快くお引き受けいただいており、大変感謝しています。

秘書業務については、先生や上司、周囲の方々、またお客様へ、笑顔を忘れない対応につとめています。

また業務に当たっては「何の為にこの事を行うのか」という目的意識を持ち、意欲的に取り組むよう努めています。「鬼手回春」「全仁会ニュース」「ブログ倉敷平成病院だより」「倉敷平成病院公式フェイスブック」などが主な業務内容ですが、まさに全仁会と共にある秘書･広報室です。今後も全仁会愛に燃え、業務に励んでまいります。

医療事務部　医事課
科長

高　見　尚　生

業務内容

●受付・外来業務
・来院された方の窓口対応
・新患・再来患者受付
・外来費請求・入院費請求に関する業務
・院外処方発行
・レセプトチェック
・見舞客病室案内
・診察・検査予約に関する業務
・各種診断書・証明書など書類に関する業務
・電話での問い合わせ対応
・各種集計表の作成　など

●入院業務
・入院・退院請求作成
・レセプトチェック
・各種診断書・証明書など書類に関する業務
・各種集計表の作成　など

医事課は来院された方と最初に接するため、病院の顔となる部署です。また、レセプト請求を行っており、病院の収入に関わる重要な部署でもあります。

事務部門の中では専門性を問われ、来院された方や他部署とのコミュニケーション能力、レセプト請求や公的制度・傷病に関する知識、またスピードや正確性なども必要とします。こういった能力・知識を身につけ専門性のある「プロ」として存在を示すことができる部署を目指しています。

医療事務部　DPC 課
課長

三　宅　　徹

主な業務内容

●厚生労働省への提出データ作成
● DPC 調査事務局よりの調査事項対応
● DPC 関連データ分析、医師への情報提供
●診療報酬施設基準管理
●保険請求業務

平成 21 年７月に倉敷平成病院は DPC 対象病院となりました。当課は同年９月に新設され、以降１名で業務を行っております。当初は何をして良いか分からず、まったく手探りの状況で業務を開始しました。自院のデータの分析には“EVE”を使用しています。全国の 600 病院程が使用しているシステムで、ユーザー内での勉強会も盛んに行われています。ユーザー会での情報や、他院の担当の方との交流で徐々に DPC 課としての業務を確立していっています。また DPC の制度下では各病院から提出されたデータの統計が厚生労働省のホームページ上に公開されます。このデータを独自に解析したり、外部の業者が出した統計などを元に院内の医師に情報提供を行っております。その他診療報酬改正への対応や施設基準の届出などを行っております。

今後の展望

診療報酬改正時の制度変更や、毎年の機能評価係数の変更がありますので、病院経営にプラスになる対応をどんどん提案していきたいと思います。また職員の DPC に対する理解度、浸透度が不十分ですので院内報の発行などをしていきたいと思います。

医療事務部　病歴管理室
副主任

栢　野　浩　行

業務内容

●カルテ管理に関すること
　製本、回収、点検、保管、貸出、廃棄、アリバイ管理、病名コーディング、退院時要約の未記入数管理　等
●その他医療記録の管理に関すること
　保管、貸出、廃棄、アリバイ管理　等
●統計業務に関すること
　診療統計、疾病統計、平均在院日数管理
●診療記録の開示
● DPC（様式１）の点検
●がん登録

今後の展望

医療では、適切で質の高い診療・看護が求められており、近年ではとくに医療を受ける患者・家族の立場から、安全で安心な医療が強く求められています。医療の提供において、診療内容を正確に記録として残しておくことは重要なことであり、診療情報管理士は良質な記録の整備に向けて、診療記録の点検を行うという大きな役割があります。

平成 25 年 12 月からは、「紙面に記載するカルテ」から「電子カルテ」の運用へと移行しています。電子カルテでも更なる良質な記録の整備を目指していき、また、病院経営に貢献できるように有効に活用し得る情報を抽出して分析していきたいと思っています。

医療事務部　医療秘書課
主任

金　光　ル　ミ

業務内容

●各種診断書・証明書の代行作成
●再来予約代行入力
●検査予約代行入力
●定期処方代行入力
●院内報告書等代行入力
●施設宛情報提供書代行作成
●学会発表の為の資料集め
● IC 説明等、Dr のスケジュール管理

これまでの歩み

当院の医療秘書課は平成 19 年４月に新設されました。

その年、平成 19 年 12 月 28 日付けで厚労省から「医師及び医療関係職と事務職員等との役割分担の推進について」という、事務にも医師の代行記載・代行入力を法的に認める通達が発表され、その翌春の診療報酬改定で、医師事務作業補助者体制加算が開始されました。

当院では、病床数に対し 75 対１補助体制加算（医療秘書３人）に始まり、平成 25 年度現在 30 対１体制（医療秘書８人）となっています。

外部研修の他、実践を通じた院内研修と、代行作成した書類を主治医の前に必ず点検と指導を受ける形で高尾公子先生と医療秘書課を築いてきました。

今後の展望

Dr が Dr 本来の診療に専念できるよう、医師を補佐することが私たち医療秘書の役割です。

代行入力には最終的に主治医の承認が必要であるものの、電子カルテ上の入力権限は医師とほぼ同等に設置されており、責任の重大さを感じています。

今後の課題としては、各 Dr の流儀を取得し、病棟ラウンドでの診療録への代行記入等、まだ出来ていないことができるよう、仕事の内容を広げ、正確さを保ち、課全体のスキルアップを図ることです。

チーム医療の一員として、医師をサポートし、医療秘書としての気配り・笑顔を忘れずに全仁会の魅力部署となっていこうと思います。

業務サービス部　施設管理課
課長

金　光　秀　彰

業務内容

●設備稼働点検
●営繕業務
●用度業務（購入機器・物品）
●未払計上業務
●保守委託業務の管理
●官庁調査立会い
●防災
●その他（車輌（職員）、寮、駐車場管理等）

今後の展望

高齢化社会が進む現代社会、病院の在り方・生き方が問われる医療界の中はまさに、生き残り・勝ち残り時代であります。

病院は、良い医療、わかりやすい医療を提供するのは勿論、患者さん、利用者さん、働く職員にとっても良い環境でなくてはなりません。

これからの管理部門は、各部署のサポート的な役割と病院経営、更に、患者さんに選ばれる病院創りの一翼を担っていきたいと考えます。

業務サービス部　搬送管理課
主任

小　坂　聡　弘

業務内容

1．自家用救急搬送（入院・転院・退院・受診等）
2．通所リハビリ利用者の送迎、送迎運転者・介助者（計 34 名）への安全教育・指導および勤務調整
3．ショートステイ利用者の送迎
4．公用車の整備および管理（病院：７台・通所リハビリ：22 台・訪問看護：21 台・ケアプラン室：６台・支援センター：２台・相談室：１台・ローズガーデン：２台・その他：１台　計 62 台）、公用車購入手配
5．交通事故処理および損害賠償業務
6．その他送迎依頼の対応

今後の展望

通所送迎車は全台数１ヶ月間で合計５万 km 以上、１年間で 65 万 km 以上を走行します。当然交通事故に遭う可能性が高くなります。送迎というサービスの質の向上を考えるにあたって最優先されなければならないのが乗車していただく通所利用者の安全性の確保です。一度交通事故が起きれば修理費、代替品の購入費、代車費用や治療費、逸失利益等の「直接損失」や企業イメージの低下、風評被害、事務処理等の労働力の消耗、当事者・関係者の精神的苦痛による労働力や勤労意欲の低下、車両修理・買替による期間の機動力の欠損等の「間接損失」が発生します。一般的には直接損失が１に対して目に見えない間接損失が４の割合で発生すると言われています。間接損失は数字に表れにくく、軽視されがちですが、経営にあたっての費用としてはかなりのマイナスな影響となります。交通事故が起きるということは４倍の間接損失が発生するということであり、収益事業活動における収益の消失になりかねません。ましてや現代社会においては１：４以上の割合での損失になるのではないでしょうか。通所利用者から「今日も楽しかった」と笑顔でご利用していただける日が未来永劫続くように、地域の方から平成病院の運転者はマナーが良いと言われるように交通ルールの遵守、交通参加者の状況や立場を考えた運転マナーの向上や車や運転に関する知識、同乗指導といった安全運転教育を行いたいと思います。また現在通所送迎では全長 469cm のハイエースの車椅子仕様で運行しています。しかしながら利用者の ADL の低下、ニーズの多様化や道路環境、交通事情等の諸事情により長さのあるハイエースの車椅子仕様では送迎が困難なところが増えてきています。より安全で、より確実に、より快適な送迎を行うためには軽四乗用の車椅子仕様の導入を費用対効果含めて検討して痒いところまで手が届くような配慮のある運行を考えています。

地域連携室
室長

渡　邉　英　子

現在地域連携室は、室長である私渡邉と医療福祉相談室森課長の兼務で構成されています。主な業務

は、前方連携と言われる、高機能病院からの転院相談の受付、患者さんの情報収集と、受け入れ医師との調整・病室の選定です。また在宅で訪問診療をしておられる先生や、専門医療機関での治療を勧めてくださる開業医さんからの入院依頼の仲立ちも行っています。そしてもうひとつ重要な業務が、後方連携と言われるもので、退院後の生活を支える専門職との連携の調整があります。現在これらは医療福祉相談室のケースワーカーが担ってくれています。いわゆる退院調整業務や退院時カンファレンスが、適時・適切に行われることが後方連携のキーポイントです。

退院調整に関しては、毎週１回開催している病棟のチームカンファレンスを活用しています。看護師、リハスタッフ・薬剤師・栄養士、ケースワーカー、そこに渡邉も参加して、入院後の治療経過が順調か、退院困難要因は無いか、ゴール設定は明確か。細かくチェックしてスムースな退院のための担当者を、明確にするようにしています。高齢患者さんの多い当院においては、合併症による治癒遅延や、受け入れ先の選択に難渋することが多いです。入院期間の延長による回転率の低下が起こっていることは否定できません。

ここ数年、さらに平成 25 年度になり連携という文字があちこちから聞かれます。それは行政が、地域包括ケアシステムの構築を声高に論じるようになったからです。全仁会が開院当初から進めてきた在宅生活を維持するための支援システムが、やっと行政もやらなければならないと重い腰を上げるときが来ました。顔の見える連携という言葉は耳さわりがよいですが、同じグループ内でも難しいことが多いです。微力ではありますが、内部から外に向かい全仁会の皆さんが活動しやすい基盤つくりをしていけたらと思っています。

医療安全対策室
室長

立　尾　且　子

医療安全対策室は、適切な医療安全管理を推進し、安全な医療の提供に資することを目的として、平成 21 年７月に設置されました。初代は渡邉広美前室長で、２代目を私が拝命しました。

医療安全対策室の管理者は、①医療安全管理部長（医師）　②院内感染管理者（医師）　③医薬品安全管理責任者（薬剤師）　④医療機器安全管理責任者（医師）　⑤医療事故対策専従看護師（医療安全対策室室長）があり、医療安全を推進するための実効的な組織としてリスクマネジメント委員会を置き、各部署に委員を配置しています。

リスク事案が発生した場合まず現場で対応しますが、対応困難な場合は医療安全対策室が対応します。

具体的な活動は、

①職員のリスク感性の育成

②インシデント・アクシデント報告書の集計と分析・改善策の立案

③安全運動の広報活動

などです。

今後は医療事故防止にむけて職員のリスク感性の育成のために年２回の院内研修会の取り組みやインシデント・アクシデント報告書が全仁会グループ全施設から滞りなく提出されるためのシステム作りと報告書の分析による効果的な改善の提案を行うこと、そして職員間のリスク情報の共有や改善策等の周知のための広報紙の作成を計画しています。

全仁会の職員すべてが安全・安心な医療・介護を提供でき地域に求められる組織となるよう努力していきたいと考えています。　（平成 26 年４月異動）

保育室
保育士副主任

佐　藤　玉　貴

はじめに

院内保育室は、平成 13 年、常勤保育士採用により始まりました。当初は在宅総合ケアセンター２階デイケアの一室が保育室で、毎日ではなく、預かる病児がいない時は、保育士はデイケアのお手伝いをしていました。

平成 16 年、老健新館４階に移り、常設化し、平成 19 年の西館竣工により、初めて設計段階から保育室として設計された場所での保育となりました。現在専任保育士 4.5 人、保育室（含隔離室）４室で対応しています。

業務内容

全仁会グループの職員における育休後の保育園の待機児童を入園するまで受け入れ、お預かりすることで職員の育休明けおよび早期復職を支えます。

その他

1．病児保育
　軽症だけど有熱等により公的保育園で保育してもらえない場合や、感染症後期で無症状だけど公的保育園で預かってもらえない場合（当保育園でも一応隔離保育です）

2．不定期保育
　休園、家庭の事情など、突発的に保育に困った時預かります

3．夜間保育

4．看護セミナー、神経セミナー、のぞみの会などの小児預かり

今後の展望

今まで多くの子どもたちと出会い、それぞれの保育園へと巣立って行きました。毎年、秋から対象者が多くなり、昨年度は 13 人の子どもたちをお預かりしました。全仁会グループにおいて目立つ部署ではありませんし、全く縁のない職員の方も数多くおられます。しかし、ドクターをはじめ看護師、介護福祉士、リハビリスタッフなど全仁会を支える数多くの職員の方が安心して復職したり仕事に従事したりできるよう取り組んできました。

これからも、子どもたちを安心して預けていただけるように、その日の体調を見極めながら安全に怪我無くすごせるよう、子どもたちの毎日を支えていきます。かつ、毎日喜んで来所してもらえるようにいろいろ散歩できる場所を調べたり、あそびを考えたり、創作を一緒に楽しんだり、保育の幅を広げられるように努めていきたいと考えます。

全仁会の縁の下の力持ちとして、これからもがんばっていきたいと思います。

介護老人保健施設　倉敷老健

倉敷老健
施設長
大　浜　栄　作

倉敷老健は昭和 63 年 12 月に 100 床で開設され、平成 16 年８月に 50 床増床され、現在に至っています。現在の入所定員 150 人と通所リハビリ 180 人は岡山県下最大です。開設から 25 年が過ぎ、高齢者の生活環境や経済状況は大きく変化していることは周知の通りです。介護保険制度がスタートしてからも 13 年が経過し、医療分野の変遷と並行し、老健施設は高齢者ケアのリーダーの役目を果たすことが求められています。以下、現在の倉敷老健を、その理念とともに紹介致します。

１．包括的ケアサービス施設

施設長を中心とした医師団と、看護、介護、リハビリ、栄養科、ケアマネ等がチームで医療、看護、介護、リハビリを支えています。施設内 NST サポートチーム運営や看取りケアも充実した体制が取れるようになりました。歯科衛生士も入所者の口腔ケアに十分に関わりながら、感染予防や経口摂取の維持を目指し、生活の質の維持･向上に貢献しています。所定疾患療養加算も取得し、疾患の悪化予防と安定した施設医療にも実績が出ています。

２．リハビリテーション施設

OT ２名、PT ２名、ST １名が中心となり、チームで生活リハビリを実施しています。短期集中リハビリは、１ヶ月平均 30 名を対象として実施し、具体的な効果を上げ、加算にも寄与しています。

３．在宅復帰施設

平成 24 年５月から在宅復帰加算 30% を取得しています。入所者の皆さんが個別に入所時の目標を持ち、それぞれリハビリを実施して在宅復帰して頂くために、家族との関わりや入所者本人の想いを深く知ることはとても重要です。施設ケアプランの目標設定を明確にし、各職種が自分の業務を正しく遂行していきます。

４．在宅生活支援施設

自立した在宅生活が継続できるよう、閉じこもりを予防し、安心感のある関わり方を重視しています。４月のお花見に始まり、そうめん流しや保育園児との交流、秋祭り、焼き芋会、クリスマス会、新年会など、季節ごとの行事をしています。定例では、代表講話、歌声広場、音楽療法などを行い、入所者に楽しんで頂き、意欲の向上につなげています。

５．地域に根ざした施設

在宅復帰をした後も、担当ケアマネと関わりなが

ら相談に応じています。老健を有効活用して頂くためにも、家族や地域住民との交流と情報交換を大切にしています。特に家族支援会を年に４回継続開催しています。また、看護科、介護科、栄養科、リハビリの学生実習を受け入れています。毎年９月の秋祭りは、地域の方や多くのボランティアの方々に支えられ、盛大に行っています。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

社会医療法人全仁会
副院長（介護系施設担当）
倉敷老健　看護部長

山　田　奈々子

高尾武男名誉理事長、高尾公子副理事長が全仁会の両輪として、倉敷平成病院と倉敷老健を開設され、25 年が経過いたしました。このたび、高尾聡一郎先生が理事長に就任されましたことは、大きな歴史の変遷となることでしょう。25 周年記念、誠におめでとうございます。

厚生労働省は病院数削減や病院専門化や在院日数短縮化を唱え、地域包括ケアシステムと医療は今後ますます連携を必要としています。全仁会は 25 年前からこれらの内容を見据え、「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」という理念で患者本位の医療・介護に「在宅」を意識しながら医療の展開をおこなってきました。それは地域の患者や自宅の療養者や高齢者世帯の方々を中心とした、長い時間軸に沿った治療であり、療養であり、介護でした。

このような理念の実現のためには、それぞれの施設や住宅の明瞭な理念と運営目的を持ちながら、お互いの連携を取るための努力をし、話し合う場をもつことは大変重要だと考えてまいりました。幸い、全仁会の介護系施設や住宅は平成 12 年に施行された介護保険制度に後押しされて、今もなお成長し続けています。

これからの重要課題として、いかなる健康状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けられるための援助があります。全仁会の医療・介護・予防・住宅・生活支援が一体的に提供できるよう、各関係機関の連携を強化し、多職種協働を進めていく所存です。

今後も、ご指導をよろしくお願いいたします。

倉敷在宅総合ケアセンター

ケアプラン室（居宅介護支援事業所）
ケアマネ課長

難　波　　忍

ケアプラン室は、介護保険制度開始を翌年に控えた平成 11 年 10 月に「倉敷在宅総合ケアセンター居宅介護支援事業所」として指定を受けました。開設当初は、「介護保険制度はどんな制度なのか」が周知されておらず、民間の介護保険との違いを説明しなければならないこともありました。制度がスタートした平成 12 年４月からは介護相談や介護保険の申請、ケアプランの作成などを柱とした業務で本格稼働しました。しかし、当初はケアプランを作成するためのシステムが間に合わず、数ヶ月間は手書きでプランを作成する日々が続きました。

３年毎に実施される介護報酬の改定に伴い、ケアマネジャーの担当件数に上限が設けられるようになりました。当初２名だったケアマネジャーも平成 25 年 12 月現在、16 名にまで増員されました。ケアプラン件数もケアマネジャーの増員と共に増えていき、540 件／月を担当する県下でも最大の居宅介護支援事業所となりました。平成 25 年 12 月１日にはグランドガーデン南町の開設に併せて、全仁会で２ヶ所目の居宅介護支援事業所となる「南町ケアプラン室」も開設されました。

介護保険制度の大きな特徴の一つである「措置から契約へ」と変わり、利用者自らが介護サービス事業所や施設を自由に選択できるシステムになりました。言い換えると、私たちは「選ばれる事業所」にも「選ばれない事業所」にもなり得ます。今後 20 年間は高齢者人口は増え続けると言われている一方で、岡山県内では毎年 20 ヶ所近くの居宅介護支援事業所が閉鎖を余儀なくされているとも聞きます。私たちがこれからも地域の方に選ばれる居宅介護支援事業所であり続けるために、全仁会の理念である「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」を念

頭に置き、民生委員をはじめとする地域の方や法人内のサービス事業所との連携を強化し、これからも更なる努力を続けていきたいと思います。

地域包括支援センター
主任ケアマネ　副主任

青　木　菊　江

老松・中洲高齢者支援センターは、平成 17 年に行われた介護保険法の改正において、平成 18 年４月より導入され、在宅総合ケアセンターの１階に開設されました。介護保険制度の持続可能性の追求と法的給付のみではカバーされない様々な高齢者の課題に対する地域の拠点として位置づけられました。

支援センターには必要事業として、地域支援事業の一つである包括的支援事業と指定介護予防支援事業があります。

地域支援事業は、次の４つの事業で構成されています。①介護予防ケアマネジメント事業（要介護状態等になる事を予防する為に、心身の状況等に応じて、介護予防事業等が実施されるように援助する）。　②総合的相談・支援事業（地域の高齢者が住みなれた地域で安心した生活が継続できるように、必要な支援を把握し、サービスや関係機関および制度の利用に繋げるための支援を行う）。　③権利擁護事業（高齢者が地域で安心して尊厳のある生活を行なえるよう、権利侵害の予防や対応を専門的に行う。主として高齢者虐待の防止および対応、判断能力を欠く状況にある方へ成年後見制度等の利用支援を行う）。　④包括的・継続的ケアマネジメント事業（地区の介護支援専門員に対して、包括的・継続的ケアマネジメントを実践できるように地域の基盤整理やサポートを行う）。

もう一つの事業として、指定介護予防支援があります。介護保険における予防給付対象となる要支援１・２の方へのケアマネジメント業務です。平成 18 年の月平均 121 件から始まったケアプラン作成は、現在月平均 310 件で年々利用者数は増加しています。

その他の事業として倉敷市より、認知症サポーター養成講座や各種教室（介護予防、転倒骨折予防等）業務委託されています。介護教室では全仁会グループ内の方々に講師としてご協力頂き感謝しています。地域の方々からも「分かりやすくて良かった」「家でも今日聞いたことを実践して生活します」等の感想を頂いており、地域に根ざした活動の大切さを日々感じています。

支援センターが設置されてから、７年目を迎えました。地域住民にとってより身近な相談窓口でありたいと日々、業務を行なっています。しかし、まだまだ地域住民にとって支援センターの存在を周知徹底できていないのが現実です。今後も地域で活動されている地域団体との関係構築、教室等の地域活動を通じて支援センター PR 等を継続して行い、全ての地域住民に支援センターを知って頂けるようにしていきたいと思います。

また、指定介護予防支援事業の対応件数も、支援センターが設置された当初から約 2.5 倍に増加しています。一方で介護保険法の改正が議論され、要支援の方を市区町村の事業で対応するといった内容も出てきています。今後は、法改正の動向にも注目しつつ、常に地域住民にとって安心して相談できる窓口として活動を継続して行っていきたいと思います。

予防リハ　主任
（倉敷平成病院通所リハビリテーション）

樋　野　稔　夫

全仁会グループが 25 周年を迎えられ、お祝い申し上げます。

倉敷平成病院通所リハビリテーションでは、住み慣れた町で今までのように元気で暮らしたい、いつまでも若々しく健康でいたい、という利用者様の希望に沿えるよう、スタッフ６名、一致団結し取り組んでいます。主に身体機能を維持し転倒を予防するためのバランストレーニング、静かな空間でリラックスしながらのストレッチ、軽い負荷をかけながらゆっくり無理なく筋肉を鍛えるスロートレーニング、個別リハビリテーションなどをその日の利用者様の調子を考え、組み合わせながら、一人ひとりに合わせたオーダーメイドの運動プログラムを提供するよう努めています。この特性を知り活用していただくために、入院中の患者様や地域の皆様への見学・啓蒙活動を積極的にすすめてまいりました。現在はその成果が少しずつ見られはじめております。

倉敷平成病院通所リハビリテーションは「デイリハビリテーション」という名称で、平成７年５月に在宅支援プログラムの一環として設立されました。平成 12 年４月、介護保険法の導入に伴い、デイリハビリテーションは「通所リハビリテーション」と

なり、時代のニーズに対応しながら成長してまいりました。また平成 25 年２月、デイサービスの新設に伴い、私たちは役割の刷新を求められ、現在の形にたどり着くことができました。

これからの展望としましては、４つの全仁会通所事業が連携を図り、横の繋がりを強化していくことと、それぞれの部署のアイデンティティを打ち出し、特徴を活かしながら役割を果たすことで、地域の方々の健康寿命延伸を支援していきたいと考えております。通所リハビリテーション職員一同、全仁会の更なる発展の一助となれるよう努めていきたいと思います。

通所リハ　師長
（倉敷老健通所リハビリテーション）

山　下　澄　枝

昭和 63 年 12 月倉敷老健開設と共に発足した通所リハビリテーションも 25 周年を迎えました。開設時は平成病院の２階に 30 名定員、3.5 名のスタッフでオープンしました。まだデイケアという名称も一般的には浸透していなかった時代でしたが、社会的ニーズおよび全仁会の目指す「救急から在宅までのトータルヘルスケア」の実践と「ノーと言わないデイケア」の運営努力により需要が徐々に高まり、利用者定員を増加したと聞いています。

平成 11 年、当時では斬新な取り組みで在宅系のサービスが全部入る在宅総合ケアセンターが設立され、同年７月平成病院から在宅総合ケアセンター２階に引越しました。２部屋だった所から２階フロアー全部利用出来、どのように部屋を利用するか大変でしたが楽しみな作業でした。平成 12 年４月介護保険が導入され、利用時間により利用料金が違う事で、送迎時間を組むのに１週間ほぼ徹夜で対応した事を思いだします。名称もデイケアから通所リハビリテーションと変わり、機能訓練も個別リハビリ加算となり新たに利用料金の体系も変わりました。平成 19 年４月介護保険法改正により要支援１・２が設定され平成病院通所リハビリを利用されていた利用者全員が２階に移動となりました。対応の違う利用者の合併も大変でしたが力を合わせて乗り切りました。平成 21 年９月より、365 日の営業から日曜日とお正月を休みに変更しています。また施設の情報がネット上で見られるようになり情報開示やホームページの作成に力を入れたのもこの時期でした。平成 24 年５月７日は介護保険始まって初めての会計監査がありました。全員で準備を行い当日緊張して受けましたが問題なく乗り切れました。営業による他事業所からの紹介や全仁会グループの連携により、平成 25 年 10 月現在登録者数 437 名、平均 154.3 名の利用者があり多い日には 170 名近い方が利用されています。イベントを行えば 180 名定員いっぱいの利用者が集まる位職員の力もつきました。また、毎日 55 名から 80 名位の入浴者があり職員のチームワークで乗りきっています。リハビリスタッフも 12 名配置され、身体機能向上や認知症進行予防を目標に、個別リハビリも１日平均 85 名の実施者があります。利用者のニーズに応えられるよう日々努力を重ねています。楽しい通所で、また来たいと思っていただける通所リハビリを目指し職員一同日々頑張っています。

ヘイセイ訪問看護ステーション
所長

濵　田　ゆりか

平成３年に「老人訪問看護制度」が創設され、翌年に老人訪問看護ステーションとして開設しました。この時は、在宅の寝たきり高齢者のみに対してのサービスでしたが、平成６年に健康保険法が改正され、「訪問看護制度」が創設、在宅で継続して療養が必要な全ての方に看護サービスを提供する「ヘイセイ訪問看護ステーション」に生まれ変わりました。

昨年 20 周年を迎え、「おうちで気持ちよく過ごしたい、その思いに心を寄せて、いつもあなたのそばに訪問看護」をキャッチフレーズに 365 日、倉敷市・総社市を走り回っています。また、看護師だけではなくリハビリスタッフも充実しており、療養上の世話や医療処置に加え、QOL を重視したリハビリテーションの提供もでき、利用者は 150 ～ 160 人／月、訪問件数は 1,500 ～ 1,600 件／月と年々増加しています。

さらに、平成 20 年から国の医療政策は「病院から在宅へ」と在宅医療の推進が叫ばれており、それには、医療・介護の連携が重要とされ、課題として地域包括ケアの推進があげられています。訪問看護は、在宅の中で唯一介護保険も医療保険も使えるサービスですので、架け橋役として多職種との連携や協働に取り組む予定です。

最後に、病気になっても、障害があっても「家で

暮らしたい」、その願いに応えられるステーションでありたいと思っています。

住宅型有料老人ホームローズガーデン倉敷

ローズガーデン倉敷
施設長
高　尾　公　子

ローズガーデン倉敷の歩み

“もっと自由に”“もっと豊かに”……ローズガーデン倉敷構想が生まれ、全仁会グループの住宅部門として、ケアハウスドリームガーデン倉敷に次いで２番目の、平成 16 年９月開設となりました。

ローズガーデン倉敷（以後 RG と略）構想は、当然の事として医療との一体化が基本にあったのですが、平成 16 年の開設当時の医療法の下では医療法人は有料老人ホームを運営できず、国交省管轄、高齢者向け賃貸マンションとして、株式会社全仁会運営での出発でした。平成 18 年、老人福祉法改正により有料老人ホームの定義見直しがあり、また全国の事件・事故の教訓から、高齢者専用住まいを老人ホームとして登録する様、厚労省の方針転換がありました。平成 19 年には医療法が改正され、医療法人の有料老人ホーム運営が可能となったのです。RG も岡山県との協議の下、平成 21 年、住宅型有料老人ホームとして登録され、同時に社団法人全国有料老人ホーム協会正会員になり、これを機に当初の構想に沿い、医療法人全仁会の運営へと移りました。

週刊朝日 MOOK・高齢者ホーム 2011 年版に、全国約 3,000 施設中、「プロが入居したくなる高齢者ホーム」12 施設の１つ、「医療の安心があるホーム」として RG が掲載され、誇らしく思いました。

有料老人ホームは、その形態においても、負担額においても全国的には千差万別、正にピンキリです。RG は、超富裕層対象ではなく、平均的サラリーマン・公務員退職者が自分の年金で入居生活できる範囲…がコンセプトです。開設後の入居者は、倉敷・岡山居住者より関西方面からの人が多かったのですが、最近になり地元の入居者増が見られ嬉しい事です。バス旅行・カルチャー教室等のイベント充実の一方で、介護個浴室や要介護専用居室に変更したりと、入居者の虚弱化への対応も必要でした。しかし、126 室中、現在は 100 室前後の契約で、苦戦中です。営業面での工夫が今後の課題です。

（院内報　平成 26 年年頭所感より）

－前略－『十年一昔』と言われますが、入居者平均年齢は開設時 70 歳台から現在 80 歳台に突入です。10 年間に施設長として医師として多くの方の人生航路に寄り添い、幾人かを見送りました。その中で、RGの入居者が、いかに全仁会グループの医療と看護・介護の連携に助けられているかを、入居者同様職員も感じています。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

ある選択・決断をして RG に入居された方々の相談にのっていると、当然ながら心配事・不安の中身の変容がよく分かります。

昨年暮れに RG の隣地にサ高住グランドガーデン南町（以後グランドGと略）が開設されました。RG に住む人達は約１年間、騒音・埃等に悩まされたはずですが、その悩みよりも期待の方が大きく、グランドGの外観が立派に優しく現れた時、RG 入居の方達は自分の事として喜ばれました。これからグランドGで暮らされる人達の事は他人事ではなく、我がこととして強い関心が持たれています。

RG・グランドGが兄弟施設として、その入居者やご家族に安心と喜びを与えられる住まいになる様、両方の職員共に努力を続ける所存です。

社会福祉法人　全仁会

ケアハウスドリームガーデン倉敷

ケアハウスドリームガーデン倉敷
施設長
武　部　美智子

倉敷平成病院創立 25 周年記念誌発刊おめでとうございます。

ケアハウスドリームガーデン倉敷は、今年で 19 年目を迎えます。

現在では、高齢者の施設として公費助成金を受けてのケアハウスなどの軽費老人ホームだけではなく、民間型のサービス付き高齢者専用住宅などが増えています。その中で、特定施設でない一般型のケアハウスで定員 100 名の満床を維持できているのは、当施設が平成病院を母体として全仁会グループ全体の関わりを重視して入居者に関わってきた結果だと考えています。ケアハウスのゆったりとした設備・居住性等を活かし、歴代の施設長と共に職員が一丸となって健康への取り組みや生活支援など、入居者が安心感と生きがいを持って楽しめる施設造りが功を奏しているものと思われます。また、18 年が経過し、少しずつリニューアルに努めています。

ここ数年、新規入居者の年齢も 80 歳以上の方が多くなり、入居時にはお元気な方も年を重ね疾患や認知症状で、日常生活動作が低下しています。職員は、病気の相談や病院受診の手続き・内服管理・食事の下配膳、食事内容に至るまで多くの援助を費やすようになってきました。現在、要支援・要介護の介護保険利用者も７割となっています。入居者に必要な援助としてヘルパーで食事の下配膳・服薬援助の実施、また、事務所で内服管理や健康上必要な減塩食・カロリー制限食などの治療食の実施や、平成病院受診の為に乗合タクシーを導入し、少ない職員の人数をカバーしています。乗降時、平成病院職員やボランティアの皆様のご協力で安心して受診ができるようになり感謝しています。

ケアハウスの活性化を図るべく、平成 22 年６月施設内に定員 20 名のデイサービスドリームを開設したことで、地域との交流や仲間づくり、入居者の楽しみや憩の場として笑顔が増えています。

入居の皆様がお元気で楽しく過ごしていただけるよう生活支援して行くために、「救急から在宅までの保健・医療・福祉のトータルヘルスケア」の理念のもと、全仁会の各部署となお一層連携協力し、倉敷平成病院創立 25 周年、30 周年と全仁会グループの在宅部門の一翼を担うべく一層努力して参りたいと考えています。

デイサービスドリーム
管理者　介護主任
坂　本　晋　也

平成 22 年６月、ケアハウスドリームガーデン倉敷内に全仁会グループでは３番目にあたる通所施設、「デイサービスドリーム」が開設されました。定員 15 名の小規模デイサービスでスタートし、家族的な雰囲気を大切にしながら、懇切丁寧な機能訓練の実施を心掛けています。ケアハウスに入居されている方は素より、地域の方々にもお越し頂き、平成 23 年４月より定員を 20 名に引き上げ、住み慣れた場所で安心して生活できるようサポートしています。平成 22 年７月より、全仁会グループでは「くもん学習療法」を導入し、楽しみながら学習し認知症の予防・改善にも効果が期待され、グループ全体で 100 名近くの方が参加しています。

デイサービスでは、生活に密着した様々な脳活性化プログラムを提供しています。屋外機能訓練を兼ねて、毎年春と秋には瑜伽山蓮台寺へ行き、年２回は大型バスを貸切、笠岡や井原、瀬戸大橋を渡り高松へ行くなど、普段外出する機会が少ない方にとっては大変好評です。その他にも「ドリーム食堂」と銘打ち管理栄養士指導の下、包丁を使い材料の下ごしらえを皆様と一緒に行い、目の前で作り職員も一緒に昼食を共にするプログラムもあります。買い物ツアーや園芸、クッキング、創作活動など自由選択できる幅広いメニューを提供しています。

また、地域との交流・貢献活動も積極的に行い、八軒屋地区の清掃活動に参加し、ペットボトルキャ

ップ運動、特定高齢者支援事業（倉敷市委託）にも参加しています。

その他にもデイサービスに来て頂くボランティアの数も個人、団体を含め 50 団体近くとなりました。劇団や歌謡舞踊、ハーモニカや大正琴、コーラスやフォークダンス、メガネのメンテナンスまで幅広くお越し頂いています。

小さな部署ではありますが、施設と地域を繋げる拠点として、そして、その人がキラキラ輝く人生のお手伝いをできるよう、職員一同邁進して参りたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

倉敷在宅総合ケアセンター

倉敷在宅総合ケアセンター
ショートステイ　師長
清　水　蕗　子

平成 11 年７月在宅総合ケアセンターショートステイとして産声をあげ、今年で 14 年７ヶ月を迎えました。

職員は看護師４名、介護福祉士 19 名、機能訓練士１名、相談員２名で二交代制です。介護保険でのご利用の方に併せて、障害福祉サービスの方のご利用をいただいております。ベット数は 40 床で平均 33.6 名のご利用です。

年間行事として、新年会、お花見、夏祭り、運動会、クリスマス会を楽しんでいただき、毎日のレクリエーションも工夫しております。

職員のグレードアップと致しまして、全仁会の勉強会に加え月１回のショートステイでの勉強会を開いております。

平成 25 年には老朽化が進んだ施設内の修理を終えて明るいショートステイとしてリニューアル致しました。多方面の方々のお蔭と感謝しております。

今後ますます高齢化の進む世の中で、在宅を支えるショートステイとして皆様のニーズに応える事が出来ます様、努力していきたいと考えます。

複合型介護施設ピースガーデン倉敷

ピースガーデン倉敷
施設長
内　山　順　治

複合型介護施設ピースガーデン倉敷は、平成 25 年２月１日に開設されました。この事業は、平成 22 年の土地の取得から本格的に計画が始まり、平成 23 年度の倉敷市福祉施設整備申請において、多数の応募の中より、地域密着型特養とグループホームが選定されました。全仁会の理念に沿った運営方針や運営計画が審査員に認められたのではと思います。その後に、詳細設計、入札、建設工事、補助金申請、開設申請と進み、様々な方の協力を得ながら開設に至っております。

この複合型施設は、１階にデイサービス、２階に地域密着型特養、３階にショートステイ、４階をグループホームとし施設毎に役割は違いますが、複合施設としてのメリットを活かし、全仁会グループの一員として役割を担いながら、地域の高齢者様の様々な状況に対応できる支援等を進めております。

ケア目標は「ひと　笑顔　輝いて　寄り添うケアで心おだやかな環境を創造します。」として、利用者様がいつも笑顔で輝いた生活で暮らせるような運営を全員で目指しております。

まだまだ開設間がない施設ですが全仁会グループでの連携と４施設が同じ目標をもってケアに取組むことで、より卓越したケアの提供や運営を実践し、地域で信頼され喜ばれる施設を進めてまいります。

デイサービスゆかいな広場
管理者　介護科長
柳　井　健　司

デイサービスゆかいな広場は、定員 50 名までの施設として、平成 25 年２月１日に開設されました。開設時は 15 名の小規模デイサービスで始まりましたが、６月には定員 30 名の通常規模に変更し、更に日曜日・祝日の営業も開始となりました。全仁会

グループの通所系サービスとしては、４番目の施設となるため、他の通所系サービスとの棲み分けを考え、体験型デイサービスを目指しプログラムを構築しました。当初は困難を極めましたが、実際に教室を開講している先生に交渉しデイサービスでの教室を依頼し、現在ヨガ教室・和紙ちぎり絵教室・気功教室をプロの講師に担当して頂いています。また、職員も特技を生かした革細工教室・エコアート教室・絵手紙の会・書道教室などを行っています。また、開設時より施設外活動にも積極的に取り組んできました。第１回目は、目の前のハピーマートに行く買い物ツアーを行いました。１人 500 円の予算で何を買うか悩んでいる姿が印象的でした。次に酒津公園のお花見会・美観地区散策ツアー・倉敷市立美術館で美術鑑賞・由加山参拝ツアー・喫茶ツアーなど利用者様の声を聴きながら計画しています。利用者様からは外食ツアーをしてほしいなど、最近ではリクエストまで出るようになっています。ゆかいな広場では名前に負けない、楽しみながら脳活性ができるプログラムの提供を目指し、今後も利用者様と関わっていこうと考えています。

今後の展開ですが定員を 30 名から 50 名にし、全仁会の通所系サービスの一部として頑張って行きたいと考えています。今後ともご協力・ご指導のほど宜しくお願いいたします。

地域密着型特養ピースガーデン
介護科長

佐々木　嘉　信

地域密着型特別養護老人ホームピースガーデンは、介護が必要な方がこれまでの生活において住み慣れた地域で入居生活を送ることができるよう、住所地が倉敷市の方が対象となります。

少人数（9～ 10 名）の生活スペース（ユニット）が３つあり、29 名の方が入居できます。決まった顔ぶれのスタッフがお世話することで、馴染みの関係が構築しやすく、お一人おひとりの生活に合わせた支援を提供することができます。また、全個室でプライバシーも守られ、安心して暮らすことができます。

さて、全仁会グループにとりまして初の特養となる地域密着型特別養護老人ホームピースガーデンは、平成 25 年２月に開設されました。

初日は４名が入居され、ささやかながらオープニングセレモニーを行い大変喜ばれました。その後、徐々に入居者数も増え、同年４月 30 日には、満床になりました。

季節ごとの行事、外食・買い物ツアー、ドライブ、誕生日会など様々な催し物を積極的に行っており、入居者様には大変喜ばれております。嬉しい悲鳴で、「次は○○へ行きたい」「○○が食べたい」など、入居者様からのリクエストが絶えません。入居者様の『やる気』にも繋がっており、「もっとリハビリをしたい」と、積極的にリハビリをされるようになった方もおられます。

職員研修では、施設内勉強会をはじめ、外部研修にも積極的に参加しており、スキルアップを図っております。

オープンして間もないですが、「ひと　笑顔　輝いて」をケア目標に、ご入居の皆様が笑顔あふれる生活がおくれますよう、スタッフ一同頑張っていきます。

ピースガーデン倉敷　ショートステイ
管理者　介護科長

江　口　美　樹

平成 25 年２月１日ピースガーデン倉敷ショートステイは、定員 28 名の単独型、短期入所生活介護施設として複合型介護施設ピースガーデン倉敷３階に開設されました。

在宅を支える機能の１つであり、リフレッシュ・気分転換・介護負担軽減で利用される支援の方、身体的・精神的に障害を抱えるなど、さまざまな事情によりご家庭での介護が困難になった要介護の方にご利用いただいております。ご家族様の介護による悩みや相談に積極的に関わりをもち、そのひとらしい生活が送れるように援助できたらと思います。

人とひとを繋ぐ会話・対話・聴く力・コミュニケーション能力を身につけ、アセスメント能力をひきだされるように、知識・技術・マナーのレベルアップを図っていき、スタッフ一同、「ひと　笑顔　輝いて」寄り添うケアで、心おだやかな環境と安心と信頼が築かれる施設づくりをめざしていきたいと思います。

グループホームのぞみ
管理者　介護科長
赤　澤　吾　郎

グループホームのぞみは平成 25 年２月１日、ピースガーデン倉敷の複合施設の１つとして開設されました。介護スタッフ 13 名と入居者３名でスタートし、全仁会グループの様々な部署からご協力をいただき４月末には念願の満床（定員 18 名）となりました。

開設当初は施設の運営や介護業務に戸惑うことが多い毎日でしたが、４月の下旬から涌谷 Dr（認知症疾患医療センター長）が、カンファレンスに参加してくださることとなり、戸惑いや不安が軽減されました。特に当施設の入居者に多く見られる妄想や、徘徊・不穏等の BPSD に対しアドバイスや、薬の調整をして頂いています。涌谷 Dr の受け売りですが、よりよいサポートのために、①病態を知る　②不自由さを知る　③その人を知る、をモットーにスタッフ一同頑張っています。

２年目の課題として、介護技術やマナーのレベルアップを図り、ユニットケアの利点を生かしながら、「その人らしさ」を提供出来るよう努めてゆきたいと思います。

（有）医療福祉研究所ヘイセイ

（有）医療福祉研究所ヘイセイ
代表取締役
矢　野　英　彦

当社は平成元年７月に設立されました。当初は医療法人では手掛けることができない不動産や駐車場の管理、倉敷平成病院内の売店経営や人材派遣が主たる業務でした。

平成８年９月、ホームヘルプステーションを開設。介護用品の販売やホームヘルパーの派遣、また倉敷市では一番最初となる訪問入浴事業をスタートさせました。当時は「介護保険」制度も無い中で、在宅支援の仕組みをいかに構築していくかが重要課題でした。

平成９年２月、シルバーマーク事業所認定。平成11年７月より新築された倉敷在宅総合ケアセンター４階へ事業所を移転し、訪問看護ステーションと共に在宅訪問部門を形成しました。平成12年４月の介護保険制度導入に伴い、指定訪問介護事業所として現在に至ります。

また平成15年９月には介護タクシー事業を開設し、倉敷平成病院への通院介助等の介護サービスが新たに可能になりました。

そして平成25年12月、サービス付き高齢者向け住宅『グランドガーデン南町』の設立・運営が始まりました。こうした経緯から広範囲で在宅支援が可能な体制が整いました。

今後とも全仁会グループの在宅部門の一員として、「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」の理念の下に歩みを進めて参ります。

ヘイセイ鍼灸治療院
院長（中医）
甄　　立　学

倉敷平成病院で鍼灸治療を始めたのは平成２年からでした。しかし、岡山県では医療機関内での鍼灸施術が認められなくなり、中断を余儀なくされました。その10年後の平成12年に、今の「ヘイセイ鍼灸治療院」は全仁会グループの１つの施設として病院の隣地「倉敷在宅総合ケアセンター」４階に立ち上がったのです。当時、鍼灸治療を指導していたのは北京中医薬大学出身の沈衛陵先生でした。患者の治療に当たっては、まず沈先生が患者さんの体質を漢方医学の理論から判断して治療のツボを決めて、そして２名の鍼灸師を指導しながら行っていました。

医療グループの付属施設であると同時に、中国伝統医学の医師（中医）の指導を受けて患者さんに治療を施すことは、まさにヘイセイ鍼灸治療院の最大の特徴です。このような鍼灸治療院は、日本全国でも稀な存在です。

平成20年に、沈先生は退職することになり、私はその後任としてヘイセイ鍼灸治療院の仕事を引き継ぐことになりました。私も沈先生と同じ北京中医薬大学の出身なので、これによって、形式上にヘイセイ鍼灸治療院の特徴を守ることができました。

平成20年以降の６年間に、ヘイセイ鍼灸治療院にはいくつかの変化がありました。治療室の面積が広がり、治療用ベッドも増設されました。治療用の鍼を使い捨てのものに変更するとともに、単価も改訂しました。スタッフも全員新しくなりました。現在、私以外に、川上萌美、島村亮潤の２名の鍼灸師が在籍し、３人体制で患者さんの治療にあたっています。院内治療以外に、来院不便の患者さんのために、在宅治療も行なっています。

来院の患者さんは学童から高齢者まで年齢の幅が広く、疾患の種類も多種多様です。鍼灸治療だけで対応できない場合、病院側に紹介し、また病院側から多くの患者さんを鍼灸院に紹介していただいて、全仁会グループ内の医療資源として有効に活用されています。

現在、日本の社会において鍼灸治療に対する認知が広がりつつあり、鍼灸治療を利用する患者さんも増加傾向にあります。今後も、ヘイセイ鍼灸治療院の特徴を活かして、より幅広く多くの患者さんに対応できるように努力していく所存です。

サービス付き高齢者向け住宅グランドガーデン南町

ゼネラルマネージャー
竹　下　　穣

平成 23 年 10 月、高齢者住まい法が改正され、高齢者の住まいの安定確保を目的にサービス付高齢者向け住宅は急増し、現在岡山県では 73 棟 2,634 戸のサ高住が登録されています。（平成 25 年 11 月時点）

これまで要介護者が生活する場所といえば、特養やグループホームなどの介護施設がそのほとんどを占めており、ニーズが多様化する高齢者向けの住宅環境は慢性不足状態にあり、超高齢化社会に突入しようとしている今、高齢者の住まいの確保は喫緊の課題となっています。

そんな社会動向を背景に平成 25 年 12 月 1 日、多くの期待と役割を感じながら、グランドガーデン南町は竣工いたしました。すでに、運営しておりますローズガーデン倉敷とドリームガーデン倉敷に加えて新たに全仁会グループの住宅施設としてその一翼を担当いたします。特徴としては、医療・介護の連携がより密にとられている点にあります。入居中のケアは介護保険に基づき、訪問介護や訪問看護により提供されます。この点については、既存の住宅施設で実践済みですが、平成南町クリニックと連携を図ることで、日常の健康管理や急な往診など様々な局面でサポートが可能となります。また、サービスとサービスの合間をグランドガーデン南町のスタッフが見守り、対応することで切れ目ないサービスの均等化を図れ、介護度が高い方の受け入れも可能となりました。

入居相談をいただいていますと、多くの声としてあるのは「最後まで看てもらえますか？」「悪くなったら他の施設へかわらないといけませんか？」といった、「将来への不安」であります。介護度が上がれば、他介護施設へ移り住む他ない状況が、希望されれば「終の棲家」として、グランドガーデン南町も選択できる。利用者に選択肢が増えることはとてもいいことだと感じます。

開設して間もないこともあり、課題は山積しておりますが、関係各所と協力、連携を密にとりながら、選んで頂いたみなさんが安心で快適な暮らしが送れるよう努めてまいる所存です。

委員会・会議編

社会医療法人 全仁会　二十五周年記念誌

委員会編（50音順）

医療ガス安全管理委員会

委員長・議長名　平川　訓己（職種：医師）
委員会設置年月　平成14年４月
開 催 頻 度　１回／年
構成メンバー（委員長も含む）計９名

医師：	3名	看護師：	2名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	名	事務職：	1名

活動目的

医療ガスの取り扱いにあたり、間違いなく患者に供給する為に、常に高度の安全性を保持しかつ、所定の機能を正常に維持、管理することを目的とする。

活動内容

医療ガス設備点検（通常点検・月１回）および、委託業者の行う定期点検（年２回）の結果をもとに、安全の確認を行う。

・通常点検
各病棟の中央配管における圧縮空気、酸素、吸引の供給設備および酸素ボンベ（500㍑・1,500㍑）の点検。

・定期点検
各病棟の中央配管における圧縮空気、酸素、吸引の供給設備および各供給ガスの機械設備全般・笑気ガス・窒素ガス供給設備全般の点検。

院内感染対策委員会

委員長・議長名　森　幸威（職種：医師）
委員会設置年月　平成３年12月
開 催 頻 度　１回／月
構成メンバー（委員長も含む）計22名

医師：	2名	看護師：	13名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	名	事務職：	2名
リスクマネジメント委員：	1名		

※社会医療法人内だけに止まらず、社会福祉法人等の他施設代表者の参加も促している。

活動目的

①全仁会グループの感染に係わる情報共有と対策決議
②院内感染対策推進状況の確認と評価

活動内容

①全仁会グループ全体の感染症発症状況の情報共有し、相互の対策の問題はないか確認する。
②感染制御チームの活動が適切に行われているか評価・指導を行う。
③施設内における抗菌薬の適正使用が実施されているかチェックする。
④ICTのメンバーの活動サポート。

感染制御チーム（ICT）

委員長・議長名　森　幸威（職種：医師）
委員会設置年月　平成25年４月
開 催 頻 度　１回／月
構成メンバー（委員長も含む）計34名

医師：	3名	看護師：	18名
リハビリスタッフ：	2名	臨床検査技師：	2名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	ＭＳＷ：	1名
介護福祉士：	2名	事務職：	2名
歯科衛生士：	1名		

活動目的

院内感染対策を推進することを目的とする。

活動内容

①年２回全職員を対象に職員研修を開催する。また必要に応じて随時開催する。
②マニュアルの改訂・削除作業を定期的に行い、最新情報を掲載する。
③ICT・ICDラウンドを１回／週行う。

衛生委員会

委員長名　平川　訓己（職種：医師）
委員会設置年月　平成19年７月１日
開催頻度　１回／月（第３月曜日）
構成メンバー（委員長も含む）計18名

医師：	2名	看護師：	4名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	1名	事務職：	8名

活動目的

労働安全衛生法に基づき衛生委員会を設置している。
職員の健康管理の適正および労働災害事故防止、並びに職場環境に関する調査、改善を図ることを目的としている。

活動内容

①職員健康診断結果への対応
　・健康診断の管理とプライバシーの保護
　・放射線障害の調査と対応
②職場環境の調査・改善
　・職場巡視の実施
　・職場の危険要因の調査と対策整備
③労働災害事故の把握・対策
④施設・設備の安全管理

栄養管理委員会

委員長・議長名　吉岡　毅（職種：医師）
委員会設置年月　昭和63年４月
開催頻度　１回／月
構成メンバー（委員長も含む）計25名

医師：	1名	看護師：	10名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	8名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	名	事務職：	1名

委託業者（調理師、管理栄養士を含む）：5名
※栄養科長、事務長、看護部長、各病棟師長、各施設管理栄養士、委託業者

活動目的

倉敷平成病院、倉敷老健、倉敷在宅総合ケアセンターにおける栄養管理の充実と向上により患者、入所者、通所者への食事サービスの向上とその適正な運営を図ることを目的とする。

活動内容

栄養指導状況報告、委託側現状報告、嗜好・調理・配膳に関すること、衛生に関すること、食事計画等の話し合い。

鬼手回春・全仁会ニュース編集委員会

委員長・議長名　高尾　武男（職種：医師）
委員会設置年月　平成４年５月
開催頻度　１回／月（第４金曜日）
構成メンバー（委員長も含む）計15名

医師：	名	看護師：	2名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	3名	事務職：	7名

活動目的

全仁会グループ内の行事・院内外講演・新人職員などを紹介するとともに、職員の生の声を掲載し、職員間の情報交流の場となることを目的とし、院内報「鬼手回春」を毎月発行している。広報誌「全仁会ニュース」（年４回）は患者、患者家族や外部の方に、全仁会グループを知って頂くため、行事を中心に、医師の紹介等を掲載。「鬼手回春」「全仁会ニュース」の編集・発行を円滑に進めることを目的とする。

活動内容

鬼手回春は、昭和63年６月創刊（当時高尾病院）。第４号まで不定期発行。第５号（平成４年５月）より３ヶ月ごとに発行。第９号（平成５年４月）より毎月発行。編集委員会は第５号より発足。広報部が中心となり、毎月１回編集会議を開き、次号の内容や原稿担当を決定。編集委員は担当記事の原稿依頼・回収などをし、広報部に提出。広報部で誌面のレイアウトを行い、印刷・配布。
※第129号（平成15年４月）よりサイズがB5からA4版へ変更。印刷を外部業者委託。平成26年５月で第262号。「全仁会ニュース」は平成21年（第66号）より、印刷委託業者を変更。A4版８ページ。平成26年薫風号（５月）で第76号。

救急委員会

委員長・議長名　篠山　英道（職種：医師）
委員会設置年月　平成14年12月１日
開 催 頻 度　１回／月
構成メンバー（委員長も含む）計14名

医師：	3名	看護師：	3名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	名	事務職：	5名

※必要に応じて、理事長が構成メンバーに加わります。

活動目的

「救急から在宅まで何時いかなる時でも対応します」という理念の下、積極的な救急医療を実践し、地域医療の発展に寄与する。そのためにチーム医療を展開すべく、情報交換、対策検討、勉強会等を行う。

活動内容

今までの救急医療への取り組み等が評価され、平成22年12月に全仁会は「社会医療法人」としての認可を受けた。救急部発足当時は、約90件／月だった救急搬送の受け入れが、平成25年には約150件／月に増加している。信頼される全仁会グループとして、一致団結して救急医療等、地域医療に更に邁進する。

教育委員会

委員長・議長名　小山　恵美子（職種：看護師）
委員会設置年月　平成４年４月
開 催 頻 度　１回／月（第４水曜日）
構成メンバー（委員長も含む）計11名

医師：	名	看護師：	7名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	4名	事務職：	名

※構成メンバーは年度による。

活動目的

全仁会グループの看護師、介護福祉士の専門性を高め、看護サービスの向上に資することを目的とする。

活動内容

①看護師・介護福祉士の教育計画の立案・実践・評価に関する事項
②看護・介護の研究に関する事項
③その他

クリティカルパス委員会

委員長・議長名　平川　宏之（職種：医師）
委員会設置年月　平成13年４月１日
開 催 頻 度　１回／月（第３木曜日）
構成メンバー（委員長も含む）計22名

医師：	1名	看護師：	12名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	名	事務職：	4名

活動目的

看護のレベル・経験に関係なく均質化した看護を提供し、患者・家族が納得・安心して入院生活が送れるように、より質の高い患者サービスを提供することおよび医療の効率化を図ることを目的とする。

活動内容

クリティカルパスの作成・評価・修正を行っている。
平成25年12月より電子カルテ導入となり、電子カルテへ移行後の使用方法の周知徹底を行う。

個人情報管理委員会

委 員 長 名　高尾　芳樹（職種：医師）
委員会設置年月　平成12年４月１日
開 催 頻 度　１回／２ヶ月（第２木曜日）
構成メンバー（委員長も含む）計35名程度

医師：	1名	看護師：	3名
リハビリスタッフ：	複数名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	ＭＳＷ：	1名
介護福祉士：	複数名	事務職：	1名

活動目的

全仁会グループにおいて、個人情報保護法に基づき患者、利用者、その家族および職員の個人情報漏洩防止や個人情報を安全かつ適正に管理・使用するために個人情報の具体的な運用に関する事項を定めることを目的とする。

活動内容

①個人情報の対象に関する事項
②個人情報の収集、管理・利用・公開または非公開に関する事項
③個人情報の開示または訂正に関する事項
④個人情報の保護に関する規定および改正に関する事項
⑤個人情報保護管理者に対する指導または助言に関する事項
⑥個人情報に関する不服申し立てについて審議・決定に関する事項

褥瘡対策委員会

委員長・議長名　石田　泰久（職種：医師）
委員会設置年月　平成14年８月
開 催 頻 度　１回／月
構成メンバー（委員長も含む）計26～28名

医師：	1名	看護師：	18名
リハビリスタッフ：	２～３名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	1名	事務職：	１～２名

活動目的

褥瘡の発症ゼロを目標とし、専門的立場から院内の褥瘡予防および適切な治療が実施できるよう検討する。

活動内容

・１回／週の褥瘡回診を行い、ケアや処置の方法などを検討する
・１回／月の委員会開催
・２回／年の勉強会開催

診療録管理委員会

委員長・議長名　高尾　聡一郎（職種：医師）
委員会設置年月　平成４年５月
開 催 頻 度　不定期
構成メンバー（委員長も含む）計20名

医師：	2名	看護師：	8名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	名	事務職：	5名

活動目的

診療録管理・診療情報に関する問題を協議し、医療の質の向上とより良い医療が提供できるよう、業務の合理化とともに円滑な運用を図ることを目的として活動している。

活動内容

各部署からの問題点を洗い出し、改善策を討議している。
①診療記録の様式、記入方法に関する事項
②診療記録のファイリング方法に関する事項
③その他診療記録に関する事項

相談員・ケアマネジャー事例検討会

委員長・議長名　（職種：MSW、ケアマネジャー、各事業所相談員等）
委員会設置年月
開 催 頻 度　2回／月
構成メンバー（委員長も含む）計38名

ＭＳＷ：	6名	社会福祉士：	2名
ＰＳＷ：	1名	相談員：	6名
ケアマネジャー：	22名	看護師：	1名

※業務経験年数に応じて、１グループ７～８名で構成。

活動目的

・相談援助技術における問題解決能力とその応用力を習得する
・部署や職種にとらわれず、広い視野と考え方を深める
・相談援助技術における倫理観・価値観を学ぶ
・問題を共有することで、職種間連携の重要性を学ぶ
・少人数の部署の相談員のフォローアップを行う

活動内容

毎月第３・４木曜日（または第４・５木曜日）に１グループずつが事例検討を実施する。各事例検討会には、アドバイザーとして管理職がつき、事例発表者や司会担当者等と事前に事例を挙げる目的、事例の資料等について話し合う。事例検討会は１時間とし、事例紹介→質疑応答→検討項目についてメンバーから意見を出し合う→事例提供者の感想→アドバイザーのまとめで会を終了する。検討会の内容については、各回毎に記録を残している。

治験審査委員会

委員長・議長名　高尾　芳樹（職種：医師）
委員会設置年月　平成22年12月１日
開 催 頻 度　原則隔月開催
構成メンバー（委員長も含む）計９名

医師：	3名	看護師：	1名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	名	事務職：	1名
外部有識者：	3名		

※構成メンバーは院長が指名する。任期は定めていない。

活動目的

治験および製造販売後臨床試験がヘルシンキ宣言の主旨およびGCP省令等に基づいて、倫理的・科学的・医学的・薬学的観点から、その実施および継続等がされているかを審議・評価する。
医薬品の開発に携わる医師、製薬会社等から独立した第三者的な立場で被験者の人権保護と安全確保のために公正な審議を行なう。院長の諮問機関として重要な役割を担っている。
※GCP（Good Clinical Practice）：医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令

活動内容

治験に参加する被験者の人権と安全を守るために委員が一同に会し、治験責任医師、治験依頼者より提出された資料に基づき新規治験の実施の適否および実施中の治験の継続の適否について審議している。

DPC委員会

委員長・議長名　平川　訓己（職種：医師）
委員会設置年月　平成19年６月
開 催 頻 度　１回／２ヶ月（偶数月）
構成メンバー（委員長も含む）計10名

医師：	2名	看護師：	1名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	名	事務職：	4名

活動目的

社会医療法人全仁会のDPCに関する業務の円滑で効率的な運用を図ることを目的とする。

活動内容

①適切なDPCコーディングに関する検討
②診断および治療方法の適正化・標準化に関する検討
③省庁からの通知等に関する連絡
④その他DPC業務に関する事項

図書委員会

委員長・議長名　平川　訓己（職種：医師）
委員会設置年月
開 催 頻 度　不定期
構成メンバー（委員長も含む）計５名

医師：	1名	看護師：	名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	名	事務職：	4名

活動目的

全仁会グループ職員の知識および技術向上を図るために図書資料の管理を行うことを目的とする。

活動内容

①図書の購入計画の策定および予算化に関する事項
②図書購入希望への対応に関する事項
③図書の登録、保管、廃棄に関する事項
④文献検索機能の整備に関する事項

認知症疾患医療センター運営委員会

委員長・議長名　高尾　芳樹（職種：医師）
委員会設置年月　平成25年４月１日
開 催 頻 度　１回／週（月曜日　17：30～）
構成メンバー（委員長も含む）計13名程度

医師：	2名	看護師：	3名
リハビリスタッフ：	2名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ・ＰＳＷ：	3名
介護福祉士：	名	事務職：	3名

※構成メンバーは議題による。

活動目的

①もの忘れ外来の運用状況の確認と改善
②認知症疾患医療センターの運営事業の企画・運営

活動内容

もの忘れ外来の運営上の課題を確認し、患者がスムーズに検査と受診ができるようにする。
患者・家族が安心して受診できるような見守りの体制を整える。
運営事業の中に規定されている、研修会・連携会議・情報発信を行う。

年報編集委員会

委員長・議長名　大浜　栄作（職種：医師）
委員会設置年月　平成23年６月１日（規則制定日）
開 催 頻 度　不定期
構成メンバー（委員長も含む）計21名

医師：	5名	看護師：	3名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	1名
介護福祉士：	名	事務職：	10名

活動目的

その年１年の全仁会の基本情報、また、抄録集や研究業績として職員の参加学会・講演の概要などを記載することで、学術的なアピールの手段とする。
また職員に対し、仕事への取り組み方の相互理解を深め、病院の基本方針を見つめなおす手段とする。１年の様々な動向を数値で見ることで、改善できうるところは改善し、さらに今後の傾向を知り、対策をとる。

活動内容

①広報室が中心となり、全職員の学会発表やメディア出演、部署別の各種月平均データなどの全仁会グループ１年間の業績を調査し、毎年年報を発行
②全部署および関連の外部施設に発送

防災委員会

委員長・議長名　華山　博美（職種：医師）
委員会設置年月　平成15年４月１日
開 催 頻 度　１回／週（秋期時）
構成メンバー（委員長も含む）計25名

医師：	1名	看護師：	6名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	2名
介護福祉士：	5名	事務職：	5名
歯科衛生士：	1名		

※構成メンバーは年度による。（25名程度）

活動目的

政令別表第１（防火管理六法）に掲げる防火対象物の区分として、収容人員数30人以上の病院（第６項イ）、介護老人保健施設（第６項ロ）に定められており、年１回以上の防災訓練を行い職員一人一人の防災意識の向上を図ることを目的とする。

活動内容

毎年秋期時に防災委員会を開催し、マニュアル訓練実施にあたってのミーティングを３～４回開く。内容は「出火→初期消火→通報→避難」における各部署の各個人の役割を把握し、火災の被害を最小限に抑える活動を行う。
また、年１回（10月）倉敷市防火協会の開催する消火技術訓練大会（※P.129に掲載）に出場し、日頃の訓練の成果を発揮する。

薬事委員会

委員長・議長名　渋谷　啓（職種：医師）
委員会設置年月　平成19年４月１日
開 催 頻 度　１回／２ヶ月
構成メンバー（委員長も含む）計33名

医師：	30名	看護師：	1名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務職：	1名

※審議内容により、委員長の指名により、メンバー以外の職員の出席を求めることがある。
緊急審議の必要がある場合は、委員長が緊急委員会を招集する。

活動目的

倉敷平成病院の薬事について、その適正かつ合理的な運用を図ることを目的とする。

活動内容

①新規採用医薬品の検討
②医薬品の採用中止・規格整理等についての検討
③後発医薬品の導入（先発医薬品からの切り替え）に関する検討
④医薬品適正使用の連絡（緊急安全性情報、医薬品使用ガイドライン等）
⑤期限切迫医薬品の連絡
⑥採用中止が決定している医薬品の在庫状況報告
⑦医薬品による院内副作用報告
⑧その他連絡事項（処方上限解除等）

輸血療法委員会

委員長・議長名　青山　雅（職種：医師）
委員会設置年月　平成15年7月1日
開 催 頻 度　1回／2ヶ月（6回／年）
構成メンバー（委員長も含む）計21名

医師：	5名	看護師：	10名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	3名
放射線技師：	名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務職：	2名

活動目的

輸血療法を安全に行うとともに、治療後の安全管理を徹底することを目的とする。

活動内容

輸血療法の適用、輸血製剤の選択、輸血検査項目・術式の選択、輸血実施時の手続き、輸血製剤の使用状況、輸血療法に伴う事故や副作用・合併症等に関する事項について審議・決定する。

リスクマネジメント委員会

委 員 長 名　高尾　芳樹（職種：医師）
委員会設置年月　平成11年4月1日
開 催 頻 度　1回／月（第4木曜日）
構成メンバー（委員長も含む）計35名程度

医師：	1名	看護師：	複数名
リハビリスタッフ：	3名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	1名
介護福祉士：	複数名	事務職：	複数名

※構成メンバーは年度による。

活動目的

全仁会グループ内で発生した事故についての情報収集・原因解明・分析を通じて事故防止の具体的な対策をはじめとする、事故防止体制の確立と、職員への教育・指導の徹底を図ることを目的とする。

活動内容

①全仁会グループ内で発生した事故についての情報収集原因解明・再発防止策に関する事項
②事故防止のための研修・教育に関する事項
③患者のクレームの対応・相談に関する事項および医療訴訟等の対応

リハビリ推進委員会

委員長・議長名　高尾　祐子（職種：医師）
委員会設置年月　平成19年4月1日
開 催 頻 度　1回／月
構成メンバー（委員長も含む）計19名

医師：	2名	看護師：	名
リハビリスタッフ：	17名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	名
介護福祉士：	名	事務職：	名

※緊急審議の必要がある場合は、委員長が緊急委員会を招集する。
構成メンバーの過半数の出席を以て、委員会の成立要件とする。
事務局はリハビリテーションセンターとする。

活動目的

全仁会グループにおけるリハビリテーション医学・医療の充実を図り、質の高いリハビリテーションサービスを患者、利用者に提供する。

活動内容

・年間計画、事業計画の作成および進捗確認
・全仁会グループのリハビリテーション部門の実績検討と目標設定
・全仁会グループのリハビリテーション部門の各部署での量的・質的改善と、部門間の連携・情報共有
・法人内の他部門、法人外との連携

臨床検査適正化委員会

委員長・議長名　鈴木　健二（職種：医師）
委員会設置年月　平成13年４月１日
開 催 頻 度　不定期（３回～／年）
構成メンバー（委員長も含む）計10名

医師：	5名	看護師：	2名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	名	事務職：	2名

※委員会開催日は医局会に併せて実施する。

活動目的

臨床検査部と他部門との交流を図り、検査部門の運営および診療業務の円滑化、患者に提供する医療サービスの向上を図ることを目的とする。

活動内容

臨床検査の精度向上、検査項目新規採用および統廃合、臨床検査業務に関する連絡・調整に関する事項等について審議・決定する。

倫理委員会

委員長・議長名　大浜　栄作（職種：医師）
委員会設置年月　平成21年１月15日
開 催 頻 度　随時開催
構成メンバー（委員長も含む）計14名

医師：	4名	看護師：	1名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	名	事務職：	1名
外部有識者：	4名		

活動目的

医療行為および医学の研究において、臨床倫理の適正な保持のため、以下の事項について調査検討をする。
①医療にかかる法律の遵守に関すること
②患者の権利（医療を受ける権利、身体的安全が確保される権利、選択の自由を有する権利、情報を得る権利、プライバシーが守られる権利、苦情を申し立てる権利）に関すること
③臓器移植および新治療法の採用に関すること
④臨床研究に関すること
⑤治験に関すること
⑥職業倫理に関すること
⑦その他医療倫理の適正な保持に関し必要な事項
但し、⑤治験に関することは別途、治験委員会を設け、調査検討することとする。

活動内容

職員が患者、利用者の検体、情報を利用し論文、ポスター展示などの学会発表、院外発表や院内の研究発表などでの臨床研究を行う場合の倫理的審査を行う。

レクリエーション委員会

委員長・議長名　金光　秀彰（職種：事務）
委員会設置年月　昭和63年１月
開 催 頻 度　不定期
構成メンバー（委員長も含む）計31名

医師：	名	看護師：	2名
リハビリスタッフ：	2名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	ＭＳＷ・ケアマネ：	2名
介護福祉士：	13名	事務職：	7名
歯科衛生士：	1名		

※構成メンバーは年度により若干の増減あり。

活動目的

職員の心身のリフレッシュ、職場の人間関係の構築並びに改善、職員間のコミュニケーションの活性化を目的とする。

活動内容

新年会の運営やサポート、演芸の準備および進行を担当。
新入職員歓迎親睦スポーツ大会なども過去には開催。
平成26年度は職員旅行を計画中。

わかりやすいやさしい医療推進委員会

委 員 長 名　森　幸威（職種：医師）
委員会設置年月　平成13年４月１日
開 催 頻 度　１回／月（第１水曜日）
構成メンバー（委員長も含む）計30名程度

医師：	1名	看護師：	10名
リハビリスタッフ：	複数名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	ＭＳＷ：	1名
介護福祉士：	複数名	事務職：	2名

※構成メンバーは年度による。

活動目的

全仁会グループの各施設において、患者の安全に配慮し、患者の尊厳を尊重し、患者本位四原則に沿った医療・介護サービスを提供することにより、患者に選ばれる医療機関・施設となることを目的とする。

活動内容

①患者本位四原則の実践に関する事項
②職員の接遇教育に関する事項
③病院機能評価の更新に関する事項
④インフォームドコンセントに関する事項

会議編

外来会議

委員長・議長名　青山　雅（職種：医師）
委員会設置年月
開 催 頻 度　１回／月（第２月曜日）
構成メンバー（委員長も含む）計15名

医師：	3名	看護師：	3名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	1名
介護福祉士：	名	事務職：	4名

※議案によってメンバーは随時増員される。

活動目的

社会医療法人全仁会倉敷平成病院において患者本位の質の高い医療実現のため、健全な外来運営と外来機能の充実を図ることを目的とする。

活動内容

①外来業務体制に関する事項
②救急外来の受入れ体制に関する事項
③自家用救急車受入れ体制に関する事項
④他の医療機関との連携に関する事項

手術室運営会議

委員長・議長名　和田　聡（職種：医師）
委員会設置年月　平成19年４月
開 催 頻 度　１回／月（第４水曜日）
構成メンバー（委員長も含む）計14名

医師：	10名	看護師：	3名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	名	事務職：	1名

活動目的

手術室の円滑な運営および安全な管理を図ることを目的とする。

活動内容

①適正な運営のため調整（日程、時間等）に関する事項
②手術室に関連する医療機器、備品に関する事項
③運営状況の評価および検討に関する事項
④手術に伴う安全管理の評価および検討に関する事項
⑤その他

入退院調整会議

委員長・議長名　篠山　英道（職種：医師）
委員会設置年月　平成19年４月１日
開 催 頻 度　１回／週（毎週火曜日　16：00～）
構成メンバー（委員長も含む）計20名

医師：	1名	看護師：	6名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW・ケアマネ・相談員	11名
介護福祉士：	名	事務職：	1名

※病院各病棟関係者に加えて、各介護系施設担当者が加わることでグループ内の情報共有の場としている。

活動目的

①病床利用の効率化により平均在院日数の短縮を目指す
②入院患者の診療情報を各部署で共有し、回復期・亜急性期病床の効率的利用と入退院の円滑化を図り、救急入院

病床の確保
③全仁会グループの利用状況を知ることで退院先の選択肢を増やし適切な退院援助の糧とする

活動内容

・急性期の回リハ待機者とDPC期限のリスト準備（医事課入院担当）
・平均在院日数、回復期リハビリテーション病棟の各基準（在宅率・重症改善率・看護必要度）の現状報告
・治療状況により患者の各施設への退院や、一般病棟から亜急性期病棟、回復期リハビリテーション病棟への転棟患者や移動時期について協議
・全仁会グループ各施設の空床状況・受け入れ可否の報告
・週ごとの入院患者の傾向・他病院からの転院希望状況確認

実績検討会議

委員長・議長名　高尾　聡一郎（職種：医師）
　　平川　訓己（職種：医師）
委員会設置年月
開 催 頻 度　1回／月
構成メンバー（委員長も含む）計70名

医師：	33名	看護師：	11名
リハビリスタッフ：	3名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	1名
介護福祉士：	名	事務職：	18名

活動目的

社会医療法人の事業計画を達成することを目的とする。

活動内容

主な活動内容は以下の通り。
①前月実績の報告
②当月予測の報告
③当月の計画達成上の課題・対策報告および検討

介護系実績検討会議

委員長・議長名　高尾　聡一郎（職種：医師）
委員会設置年月　平成14年4月1日（規則制定日）
開 催 頻 度　1回／月
構成メンバー（委員長も含む）計44名

医師：	5名	看護師：	8名
リハビリスタッフ：	3名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW：	4名
介護福祉士：	8名	事務職：	16名

活動目的

介護系の事業計画を達成することを目的とする。

活動内容

月1回の定例会議を行い、以下の内容を報告・検討する。
①介護系全体の計画達成状況の報告
②事業所別の計画達成状況の報告
③当月の課題・対策の報告および検討

未収金会議

委員長・議長名　家村　益生（職種：事務）
委員会設置年月　平成16年4月1日
開 催 頻 度　1回／月
構成メンバー（委員長も含む）計9名

医師：	名	看護師：	2名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	MSW・ケアマネ・相談員	2名
介護福祉士：	名	事務職：	5名

※構成メンバーは年度による。

活動目的

全仁会グループにおける診療報酬・介護報酬に対し、患者・利用者負担の未収金の発生防止の意識を高め、発生した場合の未収金の回収方法を検討する。

活動内容

社会医療法人・社会福祉法人・有限会社からなる全仁会グループの各部署・施設において、患者・利用者がどのステージで未収金を発生させているかの情報を共有し回収対策を検討すると共に、各部署・施設において未収金が拡大しない取り組みを行う。

コスト会議

委員長・議長名　金光　秀彰（職種：事務）
委員会設置年月　平成19年４月
開 催 頻 度　１回／月
構成メンバー（委員長も含む）計８名

医師：	名	看護師：	名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	名	事務職：	8名

活動目的

全仁会の事業活動拡大に伴い、医療機器をはじめとする必要物品の購入は、年々増加傾向にある。また、各施設の老朽化が進み、保全や修理が必要な箇所も増加している。
コスト会議は、効率的な予算分配と計画的な購入・保全活動の実施により、全仁会の機能が適性に維持できることを活動目的とする。円滑な機能維持を活動目的とする。

活動内容

①物品購入、施設増改築に関する年度事業計画の策定
②事業計画の活動進捗および予算管理
③コスト削減案の検討

安全運転会議

委員長・議長名　小坂　聡弘（職種：事務）
委員会設置年月　平成13年
開 催 頻 度　１回／月（第1月曜日　13：00～14：00）
構成メンバー（委員長も含む）計40名

医師：	名	看護師：	名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	1名
介護福祉士：	名	事務職：	4名
運転手：	34名		

※構成メンバーは年度による。

活動目的

運転者に対して国家公安委員会公表の「交通安全教育指針」に従った安全運転教育を行う。

活動内容

・事故事例の報告・対策等の周知・徹底
・交通ルール・交通マナーの教育・徹底
・季節における安全運転のポイントの周知・徹底
・送迎業務におけるインシデント・アクシデントの情報共有
・業務改善

医局会

委員長・議長名　平川　訓己（職種：医師）
委員会設置年月　昭和63年１月
開 催 頻 度　２回／月
構成メンバー（委員長も含む）計37名

医師：	37名	看護師：	名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	名	事務職：	名

活動目的

全仁会の各種会議、委員会での決定事項を医局員へ通知徹底を図り、経営方針に沿った患者本位の医療を迅速に行い、医局員相互並びに他部署との連携親睦を図る。

活動内容

各種会議・委員会より伝達、各部署との連携、症例検討会、学会報告などの勉強会。

全仁会師長会

委員長・議長名　山田　奈々子（職種：看護師）
委員会設置年月　平成19年4月1日（規定制定日）
開 催 頻 度　１回／月（第１月曜日）
構成メンバー（委員長も含む）計19名

医師：	名	看護師：	18名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	名	事務職：	名
その他：	1名		

活動目的

倉敷平成病院をはじめ、全仁会グループ各施設内の情報を共有することで、継続した質の高い看護・介護サービスの提供を目指す。併せて看護師・介護福祉士の働きやすい職場環境作りをすすめる。

活動内容

①業務改善
②職場環境整備
③各部署からの情報伝達
④症例検討会
⑤看護セミナー企画運営　等

病院師長会

委員長・議長名　武森　三枝子（職種：看護師）
委員会設置年月　昭和63年１月
開 催 頻 度　２回／月
構成メンバー（委員長も含む）計10名

医師：	名	看護師：	10名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	名	事務職：	名

活動目的

情報の共有化のもとチーム医療を強化し、質の高いサービスを患者に提供することを目的とする。
併せて、スタッフの能力が十分発揮できるような働きやすい職場環境作りを推進する。

活動内容

次のことについて話し合う。
①看護業務の改善（記録物の見直しを含む）に関する事項
②安全・安楽な看護サービス提供の具体的方策
③職場環境の整備に関する事項
④在院日数短縮に関する事項
看護に関連する協議や報告の場であると同時に、師長がお互いに成長する機会とし、管理能力向上の場ともなっている。

病院看護部主任・副主任会議

委員長・議長名　担当主任（職種：看護師・介護福祉士）
委員会設置年月　平成20年１月
開 催 頻 度　１回／月（第１木曜日　17：30 ～）
構成メンバー（委員長も含む）計20名

医師：	名	看護師：	17名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	3名	事務職：	名

活動目的

病棟間での情報の共有化のもと、業務改善・職員の能力向上およびチーム医療を強化し全仁会の看護・介護職相互の信頼関係を構築することにより、質の高い看護・介護サービスを患者に提供することを目的とする。併せて、スタッフの能力が十分発揮できるような働きやすい環境作りを行う。

活動内容

①看護・介護業務の改善に関する事項
②安全・安楽な看護・介護サービス提供の具体的方策
③職場環境の整備に関する具体的方策
④成人看護学実習の受け入れ病院として統一された看護手順・実施・評価に関する事項
以上のことにつき話し合いを行い、全仁会全体の看護の質の向上を目指す。
【平成24年度の初めての取り組み】
①看護セミナー後に岡山県内の看護師を招いた看護部懇親会を開催
②のぞみの会での看護部ブース設置（看護の１日の流れの写真展示）
③BLS研修（日本BLS協会）取得100%を目指し、来年度の院内研修に活かす
※BLS（Basic Life Support）：一次救命処置

職員全体集会

委員長・議長名
委員会設置年月
開 催 頻 度　１回／月（第２水曜日）
構成メンバー（委員長も含む）全職員

医師：	名	看護師：	名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	名	事務職：	名

活動目的

全仁会グループ全体の理念・経営方針の周知徹底を目的とする。職員の方向性を同じくし、組織力を高めるために代表・理事長および院長が全職員に向け直接訓示する場として月１回開催する。

活動内容

①経営方針に関する事項
②各種事業、計画の進捗状況に関する事項

③各種委員会・会議・部署からの重要報告に関する事項
④その他

全仁会４本柱

全仁会研究発表大会実行委員会

委 員 長 名　高尾　聡一郎（職種：医師）
委員会設置年月　平成４年
開 催 頻 度　１回／月（第２金曜日）
構成メンバー（委員長も含む）計44名

医師：	1名	看護師：	11名
リハビリスタッフ：	6名	臨床検査技師：	2名
放射線技師：	1名	薬剤師：	2名
管理栄養士：	1名	MSW･ｹｱﾏﾈ･相談員:	2名
介護福祉士：	8名	事務職：	9名
歯科衛生士：	1名		

※全仁会グループの各部署から１～２名選出される。（40～45名程度）

活動目的

全仁会研究発表大会の企画および運営を行うことにより、全仁会職員の質的向上、チーム機能の強化を図り、全仁会の発展に貢献する。

活動内容

研究発表テーマに対して各部署や部署を超えたチームから演題が出され、アドバイザーにアドバイスを受けながら、研究を進めている。研究発表大会実行委員は研究デザイン発表、中間報告会、研究発表大会の運営・進行を行い、各部署の研究チームのサポートも行う。研究発表大会審査委員会にて審査を行い賞を決定、優秀な演題に表彰状と賞金を贈る。日本病院学会へ出題する演題決定を行う。

研究発表大会　受賞一覧

平成15年度（第12回）
テーマ：情報の共有化とチーム医療　～在院日数の短縮に向けて～　総演題数29演題

賞	部署	演題
理事長賞	放射線部･臨床検査部	予約検査のチーム全体の連携について
優 秀 賞	脳ドック	ドック受診後の外来受診増加を目指す
優 秀 賞	デイケア	問題行動について　～タイプ別対応による効果～
創 造 賞	医事課	経過観察入院の増加を目指して
創 造 賞	脳リハ	院内脳リハビリのシステムの見直しを行い、脳活性化プログラムの充実を図らる　～機能面の向上を目指して～
協 力 賞	訪問看護ステーション	住環境・福祉用具の活用について　～調査表を用いての情報の共有化～
協 力 賞	PT・OT・ST	入院時リハビリテーション診療、経過記録の簡素化
協 力 賞	ケースワーカー室	老健・ショートステイ利用による在院日数の短縮化に向けて　～各窓口の情報の共有化を考える～

研究中間発表：平成15年８月28日（木）、29日（金）
研 究 本 発 表：平成15年11月26日(水)､27日(木)､28日(金)

平成16年度（第13回）
テーマ：急性期特定病院の施設基準獲得　－具体的な課題解決－

賞	部署	演題
理事長賞	３西・栄養科	患者の「食」へのQOL向上を求めて
優 秀 賞	脳ドック	外来紹介率UPを目指して
優 秀 賞	デイケア	問題行動別、重度痴呆患者への取り組み
優 秀 賞	老健	肺炎の重症化の予防
創 造 賞	老健	体力の衰えを感じていませんか？
創 造 賞	ショートステイ	事故防止への取り組み
創 造 賞	ケアプラン室	開業医から当居宅への紹介率UPを目指して
協 力 賞	ケースワーカー室	在院日数の短縮化に向けてのスムーズな退院援助のシステム化を目指して
協 力 賞	デイリハ	地域医療・在宅との連携においてのデイリハの役割
協 力 賞	４西	高齢者糖尿病患者の教育入院

研 究 本 発 表:平成16年11月24日(水)､25日(木)､26日(金)

平成17年度（第14回）
テーマ：オーダリングシステムの機能と効率化
総演題数23演題

賞	部署	演題
理事長賞	３西	看護支援システムの有効利用を目指して　◎

賞	部署	演題
優 秀 賞	栄養科・ケアハウス	栄養不良患者様の栄養状態改善とQOL向上への取り組み　◎
創 造 賞	総務部	イントラネットを使った情報伝達の効率的活用　◎
創 造 賞	デイリハ	認知症に対する脳のトレーニング（計算・音読による効果）　◎
協 力 賞	訪問看護・4東・ケアプラン室	オーダリングシステムにおいての情報の共有化　◎
協 力 賞	歯科・3東	入院患者が歯科早期介入するためのシステム化　◎
努 力 賞	臨床検査部	オーダリングシステム導入後の運用体制について　◎
特 別 賞	外来	オーダリングシステム導入に向けての取り組み　◎

研究中間発表：平成17年7月26日（火）、27日（水）
研 究 本 発 表：平成17年11月29日（火）、30日（水）
◎第56回日本病院学会で発表
平成18年7月7日、8日　於：岡山コンベンションセンター　他

平成18年度（第15回）
テーマ：オーダリングシステムの有効利用　介護のEBMとは
総演題数25演題

賞	部署	演題
最優秀賞	歯科・ST	口腔乾燥が嚥下におよぼす影響
優 秀 賞	栄養科	NSTのもたらす効果　◎
優 秀 賞	3西	オーダリングシステムを活用した効果的なフットケアの実現　－足病変入院時アセスメントの実施から－　◎
創 造 賞	老健本館	老人性乾燥肌の軽減　－ボディーソープと保湿剤の検討－　◎
創 造 賞	2階	嚥下障害のある方へのアプローチ　◎
協 力 賞	医事課（外来共同研究）	オーダリングシステム導入後の患者サービスの取り組み①　－システム導入後の患者サービスに繋がる効果－
	外来（医事課共同研究）	オーダリングシステム導入後の患者サービスの取り組み②　－外来看護師としての役割と業務の見直し－
協 力 賞	臨床検査部	検査運用システムの合理化
努 力 賞	通所リハ	音楽療法が脳に与える影響
努 力 賞	相談室	在宅介護の現状と援助方法について　◎

研究中間発表：平成18年7月25日（火）、26日（水）
研 究 本 発 表：平成18年11月28日（火）、29日（水）
◎第57回日本病院学会で発表
平成19年6月14日、15日　於：つくば国際会議場

平成19年度（第16回）
テーマ：患者本位の医療　総演題数27演題

賞	部署	演題
理事長賞	2階	スムーズな入院受入れに向けた取り組み
優 秀 賞	4東	転倒・転落件数の減少を目指して～スタッフの意識向上へ向けた取り組み～　◎
優 秀 賞	臨床検査部	長期投薬患者における副作用のモニタリング　～簡易システムの構築に向けて～　◎
創 造 賞	CP	BPSDを伴う認知症者に対して個別心理療法が及ぼす影響
協 力 賞	3西・美容C	足病変の早期発見と個々に応じたフットケアの提供への取り組み
努 力 賞	総務部	私達が患者本位の医療を目指して何ができる？　－再来受付機案内と電話応対の見直し－
努 力 賞	医事課	会計時の待ち時間短縮を目指して
努 力 賞	通所リハ（リハ部門）	通所リハにおけるリハビリ実施者の身体面・精神面の経時的変化について
努 力 賞	脳ドック	検診チームの連携による待ち時間の短縮

研究中間発表：平成19年7月24日（火）、25日（水）
研 究 本 発 表：平成19年11月26日（月）、27日（火）
◎第58回日本病院学会で発表
平成20年7月3日、4日　於：山形テルサ、ホテルメトロポリタン山形、山形国際会議場

平成20年度（第17回）
テーマ：患者本位の医療　総演題数27演題

賞	部署	演題
理事長賞	ST	アルツハイマー病における認知機能の継時的変化　－6年間の経過の検討－
優 秀 賞	臨床検査部	採血管変更における患者負担の軽減について
優 秀 賞	生活C	「糖尿病健康手帳」の配布・活用による糖尿病の知識の向上と血糖コントロール改善への効果　◎
創 造 賞	4東	回復期リハビリ病棟（4東）における足病変の早期発見と適切な履物の選定の検討　－意識改革とシステム作りに取り組む－
創 造 賞	通所リハ	脳活性プログラムの充実を目指して
協 力 賞	外来	外来における感染危機管理　～外来職員の意識調査と対応の統一化～
協 力 賞	薬剤部	消毒薬の適正使用、管理について
特 別 賞	美容C	アメニティの改善とその効果　◎

研究中間発表：平成20年7月31日（木）、8月1日（金）
研 究 本 発 表：平成21年1月26日（月）、27日（火）
◎第59回日本病院学会で発表
平成21年7月23日、24日　於：崇城大学市民ホール（市民会館）、熊本市国際交流会館　他

平成21年（第18回）
テーマ：①業務改善②コラボレーションによる患者サービスの向上　総演題数28演題

賞	部署	演題
理事長賞	外来	患者様のスムーズな入院を目指して　～各部門との連携を踏まえた入院までのプロセスの効率化を図る～
優 秀 賞	医事課	DPC導入に伴う対応について
優 秀 賞	４東①	回復期リハビリ病棟（４東）における在宅指導の充実　～多職種における患者・家族への介護・リハビリ教室の開催～　◎
創 造 賞	薬剤部	持参薬の管理に関する薬剤師の関わり
創 造 賞	医療情報室・ケアプラン室・予防リハ・通所リハ	利用者および事業者データ等の一元管理・活用によるマーケティング活動の改善　－通所系サービス利用者数アップを目指して－　◎
敢 闘 賞	４東②・臨床検査部	～より良いフットケアを目指して～　足部の血行促進のためのケア方法の検討
敢 闘 賞	通所リハ	徘徊、夕暮れ症候群に対する取り組み　～穏やかな生活を求めて～
特 別 賞	臨床検査部・栄養科	プレアルブミン測定による栄養不良患者のケア　～在院日数の短縮・医療費削減を目指して～　◎

研究中間発表：平成21年７月27日（月）、28日（火）
研 究 本 発 表：平成21年12 月７日（月）、８日（火）
◎第60回日本病院学会で発表
　平成22年７月22日、23日　於：長良川国際会議場、岐阜都ホテル　他

平成22年（第19回）
テーマ：患者本位の医療　～患者満足（度）を向上させるには～　総演題数29演題

賞	部署	演題
理事長賞	臨床検査部・栄養科	Controlling Nutritional Status（CONUT）による栄養状態の評価　◎
優 秀 賞	４東・４西	安心してリハビリテーションを続けていただくために　～迅速な急変時の対応に向けて～
優 秀 賞	PT	当院入院患者の「歩行自立度」を評価する方法の検討　－転倒リスクの観点から－　◎
創 造 賞	外来・生活C	外来クリティカルパスに基づく糖尿病合併症の検索と患者教育
創 造 賞	薬剤部	腎機能低下時における薬剤の適正使用に向けて　◎
創 造 賞	ST	言語障害のある方とのコミュニケーション方法　～より良い関わり方を目指して～
協 力 賞	栄養科	患者さんが満足する食事の提供を図るために　～問題点が明確になる嗜好調査方法の検討～
協 力 賞	３東・３西	２交代制勤務の導入による看護の質の向上

研究方法にロジックツリーを取り入れる
研究中間発表：平成22年７月26日（月）、27日（火）
研 究 本 発 表：平成22年12月６日（月）、７日（火）
◎第61回日本病院学会で発表
　平成23年７月14日、15日　於：京王プラザホテル

平成23年（第20回）
テーマ：職種間のチーム医療の実践　総演題数28演題

賞	部署	演題
最優秀賞	臨床検査部	栄養サポートパラメータの評価と構築CONUTによるフローチャートを用いて　◎
優 秀 賞	放射線部	造影剤使用におけるリスクマネージメント　－より安全な造影検査を目指して－
優 秀 賞	４東（感染）	４階東病棟における患者及び多職種の手指汚染の実態調査と対策
創 造 賞	PT	当院入院患者における転倒リスクと歩行異常の関連性の検討　－修正版Gait Abnormality Rating Scaleに対する認知機能重症度の影響について－　◎
創 造 賞	３西・栄養・生活C	糖尿病患者における経腸栄養法の検討　～良好な血糖コントロールを目指して～　◎
創 造 賞	薬剤部	ワルファリンカリウム錠の適正使用をめざして
協 力 賞	４東（嚥下）	多職種協働による食事の誤嚥、窒息ゼロへの取り組み
協 力 賞	通所リハ・予防リハ・デイサービスドリーム・ケアプラン室	認知症高齢者の適切な在宅サービス調整を考える　～通所系サービスが在宅を支える～
Good!アドバイス賞	栄養科	

従来の中間発表を研究デザイン発表に変更。（全職員記入のアドバイス用紙・Good!アドバイス賞の導入）
研究デザイン発表：平成23年５月30日（月）
研 究 本 発 表：平成23年12月５日（月）、６日（火）
◎第62回日本病院学会で発表
　平成24年６月22日、23日　於：福岡国際会議場、福岡サンパレス

平成24年（第21回）
テーマ：チーム医療の充実と質の向上　～機能別連携・職種間連携の実践～　総演題数28演題

賞	部署	演題
理事長賞	薬剤部	病棟薬剤業務と職種間連携の強化　～内服薬に関するリスク軽減に向けて～　◎
最優秀賞	４東（胃瘻）	胃瘻患者の瘻孔周囲に生じる肉芽の原因と対策の検討

賞	部署	演題
優 秀 賞	訪問看護	要援護者の災害時の対応のあり方　～災害意識を向上させるための取り組み～
創 造 賞	臨床検査部	褥瘡発症予測に対する客観的パラメーターの検討　～好中球／リンパ球比（N／L比）及びCONUTの採用～
創 造 賞	ＰＴ	当院入院患者における修正版Gait Abnormality Rating Scaleの職種間信頼性の検討　◎
協 力 賞	４東（抑制）	回復期リハビリ病棟における患者の安全と上肢抑制解除・緩和に向けての検討　◎
Good!アドバイス賞	臨床検査部	

研究デザイン発表：平成24年６月５日（火）
研 究 本 発 表：平成24年12月３日（月）、４日（火）
◎第63回日本病院学会で発表
平成25年６月27日、28日　於：朱鷺メッセ、ホテル日航新潟

平成25年（第22回）
テーマ：職種間連携によるチーム医療　総演題数30演題

賞	部署	演題
代 表 賞	PT	当院入院患者における移動能力の変化と栄養項目指標との関連性の検証　◎
理事長賞	薬剤部	MRSA感染症に対する 塩酸バンコマイシン（VCM）の 適正使用に関する検討　◎
優 秀 賞	通所事業所・ケアプラン室・広報室・方針管理室	全仁会通所系４事業の利用者ニーズに対するサービス提供パターンの研究　◎
創 造 賞	予防リハ	スクエアステップエクササイズが当院予防リハビリ利用者の身体機能に与える影響
創 造 賞	リハ部	入院患者の食事動作における職種間の着眼点の差異に関する質的研究
創 造 賞	臨床検査部	褥瘡発症予測に対する客観的パラメータの検討－第２報　～当院褥瘡診療計画書への反映に向けて～
協 力 賞	ケアプラン室・支援センター	老松･中洲学区における連携強化への取り組み　～認知症高齢者を地域で支えていく為に～
協 力 賞	訪問看護	介護支援専門員との連携強化に向けた取り組み
Good!アドバイス賞	外来	

研究メンバー、研究発表実行委員を中心とした中間報告会を開催
研究デザイン発表：平成25年６月10日（月）
研究中間報告会：平成25年９月３日（火）
研 究 本 発 表：平成25年12月19日（木）、20日（金）
◎第64回日本病院学会で発表（予定）
平成26年７月３日、４日　於：サンポート高松、かがわ国際会議場　他

看護セミナー実行委員会

委員長・議長名　武森　三枝子（職種：看護師）
委員会設置年月　平成３年８月
開 催 頻 度　不定期（２月より、２回／月～１回／週）
構成メンバー（委員長も含む）計４～６名

医師：	名	看護師：	４～６名
リハビリスタッフ：	名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	名	薬剤師：	名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	名	事務職：	名

※構成メンバーは年度による。
当日の運営は、拡大実行委員会として各部署に協力を依頼している。

活動目的

看護セミナーの円滑な運営・開催を行う。

活動内容

次のことについて話し合う。
①看護セミナーの企画、準備に関する事項
②看護セミナーの参加者の募集、広報に関する事項
③その他看護セミナーに関する事項
全仁会グループの中だけにとどまらず、地域の医療関係者や看護・介護を学ぶ学生などと共に、看護・介護の質向上、および有効な連携構築を目指す。

看護セミナーのあゆみ

第13回　平成15年10月19日（日）
「アルツハイマー病の早期発見・早期治療」
「アルツハイマー病の早期発見と治療法」
鳥取大学医学部保健学科　教授　浦上　克哉
「アルツハイマー病のリハビリテーション効果」
倉敷平成病院　院長　高尾　武男
「在宅療養の継続を目指して　～家族調査を中心に～」
倉敷平成病院　副看護部長（外来担当）　山田奈々子
※第16回神経セミナーと合同開催

第14回　平成16年９月12日
「急性期と慢性期の看護の役割と機能の確立」
話題提供「救急から在宅までのケアシステム」
倉敷平成病院　看護部長　渡邉　広美
特別講演「急性期と慢性期の看護の役割と機能の確立」

日本看護連盟　会長　見藤　隆子

第15回　平成17年９月11日
「これからの看護職に求められる役割」
話題提供「全仁会の歩みと今後の展望」
－看護部の視点から－
倉敷平成病院　看護部長　渡邉　広美
特別講演「これからの看護職に求められる役割」
－診療報酬改正に当たって－
日本看護連盟　幹事長　石田　昌宏

第16回　平成18年９月10日
「地域連携を中心とした医療」－看護の果たす役割－
話題提供「全仁会での地域連携室の果たす役割」
倉敷平成病院　地域連携室　室長
武本　節子
特別講演「地域連携クリティカルパスと地域医療の中で看護の果す役割」
国立病院機構隈本医療センター
統括診療部長　野村　一俊

第17回　平成19年８月11日
「これから求められる看護・介護」
話題提供「救急から在宅までの継続看護の展開」
倉敷平成病院　看護部長　渡邉　広美
特別講演「これからの日本の医療の展望」
－看護・介護を中心に－
日本看護連盟　幹事長　石田　昌宏
特別講演「21世紀の看護・介護の担うもの」
高崎健康福祉大学　看護学部　教授
芝山江美子

第18回　平成20年８月23日
「看護の現場における感動」
～脳卒中急性期からの感動のリレー～
ケース報告1「脳卒中新治療t-PAを施行して」
倉敷平成病院　２階病棟師長
武森三枝子
地域かかりつけ医の立場から
八王寺内科クリニック　壷井　圭一
主治医の立場から
倉敷平成病院　脳神経外科医長
高尾聡一郎
ケース報告2「壮年期の小脳出血を乗り越えて」
倉敷平成病院　4階東（回復期リハビリテーション）
病棟主任　篠田かおる
ケース報告3「高齢者の慢性硬膜下血腫後の在宅援助の経過」
倉敷平成病院　予防リハビリテーション
主任　沖田　真一

第19回　平成21年８月８日
「これからのチーム医療について考える」
～改めて他職種との協働を考える～
話題提供「チーム医療に向けて看護の課題」
倉敷平成病院　看護担当副院長　森本　徳枝
特別講演「チーム医療の実際」
－市立岸和田市民病院を通して－
市立岸和田市民病院　副院長・看護局長
森本　一美
シンポジウム
「他職種との協働を考える～現状と今後の課題～」
〈座長〉倉敷平成病院　看護部長　有光　育代
看護の立場から
倉敷平成病院　３階東病棟看護師
山下亜由美
介護の立場から
倉敷在宅総合ケアセンターショートステイ　介護科長
江口　美樹
在宅の立場から
ヘイセイ訪問看護ステーション　所長
山本　和恵
薬剤師の立場から
倉敷平成病院　薬剤部副主任
市川　大介
リハビリの立場から
倉敷平成病院　リハビリテーション部OT科課長
新崎佐江子
ソーシャルワーカーの立場から
倉敷平成病院　医療福祉相談室　科長
森　智

第20回　平成22年８月７日
「みえる看護・介護の提供をめざして」
話題提供「看護・介護をとりまく環境の変化について」
倉敷平成病院　看護担当副院長　森本　徳枝
シンポジウム１
〈座長〉倉敷老健　看護部長　山田 奈々子
「在宅を支える要因を考える」
１．退院にむけての早期介入援助システムの実践
倉敷平成病院　医療福祉相談室　科長
森　智
倉敷平成病院　地域連携室　室長
武本　節子
２．老健入所者の在宅退所に向けて困難を来した事例
倉敷老健　師長　小林美智恵
３．スムーズに在宅介護となった事例
倉敷老健通所リハビリテーション

介護福祉士主任　宮崎那奈子
4．物忘れ外来の取り組みと看護師の関わり
倉敷平成病院　外来看護師主任
田辺美紀子
倉敷平成病院　外来看護師
宮田さおり
5．デイサービスドリームの現状報告
デイサービスドリーム　管理者
坂本　晋也
シンポジウム2
「看護必要度から看護の観察を考える」
倉敷平成病院　2階看護師主任
岡本なおみ
倉敷平成病院　3階東看護師副主任
山下亜由美
倉敷平成病院　3階西看護師副主任
関藤　鈴子

第21回　平成23年8月5日
「みえる看護・介護の提供をめざして」
話題提供「看護・介護に求められるもの」
倉敷平成病院　看護部長　有光　育代
シンポジウム1
〈座長〉倉敷平成病院　看護副部長　吉岡　文美
「看護を継続して提供するために」
1．呼吸器離脱から在宅に向けて～多職種の関わり～
倉敷平成病院　3階西看護師主任
北崎　鈴子
2．ADLの維持を目標とした継続看護
倉敷平成病院　4階東看護師
森岡　順子
3．目線のあった継続ケアを目指して
医療法人和香会　倉敷広済病院　6階看護師
所司　美幸
4．在宅看取りの希望を実現した事例
ヘイセイ訪問看護ステーション　所長
浜田ゆりか
シンポジウム2
〈座長〉倉敷平成病院　看護副部長　武森三枝子
「よりよい連携をとるためのシステムづくり」

第22回　平成24年8月3日
「救急から在宅まで チーム医療推進に向けての看護の役割」
話題提供「救急から在宅まで－当院看護部の取り組み」
倉敷平成病院　看護部長　有光　育代
事例を通じて
〈座長〉ヘイセイ訪問看護ステーション　師長
藤田　真弓
「疾患・障害を抱えながら在宅で生活する患者のQOLを支えるために」
（1）サポートにより長期に在宅生活が継続できている事例
倉敷在宅総合ケアセンターケアプラン室
ケアマネジャー　黒坪　磨
（2）小脳症状が残存し、在宅困難と思われた事例
倉敷平成病院　回復期リハビリ病棟
看護主任　渡邉　勝
倉敷在宅総合ケアセンター　ケアプラン室
副主任　山川　恭子
ヘイセイ訪問看護ステーション
理学療法士　井上　恵太
医療福祉研究所ヘイセイ　訪問入浴
看護主任　藤本恵美子
ヘイセイ訪問看護ステーション
看護師　浅沼　良美
医療法人つばさ　つばさクリニック
院長　中村　幸伸
特別講演「これからの10年－看護・介護職で取り組むべき課題」
前日本看護連盟　幹事長　石田　昌宏

第23回　平成25年8月3日（土）
「救急から在宅まで
～つなげよう！広げよう！地域連携～」
話題提供「倉敷平成病院における地域連携」
倉敷平成病院　看護部長　武森三枝子
事例を通じて
〈座長〉
倉敷老健副院長（介護担当）　山田奈々子
倉敷平成病院　地域連携室室長　渡邉　英子
1）施設への退院に向けて～胃瘻の継続看護～
倉敷平成病院　回復期リハビリ病棟
看護主任　永野　友美
2）重度介助を要する患者の在宅療養を支える看護連携
倉敷平成病院　回復期リハビリ病棟
看護師　田中　宏枝
3）当院の退院支援について～患者さんの幸せな人生の選択のために～
岡山市立市民病院　地域医療連携室
室長補佐　植田　明美
4）老健施設の役割と地域連携を考える
倉敷老健　看護副部長　小林美智恵
5）MSWの立場から地域連携を考える
水島中央病院　地域連携室
MSW　若林　里佳

6）地域連携における当院・看護の役割
児島中央病院
入退院支援病床管理担当　小橋久美子
7）災害時要支援者の避難支援を通じて～要援護者・行政・近隣をつなぐアプローチ～
ヘイセイ訪問看護ステーション
看護主任　真鍋　和子
8）光生病院の地域連携の取り組み
光生病院　地域連携室
室長　高端美智子

神経セミナー実行委員会

委員長名　高尾　芳樹（職種：医師）
委員会設置年月　平成元年４月
開催頻度　不定期
構成メンバー（委員長も含む）計20名

医師：	3名	看護師：	4名
リハビリスタッフ：	1名	臨床検査技師：	名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	名	ＭＳＷ：	名
介護福祉士：	1名	事務職：	8名
その他：	1名		

※高尾芳樹副院長を中心として管理部門他役割に応じて各部署へ依頼。構成メンバーは年度によって変わる。

活動目的

地域の医療関係者とのコミュニケーションの場を設け、これらの方々と全仁会職員が一緒に勉強し、神経疾患への理解を深める。また、地域社会へ、全仁会の浸透を図る。

活動内容

年１回、医療関係者を主な対象として、神経疾患に関わる講演会を開く。内容は時期に応じ、高尾代表と相談して決定し、講師を選定する。外部招聘が基本だが、適宜、院内講師も選定する。平成15年以降の講師・講演内容は下記の通り。職員および地域医療関係者の参加を促す。会場の設営、会の運営、進行を行う。

神経セミナーのあゆみ

第16回　平成15年10月19日（日）
テーマ「アルツハイマー病の早期発見・早期治療」
「アルツハイマー病の早期発見と治療法」
鳥取大学医学部保健学科　教授　浦上　克哉
「アルツハイマー病のリハビリテーション効果」
倉敷平成病院　院長　高尾　武男
「在宅療養の継続を目指して　～家族調査を中心に～」
倉敷平成病院　副看護部長（外来担当）　山田奈々子
※第13回看護セミナーと合同開催

第17回　平成16年10月17日（日）
テーマ「痴呆の予防と治療」
「痴呆の予防と治療」
岡山大学大学院医歯学総合研究所
神経内科助教授　東海林幹夫
「アルツハイマー病の継続医療
～主としてリハビリテーションを中心に～」
倉敷平成病院　院長　高尾　武男

第18回　平成17年10月16日（日）
テーマ「脳梗塞の急性期治療とリハビリテーション」
「脳卒中の急性期治療」
－変える、育てる、脳卒中診療－
川崎医科大学神経内科（脳卒中部門）　助教授
木村　和美
「脳卒中のリハビリテーション」
－回復期リハビリテーション病棟を中心に－
倉敷平成病院　リハビリテーション科　部長
関　八州彦

第19回　平成18年10月15日（日）
テーマ「脳卒中治療の進歩」
「脳卒中治療の進歩」－脳神経外科の立場から－
岡山大学大学院医歯薬学総合研究所
神経病態外科学（脳神経外科）　講師　杉生　憲志

第20回　平成19年10月14日（日）
テーマ「これからの脳卒中診療」
「これからの脳卒中診療」
－急性期治療から発症予防へ－
岡山大学大学院医歯薬学総合研究所
神経病態内科学（神経内科）　教授　阿部　康二

第21回　平成20年10月19日（日）
テーマ「脳梗塞の最新治療と認知症の早期診断」
「脳梗塞の最新治療
－頸動脈狭窄症の外科的治療について－」
岡山大学　神経病態外科学（脳神経外科）　講師
徳永　浩司
「認知症予防のための早期診断法」
（株）脳機能研究所代表取締役・東京工業大学名誉教授
武者　利光

第22回　平成21年10月10日（土）
テーマ「脳卒中のリハビリテーション」
「脳卒中のリハビリテーション」
急性期～生活期に目指すもの

川崎医科大学リハビリテーション医学教室　教授
椿原　彰夫
「脳卒中まひ機能再建手術について」
倉敷平成病院　整形外科副部長　渋谷　啓

第23回　平成22年10月2日（土）
テーマ「脳卒中治療の最前線」
「脳卒中の治療の最前線
－切って治すか？切らずに治すか？－」
川崎医科大学脳神経外科講座　教授　宇野　昌明

第24回　平成23年10月9日（日）
テーマ「認知症の予防と診療」
「変わる家族関係の中での新しい認知症診療」
岡山大学神経内科　教授　阿部　康二
「倉敷平成病院の「ものわすれ外来」における認知症治療」
倉敷平成病院副院長・神経内科部長　高尾　芳樹

第25回　平成24年9月30日（日）
テーマ「認知症の予防と診療」
「新しい認知症診療と地域連携の重要性」
岡山大学神経内科　教授　阿部　康二
「倉敷平成病院の「認知症疾患医療センター」における認知症治療」
倉敷平成病院　神経内科部長・
認知症疾患医療センター　副センター長　涌谷　陽介

第26回　平成25年10月19日（土）
テーマ「認知症の人を早期から支える」
「認知症の早期発見と早期診断の意義」
首都大学東京大学院　人間健康科学研究科　教授
繁田　雅弘
「認知症疾患医療センターの現状と課題」
倉敷平成病院　神経内科部長・
認知症疾患医療センター　センター長　涌谷　陽介

のぞみの会実行委員会

委員長名　篠山　英道（職種：医師）
委員会設置年月　昭和62年４月
開催頻度　不定期（会が近づけば週１回）
構成メンバー（委員長も含む）計91名

医師：	4名	看護師：	15名
リハビリスタッフ：	2名	臨床検査技師：	1名
放射線技師：	1名	薬剤師：	1名
管理栄養士：	1名	MSW：	4名
介護福祉士：	25名	事務職：	35名
歯科衛生士：	1名	鍼灸師：	1名

※構成メンバーはその年によって違う。（90名程度）

活動目的

限りないQOLを求めて･･･
これはのぞみの会のメインテーマであり、全仁会の最も重要な精神である。
QOLとは「Quality of Life」人生の充実。患者本人も家族も、そして医療機関従事者も、また更にはそれらを取り巻く地域、行政までを含めて、「健康で生きがいのある街作り」を目指し前進し続けようというのが目標。
脳卒中を発症し後遺症を持ったとしても、たとえ病気や障害があっても、我々は、QOLを大切に生きていくことができる。「寂しさ・孤独」は人々を蝕む。現代に生きる人々の寂しさを癒やす会であることを目的とし、のぞみの会を開催する。

活動内容

「のぞみの会」は高尾武男代表が、倉敷中央病院内科医長時代、神経内科、特に脳卒中を中心に担当し、患者様の退院後のフォローアップと在宅医療の在り方を学ぼうとした時、自然発生的に結成され、第１回が昭和57年10月に開かれた。その後、倉敷平成病院のぞみの会へと発展し、歴史を経て、今では倉敷平成病院を利用される全ての方々、地域住民と私たち医療従事者との交流の場、意見交換の場にもなっている。
全仁会職員が取り組む「のぞみの会」において、毎年のテーマ決定、リラックスタイム・ふれあい広場の内容など実行委員が中心となり、企画運営を実施する。

のぞみの会のあゆみ

第38回　平成15年11月9日（日）　10：00～14：15
脳卒中を斬る！
「脳卒中の治療法」
脳神経外科部長　篠山　英道
「脳卒中の予防法」
副院長　神経内科部長　高尾　芳樹
「脳卒中のリハビリテーション」
リハビリテーション科医長　上月　寛章
「21世紀の高齢者の新しい生き方」
院長　高尾　武男

第39回　平成16年11月14日（日）　9：30～14：00
脳卒中の予防とリハビリテーション
「脳卒中にならないために」
脳神経外科部長　篠山　英道
「脳卒中のリハビリテーション」
リハビリテーション科部長　関　八州彦
「21世紀全仁会がめざすもの」
院長　高尾　武男

※総合美容センターコーナー　体験・医師相談
※ローズガーデン倉敷コーナー　見学ツアーも実施

第40回　平成17年11月13日（日）　9：30～14：00
脳卒中の予防と急性期の対応－脳卒中と生活習慣病－
「脳卒中の急性期の対応」
脳神経外科部長　篠山　英道
「脳卒中の予防」－生活習慣病を中心に－
倉敷生活習慣病センター長　松岡　　孝
「これからの全仁会の展望」
院長　高尾　武男

第41回　平成18年11月19日（日）　9：30～14：00
脳卒中の急性期治療とリハビリテーション
「脳卒中の急性期治療」
院長（脳神経外科）　鈴木　健二
「骨粗鬆症の予防」
整形外科　平川　宏之
「これからの在宅リハビリテーション」
リハビリテーション部長　関　八州彦
「救急から在宅まで～全仁会患者本位の医療～」
理事長　高尾　武男

第42回　平成19年11月11日（日）　9：30～14：00
脳卒中の急性期治療とリハビリテーション
「脳卒中の急性期治療」
脳神経外科医長　高尾聡一郎
「ひざの痛み－変形性膝関節症について－」
整形外科医長　平川　宏之
「リハビリテーションQ&A」
リハビリテーション部長　関　八州彦
「全仁会の継続医療」
理事長　高尾　武男

第43回　平成20年11月9日（日）　9：30～14：00
脳卒中の急性期治療と生活習慣病対策
「脳卒中の急性期治療と予防」
脳神経外科医長　高尾聡一郎
「動脈硬化とは？－メタボリックシンドローム・糖尿病を中心に－」
倉敷生活習慣病センター　診療部長　青山　　雅
「救急から在宅までの医療の実践」
理事長　高尾　武男

第44回　平成21年11月15日（日）　9：30～14：00
脳卒中の治療と生活習慣病対策
「脳卒中の急性期治療」
脳神経外科医長　高尾聡一郎
「脳卒中のまひ治療」
整形外科副部長　渋谷　　啓
「生活習慣病とその対策～食事･運動･禁煙の方法～」
倉敷生活習慣病センター　診療部長　青山　　雅
「救急から在宅までの医療の実践」
理事長　高尾　武男

第45回　平成22年11月7日（日）　9：30～14：00
地域の絆の再構築
「脳卒中の急性期治療」
脳神経外科部長　高尾聡一郎
「運動器疾患の救急医療」
整形外科医長　平川　宏之
「身の回りの形成外科」
形成外科医長　森　　大祐
「病院と患者さんとの絆の再構築」
理事長　高尾　武男

第46回　平成23年11月13日（日）　9：30～14：00
地域医療の絆の再構築
「脳卒中の急性期治療と難治性疼痛の手術療法」
副理事長・脳神経外科部長　高尾聡一郎
「当院におけるリハビリテーション戦略～最新のリハビリテーションへの挑戦～」
リハビリセンター長　高尾　祐子
「絆の医療の実践～救急から在宅までの医療～」
院長　平川　訓己

第47回　平成24年11月18日（日）　9：30～14：00
地域医療の絆の発展
「脳卒中の急性期治療」
副理事長・脳神経外科部長　高尾聡一郎
「認知症疾患医療センターの役割と地域連携」
認知症疾患医療センター　副センター長・神経内科部長　涌谷　陽介
「救急から在宅までの一貫医療」
理事長　高尾　武男
※ピースガーデン倉敷見学会

第48回　平成25年11月17（日）　9：30～14：00
地域医療の更なる発展
「脳卒中の急性期治療」
理事長・脳神経外科部長　高尾聡一郎
「全仁会のリハビリテーション」
リハビリセンター長　高尾　祐子
「救急から在宅までの一貫医療」
全仁会グループ代表　高尾　武男
※グランドガーデン南町見学会

社会医療法人全仁会　倉敷平成病院（北側駐車場から）
サービス棟（平成23年７月竣工）　老健新館（平成16年８月竣工）

住宅型有料老人ホーム　ローズガーデン倉敷（平成16年９月竣工）

複合型介護施設
ピースガーデン倉敷（平成25年２月竣工）

サービス付き高齢者向け住宅
グランドガーデン南町（平成25年12月竣工）

平成 15 年度（下期）

2003 年 7 月～ 2004 年 3 月

脳リハ移転（食堂から４階デイルームへ）
（H15.8.20）

介護タクシーオープン
（H15.11.1）

旧病歴・カルテ庫　霊安室

老健QOL祭り
（H15.8.29）

老健新館起工式（12/5　病歴移転→新病棟１階へ）
（H15.12.12）

韓国医師団病院見学
（H15.11.21）

RSK「夕方ドンドン」高尾 芳樹 副院長出演
「倉敷平成病院のDo You 脳?!」
（H16.1.7）

通所リハ理事長講話700回（H16.2.20）

ローズガーデン倉敷棟内モデルルームオープン（H16.3.6）

特別講演会
「21世紀の高齢者の新しい生き方」
「高齢者に必要なケアシステム」
　ハンディネットワークインターナショナル　代表取締役　春山 満 氏
「高齢期をどうすむか」
　倉敷平成病院院長　高尾 武男
「人生最良の日々をいかにどこでだれと」
　広島国際大学教授　久保田 秀男 氏
（H16.4.3）於：倉敷市民会館

総合美容センターオープン
（H16.6.1）

第２回パーキンソン病フォーラム
（パーキンソン病友の会岡山県支部主催）
「パーキンソン病と歩もう」
高尾 武男 院長講演
（H16.5.9）於：ライフパーク倉敷

老健新館オープン（H16.8）

ローズガーデン倉敷竣工式（H16.8.27）

マンモグラフィ導入
（H16.9.5）

航空写真
（H16.10）

中国　鎮江市第一人民病院来日
友好病院縁組締結
（H16.12.15～18）

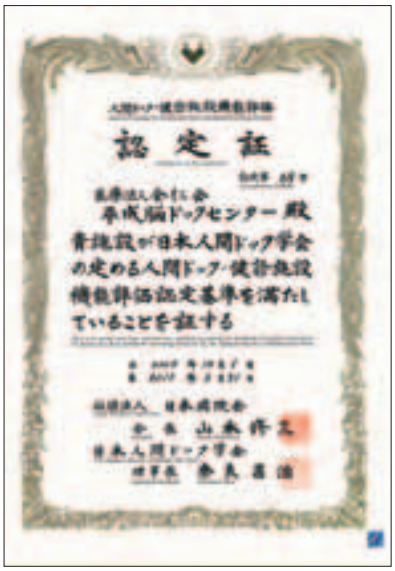
ローズガーデン倉敷第１回誕生会
（H16.10.29）

新年会（演芸の部）（H17.1.8）

平成 17 年度

2005 年 4 月～ 2006 年 3 月

認定音楽療法士による音楽療法開始（老健）
（H17.4.15）



認定証

平成脳ドックセンター 殿

貴機関が日本人間ドック学会の定める人間ドック・健診施設機能評価認定基準を満たしていることを証する

平成脳ドックセンター人間ドック健診施設機能評価認定（H17.10.1）

王 濱先生の中国語講座（H17.5.1）

認知症勉強会　脳機能研究所　武者 利光先生（H17.10.18）

ケアハウスドリームガーデン倉敷10周年記念式（H17.10.3）

ドリーム・ローズ合同秋の日帰りバス旅行（徳島鳴門渦潮と阿波踊り）
（H17.11.21）

平成18年新年会
（高尾理事長の「上を向いて歩こう」と歌声バンド）（H18.1.7）

ローズガーデン倉敷新年会（H18.1.13）

第40回のぞみの会「脳卒中の予防と急性期の対応－脳卒中と生活習慣病－」
（H17.11.13）
「脳卒中の急性期の対応」倉敷平成病院脳神経外科部長　篠山 英道
「脳卒中の予防－生活習慣病を中心に－」倉敷平成病院生活習慣病センター長　松岡 孝
「これからの全仁会の展望」倉敷平成病院院長　高尾 武男

辞令交付式（H18.4.1）

鈴木 健二 新院長就任祝賀会
（H18.4.1）於：倉敷アイビースクエア

岡山大学名誉教授　西本 詮 先生

鈴木 健二 新院長 就任祝賀会（H18.4.1）

オーダリングリハーサル（H18.3）
（オーダリングシステム開始　H18.4.15）

向川 真博MSWペタンク世界大会壮行会
（H18.9.8）

ローズガーデン倉敷誕生会（第２部）
（H18.9.22）

通所リハ歌声広場900回（H18.6.7）

DPC勉強会（H18.9.18）
（DPC認定病院　H21.7～）

倉敷老健秋祭り（H18.9.22）

平成 18 年度

医療法人全仁会　創立 20 周年記念式典祝賀会

（平成 19 年（2007）1 月 9 日）倉敷アイビースクエア

医療法人全仁会創立20周年記念祝賀会（常勤医師集合）（H19.1.9）於：倉敷アイビースクエア

記念講演
「日本医学と倉敷平成病院の現在・過去・未来」
岡山大学神経内科教授　阿部 康二 先生

倉敷中央病院院長　内田 璞 先生

理事長　高尾 武男

茶屋町鬼太鼓

「ゆらぎの絵」寄贈
脳機能研究所　武者 利光 先生

永年勤続表彰（20年）

理事

辞令交付式（高尾 聡一郎 医師着任）（H19.4.1）

院内美容フェスタ（H19.5.26）

ケアハウスドリームガーデン倉敷夏祭り
（H19.8.3）

マンモグラフィ施設認定（H19.6.22）

西館オープン
（病歴・カルテ庫、リハスタッフルーム、更衣室、保育室など）
（H19.10）

平成19年度第１回救急隊員症例研究会
「脳卒中の急性期医療について」脳神経外科医長　高尾 聡一郎 講演
（H19.9.14）於：倉敷消防署

第１期脳卒中チーム（麻酔科　和田 聡 医師着任）（H19.7）

ローズガーデン倉敷第９回倉敷市建築文化賞奨励賞受賞（H19.11.27）

第３回DPC勉強会（H19.5.27）

通所リハ３名100歳誕生日会（新聞掲載有）
（H20.3.14）

新入職員研修（２泊３日）
翌年より３日間の日帰り研修となる
（H20.3.24～26）於：サンピア倉敷

平成 20 年度

2008 年 4 月～ 2009 年 3 月

歌声広場1000回（H20.5.21）メディア取材（テレビ5社・新聞2社・ラジオ1社）

読売新聞朝刊（H20.5.22）

倉敷ケーブルテレビ生出演
（H20.5.21）

第17回研究発表大会「患者本位の医療」中間発表
（H20.7.31・8.1）於：倉敷在宅総合ケアセンター

院内報鬼手回春200号（H21.3.15発行）

第１回院内コンサート（H20.4.4）

PACSデモ（H20.5.29）
（PACS導入　H20.11 ～）

平成20年度第１回救急隊員症例研究会
「形成外科における救急処置」
形成外科医長　華山 博美 講演
（H20.6.11）於：倉敷消防署

カーブミラー設置（H20.8.26）

機能評価受審（H20.12.16・17）
（機能評価Ver. 5認定　H21.5.1）

老松学区敬老会（H20.9.15）

外来電話ボックス設置（H20.11）

第１回みなみ文化祭（H21.2.15）

平川 訓己 新院長就任祝賀会（H22.1.11）於：倉敷アイビースクエア

院長　平川 訓己

理事長　高尾 武男

川崎医科大学神経内科教授
砂田 芳秀 先生

岡山県病院協会会長・倉敷紀念病院院長
小出 尚志 先生

医局出し物

研究発表大会表彰（最優秀賞）

MR3テスラ県西部初導入（H21.6.15）

平成21年度NHK岡山脳卒中防止キャンペーン
倉敷平成病院　脳神経外科　協力

FMくらしき第１回平成健康アラカルト放送（H21.9.2）

KSB「自由人会社人トップの横顔」
高尾 武男 理事長出演（H21.9.20）

岡山シーガルズバレー部指導（H21.9.18）

第20回倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会（H21.8.12）

平成 22 年度

2010 年 4 月～ 2011 年 3 月

くもん学習療法調印式（H22.7.6）

くもん学習療法入学式（H22.9.3）

拡大理事会（H22.8.9）於：倉敷アイビースクエア

平成南町クリニック開院
（ローズガーデン倉敷館内）
（H23.1.5）

音楽療法（通所リハ）（H22.9.8）

第40回倉敷天領夏祭り「OH！代官ばやし踊り」初出場（H22.7.24）

老松学区敬老会（H22.9.12）

鍼灸院リニューアル（H22.8.4）

通所リハ理事長講話900回（H22.9.13）

第45回のぞみの会「地域の絆の再構築」（H22.11.7）
「脳卒中の急性期治療」倉敷平成病院脳神経外科部長　高尾 聡一郎
「運動器疾患の救急医療」倉敷平成病院整形外科医長　平川 宏之
「身の回りの形成外科」倉敷平成病院形成外科医長　森 大祐
「病院と患者さんとの絆の再構築」倉敷平成病院理事長　高尾 武男

理事長　高尾 武男

岡山大学
神経内科教授
阿部 康二 先生

倉敷市長
伊東 香織 様

総社市長
片岡 聡一 様

副理事長
高尾 聡一郎

永年勤続表彰（10年）

社会医療法人取得記念祝賀会（H23.1.7）

フットケア勉強会（H23.6.29）

カフェレストラン「スマイル・キッチン」オープン（H23.7.4）
サービス棟竣工（H23.7）

OHKリハビリ取材（ロボットスーツHAL）（H23.8.4）

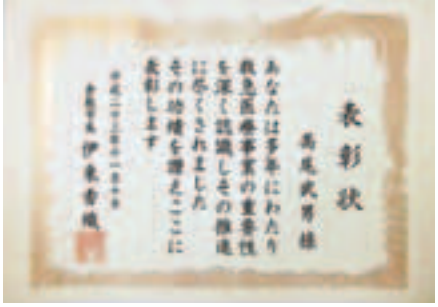
第41回倉敷天領夏祭り「OH！代官ばやし踊り」優勝（H23.7.23）

第21回看護セミナー「みえる看護・介護の提供をめざして」
～病院と地域のよりよい看・看連携を求めて～（H23.8.6）

第22回倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会（H23.8.18）

第24回神経セミナー「認知症の予防と診療」（H23.10.9）
「変わる家族関係の中での新しい認知症診療」
岡山大学神経内科教授　阿部 康二 先生

総社市障がい者雇用推進協定調印式
（H23.10.31）於：総社市役所



倉敷市より「救急医療事業」表彰（H23.11.10）

医師講演会（主催：倉敷市・後援：老松・中洲学区愛育委員会）
（H23.12.8）於：倉敷西公民館
講演「いつまでも、元気で、美しく！～女性の健康について～」
総合美容センター長（婦人科）　吉岡 保

第17回倉敷臨床リハビリテーション医学懇話会
（H24.2.6）於：倉敷中央病院大原記念ホール
講演『慢性期脳卒中まひ患者に対する整形外科的機能再建手術の試み
－整形外科的選択的痙性コントロール手術－』
倉敷平成病院整形外科部長　渋谷 啓

総社市より救急医療への感謝状　拝受（H24.3.14）

ピースガーデン倉敷地鎮祭（H24.3.14）

認知症疾患医療センター指定（H24.3.28）

認知症疾患医療センター

岡山大など4病院

県指定へ

（山陽新聞H24.3.27朝刊　27面）

サービス付き高齢者向け住宅勉強会（H24.6.4）

第60回糖尿病料理教室（H24.6.16）於：くらしき健康福祉プラザ

川崎医療短期大学第2回公開講座「自立生活を支える介護予防」
講師　倉敷平成病院理学療法士主任　樋野 稔夫
（H24.8.18）於：川崎医療短期大学

第47回のぞみの会「地域医療の絆の発展」ふれあい広場風景（H24.11.18）
『脳卒中の急性期治療』副理事長・脳神経外科部長　高尾 聡一郎
『認知症疾患医療センターの役割と地域連携』認知症疾患医療センター副センター長・神経内科部長　涌谷 陽介
『救急から在宅までの一貫医療』理事長　高尾 武男

ピースガーデン倉敷竣工式（H25.1.19）

第5回みなみ文化祭（H25.2.10）

ピースガーデン倉敷職員交流会（H25.1.31）

認知症疾患医療センターセミナー（H25.3.2）
「脳科学から見た学習療法の効果」東北大学加齢医学研究所教授　川島 隆太 先生

創立25周年記念祝賀会（H25.1.12）於：倉敷アイビースクエア

伊達教授　スライド画像

創立25周年記念講演「インテリジェント手術室での脳神経外科手術最先端」
岡山大学脳神経外科教授　伊達 勲 先生

ZENJINKAI GROUP

全仁会グループロゴマーク発表

岡山県知事
伊原木 隆太 様

倉敷中央病院院長
小笠原 敬三 先生

衆議院議員
橋本 岳 様

参議院議員
片山 虎之助 様

常勤医師

平成 25 年度

2013 年 4 月～ 2014 年 3 月

新送迎車（H25.4.22）

糖尿病看護認定看護師
外来副主任　岩崎 紀代美
（H25.9.4）

平成脳ドックセンター 20周年（H25.10）

第26回神経セミナー（H25.10.19）テーマ「認知症の人を早期から支える」
「認知症の早期発見と早期診断の意義」首都大学東京大学院人間健康科学研究科教授　繁田 雅弘 先生
「認知症疾患医療センターの現状と課題」倉敷平成病院神経内科部長・認知症疾患医療センターセンター長　涌谷 陽介

中国人看護留学生（H25.11.6）

電子カルテ前夜　H25.11（電子カルテスタート　H25.12.1）

第22回全仁会研究発表大会（H25.12.20）「職種間連携によるチーム医療」

第50回院内コンサート（H26.1.27）

80列マルチスライスX線CT導入（H26.1）

理事長　高尾 聡一郎

代表　高尾 武男

高尾 聡一郎 理事長　高尾 武男 代表　就任祝賀会（H26.1.11）於：倉敷アイビースクエア

サービス付き高齢者向け住宅
グランドガーデン南町開設
（H25.12.1）

グランドガーデン南町エントランス

グランドガーデン南町新年会
（H26.1.15）於：イベントホール

複合型介護施設ピースガーデン倉敷１周年
（H26.2.3）

倉敷天領夏祭りと倉敷平成病院

倉敷天領夏祭りは、倉敷中央通りを中心に繰り広げられる倉敷市を代表する夏の一大イベントです。

祭り当日は、倉敷駅前が歩行者天国となり、「音楽隊パレード」や「倉敷天領太鼓」などの催しが繰り広げられ、白壁の町は祭り一色に染まります。また、18時より恒例の「代官ばやし踊り」と、「OH！代官ばやし踊り」がスタート。総勢3,500人以上の老若男女が熱気に包まれた会場を乱舞する姿は壮観です。

倉敷平成病院は、第40回（平成22年）から、連続4回出場中。第41回（平成23年7月23日（土））には、出場2年目にして優勝の栄冠に輝きました。以来、第42回、43回と特別賞を受賞（優勝して後3年は優勝は無しとのルール有）しており、目下平成26年も連続入賞を目指して、出場計画中です。

また、黒地にピンクの桜模様の法被は人目を引くのか、はたまたモデルが良いのか、きっと私たちの息の合った踊りが惹きつけるのでしょう…。第41回、42回と倉敷天領夏祭りのポスターへ当院スタッフが映ったものが使用されています。

倉敷天領夏祭り

開催場所：岡山県倉敷市　倉敷中央通り・美観地区周辺
開 催 日：例年7月第3土曜日　9：30～21：30
主　　催：倉敷天領夏祭り実行委員会

結果

第40回倉敷天領夏祭り	2010年（平成22年7月24日（土）） 初出場　参加人数：120名 （OH！代官ばやし踊り：27団体、2,079名の参加）
第41回倉敷天領夏祭り	2011年（平成23年7月23日（土）） 優勝　　参加人数：143名 （OH！代官ばやし踊り：23団体、2,081名の参加）
第42回倉敷天領夏祭り	2012年（平成24年7月21日（土）） 特別賞　参加人数：145名 （OH！代官ばやし踊り：22団体、2,192名の参加）
第43回倉敷天領夏祭り	2013年（平成25年7月20日（土）） 特別賞　参加人数：130名 （OH！代官ばやし踊り：21団体、2,079名の参加）

消火技術訓練大会（倉敷市消防局･倉敷市防火協会主催）

この訓練は、倉敷市防火協会へ加入している事業所により、消火器および屋内消火栓設備の基本的な取扱いと操作技術を競い、万一の火災発生時における自衛消防隊の迅速・的確な初期消火体制を確立し、もって被害の軽減を図るとともに、事業所における防火思想の普及を図ることを目的としています。

毎年８月下旬から 10 月までの約１ヶ月の期間、所轄消防職員の指導のもと訓練を実施しています。

倉敷平成病院は、平成３年から連続出場しており、平成 16 年と平成 21 年には男女アベック優勝を果たしています。また､平成 23 年度には出場事業所表彰を受けています。

平成16年（2004）

平成17年（2005）

平成19年（2007）

平成20年（2008）

平成21年（2009）

平成22年（2010）

平成23年（2011）

平成24年（2012）

平成25年（2013）

	開催日時	屋内消火栓女子の部	屋内消火栓男子の部
第３回大会	平成 3年10月18日	3位 （11隊）	出場 （13隊）
第４回大会	平成 4年10月16日	出場 （11隊）	3位 （8隊）
第５回大会	平成 5年10月16日	出場 （11隊）	出場 （10隊）
第６回大会	異常渇水のため中止	－	－
第７回大会	平成 7年10月13日	3位 （6隊）	出場 （11隊）
第８回大会	平成 8年10月18日	出場 （9隊）	3位 （10隊）
第９回大会	平成 9年10月17日	出場 （9隊）	優勝 （8隊）
第10回大会	平成10年11月 6日	2位 （7隊）	優勝 （8隊）
第11回大会	平成11年10月15日	優勝 （8隊）	2位 （9隊）
第12回大会	平成12年10月 6日	3位 （6隊）	優勝 （7隊）
第13回大会	平成13年10月12日	出場 （6隊）	優勝 （7隊）
第14回大会	平成14年10月 4日	出場 （7隊）	出場 （3隊）
		※消火器男子の部（25隊）2位	
第15回大会	平成15年10月17日	2位 （7隊）	3位 （6隊）
第16回大会	平成16年10月 1日	優勝 （6隊）	優勝 （5隊）
第17回大会	平成17年10月 7日	優勝 （5隊）	3位 （7隊）
第18回大会	平成18年10月 6日	3位 （4隊）	3位 （5隊）
第19回大会	平成19年10月 5日	2位 （4隊）	3位 （8隊）
第20回大会	平成20年10月 3日	出場なし （2隊）	優勝 （6隊）
第21回大会	平成21年10月 2日	優勝 （4隊）	優勝 （9隊）
第22回大会	平成22年10月 1日	4位 （9隊）	2位 （9隊）
第23回大会	平成23年 9月30日	2位 （6隊）	優勝 （5隊）
第24回大会	平成24年10月 5日	優勝 （7隊）	4位 （15隊）
第25回大会	平成25年10月 4日	3位 （5隊）	4位 （11隊）

部・サークル活動

全仁会の職員は、それぞれの好みと体力にあった活動を通し、職種を問わず様々な部・サークルで親睦を深めています。地域のイベントへ参加したり、他病院・他施設との交流も盛んで、数々の大会に出場する部も。写真掲載の部活動の他にもたくさんの部・サークルがあり、お互いに普段の業務では見えなかった部分を知ることができる場となっています。職員はリフレッシュや新しい趣味の開拓、人との交流など、様々な目的で自由に参加し、部門・先輩後輩の垣根を越え、絆を深めています。

バレーボール部

野球部

ウクレレ部

ゴルフ部

マラソン部

フットサル部

資料編

社会医療法人 全仁会　二十五周年記念誌

全仁会グループのあゆみ

● 1988年（昭和63年）	1月11日	「高尾病院」開設
	9月 1日	MR1号機導入
	12月 1日	介護老人保健施設「倉敷老健」開設
● 1989年（平成元年）	3月 1日	「倉敷平成病院」に病院名変更
	7月20日	（有）医療福祉研究所ヘイセイ開設
● 1991年（平成３年）	10月 1日	「在宅介護支援センター」開設
● 1992年（平成４年）	10月 1日	「ヘイセイ訪問看護ステーション」開設
● 1993年（平成５年）	6月 1日	MR2号機導入
	9月 1日	総合リハビリ施設の許可
	10月 1日	「平成脳ドックセンター」開設
	11月17日	日本整形外科学会認定医教育施設認定
● 1995年（平成７年）	10月 1日	社会福祉法人全仁会ケアハウス「ドリームガーデン倉敷」開設
● 1996年（平成８年）	6月 7日	第１期ホームヘルパー養成講座開講
	8月24日	日本脳神経外科学会認定医教育施設認定
	9月 1日	「ヘイセイホームヘルプステーション」開設
● 1997年（平成９年）	4月 1日	日本神経学会認定医教育施設認定
● 1999年（平成11年）	7月 1日	「倉敷在宅総合ケアセンター」開設
● 2000年（平成12年）	4月 1日	「ヘイセイ鍼灸治療院」開設
		日本プライマリケア学会認定医研修施設
● 2001年（平成13年）	5月 1日	回復期リハビリテーション病棟開設
	6月 1日	院外処方開始
● 2002年（平成14年）	1月 1日	特殊疾患病床開設
	6月 1日	「倉敷生活習慣病センター」開設
	12月 1日	開放病床（５床）開設
● 2003年（平成15年）	3月 1日	日本循環器学会認定施設
	4月21日	日本病院機能評価Ver.3認定
	5月 1日	新病棟増築完成
● 2004年（平成16年）	3月31日	臨床研修病院指定
	4月 1日	生活習慣病予防健診実施医療機関指定
	5月 1日	日本リハビリテーション医学会研修施設認定
	6月 1日	「総合美容センター」開設
	8月 1日	倉敷老健増床（100床→150床）
	9月 1日	住宅型有料老人ホーム「ローズガーデン倉敷」開設
● 2005年（平成17年）	2月11日	日本脳卒中学会研修教育病院認定
	3月 1日	亜急性期病床開設
	10月 1日	人間ドック機能評価認定
● 2006年（平成18年）	4月 1日	オーダリングシステム導入
		「地域包括支援センター」開設
● 2007年（平成19年）	1月 1日	回復期リハビリ病棟（46床→88床）
	4月 1日	７：１看護実施
● 2008年（平成20年）	4月 1日	「訪問リハビリステーション」開設
● 2009年（平成21年）	5月 1日	日本病院機能評価Ver.5認定（更新）
	6月15日	3.0テスラMR導入
● 2010年（平成22年）	12月 1日	「社会医療法人　全仁会」認定
● 2011年（平成23年）	1月 5日	「平成南町クリニック」開院
● 2012年（平成24年）	3月28日	岡山県より「認知症疾患医療センター」に指定
● 2013年（平成25年）	2月 1日	複合型介護施設「ピースガーデン倉敷」開設
	12月 1日	電子カルテシステム導入
		サービス付き高齢者向け住宅「グランドガーデン南町」開設

全仁会グループ概要

倉敷平成病院
岡山県倉敷市老松町4-3-38　〒710-0826
TEL 086-427-1111(代)　FAX 086-427-8001
- ●設置主体／社会医療法人　全仁会
- ●許可病床／ 220床
- ●救急指定
- ●日本医療機能評価機構認定施設
- ●臨床研修指定病院
- ●日本神経学会認定医教育施設
- ●日本脳神経外科学会専門医訓練施設
- ●日本脳卒中学会研修教育病院
- ●日本整形外科学会認定医教育施設
- ●日本リハビリテーション医学会研修施設
- ●日本循環器学会認定専門医研修関連施設
- ●日本プライマリケア学会認定医研修施設
- ●日本老年医学会認定施設
- ●日本認知症学会教育認定施設
- ●診療科／内科・神経内科・脳神経外科・整形外科・循環器科・消化器科・呼吸器科・耳鼻咽喉科・形成外科・皮膚科・眼科・総合診療科・糖尿病・代謝内科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科・和漢診療科・歯科・婦人科・美容外科・乳腺外科
- ●診療時間
  月～金／8:30 ～ 12:00　13:00 ～ 17:00
  土／8:30 ～ 12:00
  （日・祝日は休診・急患は24時間対応）
- ●一般病棟入院基本料７対１　入院基本料
- ●回復期リハビリテーション病棟入院料［1］
  - ・休日リハビリテーション提供体制加算
  - ・リハビリテーション充実加算

倉敷生活習慣病センター
倉敷平成病院２階
TEL 086-427-0120　FAX 086-427-0120
- 日本糖尿病学会認定教育施設
- 日本老年医学会認定施設

総合美容センター
倉敷平成病院１階・TEL 086-427-1616
- 日本形成外科学会教育関連施設
- 日本臨床医学発毛協会認定施設

認知症疾患医療センター
倉敷平成病院１階・TEL 086-427-3535

平成脳ドックセンター
倉敷平成病院４階・TEL 086-427-1115
- 人間ドック機能評価認定施設
- 協会けんぽ生活習慣病予防健診指定医療機関
- 日本病院協会指定施設
- 日本脳ドック学会認定施設

平成南町クリニック
岡山県倉敷市南町４-38　〒710-0823
ローズガーデン倉敷館内
TEL 086-434-1122　FAX 086-434-1010

倉敷老健（介護老人保健施設）
岡山県倉敷市老松町4-3-38
TEL 086-427-1111　FAX 086-427-8001
- ●設置主体／社会医療法人　全仁会
- ●老健新基準（Ⅱ）
- ●入所定員／ 150床（うち認知症専門棟／ 38床）
- ●通所定員／ 180名（倉敷在宅総合ケアセンター内）

倉敷在宅総合ケアセンター
岡山県倉敷市老松町4-4-7　〒710-0826
TEL 086-427-0110　FAX 086-427-8002
- ●設置主体／社会医療法人・社会福祉法人　全仁会（合築）

■ケアプラン室（居宅介護支援事業所）
■老松・中洲高齢者支援センター（倉敷市委託事業）
倉敷在宅総合ケアセンター１階・TEL 086-427-1191
■予防リハセンター（定員：40名）
倉敷在宅総合ケアセンター１階・TEL 086-427-1128
■通所リハセンター（定員：180名）
倉敷在宅総合ケアセンター２階・TEL 086-427-1192
■ショートステイ（40床）
倉敷在宅総合ケアセンター３階・TEL 086-427-1193
■訪問看護ステーション
倉敷在宅総合ケアセンター４階・TEL 086-427-3251
■ホームヘルプステーション
倉敷在宅総合ケアセンター４階・TEL 086-427-8451
■ヘイセイ鍼灸治療院
倉敷在宅総合ケアセンター４階・TEL 086-427-6688

住宅型有料老人ホーム　ローズガーデン倉敷
岡山県倉敷市南町４-38　〒710-0823
TEL 086-435-2111　FAX 086-435-2118
- ●設置主体／社会医療法人　全仁会
- ●居 室 数／ 126戸

ケアハウス　ドリームガーデン倉敷
岡山県倉敷市八軒屋275　〒710-0037
TEL 086-430-1111　FAX 086-430-1195
- ●設置主体／社会福祉法人　全仁会
- ●入居定員／ 100名

■デイサービス　ドリーム（定員：20名）

複合型介護施設　ピースガーデン倉敷
岡山県倉敷市白楽町40　〒710-0824
TEL 086-423-2000　FAX 086-423-0990
- ●設置主体／社会福祉法人　全仁会

■地域交流センター
■デイサービス　ゆかいな広場（定員：40名）
ピースガーデン倉敷１階・TEL 086-423-2001
■地域密着型特別養護老人ホーム　ピースガーデン（定員:29名）
ピースガーデン倉敷２階・TEL 086-423-2112
■ピースガーデン倉敷　ショートステイ（定員：28名）
ピースガーデン倉敷３階・TEL 086-423-2133
■グループホーム　のぞみ（定員：18名）
ピースガーデン倉敷４階・TEL 086-423-1112

サービス付き高齢者向け住宅　グランドガーデン南町
岡山県倉敷市南町1-12　〒710-0823
TEL 086-435-2234　FAX086-435-2224
- ●入居定員／ 98名

■ヘルプステーション南町
TEL 086-435-2212
- ●設置主体／有限会社　医療福祉研究所ヘイセイ

■南町ケアプラン室（居宅介護支援事業所）
TEL 086-435-2235
- ●設置主体／社会医療法人　全仁会

全仁会グループ年表

2003（平成15年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
1/ 4	新年会（於:アイビースクエア）	1/17 1/18 1/30	新型MRI（1.5テスラ）稼動 CPC「PSPについて」 **［生活］**第2回倉敷生活習慣病セミナー姫井センター長座長	1/17	新年会（大正琴音楽会）
		2/ 1 2/17 2/22 2/26	**［生活］**第4回糖尿病料理教室「バレンタインを楽しむイタリア料理」 **［生活］**第3回山陽・チボリ料理の集いに姫井センター長と小見山主任講演 CPC「CBD（皮質基底核変性症）」 パーキンソン病勉強会　仙田恵美子先生講演	2/20	倉敷市立多津美中学生4名職場体験学習
3/25 ～ 27	新入職員研修会（於：サンピア倉敷）	3/14 3/29	第1回院内褥瘡勉強会開催 CPC「Pick病」		
		4/ 2 4/ 5 4/13 4/14 4/20 4/21 4/24 4/26	**［生活］**日本老年医学会認定施設認可 **［生活］**第5回糖尿病料理教室「春色いっぱい行楽弁当」 第1回岡山パーキンソン病フォーラム「共に生きよう携え合って」（於：ライフパーク倉敷）高尾院長挨拶、山村先生・田辺副主任講演 **［生活］**おかやま後楽園ウォークラリー開催協力青山診療部長挨拶 **［生活］**第6回健康岡山22糖尿病フォーラム姫井センター長開会挨拶（於：フォーラムシティー） 日本医療機能評価機構認定施設（一般病院種別B）に評価取得および認定証発布 **［生活］**第4回山陽・チボリ料理の集いに姫井センター長と小見山主任講演 CPC「Frontral Lobe Degeneration Type」		
5/25	ボランティア「ひまわり号」参加（玉藻公園・栗林公園）	5/ 1 5/ 8 5/24 5/29	新病棟完成 院内SARS勉強会 CPC「神経変性疾患の病理診断①」 医療機能評価機構認定祝賀会	5/28 5/30	倉敷市立多津美中学生2名職場体験学習 ピクニック（於：酒津公園）

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
		1/ 6 1/21	新年会 新春カラオケ大会		
3/27	身体障害者居宅支援事業者指定（ショートステイ）	3/18	大正琴を聴く会		
4/ 1 4/13	予防リハ土曜日2単位（40名）開始 通所リハ日曜入浴開始				
		5/ 9 5/21 5/28	瀬戸内きのえ温泉日帰り旅行 舞踊ショー 平成15年度第1回理事会		

2003（平成15年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
6/25	院内勉強会「アルツハイマー病早期診断システムについて」武者利光先生講演	6/ 7 6/14 6/21 6/28 6/29	**［生活］**第2回健康岡山22アクティブライフ・シニアレディ・フォーラム姫井センター長開会挨拶（於：岡山国際交流センター） **［生活］**第12回血糖自己測定の会姫井センター長座長、森山課長講演（於：岡山国際交流センター） **［生活］**第6回糖尿病料理教室「男の料理5番勝負！」 CPC「神経変性疾患の病理診断②」 消防署合同消防訓練		
7/ 9 7/28	院内勉強会「障害の捉え方と分類」竹中晋先生講演 救急勉強会「心肺蘇生法の新しい流れ」林峰栄先生講演	7/10 7/17 7/26	**［生活］**第3回倉敷生活習慣病セミナー姫井センター長座長 **［生活］**第5回山陽・チボリ料理の集いに姫井センター長と小見山主任講演 CPC「正常な脳」	7/ 3～ 4	老健協会中国大会発表（於：チボリ公園）
8/27 8/28・9	調査研究報告会「在宅脳卒中患者を対象としたADL能力の低下要因とその予防」原田和宏先生講演 第12回研究発表大会中間発表	8/ 1 8/ 3 8/11 8/19 8/23	院内脳リハ食堂から4階病棟へ移転 **［生活］**第7回糖尿病料理教室「外へ飛び出せっ　夏の野外料理教室」 第14回倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会 「禁煙・完全分煙実施施設」に認定 CPC「脳血管障害　その①虚血性」		
9/17	ボウリング大会	9/10・24 9/11 9/27	医事レセプト勉強会開催 **［生活］**「食と動脈硬化」姫井センター長講演（於：玉野市総合文化センター） CPC「脳血管障害　その②脳出血」	9/19	秋祭り
10/17 10/19 10/30 10/31	消火技術訓練大会男子3位、女子準優勝 第13回看護セミナー・第16回神経セミナー合同開催「アルツハイマー病の早期発見・早期治療」浦上克哉先生 院内勉強会「職員の役割と責任の明確化について」新田栄一先生 第2回院内褥瘡勉強会	10/ 4 10/10 10/10	**［生活］**第8回糖尿病料理教室「実りの秋、カルシウム貯蓄計画」 高知いずみの病院の方が回復期リハビリ病棟を見学 **［生活］**姫井センター長「日本糖尿病合併症学会賞」受賞	10/30	倉敷翠松高校生実習

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
6/29	消防署合同消防訓練	6/18	マジックショー		
		7/16	夏の音楽会	7/23	高齢者向け賃貸マンション「ローズガーデン倉敷」起工式（於：倉敷市南町）
		8/ 8 8/20	夏祭り 児童合唱団		
9/ 7	第10回家族会開催	9/ 5	花火大会・仏教講話		
		10/15 10/31	園庭食事会・寿司祭り QOL祭り		

2003（平成15年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
11/ 9 11/11・12 11/21 11/26 ～ 28	第38回のぞみの会「脳卒中を斬る！」 川大生実習 韓国医師団来院 第12回研究発表大会本大会	11/15 11/16	CPC「パーキンソン病とその類縁疾患　その②」 **［生活］**茶屋町地区ミニ健康展に参加（於：茶屋町公民館）		
		12/ 5・6 12/10 12/13 12/20	病歴管理室と霊安室が病院1階へ移転 平川副院長「骨粗しょう症予防について」講演（於：春日会館） **［生活］**第9回糖尿病料理教室「みんなで楽しむクリスマス」 CPC「パーキンソン病とその類縁疾患　その③」	12/12	老健増築起工式

世の中の出来事

●北朝鮮、核拡散防止条約（NPT）から脱退（1月）
●横綱 貴乃花引退（1月）
●米スペースシャトル、帰還直前に空中分解　7人死亡（2月）
●アメリカ・イラク戦争、アメリカ軍がイラクへの攻撃を開始（3月）
●日本郵政公社営業開始（4月）
●新型肺炎SARS（重症急性呼吸器症候群）猛威をふるう、7月の終息宣言までに32ヶ国で患者774人死亡（4月）
●アメリカ軍がイラクのフセイン元大統領を拘束（12月）

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
11/ 1 11/11	介護タクシー開始 予防リハ秋の文化祭	11/ 4 11/12 11/26	秋の日帰り旅行「サファリパークと塩田温泉松茸づくしの旅」 歌謡・舞踊ショー 防災訓練		
		12/14 12/17 12/26	粒江ふれあいフェア カンツォーネ＆クリスマス会 バイキング 望年会		

2004（平成16年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
1/10 1/17	新年会（於:アイビースクエア） 第1回呼吸リハビリテーション研修会開催	1/ 1 1/31	総合美容センター長　吉岡保先生着任 **［生活］**第10回糖尿病料理教室「減塩しましょう－塩分控えめのおいしい和食」	1/16	新年会（新春バイキング）
2/ 3 2/10 2/21	渡邉看護部長新田中学校で講演 渡邉看護部長倉敷北中学校で講演 第2回呼吸リハビリテーション研修会開催				
3/ 9 3/26 3/31	フラワーアレンジメント講習会開催 第4回地域リハ研修会で関八州彦先生講演 第3回呼吸リハビリテーション研修会開催	3/12	第3回院内褥瘡勉強会		
4/ 1 4/ 3 4/17	脳ドック「政府管掌健康保険生活習慣病予防健診」の実施医療機関に認定 特別講演会「21世紀の高齢者の新しい生き方」春山満先生、久保田秀男先生、高尾武男先生（於：倉敷市民会館） 第4回呼吸リハビリテーション研修会開催	4/ 1 4/ 3 4/18 4/24	検診センター長　大橋勝彦先生、美容外科・形成外科　華山博美先生着任 **［生活］**第11回糖尿病料理教室「減塩体験Part2　塩分控えめのおいしい行楽弁当を持って出掛けましょう」 **［生活］**後楽園糖尿病ウォークラリー参加 CPC「正常な脳について」		
5/ 9 5/13 5/13 ～ 15 5/23	第2回岡山県パーキンソン病フォーラムで高尾理事長・田辺外来副主任講演 第1回接遇勉強会開催雨宮恵美先生講演 新田中学生職場体験 ひまわり号に参加	5/12 5/22 5/29・30	皮膚科開設 CPC「脳血管障害～虚血と出血～」 **［美容］**見学会		
6/17 6/30	救急勉強会林峰栄先生講演 訪問看護ステーション山手休止	6/ 1 6/ 7 6/26 6/26	**［美容］**総合美容センター、病院1階に開設 **［生活］**倉敷アクティブ・シニアレディの会で姫井センター長・高尾理事長講演 CPC「パーキンソン病の基礎」 **［生活］**第12回糖尿病料理教室「おなかがすいたときに－1単位以内の間食」	6/25 6/29	鴨方高校生実習 歌声ひろば800回達成
		7/24	CPC「パーキンソン病の類縁疾患～ PSPとCBD ～」	7/ 2	七夕祭り

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
1/13 1/17	通所リハ歌声ひろば777回達成 予防リハ新年会	1/ 6 1/17 1/21	新年会 倉敷児童館来訪 マジックショー		
2/ 3 2/ 9 2/20	アルツハイマー勉強会毎週火曜日開催 予防リハ節分会 理事長講話700回達成	2/10 2/18 2/23	平成15年度第2回理事会 コスモス会・歌と舞踊ショー 防災訓練		
		3/17 3/30	大正琴 お花見（於：酒津公園）	3/ 6	棟内モデルルーム完成
4/ 6	予防リハお花見会	4/21	園庭食事会		
		5/12 5/19 5/28	春の日帰り旅行「みろくの里・鞆の浦の旅」 コスモス会・歌と舞踊ショー 平成16年度第1回理事会		
6月	ヘルパー 2級講座受講者1000人達成	6/25	平成16年度第2回理事会		
7/12	予防リハ七夕会	7/20	音楽会		

2004（平成16年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
		8月から放射線部当直制開始 8/ 7 8/11 8/15 8/21 8/24	 **［生活］**第13回糖尿病料理教室「丈夫な骨を作るレシピ」 第15回倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会 24時間対応の救急搬送開始 CPC「MSAについて」 開放病床運営委員会開催	8/16	老健新館（150床）完成
9/12 9/10～14 9/28	第14回看護セミナー「急性期と慢性期の看護の役割と機能の確立」見藤隆子先生 高尾理事長第3回ディメンティア・コングレス（米国）で講演 防火優良認定施設に病院・老健・ケアセンターが認定	9月から検査部当直制開始 9/14 9/20 9/25	 マンモグラフィー導入 売店が老健側入口へ移転 CPC「アルツハイマー型認知症とDLB」		
10/ 1 10/ 9～11 10/17 10/26	第16回消火技術訓練大会初の男女アベック優勝 第4回成人片麻痺研修会開催弓岡光徳先生講演 第17回神経セミナー「痴呆の予防と治療」東海林幹夫先生 医療ガス保安講習会	10/ 2 10/ 5 10/23 10/26	**［生活］**第14回糖尿病料理教室「心も体もリフレッシュー秋の野外料理教室in酒津」 第4回院内褥瘡勉強会 CPC「非アルツハイマー型認知症　その①」 新潟県中越地震被災地へ救援物資送付	10/15	倉敷南中学生職場体験
11/14 11/16・17 11/24～26	第39回のぞみの会「脳卒中の予防とリハビリテーション」 川大生実習 第13回研究発表大会本発表	11/ 3 11/20	**［生活］**糖尿病予防キャンペーン西日本地区大会 CPC「“認知症シリーズ”アルコール障害　脱髄編」	11/ 5	秋祭り
12/15～18	中国鎮江市第一人民医院の方が来院、友好病院縁組締結	12/ 4 12/10 12/18	**［生活］**第15回糖尿病料理教室「糖尿病料理教室忘年会～来年も元気に過ごすために～」 平川副院長「骨粗しょう症予防について」講演（於：春日会館） CPC「内科疾患に伴う中枢神経病変アラカルト」		

世の中の出来事

●山口県で鳥インフルエンザ発生（日本では79年ぶり）（1月）
●自衛隊がイラク派遣（1月）
●東京都営団地下鉄と成田空港が民営化（4月）
●ロナルド・レーガン元アメリカ大統領死去（6月）
●参院選挙で民主党が躍進、自民党は低迷（7月）
●アテネ五輪開幕（8月）
●新潟県中越地震、死者40人（10月）
●一万円札福沢諭吉、五千円札樋口一葉、千円札野口英世を肖像とした新札発行（11月）
●スマトラ沖でM9.0の大地震・大津波、死者30万人以上（12月）

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
8/21	平成16年度第1回介護教室	8/ 6 8/17 8/26	夏祭り 児童合唱団 花火大会	8/26 8/27 ～ 29	ローズガーデン倉敷竣工 内覧会
9/15 9/25	第3回通所リハ祭り 平成16年度第2回介護教室	9/15	仏教講話	9/ 1	ローズガーデン倉敷開設
10月 10/ 7 10/ 9	立体駐車場完成 ショートステイ大運動会 平成16年度第3回介護教室	10/15 10/20	平成16年度第3回理事会 寿司祭り	10/29	ローズガーデン倉敷第1回誕生会（以降毎月開催）
11/27 11/29	平成16年度第4回介護教室 予防リハ秋の文化祭	11/12	ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「鳴門の渦潮と阿波踊り」	11/12	ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「鳴門の渦潮と阿波踊り」
		12/12 12/15 12/29	粒江ふれあいフェア アカデミアンアンサンブル＆食事バイキング 望年会	12/22	クリスマス会、望年会（以降毎年開催）

2005（平成17年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
1/ 8 1/15 1/26 1/26	新年会（於:アイビースクエア） 鬼手回春150号発行 高尾理事長鳥取大学で講演 交通安全教育講習会	1/17 1/22	救急勉強会「初期外傷診療の標準化」渋谷啓先生 CPC「脱髄疾患」	1/29	買い物ツアー
		2/ 5 2/ 7・21 2/19	**[生活]** 第16回糖尿病料理教室「食事療法　基本の“き”から～①計る・だしをとる」 救急勉強会「初期外傷診療の標準化」渋谷啓先生 CPC「中枢神経感染症～ヘルペス脳炎、PML、SSPE etc.…～」		
3/14 3/17 3/23～25	職員昼食販売開始 献血カー来院 新入職員研修	3/ 1 3/19 3/25	亜急性期病床開設 CPC「腫瘍性疾患」 中国鎮江市第一人民医院より王濱先生来院		
4/22	個人情報保護法勉強会開催森脇正先生	4月から 4/ 1 4/ 2 4/16 4/17	**[美容]** 乳腺外来開設 整形外科　平川宏之先生着任 **[生活]** 第17回糖尿病料理教室「超簡単・おいしい・計算いらず～めざせ！完ぺき糖尿病食春編①～」 CPC「正常な脳」 **[生活]** 後楽園糖尿病ウォークラリー参加	4/ 7・ 8	お花見
		5/21	CPC「脳血管障害」	5/16・20・23	ピクニック
6/14	安全管理者講習会で赤澤部長講演（於：倉敷市芸文館）	6/10 6/11 6/18	褥瘡ランチョンセミナー開催 **[生活]** 第18回糖尿病料理教室「超簡単・おいしい・計算いらず～めざせ！完ぺき糖尿病食初夏編①～」 CPC「当院DLBの剖検例」	6/ 3	買い物ツアー
		7/ 1 7/16 7/18	**[生活]** 新センター長に松岡孝先生着任 CPC「当院DLBの剖検例」 ペタンクのナショナルリーグ戦で向川真博MSW優勝		
		8/ 6 8/16 8/27 8/29	**[生活]** 第19回糖尿病料理教室「夏をおいしく～そうめんに挑戦～」 第16回倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会 CPC「中毒性・栄養障害性脳症」 **[美容]** 乳がん勉強会		

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
1/22 1/22	平成16年度第5回介護教室 リハビリテーションフォーラムで岡崎PT課長が講演（於：倉敷市芸文館）	1/ 5 1/19	新年会 ドナルドショー	1/ 7 1/ 8	新年会 中島みゆきファン感謝祭ビデオコンサート開催
2/19	平成16年度第6回介護教室	2/16 2/24 2/25	コスモス会・歌と舞踊ショー 防災訓練 平成16年度第4回理事会		
3/ 8	ケアセンター消火訓練	3/16	大正琴を聞く会		
		4/ 8 4/20	お花見（於：酒津公園） 園庭食事会		
5月から通所リハで屋上園芸療法開始		5/13 5/25	ドリーム・ローズ合同春の日帰り旅行「ぽかぽか南国高知皿鉢料理と桂浜」 平成17年度第1回理事会	5/13	ドリーム・ローズ合同春の日帰り旅行「ぽかぽか南国高知皿鉢料理と桂浜」
6/ 1	訪問看護ステーションの船穂と八軒屋を老松に統合	6/ 3 6/15	防災訓練 大正琴を聞く会「Heart to heart」		
		7/20	平成17年度第2回理事会 ピアノコンサート	7/13	第1回運営懇談会（以降隔月開催）
		8/ 5 8/16 8/29	夏祭り 児童合唱団 花火大会		

2005（平成17年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
9/ 1 9/ 4 9/11 9/16	ホームページリニューアル 倉敷医師会三種競技大会の囲碁の部で高尾理事長優勝 第15回看護セミナー「これからの看護職に求められる役割」石田昌宏先生 第6回院内褥瘡勉強会	9/ 8 9/17	認知症勉強会で中村重信先生講演 CPC「当院DLBの剖検例」	9/30	秋祭り
10/ 1 10/ 7 10/ 8 ～ 10 10/15・16 10/16 10/18 10/21 ～ 25	脳ドックが「人間ドック・健診施設機能評価」の認定を受ける 第17回消火技術訓練大会女子2連覇男子3位 第5回成人片麻痺研修会開催弓岡光徳先生講演 川大生実習 第18回神経セミナー「脳梗塞の急性期治療」木村和美先生 院内勉強会「脳内ニューロンの機能低下計測法」武者利光先生 高尾理事長中国鎮江第一人民医院訪問、江蘇大学兼職教授を授与される	10/ 1 10/15 10/23 10/28	**［生活］**第20回糖尿病料理教室「心も体もリフレッシュー秋の野外料理教室in酒津2」 CPC「パーキンソン病関連疾患その①」 **［生活］**茶屋町健康展に参加（於：茶屋町公民館） 新型救急車導入	10/28	秋の大運動会
11/13 11/29・30	第40回のぞみの会「脳卒中の予防と急性期の対応」 第14回研究発表大会本発表	11/ 1 11/ 7 11/12	NST稼動施設認定 防災訓練 CPC「パーキンソン病関連疾患その②」		
		12/ 3 12/17	**［生活］**第21回糖尿病料理教室「みんなで楽しむおせち料理」 CPC「パーキンソン病関連疾患その③」		

世の中の出来事

●中部国際空港「セントレア」開港（2月）
●愛地球博（愛知万博）開催（3月）
●ローマ法王　ヨハネ・パウロ二世死去（4月）
●尼崎のJR西日本福知山線脱線事故、死者107人、負傷者400人以上（4月）
●野口聡一飛行士が搭乗のスペースシャトル「ディスカバリー」が打ち上げ（7月）
●衆院選で自民党が歴史的大勝（9月）
●紀宮さまと黒田慶樹さん結婚（11月）
●マンション、ホテルの耐震強度偽装発覚（11月）
●大相撲で横綱 朝青龍が史上初の7連覇と年間6場所完全制覇を達成（11月）

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
		9/21	仏教講話		
10/30	ショートステイ大運動会	10/ 3 10/19	開設10周年記念の会NTTボランティアショー アコーディオンショー＆寿司祭り	10/ 6	太極拳クラブ開始
11/21	予防リハ文化祭	11/ 9 11/16 11/21	平成17年度第3回理事会 フラダンス・民謡踊ろう会 ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「淡路島人形浄瑠璃と藍染め体験」	11/21	ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「淡路島人形浄瑠璃と藍染め体験」
		12/11 12/11 12/21 12/26	粒江ふれあいフェア 平成17年度第4回理事会 クリスマス会＆バイキング 望年会		

2006（平成18年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
1月より職員陶芸教室開始 1/ 7	新年会（於:アイビースクエア）	1/21	CPC「パーキンソン病の剖検例」		
		2/ 1 2/ 4	診察券リニューアル **［生活］**第22回糖尿病料理教室「塩分控えめのおいしい糖尿病料理」		
3/17 3/17	献血カー来院 第7回院内褥瘡勉強会	3/ 4 3/10 3/10・17 3/21 3/25 3/31	CPC「小児から始まる神経疾患及び先天奇形」 防犯カメラ設置 オーダリングシステムリハーサル 外来にインフォメーション用のディスプレイを設置 CPC「脳腫瘍について」 特殊疾患病床廃止		
		4/ 1 4/ 1 4/ 1 4/15 4/15	鈴木健二先生新院長に着任 病棟でオーダリングシステム稼動 **［生活］**第23回糖尿病料理教室「骨を丈夫に－骨粗しょう症にならないために②」 外来でオーダリングシステム稼動 CPC「正常な脳」	4/ 6・ 7	お花見ツアー
		5/ 1 5/20 5/23	敷地内禁煙開始 CPC「脳血管障害について」 マルチスライスCT設置	5/15・22・24	ピクニック
6/17	認知症早期診断治療研修会武者利光先生・浦上克哉先生講演	6/ 1 6/ 3 6/17 6/17	**［生活］**糖尿病療養指導士7名合格 渡邉看護部長岡山県看護協会会長賞受賞 CPC「パーキンソン病類縁疾患①」 **［生活］**第24回糖尿病料理教室「初夏の混ぜずしをメインに」		
		7/ 6・ 7 7/15 7/25・26	AED説明会 CPC「パーキンソン病類縁疾患②（多系統変性症）」 第15回研究発表大会中間発表	7/ 6・ 7	七夕祭り

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
		1/ 6 1/14 1/18	新年会 倉敷児童館来訪 ハーモニカショー	1/14	新年会
2/ 3 2/28	通所リハ節分会 ケアセンター消火訓練	2/15 2/27	大正琴を聞く会 平成17年度第4回理事会	2/ 6 2/12 2/15	お琴教室（以降隔週） 民謡教室（以降隔週） 習字教室（以降隔週）
		3/15 3/29	コスモス会・歌と舞踊ショー 防災訓練		
4/ 1 4/ 1 4/ 1 4/ 1	ヘルプステーション八軒屋を老松に統合 デイケアとデイリハを統合し通所リハと名称変更 予防リハ開設 老松・中洲を担当する地域包括支援センター開設	4/11 4/19	花見会 カラオケ大会		
		5/17 5/24 5/29	ドリーム・ローズ合同春の日帰り旅行「松江の鯛めしとフォーゲルパーク」 フォークダンスを楽しむ会 平成18年度第1回理事会	5/17	ドリーム・ローズ合同春の日帰り旅行「松江の鯛めしとフォーゲルパーク」
6/ 7	歌声広場900回達成	6/12 6/14 6/21	第1回体力測定 防災訓練 大正琴を聞く会「Heart to heart」		
7/ 4	第1回転倒予防教室	7/12 7/19	健康教室（倉敷市） 音楽を楽しむ会	7/10	コーラスクラブ（以降隔週）

2006（平成18年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
		8/12	CPC「遺伝性脊髄小脳変性症」	8/ 8	日本赤十字社岡山支部長感謝状授与
		8/15	第17回倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会	8/10	おやつバイキング
		8/19	**［生活］**第25回糖尿病料理教室「麺を使って～スタミナおかずとさっぱりデザート～」		
9/ 5	「医療費改定の動向と対策」勉強会今田彰先生講演	9/16	CPC「多系統変性症患者のCPC」	9/22	秋祭り
9/10	第16回看護セミナー「地域連携を中心とした医療」野村一俊先生	9/18	老松学区敬老会参加		
9/18	老松学区敬老会に参加	9/20～24	ペタンク世界大会に向川真博MSWが日本代表として出場		
9/29	第8回院内褥瘡勉強会	9/26	DPC勉強会で高尾聡一郎先生講演		
9/30	第7回安全運転競技会で赤澤部長準優勝				
10/ 1	山下由起CPが第7回日本認知症ケア学会にて、平成18年度石崎賞を受賞	10/ 3	井水プラント通水開始	10/ 4	歌声広場900回達成
10/ 6	第18回消火技術訓練大会男子3位女子3位	10/20・26	足病変研修会	10/ 6	運動会
10/15	第19回神経セミナー「脳卒中治療の進歩」杉生憲志先生	10/21	循環バス試験運転開始		
		10/21	**［生活］**第26回糖尿病料理教室「手作りハンバーガー」		
		10/28	CPC「神経病理の染色の基礎」		
11/ 2	倉敷天領ライオンズクラブにて高尾理事長講演（於：アイビースクエア）	11/ 1	婦人科　太田郁子先生着任	11/27	避難訓練
11/14・15	川大生実習	11/ 8	**［生活］**糖尿病週間「検査データのみかた」松岡センター長講演	11/28・30	紅葉ドライブ
11/19	第41回のぞみの会「脳卒中の急性期治療とリハビリテーション」	11/25	CPC「ALS、SPMAのCPC」		
11/28・29	第15回研究発表大会本発表				
11/30	職員用陶芸教室開始				
		12/ 2	**［生活］**第27回糖尿病料理教室「今年のクリスマスは手作りケーキで」		
		12/13	「DPC news」創刊		
		12/13	第1回DPC研修会		
		12/16	CPC「運動ニューロン疾患」		
		12/17	循環バス試験運転終了		
		12/23	病院北駐車場に看板設置		

世の中の出来事

- ●ライブドア堀江貴文社長逮捕（1月）
- ●トリノ冬季五輪の女子フィギュアスケートで荒川静香が金メダル（2月）
- ●神戸国際空港開港（2月）
- ●オウム真理教教祖松本智津夫被告の死刑確定（2月）
- ●第1回ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）で日本が優勝（3月）
- ●インドネシア・ジャワ島でM6.3の地震、6,000人以上死亡（5月）
- ●北朝鮮、ミサイル連続発射（7月）と地下核実験実施（10月）
- ●秋篠宮ご夫妻に悠仁（ひさひと）親王誕生（9月）
- ●安倍晋三内閣発足、初の戦後生まれの首相誕生（9月）
- ●イラクのサダム・フセイン元大統領死刑執行（12月）

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
8/12 8/20	通所リハ夏祭り ショートステイ夏祭り	8/ 4 8/16 8/20 8/25	夏祭り よねちゃんとジャガイモの会・歌と舞踊 平成18年度第2回理事会 花火大会	8/22	ロングステイルーム開設
9/ 5	第2回転倒予防教室	9/ 4 9/20 9/25	治療食開始 仏教講話 第2回体力測定		
10/ 3 10/23	第3回転倒予防教室 予防リハにパワーリハビリテーションマシン導入	10/ 1 10/18	薬剤管理開始 寿司祭り＆運動会平成18年度第3回理事会		
11/ 7 11/12	第1回介護教室 TSC職場対抗ボウリング大会女子の部梶田由美介護福祉士優勝	11/ 8 11/15	ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「大根島と米子の旅」 ハーモニカで歌おう会	11/ 8	ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「大根島と米子の旅」
12/ 5	第2回介護教室	12/14 12/17	メタボリック症候群ケアハウス内勉強会 粒江ふれあいフェア		

2007（平成19年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
1/ 8	20周年記念式典祝賀会（於：アイビースクエア）	1/19 1/27 1/30 1/31	胃ろう勉強会 CPC「MS、ADEMの病理」 皮膚科休止 第1回院内感染対策研修会	1/12	新年会
2/27	びほく農協の方が施設見学で来院	2/ 3 2/15 2/16 2/17	**［生活］**第28回糖尿病料理教室「上手に食べようカレー・炒飯・丼もの」 第2回DPC研修会 第1回院内感染対策研修会 CPC「白質ジストロフィーの病理」		
3/ 1 3/ 8 3/27	第9回院内褥瘡勉強会、森將晏先生講演 事業計画策定説明会 献血	3/ 7 3/16 3/17 3/31	緊急告知FMラジオ「こくっち」寄贈される 第2回院内感染対策研修会 CPC「ミオクローヌスてんかん」 リハビリ研修会で石井慎一郎先生講演		
4/ 1	首掛け式名札に変更	4/ 1 4/ 1 4/ 7 4/15 4/21 4/21	脳神経外科医長　高尾聡一郎先生着任 7：1の看護配置実施 **［生活］**第29回糖尿病料理教室「春色いっぱい行楽弁当②」 **［生活］**後楽園糖尿病ウォークラリー参加 渡邉看護部長倉敷翠松高校で講演 リハビリ研修会で富田昌男先生講演	4/ 5・ 6	お花見
5/27	ひまわり号参加	5/11 5/28	優良防火事業所として表彰 第3回DPC研修会	5/15	ピクニック
6/18	西館着工	6/ 9 6/15 6/20 6/29	**［生活］**第30回糖尿病料理教室「挑戦！手打ちパスタ」 多目的デジタルX線TV装置設置 新見医師会学術講演会で関八州彦先生が講演 救急勉強会		
7/24・25	第16回研究発表大会中間発表	7/ 1	麻酔科部長　和田聡先生着任	7/ 5・ 6	七夕会
8/11	第17回看護セミナー「救急から在宅までの継続看護の展開」芝山江美子先生・石田昌宏先生　病院見学会も同時開催	8/15 8/25	第18回倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会 **［生活］**第31回糖尿病料理教室「にぎやか冷麺とかき氷」		

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
		1/ 5 1/13 1/17	新年会 倉敷児童館来訪 ドナルドショー＆おやつバイキング		
2/ 3	通所リハ節分	2/17 2/21 2/26	大根劇団公演 滝和会大正琴 防災訓練		
3/20	防災訓練	3/ 5 3/14 3/20	第100回代表講話 コスモス会　歌と踊りのショー 平成18年度第4回理事会		
4/19	通所リハお花見会	4/18	園庭食事会　ハーモニカ演奏		
5/ 8	第1回介護教室	5/ 9 5/16 5/29	ドリーム・ローズ合同春の日帰り旅行「高松の名旅館『花樹海』でのんびり旅」 よねちゃんとじゃがいも会・歌と舞踊 平成19年度第1回理事会	5/ 9	ドリーム・ローズ合同春の日帰り旅行「高松の名旅館『花樹海』でのんびり旅」
		6/20	大正琴を聞く会「Heart to heart」		
7/ 3	第2回介護教室	7/18	フォークダンスの会		
		8/ 3 8/31	夏祭り 花火大会		

2007（平成19年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
9/14 9/17 9/22 9/25	高尾聡一郎先生が「倉敷市救急隊員研修会」で講演 老松学区敬老会に参加 高尾芳樹副院長が「第3回岡山脳卒中市民講座で講演 「第8回安全運転競技大会」で小坂聡弘さん優勝	9/ 1 9/13・21 9/18～23 9/25	歯科にセレック導入 再来受付機対応マニュアル説明会 ペタンク世界大会に向川真博MSW日本代表として2年連続出場 病院機能評価に向けての特別勉強会		
10/ 1 10/ 5 10/14 10/19 10/27	西館竣工 第19回消火技術訓練大会男子3位女子準優勝 第20回神経セミナー「これからの脳卒中治療」阿部康二先生 救急（AED）勉強会 第1回臨床実習指導者学習会開催、山崎裕司先生・西本哲也先生	10/ 6 10/ 8	**［生活］**第32回糖尿病料理教室「秋の丼もの～丼ものを上手に食べましょう～」 中澤摩美介護福祉士走り幅跳び競技で秋田国体出場	10/ 5	秋祭り
11/11 11/13・14	第42回のぞみの会「脳卒中の急性期治療とリハビリテーション」 川大生実習				
12/14	第16回院内研究発表大会審査結果発表	12/ 1 12/ 2	**［生活］**第33回糖尿病料理教室「ちょっとごちそう～おせち料理に使えるレシピいろいろ～」 第3回ヤーヤーカップinせとだペタンク大会で向川真博MSW優勝	12/19	クリスマス会

世の中の出来事

●ロシア エリツィン前大統領死去（4月）
●熊本市の病院が初の「あかちゃんポスト」設置（5月）
●年金不明記録問題（6月）
●新潟中越沖地震（震度6強）が発生（7月）
●第21回参議院選挙で自民党が民主党に歴史的敗退（7月）
●米サブプライムローン問題で世界同時株安（8月）
●福田康夫内閣発足、初の親子2代の首相誕生（9月）
●郵政民営化スタート、日本郵政グループ発足（10月）
●薬害肝炎訴訟で、原告側と国が全面解決で合意（12月）

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
9/ 4	第3回介護教室	9/ 6 9/19	老施協ケアハウス部会中国地区大会で発表 仏教講話	9/27	名月観賞会
10/10	送迎リフト車「のぞみ号」導入	10/17	寿司祭り＆運動会		
11/ 6	第4回介護教室	11/ 7	ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「ルミナス神戸でクルーズ＆オリエンタルホテル見学」	11/ 7	ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「ルミナス神戸でクルーズ＆オリエンタルホテル見学」
		12/16 12/19 12/26	粒江ふれあいフェア クリスマスコンサート＆バイキング 望年会		

2008（平成20年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
1/ 5	新年会（於：倉敷チボリ公園アンデルセンホール）			1/30	新年会　ドナルドショー
2/ 2 2/ 9 2/14 2/29	第2回認知症初期診断・治療研修会「アルツハイマー病の早期発見に向けて」脳機能研究所代表取締役　武者利光先生講演 岡山県西部ヤクルト販売株式会社より「愛の車イス」1台寄贈 院内感染対策勉強会 病院経営に関する勉強会「勝ち残っていく病院経営の在り方～病院経営における改善事例～」日本経営部長　中村彰吾先生講演	2/ 2	**［生活］**第34回糖尿病料理教室「ひな祭りを楽しむ～手まりずしとひなあられ～」	2/27	老松保育園とふれあい会
3/11 3/14	献血カー来院 第11回院内褥瘡勉強会				
4/26	第3回岡山県PDN（PEGドクターズネットワーク）セミナー参加	4/ 1 4/ 1 4/ 1 4/ 5 4/20	神経内科　太田康之先生着任 病院外来にて医療介護相談コーナー開設 倉敷平成病院訪問リハビリテーション　事業所認定 **［生活］**第35回糖尿病料理教室「おから三昧」 倉敷生活習慣病センター　「歩いて学ぶ糖尿病　おかやま後楽園ウォークラリー」		
5/25	第24回ひまわり号ボランティア参加	5/ 1 5/15	糖尿病・代謝内科　有村泰一郎先生着任 第43回理学療法学術大会　理学療法士井上優主任　奨励賞受賞		
6/11	倉敷市救急隊員症例研究会　華山博美先生講演	6/14	**［生活］**第36回糖尿病料理教室「ナンとグリーンカレー」		
7/ 3・4 7/31・8/ 1	第58回日本病院学会発表 第17回院内研究発表大会中間発表				
8月 8/23 8/31	全仁会ボランティア発足 第18回看護セミナー「看護の現場における感動～脳卒中急性期からの感動のリレー～」 バレー部　第22回岡山県病院協会バレーボール大会出場	8/ 9 8/14 8/25	**［生活］**第37回糖尿病料理教室「めん三種」 第19回倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会 病院廊下カーブミラー設置		
9/15 9/22	老松学区敬老会参加 第12回院内褥瘡勉強会			9/26	秋祭り

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
1月	鍼灸治療院　甄立学鍼灸師着任	1/12	新年会	1/ 7 1/29	新年会 第1回百人一首クラブ開催
4/26	通所リハ　倉敷作陽大学音楽学部演奏会	4/15	お花見会		
5/21	通所リハ　歌声広場通算1000回	5/14	ドリーム・ローズ合同春の日帰り旅行「しまなみ海道経由、今治・道後の旅」	5/14	ドリーム・ローズ合同春の日帰り旅行「しまなみ海道経由、今治・道後の旅」
				7/18	夏のバイキング＆ビアパーティー
8/29	通所リハ　夏祭り	8/ 8	夏祭り		
9/26	第9回安全運転競技大会　通所リハ　山上啓一介護福祉士第3位入賞	9/ 5	花火大会		

2008（平成20年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
10/ 3 10/18 10/19 10/25	第20回消火技術訓練大会優勝 第4回おかやま足を守る会 第21回神経セミナー「脳梗塞の最新治療と認知症の早期診断」 第5回くらしき脳卒中地域連携の会学術集会参加	10/ 4 10/17 10/27	**[生活]** 第38回糖尿病料理教室「カフェランチ～オープンサンド、根菜のポトフ」 「女性医師の復職ならびに家庭・育児等との両立」女性を生かすキャリア支援計画代表片岡仁美先生来院、協力医療機関登録証贈呈 倉敷東ロータリークラブより優良従業員表彰　病室管理武本節子室長		
11/ 9	第43回のぞみの会「脳卒中の急性期治療と生活習慣病対策」	11月 11月 11/11・12 11/22 11/25	森本徳枝副院長（看護担当）着任 PACSシステム導入 川崎医科大学学生実習受け入れ 外来待合い　電話ボックス、正面玄関風除室　掲示板設置 避難訓練		
12/ 4	院内感染対策研修会「全仁会・院内感染対策マニュアル2008年改訂版について」	12/ 6	**[生活]** 第39回糖尿病料理教室「年末年始に楽しむ和のもてなし料理」		

世の中の出来事

●中国製冷凍ギョーザで中毒事件発生（1月）
●千葉県野島沖でイージス艦と漁船が衝突（2月）
●中国チベット自治区で大規模暴動（3月）
●後期高齢者医療制度スタート（4月）
●中国四川省でM7.8の大地震発生、死者6万人以上（5月）
●東京秋葉原で無差別殺傷事件、7人殺害、10人重軽傷（6月）
●東北地方でM7.2の地震発生、死者13人、行方不明10人（6月）
●北京オリンピック開幕、男子平泳ぎ北島康介選手連続2冠、ソフトは念願の金（8月）
●福田康夫首相退陣、麻生太郎内閣発足（9月）
●米証券大手リーマン・ブラザーズが破たん、金融不安が拡大（9月）
●南部陽一郎氏、小林誠氏、益川敏英氏ノーベル物理学賞、下村脩氏ノーベル化学賞受賞（10月）

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日　倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日　ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日　ローズガーデン倉敷
		10/17　名月観賞会
	11/11　ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「広島帝釈峡・遊覧船の旅」	11/11　ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「広島帝釈峡・遊覧船の旅」

2009（平成21年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
1/10 1/24 1/26・27	全仁会グループ新年会 「肩関節のとらえ方～評価から治療～」「ファーストステップセミナー」講習会　フィジストレーナー山口光國先生講演 第17回院内研究発表大会	1/31	**［生活］**第40回糖尿病料理教室「乙女のバレンタイン～チキンライスとチョコレートパフェ～」		
2/15 2/27	第1回くらしきみなみ文化祭参加 イーブくらしきネットワーク参画フェスタ2009　太田郁子先生講演	2/14・15	全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第13回研究大会　渡邉看護部長、小山師長、小野管理栄養士、宮崎副主任発表		
3/17 3/19	院内感染対策委員会勉強会 第13回院内褥瘡勉強会				
4/18	アルツハイマー病研究会第10回学術シンポジウム参加	4/ 1 4/ 4 4/19	消化器科医長　吉岡毅先生、リハビリテーション科　高尾祐子先生、神経内科　倉田智子先生、山部省三事務長、有光育代看護部長着任 **［生活］**第41回糖尿病料理教室「お好み春巻きと手作り蒸しまんじゅう」 医療安全管理等入院基本料に関わる研修会　渡邉広美部長、小山恵美子師長講演	4/ 1	施設長　大浜栄作先生着任
		5/ 1	病院機能評価Ver.5認定		
		6/13 6/15	**［生活］**第42回糖尿病料理教室「しょうゆだれを使って」 3テスラMR導入		
7/14 7/17 7/23・24 7/27・28	いきいき元気教室　歯科芦田昌和先生（非常勤）講演 形成外科救急勉強会 第59回日本病院学会発表 第18回院内研究発表大会中間発表大会	7/ 1 7/ 1	形成外科・救急部医長　森大祐先生着任 DPC（診断群分類別包括評価）導入		
8月 8/ 3 8/ 8 8/30	ウクレレ部発足 ニッセイ医学・健康セミナー平成脳ドックセンター岡崎課長、脳神経外科高尾聡一郎先生講演 第19回看護セミナー「これからのチーム医療を考える～改めてた職種との協働を考える～」 バレー部　第23回病院職員バレーボール大会県大会参加	8/ 1 8/12	**［生活］**第43回糖尿病料理教室「ゴーヤ三昧」 第20回倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会		

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
1/23	通所リハ　華扇会公演	1/ 9	新年会	1/ 5	新年会
				2/13	食事ツアー（かに道楽）
4/ 7	通所リハ　岡山民謡の会「松玉会」来演				
		5/13	ドリーム・ローズ合同春の日帰り旅行「世界砂像フェスティバルと山陰・山海の幸満喫の旅」	5/13	ドリーム・ローズ合同春の日帰り旅行「世界砂像フェスティバルと山陰・山海の幸満喫の旅」
7/27	通所リハ　城みちるさん訪問コンサート	7/ 1 7/31	ミュージック・パフォーマンス「マリオの元気なお届け便」公演 夏祭り		
8/19	ショートステイ　夏祭り			8/27	公益社団法人　全国有料老人ホーム協会正会員

2009（平成21年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
9/ 4 9/13 9/15 9/17 9/28 9/30	リハビリテーション部勉強会「急性期医療におけるリスク管理」埼玉医科大学国際医療センターリハビリテーションセンター PT科主任　花房先生講演 老松学区敬老会参加 わかやさ・リスク合同勉強会「接遇勉強会」 認知症勉強会「認知機能の評価と介入方法について」川崎医科大学神経内科　宮崎裕子先生講演 第14回院内褥瘡勉強会 総社消防署救急隊員研究会 形成外科医長　森大祐先生講演	9/ 1	耳鼻咽喉科部長　森幸威先生、神経内科　森本展年先生着任	9/25	秋祭り
10/ 2 10/10	第21回消火技術訓練大会優勝 第22回神経セミナー「脳卒中のリハビリテーション」	10/ 3 10/19 10/24	**［生活］**第44回糖尿病料理教室「岡山の祭り寿司」 倉敷東ロータリークラブより優良従業員表彰　医療安全対策部　渡邉広美専従リスクマネジャー 総合美容センター秋の美肌セミナー		
11/ 6 11/10 11/15 11/23	院内感染対策勉強会 運転技能適性検査実施 第44回のぞみの会「脳卒中の治療と生活習慣病対策」 フットサルチーム発足　フットサル施設連盟選手権中四国大会出場				
12/ 7・8 12/17	第18回院内研究発表大会 ウクレレ部　ローズガーデン倉敷クリスマス会演奏	12/ 1 12/ 5	防災訓練 **［生活］**第45回糖尿病料理教室「みんなで楽しむ飲茶」		

世の中の出来事

●バラク・オバマ氏米大統領就任、初の黒人大統領（1月）
●米アカデミー賞で「おくりびと」が外国語映画賞、「つみきのいえ」が短編アニメ賞を受賞（2月）
●第2回ワールドベースボールクラシックで日本が連覇（3月）
●新型インフルエンザが世界で猛威、死者1万人超（4月）
●裁判員制度スタート（5月）
●歌手マイケル・ジャクソン氏急死（6月）
●中国新疆ウイグル自治区で暴動、197人死亡（7月）
●衆議院選で民主党圧勝、政権交代で鳩山由紀夫内閣発足（9月）
●オバマ大統領ノーベル平和賞受賞（10月）
●宇宙飛行士 野口聡一さん宇宙長期滞在へ（12月）

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
9/26	第10回安全運転競技大会　ヘイセイホームヘルプステーション訪問入浴　河原基人介護福祉士優勝				
				10/ 2 10/23	名月観賞会 陶芸教室（以降毎月1回）
		11/11	ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「日本食研・タオル美術館見学ツアー」	11/ 4 11/11	アフタヌーンコンサート（ハープ＆ヴァイオリン） ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「日本食研・タオル美術館見学ツアー」
				12/ 1 12/17	医療法人全仁会へ編入 ウクレレ部　ローズガーデン倉敷クリスマス会演奏

全仁会10大ニュース

- ●平川訓己新院長就任決定
- ●営業実績の成長
- ●のぞみの会への参加者1,000人を超える
- ●全仁会グループの再編
  （住宅型有料老人ホーム ローズガーデン倉敷の医療法人への編入）
- ●診療体制の充実
- ●入退院調整機能の充実
- ●DPCへの移行と病院機能評価Ver.5の認定
- ●３テスラMRの導入　６月
- ●外来患者数１日600人を超える
- ●広報活動の充実

追加５ニュース

- ●病院機能評価Ver.5の認定
- ●消火技術訓練大会　男女アベック優勝・倉敷市安全運転競技大会優勝
- ●看護師求人10月末までに20名採用決定
- ●婦人科 太田郁子医師　第31回日本エンドメトリオーシス学会で演題発表賞受賞
- ●脳ドック新システム導入

2010（平成22年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
1/11 1/11 1/23 1/29	第18回院内研究発表大会表彰式 平川新院長就任祝賀会　全仁会グループ新年会 第5回おかやま足を守る会　柔道整体師　笠原巌氏講演 フットサル部　第2回倉敷医療福祉関係者フットサル親睦大会優勝	1/11	平川訓己先生院長、鈴木健二先生名誉院長、篠山英道先生副院長就任		
2/ 4 2/14 2/18	わかやさ・リスク合同研修会「全仁会グループにおける医療安全への取り組み」 第2回くらしきみなみ文化祭参加 倉敷市救急隊員症例研究会　森大祐先生講演	2月 2/ 6	X線一般撮影装置更新 **［生活］**第46回糖尿病料理教室「生姜を使って」		
3/10 3/15 3/28	献血カー来院 第15回院内褥瘡勉強会 フットサル部　第6回病院対抗万成杯フットサル大会優勝				
4/18 4/30	アルツハイマー病研究会第11回学術シンポジウム参加 第19回全仁会研究発表大会説明会	4/ 1 4/ 2	神経内科　柚木太淳先生着任 **［生活］**第47回糖尿病料理教室「巻き寿司」		
5/23	第26回ひまわり号ボランティア参加	5/ 1 5/ 3～ 6 5/27～29	日本脳ドック学会認定施設の認定 米国メディカルコンプレックス（大規模医療複合施設）視察 第53回日本糖尿病学会年次学術集会参加		
6/ 3 6/18・25 6/27	くもん学習療法センター講演会 脊髄刺激療法勉強会　岡大脳神経外科　上利崇先生、熊本託麻台病院院長　平田好文先生講演 フットサル部　第7回病院対抗万成杯フットサル大会優勝	6/12	**［生活］**第48回糖尿病料理教室「トルティーヤとチリコンカン」		
7/ 3 7/22・23 7/24 7/26・27	「これからの認知症政策について～岡山県の認知症政策～」勉強会　岡山県保健福祉部健康推進課課長　則安俊昭氏講演 第60回日本病院学会発表 第40回倉敷天領夏祭り「OH！代官ばやし」出場 院内研究発表大会中間発表				

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
1月	ショートステイ　新年会			1/ 8	新年会
2/ 3	通所リハ　大節分祭				
		4/ 2	お花見茶会		
5/ 6	通所リハ　作陽オーケストラ金管五重奏コンサート	5/12	ドリーム・ローズ合同春の日帰り旅行「高知土佐・龍馬であい博の旅」	5/12	ドリーム・ローズ合同春の日帰り旅行「高知土佐・龍馬であい博の旅」
		6/ 1	「デイサービスドリーム」誕生		
7/17 7/20	通所リハ　夏祭り・伊つき座公演 ヘイセイ鍼灸治療院改修	7/28	夏祭り	7/ 3	お食事ツアー

2010（平成22年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
8/ 7 8/29	第20回看護セミナー「みえる看護・介護の提供を目指して」 バレー部　病院協会県大会ベスト8進出	8/ 7 8/12	**［生活］**第49回糖尿病料理教室「夏の精進料理」 第21回倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会		
9/ 1 9/12 9/28	くもん学習療法開始 老松学区敬老会参加 献血カー来院			9/24	秋祭り
10月 10/ 2 10/15 10/18 10/19 10/26	わかやさ・リスク合同勉強会「院内暴力対策ガイドライン」 第23回神経セミナー「脳卒中治療の最前線～切って治すか？切らずに治すか？～」 フットサル部　第4回医療福祉関係者フットサル親睦大会優勝 第16回院内褥瘡勉強会 第2回ニッセイ美肌セミナー　華山博美先生講演 総社市消防本部救急救命士勉強会　高尾聡一郎先生講演	10/ 1 10/ 2	神経内科　佐藤恒太先生着任 **［生活］**第50回糖尿病料理教室「洋風コース料理」		
11/ 7	第45回のぞみの会「地域の絆の再構築　救急から在宅までの医療」	11月 11/15	日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会参加 自動精算機導入	11/10～12	全国介護老人保健施設大会参加
12/ 1 12/ 6・7	社会医療法人認定 第19回院内研究発表大会	12/ 4	**［生活］**第51回糖尿病料理教室「和もてなし」		

世の中の出来事

●バンクーバー冬季オリンピック開幕。フィギュアスケート高橋大輔選手、日本男子初の銅メダル（2月）
●アイスランド火山噴火、欧州全域で航空機飛行禁止措置（4月）
●殺人事件の時効廃止（4月）
●上海万博開幕（5月）
●鳩山首相辞任、菅直人新内閣発足（6月）
●小惑星探査機「はやぶさ」帰還（6月）
●チリ鉱山落盤事故。10月、33人「奇跡の救出」（8月）
●尖閣諸島沖で中国密漁船が海保巡視船と衝突（9月）
●鈴木章氏、根岸英一氏、ノーベル化学賞受賞（10月）

［生活］倉敷生活習慣病センター　**［美容］**総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
		8/20	花火大会		
9/13	通所リハ　第900回記念理事長講話				
10/25	倉敷東ロータリークラブより優良従業員表彰　清水蕗子師長			10/ 9	拡大お食事ツアー庄原編
		11/10	ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「ゲゲゲの女房の舞台と山陰海の幸満喫ツアー」	11/10	ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「ゲゲゲの女房の舞台と山陰海の幸満喫ツアー」
				12/24	12月誕生会・クリスマス会

全仁会10大ニュース

●社会医療法人認定（法人役員新体制スタート）　12月
●医業実績の成長
●特養複合施設　認定　10月
●外来600人体制の整備（自動精算機の導入、外来サービス棟増築）　11月
●脳ドックセンターの成長（前年比120%）
●24時間看護の提供（２交代制の導入：９月・副看護部長２名体制：11月）
●くもん学習療法の開始　９月
●救急受入れ件数 過去最高　197／件　12月
●全仁会４本柱の充実（のぞみの会・神経セミナー・看護セミナー・研究発表大会）
●倉敷天領祭りへの初参加　７月

2011 （平成23年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
1/ 8 1/ 8	第19回院内研究発表大会表彰式 社会医療法人取得記念祝賀会 全仁会グループ新年会	1/ 1	呼吸器科医長　矢木真一先生着任		
2/ 3 2/10 2/13 2/18 2/19 2/27	リスクマネジメント委員会「MR検査時での事故防止について」勉強会 勉強会「超高齢社会における社会構造変化と病院経営イノベーション」医療経営研究センター・コンタクス代表取締役今田彰氏講演 第3回くらしきみなみ文化祭参加 勉強会「今後の社会福祉施設経営のあり方」株式会社日本経営代表取締役社長藤澤功明氏講演 日本医療マネジメント学会県支部学術集会参加 マラソン部　そうじゃ吉備路マラソン出場	2/ 5	**［生活］**第52回糖尿病料理教室「冬素材でイタリアン」		
3/10 3/13 3/15 3/17	献血カー来院 第24回瀬戸内倉敷ツーデーマーチ参加 わかりやすいやさしい医療推進委員会接遇勉強会 第17回院内褥瘡勉強会				
4/ 3 4/22 4/28	第1回音楽療法勉強会 東日本大震災義援金（1001,734円）を山陽新聞社会事業部へ届出 全仁会職員交流卓球大会	4/ 1 4/ 2	リハビリテーション科部長　池田健二先生、神経内科　林紗織先生、神経内科　高宮資宜先生、歯科　佐藤晃子先生着任 **［生活］**第53回糖尿病料理教室「沖縄地方の料理」	4/ 7・ 9	お花見会
5/22 5/30	第27回ひまわり号ボランティア参加 院内研究発表大会デザイン発表				
6/ 5 6/12 6/12 6/14・15 6/29	第2回音楽療法勉強会 卓球同好会　岡山病院協会主催卓球大会出場 フットサル部　第9回万成杯フットサル大会優勝 介護サービス博覧会出展 第1回フットケア勉強会	6/ 1 6/11 6/13	消化器科部長　前田憲男先生着任 **［生活］**第54回糖尿病料理教室「東北地方の料理」 売店リニューアル		
7/14・15 7/23 7/29	第61回病院学会発表 第41回倉敷天領夏祭り「OH！代官ばやし」優勝 院内感染対策勉強会	7/ 1 7/ 4	サービス棟竣工 「倉敷平成病院カフェ＆レストラン　スマイルキッチン」オープン		

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
1/14 1/27	ショートステイ　新年会 通所リハ　おでんバイキングイベント	1/ 5	新年会	1/ 5 1/13 1/19	平成南町クリニック開院　玉田二郎院長着任 新年会 防災訓練
4/28	通所リハ　新入職員歌謡ショー	4/ 7	春のお花見＆食事ツアー		
5/ 5 5/17	ショートステイ　春の陣！紅白対抗カブト合戦 消防訓練	5/11 5/30	ドリーム・ローズ合同春の日帰り旅行「安芸の宮島・ランチクルーズの旅」 ネイルボランティア交流会	5/11	ドリーム・ローズ合同春の日帰り旅行「安芸の宮島・ランチクルーズの旅」
		6/ 1	デイサービスドリーム開設一周年記念　萬一座特別公演		
7/ 7	予防リハ　七夕会	7/29	夏祭り	7/ 7	防災訓練

2011（平成23年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
8/ 6 8/28	第21回看護セミナー「みえる看護・介護の提供をめざして」 バレー部　第25回病院職員バレーボール大会ベスト8進出	8/ 6 8/18	**[生活]** 第55回糖尿病料理教室「鹿児島・奄美地方の料理」 第22回倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会		
9/ 9 9/11 9/26 9/28 9/30	わかやさ・リスク合同勉強会 接遇研修会 老松学区敬老会参加 第18回院内褥瘡勉強会 献血カー来院 第23回消火技術訓練大会　男子優勝＆女子準優勝	9/ 1	総合診療科部長　内田叔宏先生着任	9/22	秋祭り
10/ 9 10/31	第24回神経セミナー「認知症の予防と診察」 社会医療法人全仁会　総社市と「障がい者雇用推進に関する協定」に締結	10/ 1 10/14	**[生活]** 第56回糖尿病料理教室「名古屋の料理」 医事課接遇勉強会		
11/10 11/13 11/23 11/27	平成23年度倉敷市保健福祉功労賞受賞　高尾武男理事長 第46回のぞみの会「地域医療の絆の再構築」 ゴルフ部　第1回倉敷平成病院ゴルフ部親睦コンペ マラソン部　児島花回廊いきいき健康マラソン大会出場				
12/ 5・6 12/ 8	第20回院内研究発表大会 倉敷市保健所主催医師講演会 吉岡保センター長講演	12/ 3	**[生活]** 第57回糖尿病料理教室「北海道の食材でWhite X'mas」	12/17	家族支援会

世の中の出来事

●エジプト ムバラク大統領が辞任（2月）
●東日本大震災、国内観測史上最大のM9.0、死者・不明者約2万人と東電福島第1原発事故（3月）
●イギリスでウィリアム王子とキャサリン妃が挙式（4月）
●アメリカ同時テロ首謀者オサマ・ビンラディン容疑者殺害（5月）
●小笠原諸島と平泉が世界遺産に登録される（6月）
●サッカー女子W杯、なでしこジャパン世界一（7月）
●菅首相が辞任表明、新代表に野田佳彦氏（8月）
●米アップル社スティーブ・ジョブズ前CEO死去（10月）
●リビア カダフィ大佐が死亡（10月）
●世界の人口が70億人突破（10月）

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
8/25	通所リハ　夏祭り	8/29	ブラジル人小学生との交流会		
		9/ 1	第13回ドリーム祭		
				10/ 4 10/ 7	アコーディオンによる歌声広場（以降毎月1回） お月見会
		11/ 9	ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「来島海峡海の幸満喫の旅」	11/ 9	ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「来島海峡海の幸満喫の旅」

全仁会10大ニュース

●倉敷天領夏まつり　OH！代官ばやしで優勝　7月
●常勤医師の増加による診療体制の充実
●外来１日平均患者数600人を達成　～サービス棟の完成、外来待合室の拡大～
●高尾武男理事長が倉敷市保健福祉功労賞を受賞　11月
●平成南町クリニックが開院　1月
●社会医療法人が本格スタート
●総社市と障がい者雇用で協定を締結　10月
●全仁会の４本柱の充実（のぞみの会・神経セミナー・看護セミナー・研究発表大会）
●ロボットスーツHALを用いたリハビリがOHKで報道　８月
●第23回消火技術訓練大会　男子優勝、女子準優勝　９月

2012（平成24年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
1/ 7 1/ 7 1/27 1/29	全仁会グループ新年会 第20回院内研究発表大会表彰式 院内感染対策勉強会 第7回おかやま足を守る会	1/ 1	皮膚科　嶋田八恵先生着任		
2/ 6 2/12 2/19 2/21 2/26 2/26	第17回倉敷臨床リハビリテーション医学懇話会　渋谷啓先生講演 くらしきみなみ文化祭参加 2012MUJ岡山大会一般＆メディア公開ウェルネス講座＆トーク」 太田郁子先生講演 わかやさ・リスク合同研修会「患者目線による接遇・リスク回避に向けた接遇のロープルレイング」 マラソン部　そうじゃ吉備路マラソン出場 第5回音楽療法勉強会	2/ 4 2/26～ 3/ 3	**［生活］**第58回糖尿病料理教室「関東地方」 南相馬市総合病院リハビリボランティア活動参加		
3/ 3 3/14 3/14 3/23	第1回くもん学習療法発表会 社会福祉法人全仁会　複合型介護施設ピースガーデン倉敷地鎮祭 第19回院内褥瘡勉強会 ピロリ菌外来勉強会	3/14 3/19 3/28	総社市より救急医療に対し感謝状贈呈 第2回HALシンポジウム講演参加 岡山県認知症疾患医療センター指定		
4/ 2	KCT倉敷ケーブルテレビ『絆の医療を求めて』放送開始	4月 4/ 1 4/ 7	糖尿病透析予防指導開始 認知症疾患医療センター副センター長・神経内科部長　涌谷陽介先生、眼科医長　石口奈世理先生、形成外科　石田泰久先生、神経内科　松薗構佑先生、歯科　芦田昌和先生着任 **［生活］**第59回糖尿病料理教室「中国地方」	4/ 7	お花見会
5/13	ゴルフ部　第2回倉敷平成病院ゴルフ部親睦コンペ	5/11	平成24年度看護大会・岡山県医療事業功労者表彰式（主催：岡山県・岡山県看護協会）渡邊広美医療安全対策部長受賞		
6/ 4 6/ 5 6/15 6/21・22 6/29	サービス付き高齢者向け住宅勉強会 第21回院内研究発表大会研究デザイン発表 岡山脳卒中リハビリテーション市民公開講座参加 第62回日本病院学会発表 院内感染勉強会	6/ 8 6/16	認知症疾患医療センター　岡山認知症フォーラム2012発表 **［生活］**倉敷生活習慣病センター開設10周年記念・第60回糖尿病料理教室「60th記念京料理」		

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
1/ 8	ショートステイ　新年会			1/11 1/17	新年会 防災訓練
2/ 3	予防リハ　厄除け節分祭				
4/27	通所リハ　新人歌謡ショー＆萬一座公演	4/ 6	春のお花見＆食事ツアー	4/21	映画鑑賞会（以降毎月開催）
		5/ 9	ドリーム・ローズ合同春の日帰り旅行「アサヒ飲料明石工場見学とステーキハウス貸切神戸牛満喫の旅」	5/ 9	ドリーム・ローズ合同春の日帰り旅行「アサヒ飲料明石工場見学とステーキハウス貸切神戸牛満喫の旅」
		6/ 6	メイクセラピー		

2012（平成24年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
7/21 7/22	第42回倉敷天領夏祭り『OH！代官ばやし』特別賞受賞 フットサル部　Les Cinq Sens cup男女MIXクラス優勝			7/ 4	七夕会
8/ 5 8/26	第22回看護セミナー『救急から在宅までチーム医療推進に向けての看護の役割』 バレー部 県大会3位	8/ 4 8/16	**［生活］**第61回糖尿病料理教室「四国地方」 第23回倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会		
9/ 9 9/24 9/30	老松学区敬老会参加 第20回院内褥瘡勉強会 第25回神経セミナー『認知症の予防と診療』			9/28	秋祭り
10/10 10/15	わかやさ・リスク合同勉強会 フットケア勉強会	10/ 1 10/ 1 10/ 6	脳ドックセンター　澤田ちづ子先生着任 神経内科　香西由子先生着任 **［生活］**第62回糖尿病料理教室「日本の裏郷土料理、B級グルメを楽しむ」	10/10	秋の大運動会
11/18	第47回のぞみの会「地域医療の絆の発展」				
12/ 2 12/ 3・4 12/14	フットサル部　万成杯フットサル大会準優勝 第21回院内研究発表大会 平成24年度第2回院内感染対策勉強会	12/ 1	**［生活］**第63回糖尿病料理教室「楽しいクリスマス料理」		

世の中の出来事

●金正恩氏が北朝鮮第１書記に就任（４月）
●兵庫県尼崎市ドラム缶遺体事件、連続変死・行方不明事件（５月）
●東京スカイツリー（634メートル）開業（５月）
●オウム真理教元信者菊池直子容疑者・高橋克也容疑者逮捕（６月）
●ロンドン五輪、史上最多のメダル38個獲得（８月）
●尖閣諸島国有化、中国で過去最大57都市８万人超の反日デモ起きる（９月）
●山中伸弥京都大教授、ノーベル医学生理学賞受賞。（10月）
●オバマ米大統領再選（11月）
●衆議院選で自民党圧勝、安倍晋三内閣発足（12月）
●中央自動車道笹子トンネル崩落事故・９人死亡（12月）

[生活] 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日	倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日	ケアハウスドリームガーデン倉敷	月 / 日	ローズガーデン倉敷
7/ 7	予防リハ　七夕会	7/27	夏祭り		
		8/31	花火大会	8/ 3	サマーパーティー
9/14 9/29	倉敷市介護保険事業者連絡協議会研修会参加 職員劇『かぐや姫』開催				
				10/ 3	ティーコンサート（ヴァイオリン＆チェロ）
		11/ 7	ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「芸術と秋の味覚満喫の旅」	11/ 7	ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「芸術と秋の味覚満喫の旅」
				12/25	クリスマス会・望年会

全仁会10大ニュース

●ピースガーデン倉敷竣工
●認知症疾患医療センター稼働
●診療体制の強化、外来700人突破
●サービス付き高齢者向け住宅事業決定
●新体制スタート（12/1組織改定）
●のぞみの会1,000人突破
●第２薬局開業
●病院協会バレーボール大会３位
●天領祭り「特別賞」受賞
●ケーブルTV「絆の医療を求めて」放映

2013（平成25年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
1/12 1/12 1/12 1/19 1/23	創立25周年記念祝賀会　全仁会グループ新年会 全仁会グループロゴマーク発表 第21回院内研究発表大会表彰式 第8回おかやま足を守る会 ㈲医療福祉研究所ヘイセイサービス付き高齢者向け住宅「グランドガーデン南町」地鎮祭	1/ 1	総合診療科副部長　福井三恵子先生着任		
2/ 8 2/10 2/24 2/24	日本経営勉強会『病院経営を高める3大マネジメント』 第5回くらしきみなみ文化祭参加 マラソン部　そうじゃ吉備路マラソン出場 認知症疾患医療センター公開講座『認知症って、どんなこと？』	2/ 2	**［生活］**第64回糖尿病料理教室「手作りパンでハッピーランチ＆バレンタイン」		
3/ 2 3/10 3/12 3/21 3/28	認知症疾患医療センター主催くもん学習療法講演会『くもん学習療法を通して』（川島隆太教授来院） 第26回 瀬戸内倉敷ツーデーマーチ参加 わかやさ・リスク合同勉強会 第1回褥瘡対策委員会・フットケア委員会合同勉強会（山田実先生来院） 献血カー来院				
4/ 1 4/30	社会医療法人全仁会理事長　高尾聡一郎先生就任 認知症疾患医療センター第1回院内研修	4/ 1 4/ 6 4/21	放射線科部長　塚本和充先生、神経内科医長　高宮資宜先生着任 **［生活］**第65回糖尿病料理教室「行楽おにぎり弁当」 歩いて学ぼう糖尿病～岡山後楽園ウォークラリー～参加	4/ 6	お花見会
5/26	ひまわり号ボランティア参加				
6/10 6/27・28	第22回研究デザイン発表大会 第63回日本病院学会発表	6/ 8	**［生活］**第66回糖尿病料理教室「梅雨を吹き飛ばす！冷たい麺料理」		
7/12 7/20	感染対策勉強会 第43回倉敷天領夏祭り『OH！代官ばやし』入賞				

[ピース] ピースガーデン倉敷　**[ドリーム]** ケアハウスドリームガーデン倉敷　**[生活]** 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

月 / 日　倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日　社会福祉法人 全仁会	月 / 日　ローズガーデン倉敷
	1/ 9　新年会	1/11　新年会
2/ 2　節分豆まきゲーム	2/ 1　節分大祭 2/ 1　**[ピース]** 社会福祉法人全仁会複合型介護施設ピースガーデン倉敷オープン 2/12　**[ピース]** 車椅子贈呈式	
4月　通所送迎車デザイン一新 4/20　新入職員歌謡ショー	4/ 8　春のお花見＆食事ツアー	
	5/ 8　**[ドリーム]** ドリーム・ローズ合同春の日帰りバス旅行「西条・呉」	5/ 8　ドリーム・ローズ合同春の日帰りバス旅行「西条・呉」
	6/ 1　**[ピース]** デイサービス日曜・祝日利用開始	
	7/26　**[ドリーム]** 夏祭り2013	

2013（平成25年）

月 / 日	全仁会（共通項）	月 / 日	倉敷平成病院	月 / 日	倉敷老健
8/ 3 8/25	第23回看護セミナー『救急から在宅まで～つなげよう！広げよう！地域連携』 バレーボール部　県大会ベスト8進出	8月 8/ 3 8/22	天領祭り事務局より保育室へバギー贈呈 **［生活］**第67回糖尿病料理教室「夏バテ予防に！スタミナ料理」 第24回倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会		
9/ 3 9/17	第22回研究発表大会中間報告会 わかやさ・リスク合同研修会	9/ 4 9/29	岩崎紀代美看護師が「糖尿病看護認定看護師」取得 第1回美容外科セミナー	9/27	秋祭り
10/ 1 10/ 4 10/ 3・17 10/13 10/19	全仁会グループ代表　高尾武男就任 第25回消火技術訓練大会 第21回院内褥瘡勉強会（舟木美砂子先生来院） 第3回リレーマラソン出場 第26回神経セミナー『認知症の人を早期から支える』	10/ 5 10/23	**［生活］**第68回糖尿病料理教室「食欲の秋～手軽に作って、上手に食べよう～」 中国人看護留学生4名受け入れ		
11/17	第48回のぞみの会「地域医療の更なる発展」	11/14	ミャンマーから医師5名、理学療法士2名　リハビリセンター見学来院		
12/ 1	㈲医療福祉研究所ヘイセイサービス付き高齢者向け住宅「グランドガーデン南町」オープン	12/ 1 12/ 7	電子カルテスタート **［生活］**第69回糖尿病料理教室「おしゃれパスタランチ～外食との上手な付き合い方～」		

世の中の出来事

●アルジェリア人質事件、日本人10人犠牲（1月）
●露に隕石落下、1,200人以上負傷（2月）
●ローマ法王に初の中南米出身枢機卿（3月）
●長嶋茂雄氏と松井秀喜氏に国民栄誉賞（5月）
●富士山が世界文化遺産（6月）
●参院選で自民、公明両党が過半数獲得、ねじれ解消（7月）
●高知県四万十市で最高気温41.0度を観測（8月）
●2020年夏季五輪・パラリンピックの開催地が東京に決定（9月）
●伊豆大島で台風による土石流災害、死者35人（10月）
●台風30号フィリピン直撃、死者・行方不明者約8,000人（11月）

[ピース] ピースガーデン倉敷　**[ドリーム]** ケアハウスドリームガーデン倉敷　**[生活]** 倉敷生活習慣病センター　**[美容]** 総合美容センター

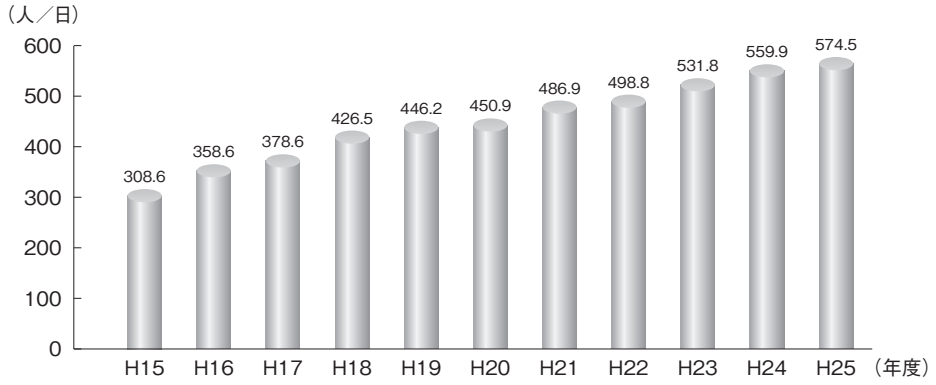
月 / 日　倉敷在宅総合ケアセンター	月 / 日　社会福祉法人 全仁会	月 / 日　ローズガーデン倉敷
	8/ 8・22・29　転倒予防教室	8/ 9　サマーパーティー
		9/20　名月観賞会
	11/ 6　**[ドリーム]** ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「広島県福山市鞆の浦」 11/13　**[ピース]** 第一号100歳の祝賀会	11/ 6　ドリーム・ローズ合同秋の日帰り旅行「広島県福山市鞆の浦」
	12/ 5　**[ピース]** 福祉車両贈呈式 12/11　お誕生日会＆クリスマスバイキング	

全仁会10大ニュース

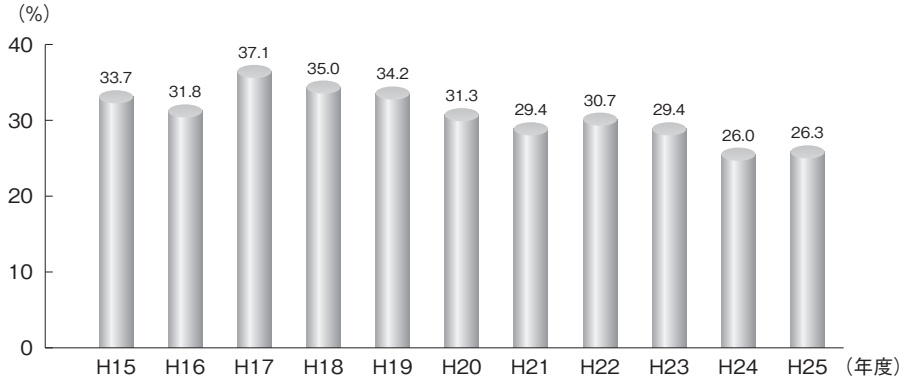
●高尾聡一郎理事長、高尾武男全仁会グループ代表　就任
●全仁会グループロゴマーク完成
●ピースガーデン倉敷、グランドガーデン南町オープン
●電子カルテスタート
●外来患者数700人超え達成
●第48回のぞみの会が大盛況のうちに終了
●放射線科医が常勤医として着任
●初の認定看護師誕生
●脳ドックセンター開設20周年
●中国人看護留学生受け入れ

数字で見る全仁会

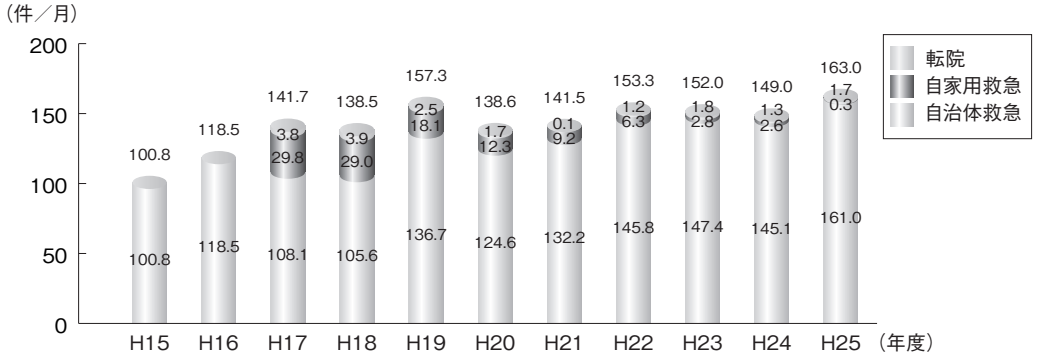
❑外来患者数



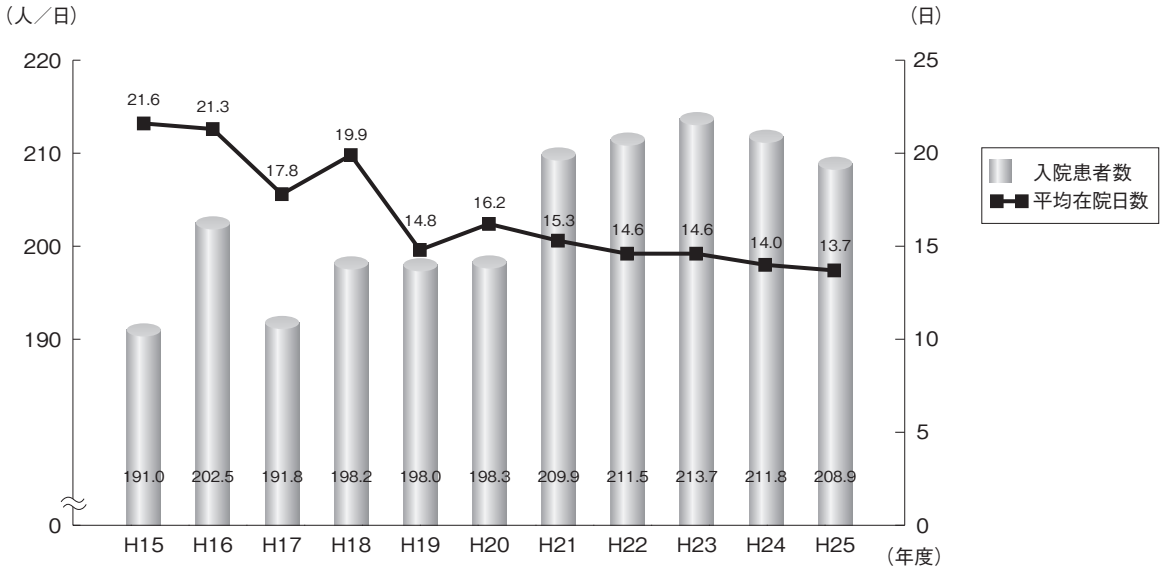
❑紹介率



❑救急搬入件数



❑入院患者数・平均在院日数

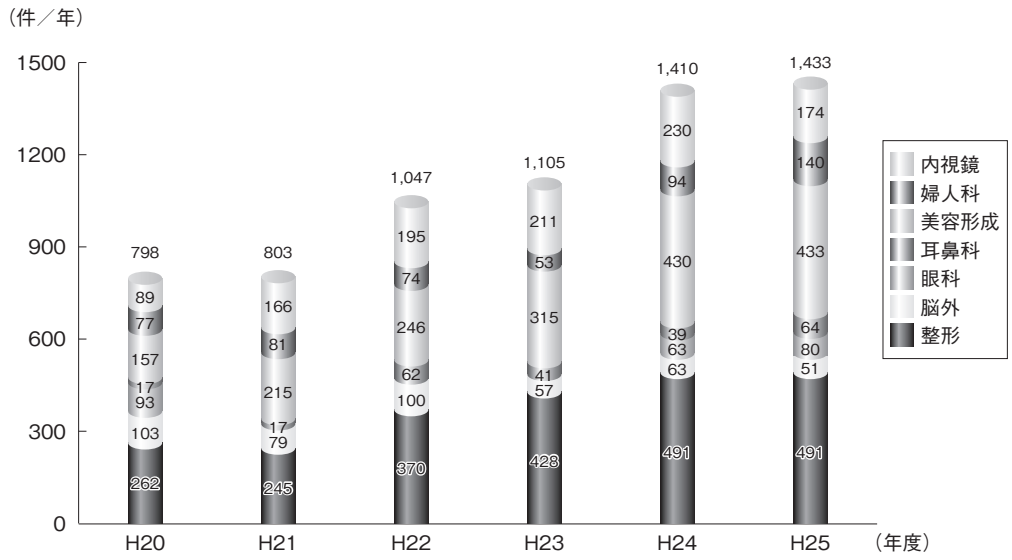


❑病床変遷

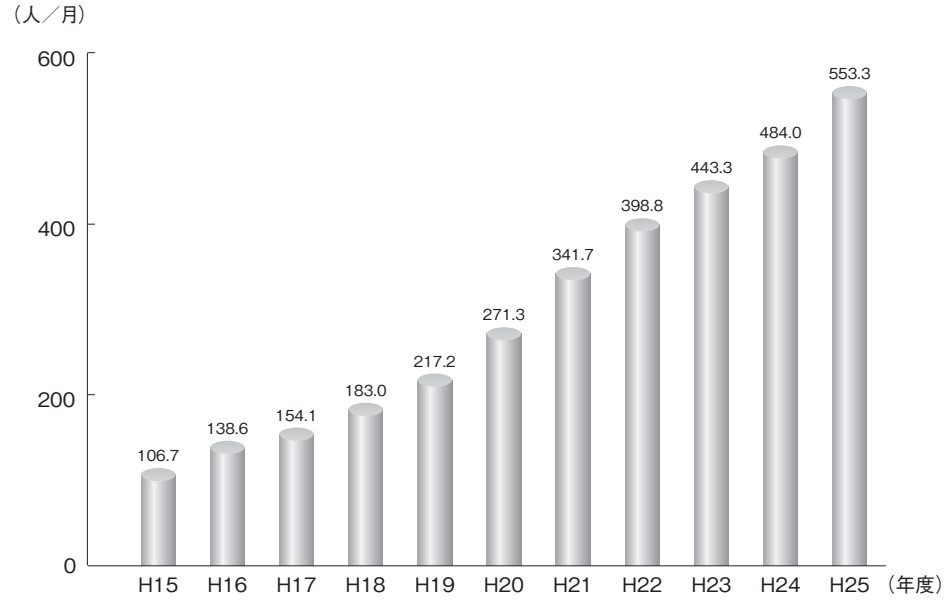
	H15.8	H16.3	H17.3	H18.4	H19.1	H24.10～
2　F	一般：50	一般：50	一般：50	一般：50	一般：50	一般：50
3　西	一般：38	一般：38	一般：38	一般：38	一般：38	一般：38
3　東	一般：25 SCU：17	一般：25 SCU：17	一般：36 SCU：6	一般：42	一般：22 亜急性期：20	一般：27 亜急性期：15
4　西	一般：50	一般：46	一般：18 亜急性期：20	一般：22 亜急性期：20	回復期リハビリ：42	回復期リハビリ：42
4　東	回復期リハビリ：38	回復期リハビリ：42	回復期リハビリ：50	回復期リハビリ：46	回復期リハビリ：46	回復期リハビリ：46
ドック	一般：2	一般：2	一般：2	一般：2	一般：2	一般：2
	一般：165 回復期リハ：38 ※SCU：17 計：220	一般：161 回復期リハ：42 SCU：17 計：220 回復期リハ増・一般減	一般：144 回復期リハ：50 亜急性期：20 SCU：6 計：220 亜急性期開設	一般：154 回復期リハ：46 亜急性期：20 計：220 回復期リハ減・SCU無・一般増	一般：112 回復期リハ：88 亜急性期：20 計：220 回復期リハ増・一般減	一般：117 回復期リハ：88 亜急性期：15 計：220 亜急性期減・一般増

※SCU：特殊疾患病床

❏手術件数

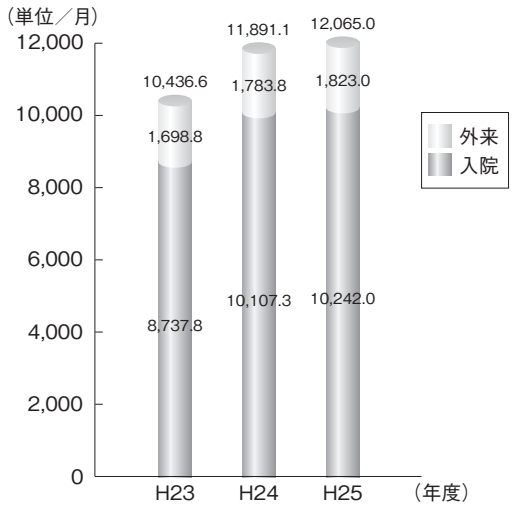


❏脳ドックセンター受診者数

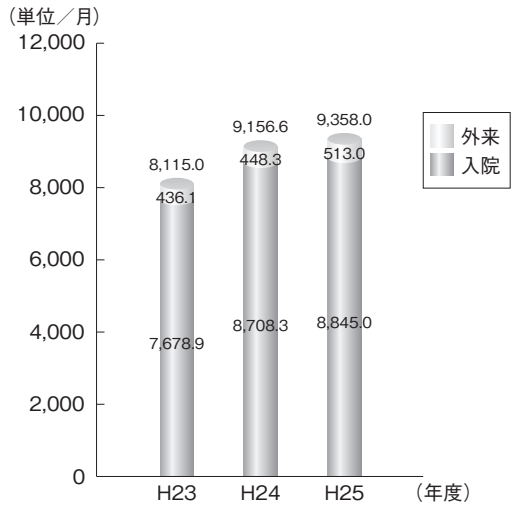


❑リハビリ部実績

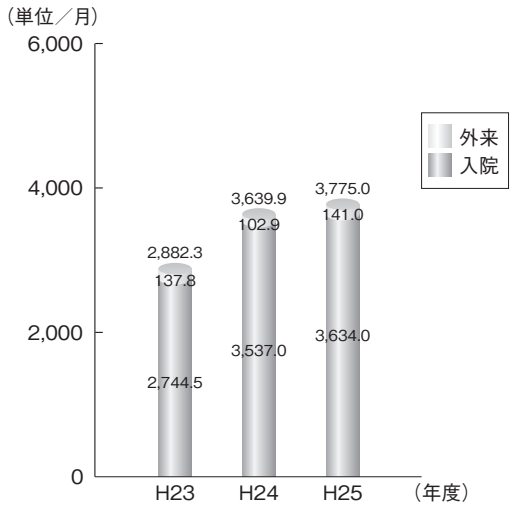
●理学療法実施単位数



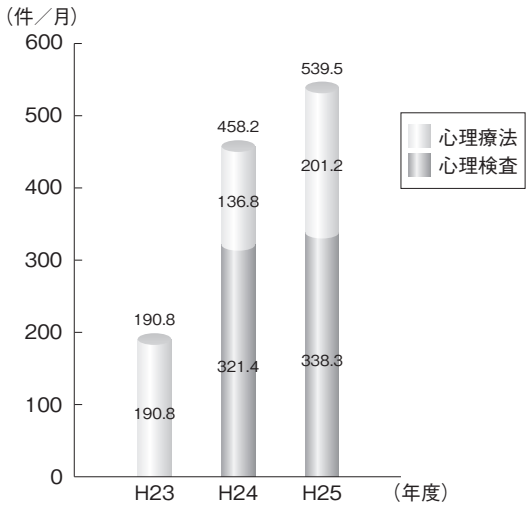
●作業療法実施単位数



●言語聴覚療法実施単位数

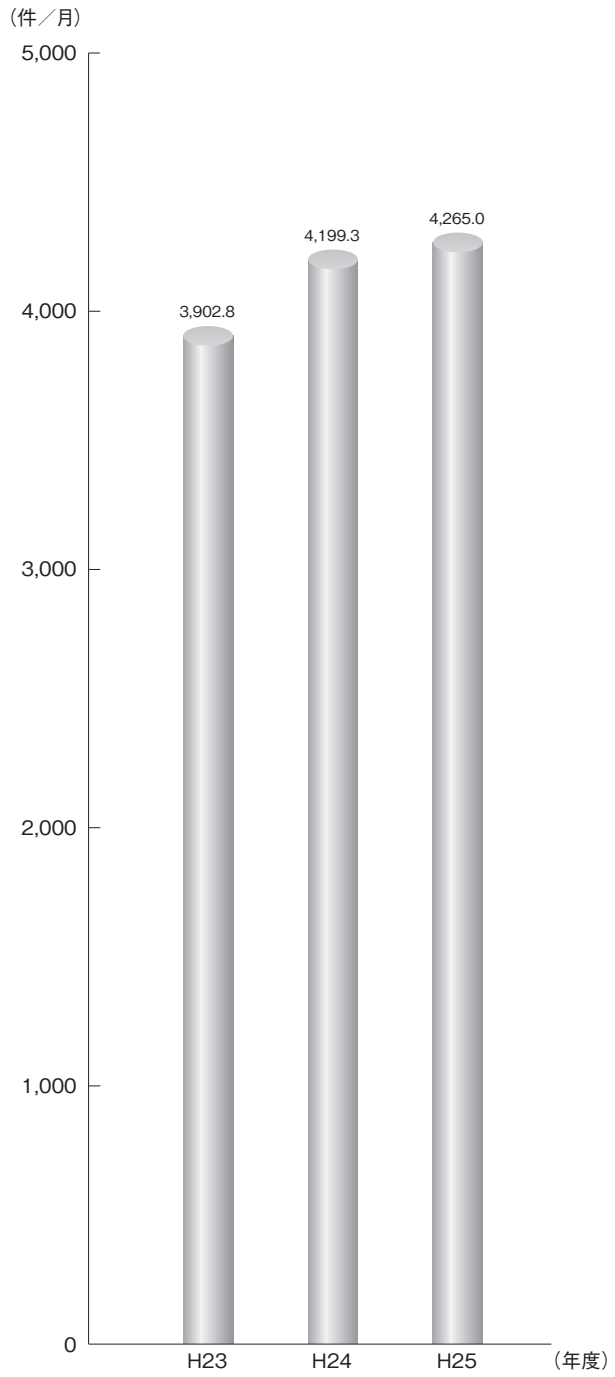


●心理療法実績

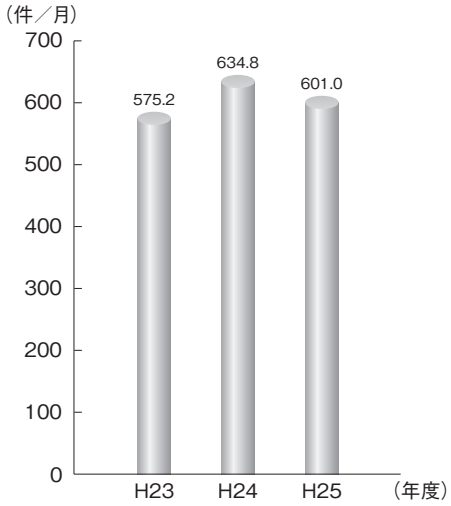


❏放射線部実績

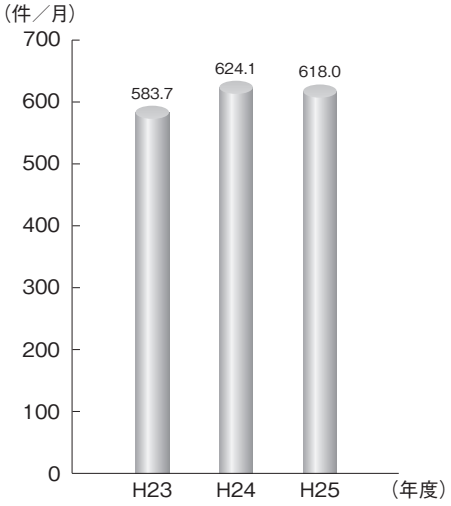
●全件数



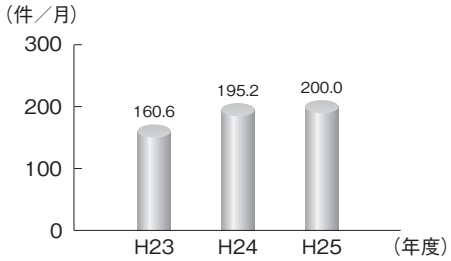
●ＭＲ件数



●ＣＴ件数

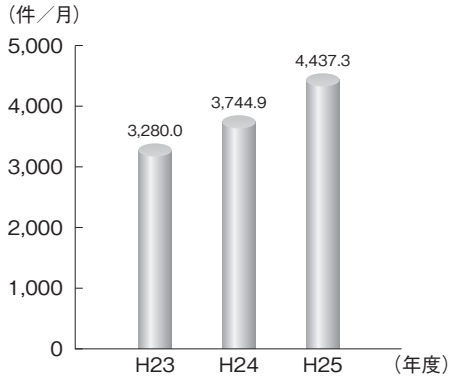


●マンモグラフィ件数

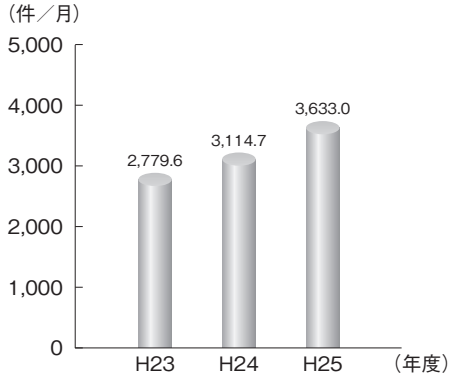


❑臨床検査部実績

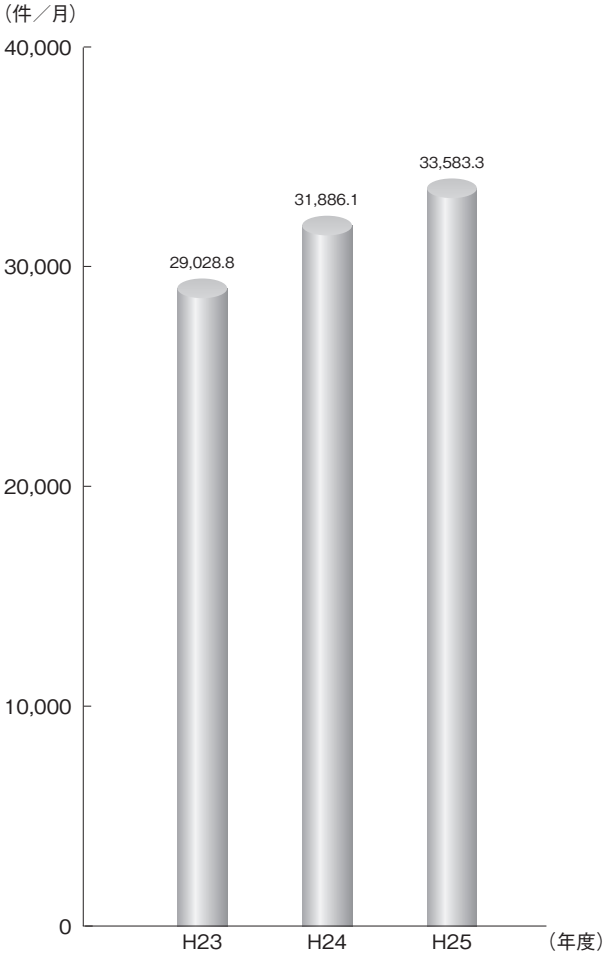
●血液学的検査件数



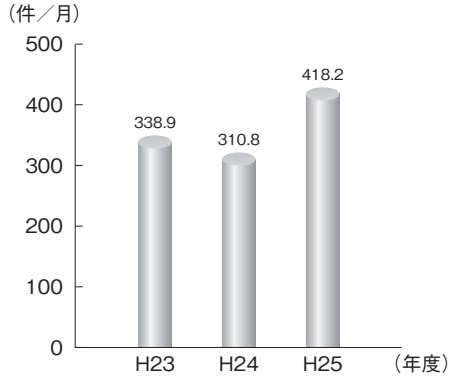
●免疫学的検査件数



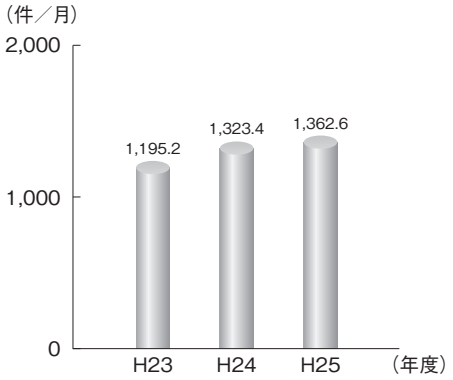
●生化学検査件数



●一般検査件数（尿、便、髄液など）

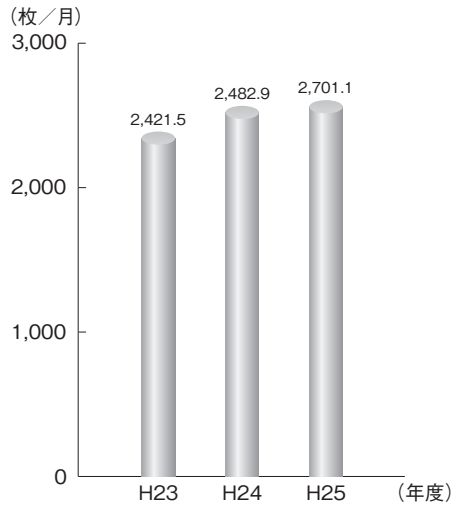


●生理検査件数（心電図、肺機能、脳波、超音波、動脈硬化関連検査、聴力関連など）

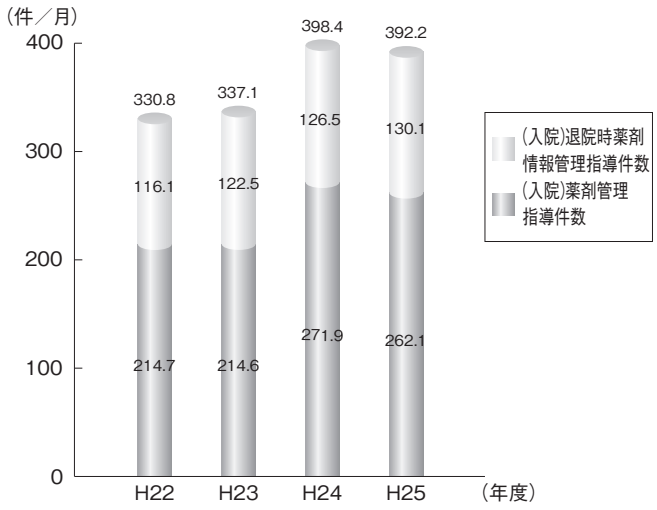


❏薬剤部実績

●処方箋枚数（院内）

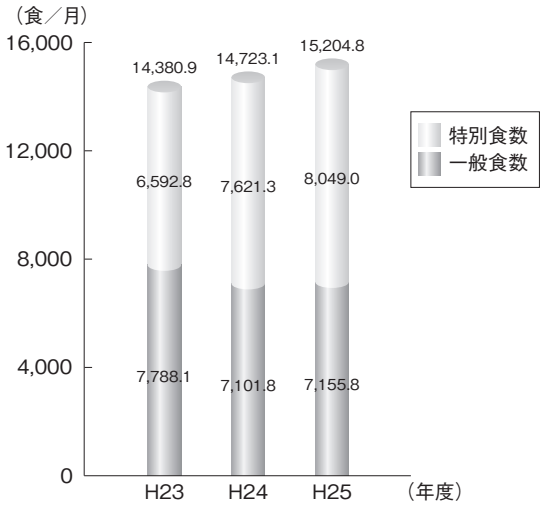


●服薬指導件数

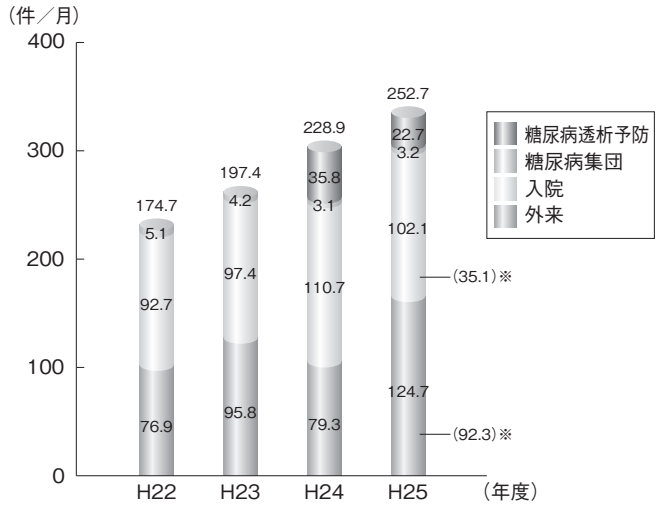


❏栄養科実績

●特別食と一般食の食数

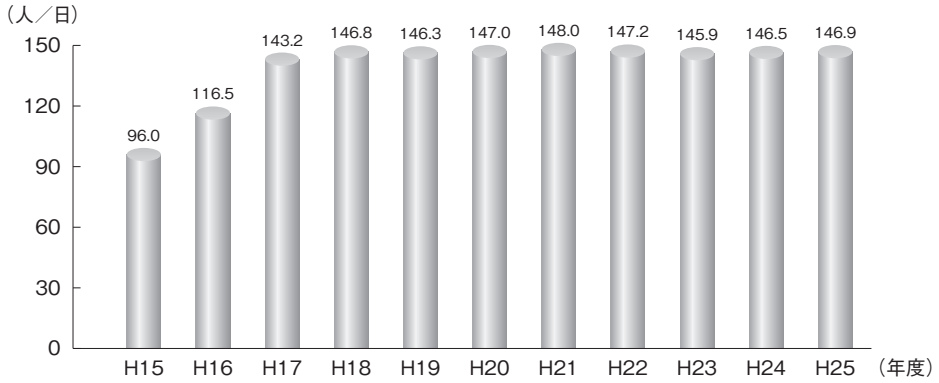


●栄養指導件数



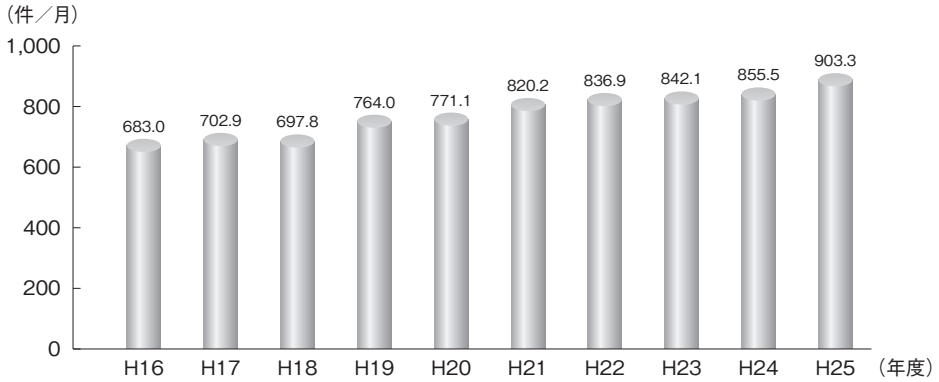
※（　　）内は糖尿病指導件数

❑老健入所者数（定員 150 人）

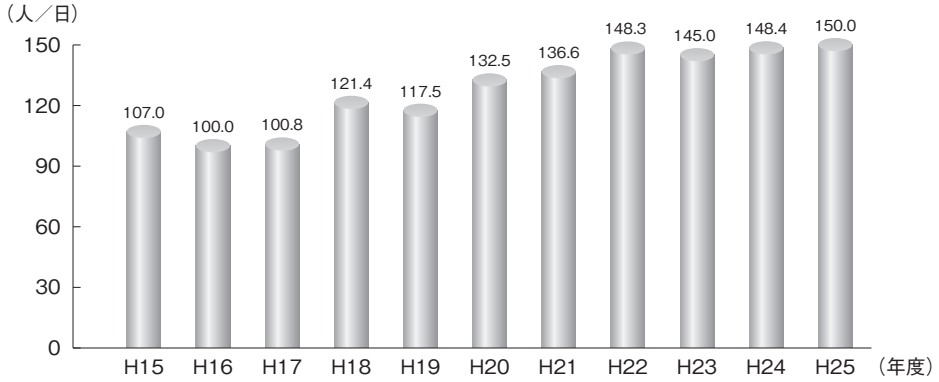


倉敷在宅総合ケアセンター

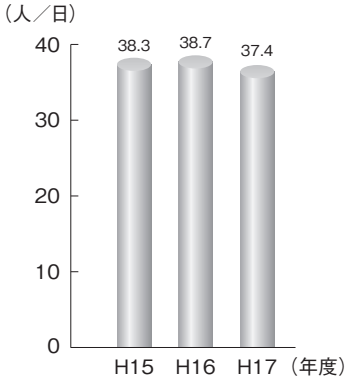
❑ケアプラン件数



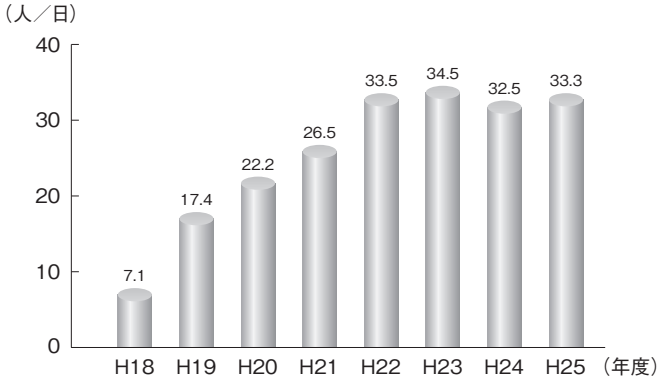
❑通所リハ利用者数（定員 180 人）



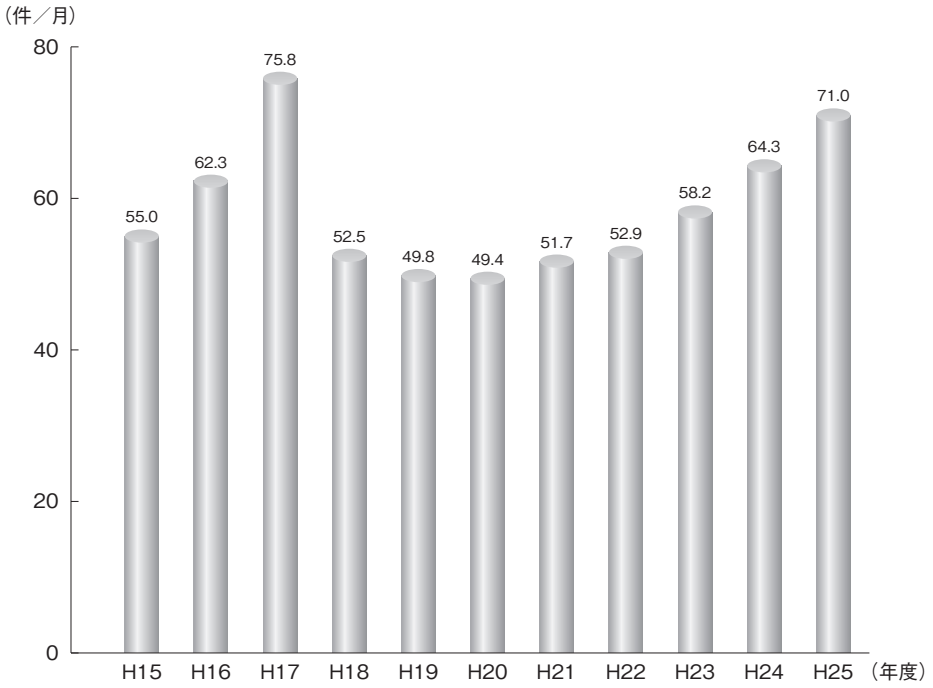
❏デイリハ利用者数



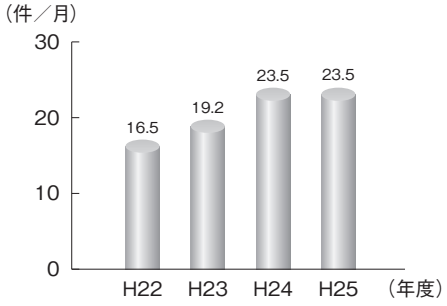
❏予防リハ利用者数（定員 40 人）



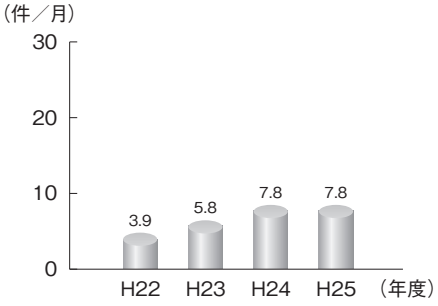
❏訪問看護ステーション件数



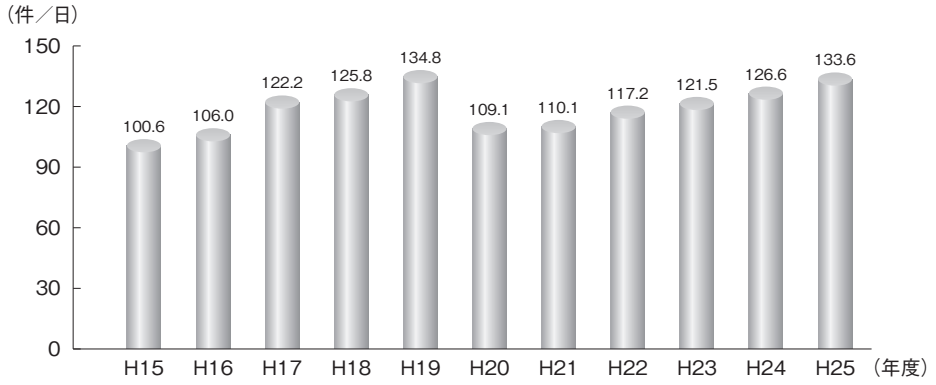
❏訪問リハ件数（訪看Ｓｔ）



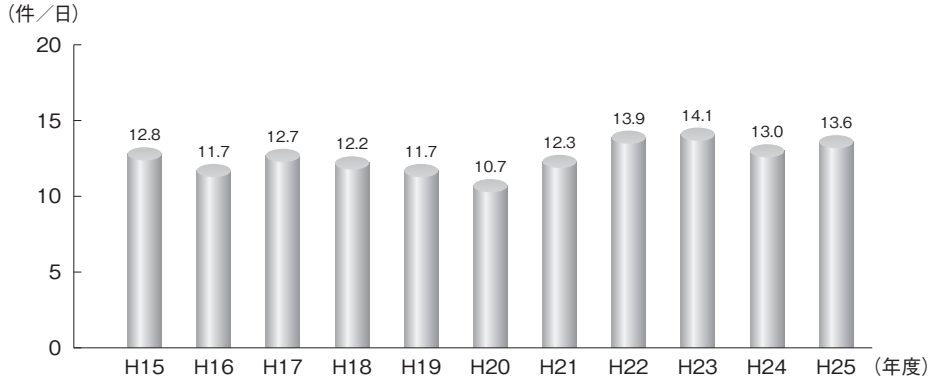
❏訪問リハ件数（病院）



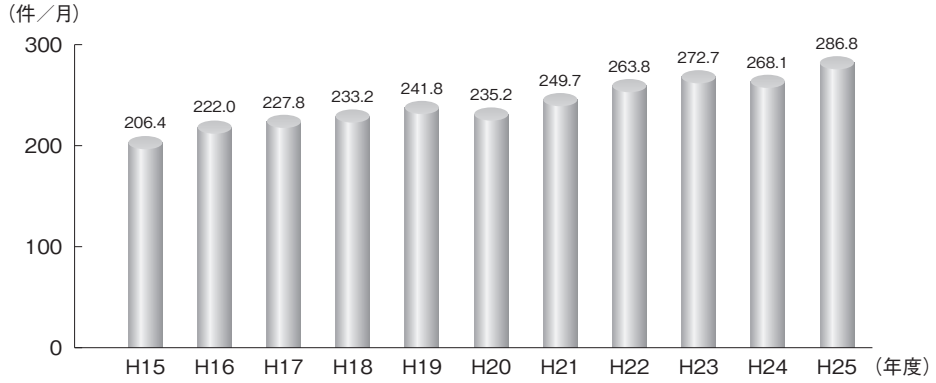
❏訪問介護件数



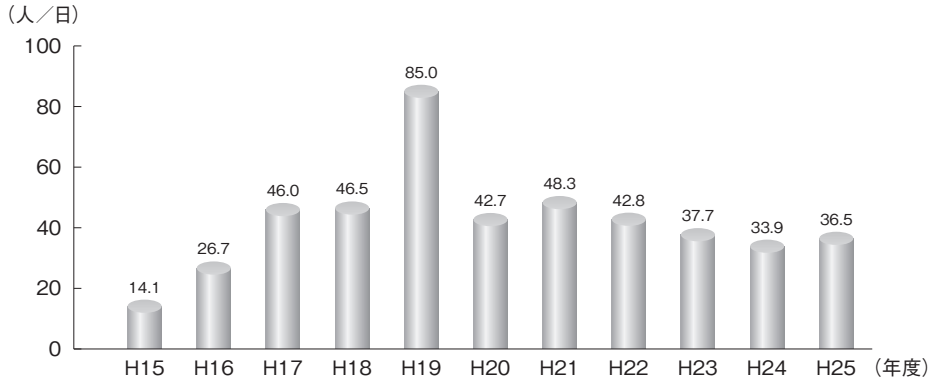
❏訪問入浴件数



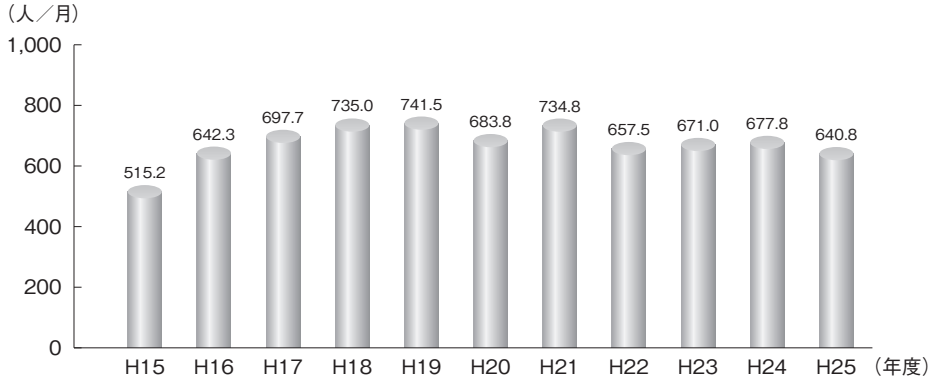
❏福祉用具貸与件数



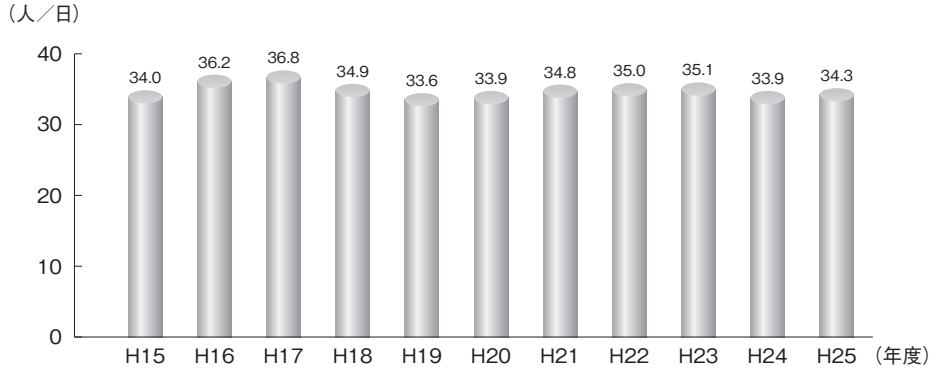
❑介護タクシー



❑鍼灸治療院患者数

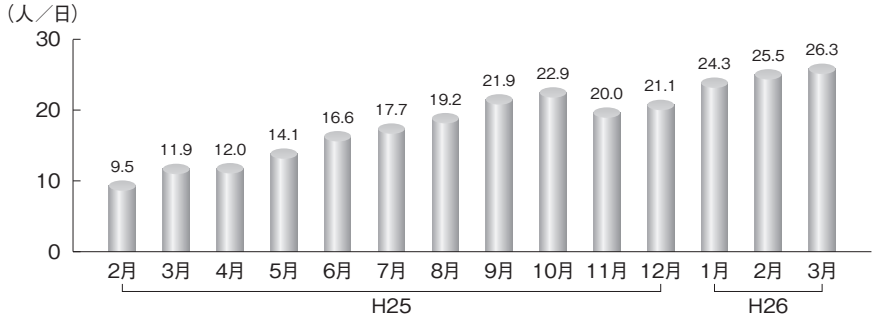


❑倉敷在宅総合ケアセンターショートステイ利用者数（定員 40 人）

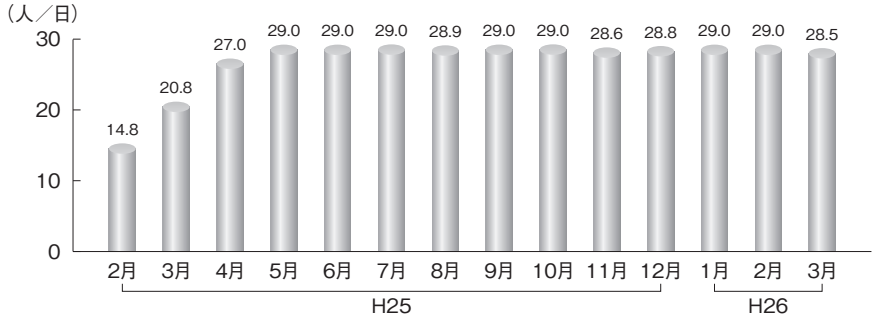


ピースガーデン倉敷

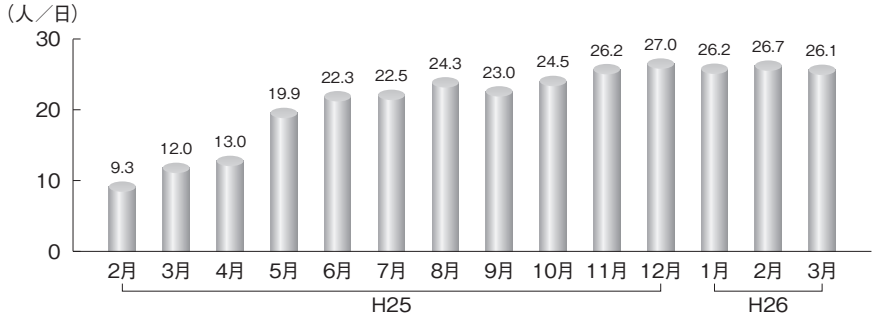
❏デイサービス　ゆかいな広場（定員 30 人）



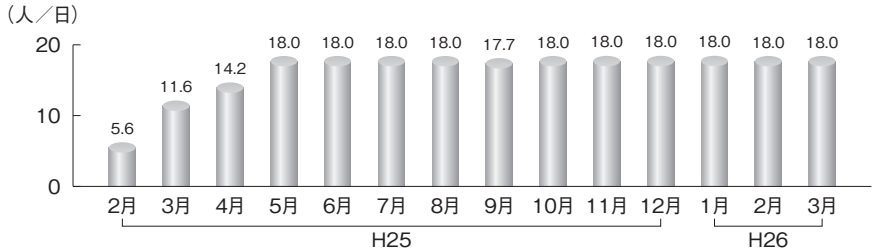
❏地域密着型特養　ピースガーデン（定員 29 人）



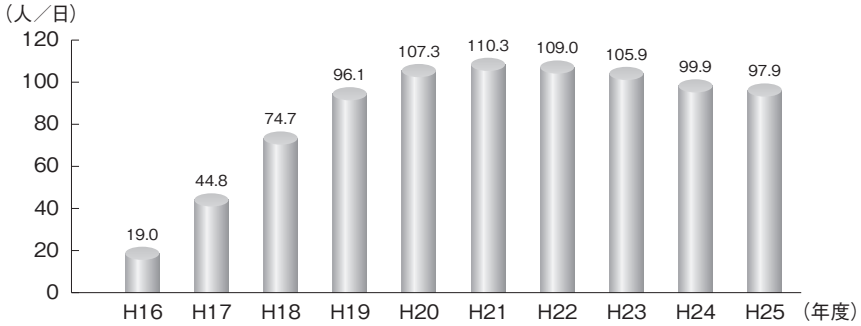
❏ピースガーデン倉敷　ショートステイ（定員 28 人）



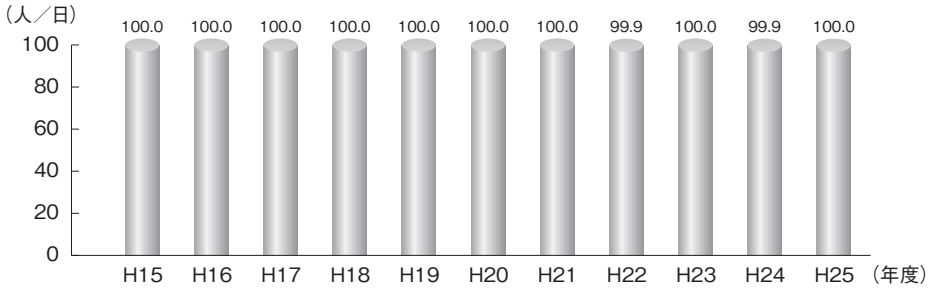
❏グループホーム　のぞみ（定員 18 人）



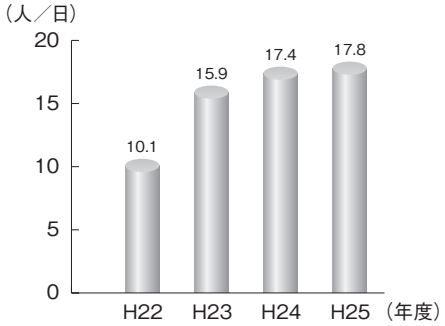
❏ローズガーデン倉敷平均入居者数



❏ドリームガーデン倉敷平均入居者数（定員 100 人）



❏デイサービスドリーム平均利用者数（H22.6 ～）



❏グランドガーデン南町平均入居者数

	H25 12月	H26 1月	2月	3月
人／日	15.6	33.3	44.7	55.5

❏南町ケアプラン室ケアプラン件数

	H25 12月	H26 1月	2月	3月
件／月	39	47	54	69

❏ヘルプステーション南町平均利用者数

	H26 2月	3月
人／日	12.9	16.0

テレビに紹介された全仁会

種類	放送日	時　間	テレビ局	番　組　名	内　　容
◎	H15. 4～	16:50～17:50	RSK山陽放送	イブニングワイド21	「倉敷平成病院のDoYou脳？！」毎月第一水曜日※1
◎	H16. 3.27 (土)	16:30～17:00	RSK山陽放送	限りないQOLを求めて −もうひとつ上のシニア生活−	ローズガーデン倉敷の紹介
◎	H17. 3.18 (金)	15:30～16:25	OHK岡山放送	あいらぶカフェ	ローズガーデン倉敷の紹介
◎	H17. 4.15 (金)	15:30～16:25	OHK岡山放送	あいらぶカフェ	ローズガーデン倉敷の紹介
◎	H17. 5.20 (金)	15:30～16:25	OHK岡山放送	あいらぶカフェ	総合美容センターの紹介
○	H18. 6. 7 (水)	22:54～23:00	OHK岡山放送	OHKフラッシュニュース	歌声広場900回（6月7日開催）
○	H18. 9. 1 (金)	16:55～19:00	KSB瀬戸内海放送	KSBスーパーJチャンネル	MSW向川真博　第42回世界ペタンク選手権大会出場（9月20～24日フランス）
○	H18. 9. 1 (金)	17:00～17:25	KCT倉敷ケーブルテレビ	KCTワイド	MSW向川真博　第42回世界ペタンク選手権大会出場（9月20～24日フランス）
○	H18. 9.11 (月)	17:00～17:20	KCT倉敷ケーブルテレビ	KCTワイド	MSW向川真博　ペタンク世界大会出場（特集）
◎	H19. 5.26 (土)	15:30～16:00	RSK山陽放送	君の夢から未来がはじまる	PT長谷川文人、畠中絵美（4分）
○	H19. 9.28 (金)	17:00～17:20	KCT倉敷ケーブルテレビ	KCTワイド	介護福祉士中澤摩美　秋田わかすぎ国体陸上競技「走り幅跳び」に出場
○	H20. 3.14 (金)	17:00～17:20	KCT倉敷ケーブルテレビ	KCTワイド	倉敷老健通所リハビリ3月の誕生会100歳以上の3人おめでとう
○	H20. 5.21 (水)	23:30～24:45	OHK岡山放送	ニュースジャパン	歌声広場1,000回
○	H20. 5.21 (水)	16:55～19:00	KSB瀬戸内海放送	KSBスーパーJチャンネル	歌声広場1,000回
○	H20. 5.21 (水)	16:55～19:00	RNC西日本放送	RNCニュースリアルタイム	歌声広場1,000回
○	H20. 5.21 (水)	18:10～19:00	NHK岡山放送局	ニュースコア岡山6	歌声広場1,000回
○	H20. 5.21 (水)	17:00～17:20	KCT倉敷ケーブルテレビ	KCTワイド	歌声広場1,000回（高尾公子副理事長・柳井健二介護科長）
○	H20. 8.14 (木)	16:55～19:00	KSB瀬戸内海放送	KSBスーパーJチャンネル	倉敷平成病院で第19回倉敷ジュニアフィル演奏会
○	H20. 8.14 (木)	22:54～23:00	OHK岡山放送	OHKフラッシュニュース	倉敷平成病院で第19回倉敷ジュニアフィル演奏会
○	H20. 9.15 (月)	17:00～17:20	KCT倉敷ケーブルテレビ	KCTワイド	老松学区敬老会（倉敷平成病院鈴木院長講演）
○	H20.11. 9 (日)	17:30～18:00	OHK岡山放送	OHKスーパーニュース ウィークエンド	第43回のぞみの会（11月9日開催）
○	H21. 7.13 (月)	17:54～19:00	OHK岡山放送	OHKスーパーニュース	夏は脳梗塞に注意（高尾聡一郎医師）
○	H21. 7.15 (水)	18:10～19:00	NHK岡山放送局	ニュースコア6岡山	脳卒中防止キャンペーン（救急隊密着専門病院へ急げ）（篠山英道医師）
○	H21. 8.12 (水)	16:55～19:00	KSB瀬戸内海放送	KSBスーパーJチャンネル	倉敷平成病院で第20回倉敷ジュニアフィル演奏会
○	H21. 8.12 (水)	22:54～23:00	OHK岡山放送	OHKフラッシュニュース	倉敷平成病院で第20回倉敷ジュニアフィル演奏会
○	H21. 8.31 (月)	7:00～ 7:45	NHK	おはよう日本	脳卒中時間短縮で患者を救え（篠山英道医師）
○	H21. 9. 9 (水)	18:10～19:00	NHK岡山放送局	ニュースコア6岡山	脳卒中防止キャンペーン（脳出血の超早期の治療とその予防法について）（高尾聡一郎医師）
◎	H21. 9.20 (日)	11:45～11:50	KSB瀬戸内海放送	自由人会社人～トップの横顔～	高尾武男理事長
○	H21.11.15 (日)	22:48～23:00	TSCてれびせとうち	TSCニュース	第44回のぞみの会　「のぞみの会　患者と地域住民らが交流」
◎	H21.12.11 (金)	19:30～19:55	NHK岡山放送局	岡山発　脳卒中急性期シンポジウム	小回りのきく救急体制（篠山英道医師）
◎	H21.12.17 (木)	15:45～15:58	KSB瀬戸内海放送	にこまるテレビ	女をみがけ～冬のお肌のお手入れ方法について（華山博美医師）
◎	H22. 1.31 (日)	12:00～12:30	TSCてれびせとうち	シリーズ医療現場からの報告	～脳疾患に挑む“絆”の医療～
◎	H22. 2.11 (木・祝)	10:00～10:30	TSCてれびせとうち	シリーズ医療現場からの報告	～脳疾患に挑む“絆”の医療～（再放送）
○	H22. 2. 3 (水)	18:10～19:00	NHK岡山放送局	ニュースコア6岡山	脳卒中防止キャンペーン（見落としがちなサイン）（篠山英道医師）
◎	H22. 3. 6 (土) 3. 7 (日)	14:30～15:00	KCT倉敷ケーブルテレビ	医療現場からの報告	～脳疾患に挑む“絆”の医療～（再放送）
◎	H22. 4. 9 (金)	9:30～10:00	TSCてれびせとうち	せとうちパレット930	はつらつライフ「くも膜下出血」（高尾聡一郎医師）
◎	H22. 5.12 (水)	11:30～11:58	KSB瀬戸内海放送	にこまるテレビ	アセロラについて（小野詠子管理栄養士）

種類	放送日	時　間	テレビ局	番　組　名	内　　容
○	H22. 5.19 (水)	16:45 ～ 19:00	KSB瀬戸内海放送	KSBスーパーＪチャンネル	きょうのこだわり「頭部強打の危険性専門家に聞く」（高尾聡一郎医師）
◎	H22. 7.30 (金)	9:30 ～ 10:00	TSCてれびせとうち	せとうちパレット930	はつらつライフ「夏の脳梗塞に要注意」（高尾聡一郎医師）
○	H22. 8.12 (木)	16:45 ～ 19:00	KSB瀬戸内海放送	KSBスーパーＪチャンネル	第21回倉敷ジュニアフィル演奏会～病院でオーケストラのコンサート～
◎	H22.10.28 (木)	11:30 ～ 11:58	KSB瀬戸内海放送	にこまるテレビ	子宮内膜症について（太田郁子医師）
◎	H23. 1.27 (木)	11:30 ～ 11:58	KSB瀬戸内海放送	にこまるテレビ	顎関節症について（相賀秀樹歯科医師）
○	H23. 8. 6 (土)	17:00 ～ 17:30	OHK岡山放送	ニュースチャージ「ホットライン」	ロボットスーツHAL（ハル）（高尾祐子医師）
○	H23. 8.10 (水)	18:15 ～ 19:00	OHK岡山放送	OHKスーパーニュース	シリーズ医療　リハビリを支援するロボットとは（高尾祐子医師）
○	H23. 8.18 (木)	16:45 ～ 19:00	KSB瀬戸内海放送	KSBスーパーＪチャンネル	第22回倉敷平成病院倉敷ジュニアフィル演奏会
○	H23. 8.29 (月)	17:00 ～ 17:25	KCT倉敷ケーブルテレビ	KCTワイド	ブラジル人小学生が高齢者と交流（デイサービスドリーム坂本晋也）
○	H23.11.13 (日)	17:00 ～ 17:20	KCT倉敷ケーブルテレビ	KCTニュース	第46回のぞみの会開催
○	H24. 2.20 (月)	17:00 ～ 17:25	KCT倉敷ケーブルテレビ	KCTワイド	2012そうじゃ吉備路マラソン応援企画１（倉敷平成病院タートルズ）
◎	H24. 4. 2 ～ H25. 3	9:15 ～ 3回	KCT倉敷ケーブルテレビ	絆の医療を求めて ～倉敷平成病院～	※２
○	H24. 6.19 (火)	16:45 ～ 19:00	KSB瀬戸内海放送	KSBスーパーＪチャンネル	足と靴の関係特集（石田泰久医師）
○	H24. 8.16 (木)	16:45 ～ 19:00	KSB瀬戸内海放送	KSBスーパーＪチャンネル	第23回倉敷平成病院倉敷ジュニアフィル演奏会
○	H24. 8.16 (木)	17:00 ～ 17:25	KCT倉敷ケーブルテレビ	KCTワイド	第23回倉敷平成病院倉敷ジュニアフィル演奏会
○	H24.11.18 (日)	17:30 ～ 18:00	KSB瀬戸内海放送	KSBスーパーＪチャンネル	第47回のぞみの会開催～病気への知識を深めよう～
○	H25. 2. 5 (火)	16:45 ～ 19:00	KSB瀬戸内海放送	KSBスーパーＪチャンネル	ぴっくアップ花粉シーズン目前！対策グッズ最前線（森幸威医師）
◎	H25. 4.17 (水)	13:55 ～ 15:50	読売テレビ(RNC西日本放送)	情報ライブミヤネ屋	更年期障害について（太田郁子医師）
○	H25. 6.10 (月)	16:45 ～ 19:00	KSB瀬戸内海放送	KSBスーパーＪチャンネル	梅雨時期も怖い！熱中症（内田叔宏医師）
○	H25. 8.22 (木)	16:45 ～ 19:00	KSB瀬戸内海放送	KSBスーパーＪチャンネル	第24回倉敷平成病院倉敷ジュニアフィル演奏会
○	H25. 8.22 (木)	17:00 ～ 17:25	KCT倉敷ケーブルテレビ	KCTワイド	第24回倉敷平成病院倉敷ジュニアフィル演奏会
○	H25.11.17 (日)	17:00 ～ 17:20	KCT倉敷ケーブルテレビ	KCTニュース	第48回のぞみの会開催
○	H25.11.17 (日)	17:30 ～ 18:00	KSB瀬戸内海放送	KSBスーパーＪチャンネル	第48回のぞみの会開催

○＝ニュース、◎＝番組

※１　平成15年４月～　イブニングワイド21　16時50分～17時50分
倉敷平成病院のDo You脳?!
毎月第１水曜　17時15分～ 10分間
平成13年10月～　毎月第１水曜　17時15分～ 10分間
国司憲一郎の元気一番　高尾先生のDo You脳?!
H15. 4. 2　高尾武男院長（痴呆症１）
H15. 5. 7　高尾武男院長（痴呆症２）
H15. 6. 4　高尾武男院長（痴呆症３）
H15. 7. 2　高尾武男院長（夏バテ）
H15. 8. 6　高尾武男院長（頭痛）
H15. 9. 3　高尾武男院長（不眠）
H15.10. 1　玉田二郎医師（睡眠時無呼吸症候群）
H15.11. 3　篠山英道医師（くも膜下出血）
H15.12. 3　篠山英道医師（脳出血）
H16. 1. 7　高尾芳樹医師（脳梗塞）
H16. 2. 4　高尾芳樹医師（脳梗塞）
H16. 3. 3　高尾芳樹医師（頭痛）

ゆうがたDONDON　15時55分～16時54分　倉敷平成病院のDo You脳?!
毎月第１水曜　16時15分～ 10分間
H16. 4. 7　玉田二郎医師（慢性閉塞性肺疾患）
H16. 5.12　玉田二郎医師（禁煙）
H16. 6. 2　吉岡保センター長（美容センター）
H16. 7. 7　華山博美医師（美容外科）
H16. 8. 4　大本佳恵医師（婦人科）
H16. 9. 1　高尾公子施設長（ローズガーデン倉敷誕生）
H16.10. 6　高尾武男院長（痴ほう１）
H16.11.10　高尾武男院長（痴ほう２）
H17. 1. 5　竹本琢司医師（花粉症）
H17. 2. 2　関八州彦医師（脳卒中のリハビリ）
H17. 3. 2　華山博美医師（美容について～ニキビの対処法と脱毛～）
H17. 4. 6　青山雅医師（生活習慣病について～動脈硬化を予防する～）

※２　月曜日～金曜日　９時15分～、11時45分～、20時45分～
土・日　10時～、16時30分～、22時30分～
H24. 4. 2　絆の医療を求めて　KIZUNA01　リハビリテーション科　高尾祐子ドクター
H24. 4.16　絆の医療を求めて　KIZUNA02　消化器科　前田憲男ドクター
H24. 5. 1　絆の医療を求めて　KIZUNA03　呼吸器内科　矢木真一ドクター
H24. 5.16　絆の医療を求めて　KIZUNA04　美容外科・形成外科　華山博美ドクター
H24. 6. 1　絆の医療を求めて　KIZUNA05　脳神経外科　高尾聡一郎ドクター
H24. 6.16　絆の医療を求めて　KIZUNA06　神経内科　涌谷陽介ドクター
H24.10. 1　絆の医療を求めて　KIZUNA07　形成外科　石田泰久ドクター
H24.10.16　絆の医療を求めて　KIZUNA08　歯科　芦田昌和ドクター
H24.11. 1　絆の医療を求めて　KIZUNA09　平成南町クリニック　院長　玉田二郎ドクター
H24.11.16　絆の医療を求めて　KIZUNA10　倉敷生活習慣病センター　診療部長　青山雅ドクター
H24.12. 1　絆の医療を求めて　KIZUNA11　のぞみの会
H24.12.16　絆の医療を求めて　KIZUNA12　理事長　髙尾武男
H25. 1. 1　絆の医療を求めて　ローズガーデン倉敷

ラジオに紹介された全仁会

放送日	時　間	ラジオ局	番　組　名	内　　容	出　　演
H18. 5.30 ㈫	13:00 ～ 16:00 (14:20 ～ 14:40)	FMくらしき	小野須磨子のごごいちラジオ	あなたと語りたい	森智
H18. 8.15 ㈫	11:25 ～	FMくらしき	ライフナビゲーション	倉敷平成病院にて第17回倉敷ジュニアフィルオーケストラ演奏会（8月15日）	高尾公子
H18. 8.15 ㈫	14:15 ～	FMくらしき	小野須磨子のごごいちラジオ～おでかけラジオ～	倉敷平成病院にて第17回倉敷ジュニアフィルオーケストラ演奏会（8月15日）	影山貴敏リポート
H18. 9. 2 ㈯	9:00 ～ 15:00	FMくらしき	土曜はおまかせハッピーロード「まちスポ通信」	フランス第42回世界ペタンク選手権大会（9月20 ～ 24日）出場	向川真博
H19. 2.27 ㈫	10:30 ～	FMくらしき	ライフナビゲーション	肌について（パーソナリティ　杉本香子）	華山博美
H19. 8.15 ㈬	17:20 ～	FMくらしき	くらしきほっとイブニング	倉敷平成病院第18回倉敷ジュニアフィル演奏会リポート影山貴敏（8月15日開催）	倉敷ジュニアフィル講師　南徹志 倉敷ジュニアフィル団員　江島直之 倉敷平成病院秘書広報室　磯崎裕代
H20. 5.21 ㈬	17:20 ～	FMくらしき	くらしきほっとイブニング	歌声広場1,000回（5月21日開催）	小迫伸一
H21. 8.10 ㈪	16:00 ～ 18:00 (17:20 ～)	FMくらしき	くらしきほっとイブニング	第20回倉敷平成病院　倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会告知	磯崎裕代
H21. 9. 2 ㈬ ～継続	15:00 ～ 15:15	FMくらしき	平成健康アラカルト	倉敷平成病院の医師が、病気についてその病状、予防法、治療法についておはなしする15分間	
H21. 9. 2 ㈬	13:00 ～ 16:00 (14:20 ～ 14:40)	FMくらしき	小野須磨子のごごいちラジオ	あなたと語りたい	高尾武男
H21.12. 5 ㈯ ～継続	12:00 ～ 12:15	FMおかやま	平成健康アラカルト	倉敷平成病院の医師が、病気についてその病状、予防法、治療法についておはなしする15分間	
H23. 1.28 ㈮	14:20 ～ 14:50	FMおかやま	牛嶋俊明ドリームファクトリー	ドリームトーク	高尾武男
H23. 4.22 ㈮	9:25ごろ～ 9:50	FMおかやま	フレッシュモーニング岡山	今週の人間（ひと）（パーソナリティ　牛嶋俊明）	三宅裕代・角井春妃
H23. 8.15 ㈪	16:00 ～ 18:00 (17:20 ～)	FMくらしき	くらしきほっとイブニング	第22回倉敷平成病院　倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会告知（8月18日開催）	三宅裕代
H24. 6.29 ㈮	15:00 ～ 19:00	FMくらしき	週刊くらしきハッピーレディオ（大谷利文）	第2回倉敷市国際トライアスロン大会倉敷トレーナーズ協会会長（平川宏之）	平川宏之
H26. 4.11 ㈮	14:20 ～ 14:50	FMおかやま	牛嶋俊明ドリームファクトリー	ドリームトーク	高尾聡一郎

（敬称略）

新聞に紹介された全仁会

掲載日	新聞社名	内　　容
H15. 8. 9 ㈯	山 陽 新 聞	姫井孟倉敷生活習慣病センター長閉塞性動脈硬化症について国際学会で発表
H15. 8.22 ㈮	山 陽 新 聞	県倉敷保険所禁煙、完全分煙３施設に認定証（倉敷平成病院･児島郵便局　禁煙実施）（児島市民病院　分煙実施）
H15.10.16 ㈭	山 陽 新 聞	姫井孟センター長日本糖尿病合併症学会賞受賞
H16. 3. 7 ㈰	山 陽 新 聞	高齢者向け賃貸住宅「ローズガーデン倉敷」モデルルーム開所
H16. 4. 8 ㈭	山 陽 新 聞	特別講演会「二十一世紀の高齢者の新しい生き方」（住宅賃貸業･株式会社全仁会主催、山陽新聞社後援）倉敷市民会館で開催
H16. 7. 1 ㈭	山 陽 新 聞	歌声広場800回（６月29日開催）
H17. 1.27 ㈭	山 陽 新 聞	倉敷平成病院で高齢者交通安全講習開催100名参加（１月26日開催）
H18. 2.10 ㈮	山 陽 新 聞	岡山医療ガイド　地域を支える病院・医院　倉敷平成病院　高尾武男院長
H18. 4.11 ㈫	山 陽 新 聞	ドリームガーデン倉敷　佐藤唯二さんおめでとう100歳（４月10日誕生会）
H18. 6. 8 ㈭	山 陽 新 聞	歌声広場900回（６月７日開催）
H18. 9. 5 ㈫	読 売 新 聞	向川真博さん　第42回世界ペタンク選手権大会（９月20 ～ 24日・フランス）出場
H19. 3. 8 ㈭	山 陽 新 聞	「小さな親切」運動倉敷支部よりFMラジオ「こくっち」10台と車いす１台の寄贈
H19. 3.20 ㈫	山 陽 新 聞	倉敷老健入所　西山フヨさま祝100歳　第820回理事長講話でお祝
H19. 4.26 ㈭	山 陽 新 聞	安心・快適　終の棲家特集～明るく、楽しく、自分らしく、第二の人生を謳歌する～」ローズガーデン倉敷
H19. 8.10 ㈮	山 陽 新 聞	倉敷市民版「会と催し」第17回看護セミナー告知
H19. 8.10 ㈮	朝 日 新 聞	「タウンてちょう」第18回倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会告知
H19. 8.16 ㈭	山 陽 新 聞	倉敷平成病院第18回倉敷ジュニアフィル演奏会（８月15日開催）
H19.11.23 ㈮	山 陽 新 聞	「ローズガーデン倉敷」が「第９回倉敷市建築文化賞　奨励賞（住宅部門）」を受賞
H20. 3.15 ㈯	山 陽 新 聞	倉敷老健通所リハビリ３月の誕生会100歳以上の３人おめでとう
H20. 4.16 ㈬	岡山日日新聞	ワイド岡山「岡山の病院長さん」鈴木健二院長紹介
H20. 5.22 ㈭	山 陽 新 聞	歌声広場1,000回（５月21日開催）
H20. 5.22 ㈭	読 売 新 聞	歌声広場1,000回（５月21日開催）
H20. 8.15 ㈮	山 陽 新 聞	第19回倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会（８月14日開催）
H20.11.11 ㈫	山 陽 新 聞	第43回のぞみの会（11月９日開催）
H21. 5.21 ㈭	山 陽 新 聞	倉敷老健　田中さん100歳おめでとう
H21. 6. 8 ㈪	山 陽 新 聞	岡山の病院力56　※１
H21.10.25 ㈰	山 陽 新 聞	備中力くらしき力地域を語る「限りないQOL追求」　※２
H21.11.19 ㈭	山 陽 新 聞	第44回のぞみの会（脳卒中予防へ講演や健康診断）（11月15日開催）
H22. 2. 2 ㈫	山 陽 新 聞	倉敷の小林さん100歳おめでとう（倉敷老健　１月30日開催）
H22. 7.17 ㈯	山 陽 新 聞	理学療法の日（社）岡山県理学療法士会　倉敷平成病院のリハビリ紹介される
H22.10. 6 ㈬	岡山日日新聞	ワイド岡山「エキスパート目指し前進！素顔の新人看護師さん」Ns長谷川五月
H23. 1. 7 ㈮	山 陽 新 聞	備中力くらしき力地域を語る「患者本位の医療追求」　※３
H23. 4. 6 ㈬	山 陽 新 聞	老人ホームに車いす４台寄贈　ごうぎん一粒麦の会　ケアハウスドリームガーデン倉敷
H23. 4.23 ㈯	山 陽 新 聞	東日本大震災義援金・山陽新聞社会事業団（平川訓己院長）
H23. 8.20 ㈯	山 陽 新 聞	第22回倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会（８月18日開催）
H23.11. 2 ㈬	山 陽 新 聞	総社市、倉敷平成病院と障害者雇用協定結ぶ（10月31日）
H24. 3.20 ㈫	山 陽 新 聞	認知症医療センター　岡山大など４病院指定へ （岡山大病院（岡山市北区）慈圭病院（同市南区）川崎医科大付属病院（倉敷市）倉敷平成病院（同）の４病院の指定）
H24. 4. 1 ㈰	山 陽 新 聞	プレミアム倶楽部2012　※４
H24. 7.13 ㈮	山 陽 新 聞	倉敷の岡崎さん100歳おめでとう（倉敷老健　12日）
H24. 8.17 ㈮	山 陽 新 聞	第23回倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会（８月16日開催）
H24. 8.27 ㈪	山 陽 新 聞	人間ドック機能評価　県内は９施設認定 倉敷平成病院平成脳ドックセンター・金田病院・倉敷成人病健診センター・倉敷中央病院総合保健管理センター・落合病院・ESクリニック・岡山赤十字病院・淳風会健康管理センター・倉敷第一病院
H24. 9. 2 ㈰	山 陽 新 聞	子どもしんぶん「さん太タイムズ」倉敷ジュニアフィル平成病院で演奏会　表紙

掲載日	新聞社名	内　　容	
H25. 1.11 ㈮	山 陽 新 聞	備中力くらしき力地域を語る「患者さんのため四半世紀」	※5
H25. 1.13 ㈰	山 陽 新 聞	医療の質高め地域に貢献を　倉敷平成病院、創立25周年記念祝賀会（1月12日開催）	
H25. 4. 1 ㈪	山 陽 新 聞	プレミアム倶楽部2013	※6
H25. 8.23 ㈮	山 陽 新 聞	第24回倉敷ジュニアフィルハーモニーオーケストラ演奏会（8月22日開催）	
H25.11.19 ㈫	山 陽 新 聞	第48回のぞみの会開催（医療・福祉理解深める倉敷平成病院、住民と交流会　11月17日開催）	
H26. 1.10 ㈮	山 陽 新 聞	備中力くらしき力地域を語る「患者さんのため新たな出発」	※7
H26. 1.12 ㈰	山 陽 新 聞	社会医療法人全仁会理事長・代表就任祝賀会開催（1月11日開催）	
H26. 4. 1 ㈫	山 陽 新 聞	プレミアム倶楽部2014	※8

2009年6月8日　14

倉敷平成病院　倉敷市老松町　☎086・427・1111

岡山の病院力

56

ホームページ
岡山の病院力
http://iryo.sanyo.oni.co.jp

脳卒中トータルケア

リハビリと手術充実

脳卒中まひ機能再建外来

筋肉や腱緩め改善

物忘れ外来

早期発見で進行抑制

スポーツ外来

選手の気持ちにより添う

一貫した継続医療提供

※1　山陽新聞　平成21年6月8日（月）掲載　岡山の病院力56

13 2009年10月25日

備中力くらしき力 地域を語る

限りないQOL追求

高尾武男理事長

倉敷平成病院（倉敷市）

リハビリにいち早く着手

救急から在宅まで幅広く

聞き手 山陽新聞社倉敷本社 若狭正西代表

医療法人 全仁会 倉敷平成病院

のぞみの会

倉敷老健

0120-1616-09

※２　山陽新聞　平成21年10月25日（日）掲載　備中力くらしき力地域を語る「限りないQOL追求」

2011年1月7日 16

備中力くらしき力 地域を語る

患者本位の医療追求

□高まる病院力

倉敷平成病院（倉敷市） 高尾武男理事長

脳疾患の総合治療が強み

□運営方針

介護分野まで切れ目なく

聞き手 山陽新聞社倉敷本社 野崎誠二代表

医療法人 全仁会 倉敷平成病院は、平成22年12月1日から、
「社会医療法人 全仁会 倉敷平成病院」になりました。

平成高齢クリニック
1月5日(水)開院
434-1122

※３　山陽新聞　平成23年１月７日（金）掲載　備中力くらしき力地域を語る「患者本位の医療追求」

2013年 1月11日 20

備中力くらしき力 地域を語る

「患者さんのため」四半世紀

25年の歩み

倉敷平成病院 高尾武男理事長

信頼に応え走り続けた

的確な診断と治療を

山陽新聞社倉敷本社 松田正己代表

社会医療法人 全仁会 倉敷平成病院は、平成25年1月11日

25周年を迎えました。

※5　山陽新聞　平成25年１月11日（金）掲載　備中力くらしき力地域を語る「患者さんのため四半世紀」

17 2014年1月10日

備中力くらしき力 地域を語る

「患者さんのため」新たな出発

□変わらぬ理念

倉敷平成病院 高尾聡一郎理事長

全仁会グループ 高尾武男代表

□奉仕の心

地域の声聞く「良医」に

救急 在宅 いつでも対応

社会医療法人 全仁会

倉敷平成病院

0120-46-1984

※7　山陽新聞　平成26年１月10日（金）掲載　備中力くらしき力地域を語る「患者さんのため新たな出発」

※４　山陽新聞
平成24年４月１日（日）掲載
プレミアム倶楽部2012

※６　山陽新聞
平成25年４月１日（月）掲載
プレミアム倶楽部2013

※８　山陽新聞
平成26年４月１日（火）掲載
プレミアム倶楽部2014

毎日新聞

税制改革法案

今国会提出、固執せず

政府 自民

時間かけ国民合意

「今秋成立」に影響も

首相に公開討論要求

土井委員長、税制改革で

日曜スペシャル

家族の悲鳴が聞こえる

理想掲げリハビリ医療

高尾武男さん

脳卒中の社会復帰

スクラム組んで

きょうからA日程

「ふるさと創生」支援財団

自治省、4月発足断念

聖子5位入賞

日曜スペシャル

救急からデイケアまで

患者と家族に安らぎを

毎日新聞　昭和63年２月28日（日）掲載
日曜スペシャル　理想掲げリハビリ医療

FM くらしき「平成健康アラカルト」

放送回	放送日	診療科・部署	担当者	内　　容
第 1 回	H21. 9. 2	脳神経外科	高尾聡一郎	夏場に多い脳卒中
第 2 回	H21. 9. 9	呼吸器科	玉田　二郎	嚥下性肺炎
第 3 回	H21. 9.16	糖尿病・代謝内科	青山　　雅	糖尿病
第 4 回	H21. 9.23	整形外科	平川　宏之	スポーツ医学
第 5 回	H21. 9.30	歯科	相賀　秀樹	噛むことの大切さ
第 6 回	H21.10. 7	美容外科・形成外科	華山　博美	お肌の老化
第 7 回	H21.10.14	ドックセンター	大橋　勝彦	人間ドック
第 8 回	H21.10.21	婦人科	吉岡　　保	総合美容センターについて
第 9 回	H21.10.28	神経内科	高尾　芳樹	頭痛
第10回	H21.11. 4	形成外科	森　　大祐	形成外科について
第11回	H21.11.11	脳神経外科	篠山　英道	第44回のぞみの会について
第12回	H21.11.18	麻酔科	和田　　聡	麻酔について
第13回	H21.11.25	脳神経外科	鈴木　健二	第2の人生をいきいきと生きるには
第14回	H21.12. 2	循環器科	伊東　政敏	高血圧
第15回	H21.12. 9	整形外科	渋谷　　啓	骨粗鬆症
第16回	H21.12.16	婦人科	太田　郁子	生理痛・子宮内膜症
第17回	H21.12.23	リハビリテーション科	高尾　祐子	嚥下障害
第18回	H22. 1. 6	消化器科	吉岡　　毅	胃癌とヘリコバクターピロリ菌
第19回	H22. 1.13	鍼灸院	甄　　立学	鍼灸治療について
第20回	H22. 1.20	整形外科	平川　訓己	運動器不安定症
第21回	H22. 1.27	倉敷老健	大浜　栄作	治療でよくなる認知症
第22回	H22. 2. 3	耳鼻咽喉科	森　　幸威	花粉症
第23回	H22. 2.10	神経内科	森本　展年	パーキンソン病
第24回	H22. 2.17	神経内科	高尾　武男	認知症の初期症状
第25回	H22. 2.24	脳神経外科	高尾聡一郎	くも膜下出血
第26回	H22. 3. 3	呼吸器科	玉田　二郎	長引く“せき”
第27回	H22. 3.10	糖尿病・代謝内科	青山　　雅	メタボリックシンドローム
第28回	H22. 3.17	整形外科	平川　宏之	ウォーキングについて
第29回	H22. 3.24	美容外科・形成外科	華山　博美	春の美肌対策
第30回	H22. 3.31	ドックセンター	大橋　勝彦	人間ドックの上手な受け方
第31回	H22. 4. 7	歯科	相賀　秀樹	目指せ！白い歯
第32回	H22. 4.14	婦人科	吉岡　　保	育毛外来について
第33回	H22. 4.21	神経内科	高尾　芳樹	頭痛②
第34回	H22. 4.28	形成外科	森　　大佑	足の形成外科
第35回	H22. 5. 5	脳神経外科	篠山　英道	手術で治る認知症
第36回	H22. 5.12	神経内科	柚木　太淳	手のふるえ
第37回	H22. 5.19	循環器科	伊東　政敏	脈の乱れ～不整脈～
第38回	H22. 5.26	脳神経外科	鈴木　健二	共に生きる
第39回	H22. 6. 2	美容外科・形成外科	華山　博美	美容外科に関するいろいろ
第40回	H22. 6. 9	婦人科	太田　郁子	子宮頸がんの予防について
第41回	H22. 6.16	リハビリテーション科	高尾　祐子	怖い生活不活発病
第42回	H22. 6.23	消化器科	吉岡　　毅	便秘について
第43回	H22. 6.30	鍼灸院	甄　　立学	幅広い鍼灸治療の適応症
第44回	H22. 7. 7	整形外科	平川　訓己	膝の痛み
第45回	H22. 7.14	倉敷老健	大浜　栄作	倉敷老健について
第46回	H22. 7.21	耳鼻咽喉科	森　　幸威	めまい
第47回	H22. 7.28	整形外科	渋谷　　啓	脳卒中まひに対する手術治療
第48回	H22. 8. 4	糖尿病・代謝内科	青山　　雅	糖尿病と骨粗しょう症

放送回	放送日	診療科・部署	担当者	内　　容
第49回	H22. 8.11	鍼灸院	甄　　立学	鍼灸治療の深い話
第50回	H22. 8.18	糖尿病・代謝内科	青山　　雅	禁煙治療
第51回	H22. 8.25	婦人科	吉岡　　保	更年期とものわすれ
第52回	H22. 9. 1	学習療法	阿部　弘明 坂本　晋也	学習療法について
第53回	H22. 9. 8	倉敷老健	大浜　栄作	脳血管性認知症について
第54回	H22. 9.15	ドックセンター	鈴木　健二 岡崎　　浩	平成脳ドックセンターについて
第55回	H22. 9.22	鍼灸院	甄　　立学	鍼灸治療の深い話②
第56回	H22. 9.29	栄養科	小野　詠子	病院での管理栄養士の仕事
第57回	H22.10. 6	放射線部	仙波　明弘	骨塩定量装置と3.0ステラMRI
第58回	H22.10.13	薬剤部	市川　大介	病院での薬剤師の仕事
第59回	H22.10.20	のぞみの会	篠山　英道 西坂　孝治	第45回のぞみの会について
第60回	H22.10.27	医療福祉相談室	森　　智	医療ソーシャルワーカーの仕事
第61回	H22.11. 3	リハビリPT	津田陽一郎	理学療法ってなに？
第62回	H22.11.10	リハビリOT	新崎佐江子	作業療法士の仕事ってなに？
第63回	H22.11.17	リハビリST	藤本　憲正	言語聴覚士のお仕事
第64回	H22.11.24	臨床検査部	谷口　育美	動脈硬化の検査
第65回	H22.12. 1	美容外科・形成外科	華山　博美	冬のキャンペーンについて
第66回	H22.12. 8	予防リハ	鈴本　益史	予防リハビリについて
第67回	H22.12.15	学習療法	阿部　弘明 坂本　晋也	学習療法について②
第68回	H22.12.22	平成南町クリニック	玉田　二郎	平成南町クリニックについて
第69回	H23. 1. 5	美容センター	中山　　瞳 高見　幸代	総合美容センターの紹介と毛穴のお手入れ方法
第70回	H23. 1.12	倉敷老健	大浜　栄作	認知症について
第71回	H23. 1.19	ケアマネジャー	難波　　忍	ケアマネジャーの仕事
第72回	H23. 1.26	神経内科	佐藤　恒太	脳卒中について
第73回	H23. 2. 2	通所リハビリ	柳井　健司	通所リハビリのご案内
第74回	H23. 2. 9	ショートステイ	清水　蕗子 竹下　　譲	ショートステイのご案内
第75回	H23. 2.16	訪問看護	濵田ゆりか	訪問看護について
第76回	H23. 2.23	訪問リハビリ	荻野　誉子	訪問リハビリについて
第77回	H23. 3. 2	訪問介護	守屋　尚美	訪問介護のご紹介
第78回	H23. 3. 9	訪問入浴	藤本恵美子	訪問入浴のご紹介
第79回	H23. 3.16	福祉用具	遠藤　清平	福祉用具のレンタル
第80回	H23. 3.23	看護部	有光　育代	看護部について
第81回	H23. 3.30	外来	立尾　且子	外来について
第82回	H23. 4. 6	手術室	那須　裕美	手術室について
第83回	H23. 4.13	ドリームガーデン倉敷	武部美智子	ドリームガーデン倉敷について
第84回	H23. 4.20	ローズガーデン倉敷	猪原　　徹	ローズガーデン倉敷について
第85回	H23. 4.27	平成南町クリニック	玉田　二郎	傷の手当て
第86回	H23. 5. 4	呼吸器科	矢木　真一	たばこをやめたい人へ
第87回	H23. 5.11	倉敷老健	山田奈々子	倉敷老健のご紹介
第88回	H23. 5.18	倉敷生活習慣病センター	小見山百絵	倉敷生活習慣病センターのご紹介
第89回	H23. 5.25	神経内科	高宮　資宜	神経内科の病気
第90回	H23. 6. 1	神経内科	林　　紗織	アルツハイマー病
第91回	H23. 6. 8	美容外科・形成外科	華山　博美	美容センターのご紹介
第92回	H23. 6.15	歯科	佐藤　晃子	歯の健康をたもとう！
第93回	H23. 6.22	糖尿病・代謝内科	青山　　雅	糖尿病について
第94回	H23. 6.29	薬剤部	小田　真澄	お薬のいろいろ

放送回	放送日	診療科・部署	担当者	内　　容
第95回	H23. 7. 6	美容センター	光岡　理恵	美容センターについて
第96回	H23. 7.13	栄養科	津田　和美	管理栄養士が提案する夏バテ予防
第97回	H23. 7.20	外来	立尾　且子 志摩あゆみ	フットケア外来について
第98回	H23. 7.27	医療安全対策部	渡邉　広美	医療安全管理者の役割
第99回	H23. 8. 3	デイサービスドリーム	坂本　晋也	デイサービスドリームのご紹介
第100回	H23. 8.10	医事課	江口　由美 三宅　愛美	医事課ってどんなところ?
第101回	H23. 8.17	婦人科	太田　郁子	婦人科の先生に聞きたいこと色々
第102回	H23. 8.24	リハビリテーション科	池田　健二	嚥下障害ってなぁに？
第103回	H23. 8.31	消化器科	前田　憲男	大腸がんの予防と大腸ポリープについて
第104回	H23. 9. 7	倉敷老健	大浜　栄作	認知症を予防する食事
第105回	H23. 9.14	外来	田辺美紀子 宮田さおり	もの忘れ外来について
第106回	H23. 9.21	フロアマネージャー	高崎　　潔	フロアマネージャーの役割
第107回	H23. 9.28	看護部	吉岡　文美	私が振り返る　倉敷平成病院
第108回	H23.10. 5	売店 介護タクシー	滝井　道子 西村　元広	売店と介護タクシーのご紹介
第109回	H23.10.12	救急部	角原　清歌	倉敷平成病院　救急の紹介
第110回	H23.10.19	総合診療科	内田　叔宏	インフルエンザについて
第111回	H23.10.26	のぞみの会	篠山　英道	第46回のぞみの会について
第112回	H23.11. 2	喫茶	寺本加寿美	スマイルキッチンのご紹介
第113回	H23.11. 9	婦人科	吉岡　　保	更年期障害について
第114回	H23.11.16	脳神経外科	高尾聡一郎	脊髄刺激療法について
第115回	H23.11.23	平成南町クリニック	玉田　二郎	発熱の見方と考え方
第116回	H23.11.30	看護部	武森三枝子	倉敷平成病院で看護師として働いて
第117回	H23.12. 7	美容外科・形成外科	華山　博美	アンチエイジングの美容外科
第118回	H23.12.14	リハビリテーション科	高尾　祐子	最新のリハビリテーション
第119回	H23.12.21	婦人科	太田　郁子	婦人科の先生に聞いてみよう　パート2
第120回	H23.12.28	消化器科	前田　憲男	胃がんの予防とピロリ菌
第121回	H24. 1. 4	美容センター	妹尾由香里	冬のキャンペーンについて
第122回	H24. 1.11	倉敷老健	大浜　栄作	認知症を予防する食事
第123回	H24. 1.18	糖尿病・代謝内科	青山　　雅	血糖が高いときに出る症状
第124回	H24. 1.25	ヘイセイ鍼灸治療院	島村　亮潤	鍼灸院へ行ってみよう！
第125回	H24. 2. 1	皮膚科	嶋田　八恵	手荒れなどの乾燥肌について
第126回	H24. 2. 8	医療福祉相談室	高岡　憲一	回復期リハ病棟の相談員
第127回	H24. 2.15	通所リハビリ	柳井　健司	学習療法発表会について
第128回	H24. 2.22	総合診療科	内田　叔宏	花粉症と口腔粘膜アレルギー症候群
第129回	H24. 2.29	呼吸器科	矢木　真一	肺炎球菌ワクチンについて
第130回	H24. 3. 7	臨床検査部	中曽　友美	ピロリ菌の検査について
第131回	H24. 3.14	放射線部	立住　睦海	マンモグラフィ検査について
第132回	H24. 3.21	薬剤部	武田　絢子	糖尿病療養指導士と褥瘡
第133回	H24. 3.28	予防リハ	鈴本　益史	予防リハの紹介
第134回	H24. 4. 4	通所リハ	黒川　直彦	通所リハってなぁに？
第135回	H24. 4.11	ショートステイ	藤代　和正	ショートステイはこんなところ
第136回	H24. 4.18	神経内科	涌谷　陽介	認知症疾患医療センターについて
第137回	H24. 4.25	眼科	石口奈世理	眼科で診てくれることＱ＆Ａ
第138回	H24. 5. 2	形成外科	石田　泰久	形成外科について
第139回	H24. 5. 9	神経内科	松薗　構佑	神経内科で診る病気は何？
第140回	H24. 5.16	ケアハウス	池田　　豊	ケアハウスのご紹介
第141回	H24. 5.23	歯科	芦田　昌和	歯の健康について
第142回	H24. 5.30	ローズガーデン倉敷	仁熊　海太	ローズガーデン倉敷をご紹介

放送回	放送日	診療科・部署	担当者	内　　容
第143回	H24. 6. 6	美容センター	華山　博美	総合美容センター 8周年のご案内
第144回	H24. 6.13	ケアプラン室	山川　恭子	いろいろな介護サービス
第145回	H24. 6.20	デイサービスドリーム	岡　　友美	小規模ならではの楽しい デイサービス
第146回	H24. 6.27	生活習慣病センター	青山　　雅	生活習慣病センター 10周年を迎えるにあたり
第147回	H24. 7. 4	美容センター	月城　友美	私のおすすめ美容法
第148回	H24. 7.11	栄養科	蜂谷　洋香	脱水を防ごう！
第149回	H24. 7.18	認知症疾患医療センター	向川　真博	認知症疾患医療センターへご相談下さい
第150回	H24. 7.25	皮膚科	嶋田　八恵	夏に気を付けたい皮膚疾患とその対策
第151回	H24. 8. 1	倉敷老健	大浜　栄作	認知症を予防する
第152回	H24. 8. 8	平成南町クリニック	玉田　二郎	旅行医学について
第153回	H24. 8.15	リハビリテーション部	江口　　健	理学療法士の仕事について
第154回	H24. 8.22	訪問看護	濵田ゆりか	いつ起こるか分からない災害に備えて
第155回	H24. 8.29	婦人科	太田　郁子	婦人科の先生に聞いてみようパート３
第156回	H24. 9. 5	医療安全対策部	渡邉　広美	医療安全管理者の役割
第157回	H24. 9.12	耳鼻咽喉科	森　　幸威	秋の花粉症について
第158回	H24. 9.19	介護タクシー	西村　元広	介護タクシーについて
第159回	H24. 9.26	作業療法士	宮ノ下三紀	作業療法士の仕事について
第160回	H24.10. 3	眼科	石口奈世理	気づかないうちに進行する目の病気
第161回	H24.10.10	臨床心理士	岡部　知世	臨床心理士の仕事
第162回	H24.10.17	のぞみの会	篠山　英道	第47回のぞみの会について
第163回	H24.10.24	ヘイセイ鍼灸治療院	甄　　立学	鍼灸治療いろいろ
第164回	H24.10.31	倉敷老健	堀口・中村 岡邊・中川	最近の倉敷老健
第165回	H24.11. 7	言語聴覚士	藤田　征子	言語聴覚士の仕事について
第166回	H24.11.14	神経内科	香西　由子	脳卒中について
第167回	H24.11.21	呼吸器科	矢木　真一	インフルエンザについて
第168回	H24.11.28	歯科	藤本　幸恵	からだの健康はいい歯から！
第169回	H24.12. 5	美容外科・形成外科	華山　博美	冬の乾燥について
第170回	H24.12.12	薬剤部	中田　早苗 安原　梨恵	薬学部６年制第１期生として病院薬剤師になって
第171回	H24.12.19	栄養科	中野　聖子	年末年始の食生活の注意点
第172回	H24.12.26	予防リハビリ	叶　　智子	予防リハビリについて
第173回	H25. 1. 9	美容センター	日浦　　綾	ニキビについて
第174回	H25. 1.16	耳鼻咽喉科	森　　幸威	スギ花粉について
第175回	H25. 1.23	認知症疾患医療センター	山田奈々子 長山　洋子	認知症疾患医療センターと学習療法
第176回	H25. 1.30	平成南町クリニック	玉田　二郎	糖質制限食について
第177回	H25. 2. 6	皮膚科	嶋田　八恵	かゆみを伴う皮膚疾患とその対策
第178回	H25. 2.13	ピースガーデン倉敷特養	佐々木嘉信	ピースガーデン倉敷特養について
第179回	H25. 2.20	ピースガーデン倉敷グループホーム	赤澤　吾郎	ピースガーデン倉敷グループホームについて
第180回	H25. 2.27	ピースガーデン倉敷ショートステイ	江口　美樹	ピースガーデン倉敷ショートステイについて
第181回	H25. 3. 6	ピースガーデン倉敷デイサービス	柳井　健司	ピースガーデン倉敷デイサービス「ゆかいな広場」
第182回	H25. 3.13	倉敷老健	大浜　栄作	認知症の脳の中で起きている変化
第183回	H25. 3.20	医療福祉相談室	森　　智	介護保険施設のいろいろ
第184回	H25. 3.27	婦人科	太田　郁子	不妊症について
第185回	H25. 4. 3	消化器科	前田　憲男	こころとからだの健康を支える腸内細菌の働き
第186回	H25. 4.10	呼吸器科	矢木　真一	長引くせきについて
第187回	H25. 4.17	通所リハビリ	菅　　政道	通所リハってどんなところ？
第188回	H25. 4.24	認知症疾患医療センター	向川　真博	認知症疾患医療センターについて
第189回	H25. 5. 1	ショートステイ	管波　宏基 井上　慎也	ショートステイの楽しみ方
第190回	H25. 5. 8	理学療法士	山下　昌彦	倉敷平成病院の急性期リハビリテーションについて

放送回	放送日	診療科・部署	担当者	内　　容
第191回	H25. 5.15	作業療法士	服部　順子	回復期リハビリテーション病棟でのリハビリ
第192回	H25. 5.22	ヘイセイ鍼灸治療院	川上　萌美	東洋医学と季節の関係
第193回	H25. 5.29	ケアハウスドリームガーデン倉敷	鍬野　倫子	ドリームガーデン倉敷（特に食事関係）について
第194回	H25. 6. 5	渉外部	野上　　隆	建設中のグランドガーデン南町について
第195回	H25. 6.12	ケアマネジャー	難波　　忍	ケアマネジャーの仕事について
第196回	H25. 6.19	訪問リハビリ	井上　恵太	訪問リハビリのお仕事について
第197回	H25. 6.26	倉敷老健	大浜　栄作	治療で良くなる認知症
第198回	H25. 7. 3	美容センター	三宅　愛美	夏の美肌計画実施について
第199回	H25. 7.10	デイサービスドリーム	篠田　春恵	デイサービスセンタードリームでの取り組み
第200回	H25. 7.17	栄養科	小野　詠子	夏のレジャーと脱水予防
第201回	H25. 7.24	平成南町クリニック	玉田　二郎	足のむくみについて
第202回	H25. 7.31	歯科	芦田　昌和	お口の健康について
第203回	H25. 8. 7	臨床検査部	藤田　昌美	感染制御チームにおける検査技師の仕事
第204回	H25. 8.14	倉敷老健	有働　泰裕 岡村　亜耶	倉敷老健の行事会について
第205回	H25. 8.21	形成外科	石田　泰久	形成外科と最近開設された創傷外来について
第206回	H25. 8.28	神経内科	高宮　資宜	アルツハイマー病について
第207回	H25. 9. 4	外来	岩崎紀代美	自分の血糖値を知ろう！
第208回	H25. 9.11	予防リハ	生田　容子	倉敷平成病院が誇るリハビリメインの通所サービス
第209回	H25. 9.18	ヘイセイ鍼灸治療院	島村　亮潤	鍼灸治療のお話
第210回	H25. 9.25	眼科	石口奈世理	疲れ目と眼鏡
第211回	H25.10. 2	皮膚科	嶋田　八恵	いぼと呼ばれる皮膚疾患について
第212回	H25.10. 9	総合診療科	福井三恵子	甲状腺の病気
第213回	H25.10.16	呼吸器科	矢木　真一	睡眠時無呼吸症候群について
第214回	H25.10.23	耳鼻咽喉科	森　　幸威	めまいについて
第215回	H25.10.30	のぞみの会実行委員会	篠山　英道	第48回のぞみの会について
第216回	H25.11. 6	総合診療科	内田　叔宏	インフルエンザについて
第217回	H25.11.13	婦人科	太田　郁子	子宮内膜症について
第218回	H25.11.20	生活習慣病センター	青山　　雅	糖尿病患者さんが冬に気をつけること
第219回	H25.11.27	薬剤部	木村　佳美	薬剤師の病棟での業務と院内感染対策
第220回	H25.12. 7	美容外科・形成外科	華山　博美	冬の乾燥について

※倉敷平成病院の医師やスタッフが、病気の予防法・病状・治療法、質問や病気の疑問についてお話しする 15 分間の番組。

（FM くらしき（82.8MHz）　毎週水曜日　15：00 ～ 15：15（生放送）
FM 岡山（76.8MHz）　　毎週土曜日　12：00 ～ 12：15（再放送））

院内コンサート

回数	年月日	演奏者（敬称略）
第１回	H20. 4. 4	オカリナ：折井　ユミコ、ピアノ：上枝　美香
第２回	H20. 5.19	オカリナ：折井　ユミコ、ピアノ：上枝　美香
第３回	H20. 6.27	オカリナ：折井　ユミコ、ピアノ：中田　英仁
第４回	H20. 7.28	オカリナ：折井　ユミコ、ピアノ：中田　英仁
第５回	H20. 8.29	オカリナ：折井　ユミコ、マリンバ：大山　史子、ピアノ：高尾　公子
第６回	H20. 9.29	オカリナ：折井　ユミコ、マリンバ：大山　史子、ピアノ：高尾　公子
第７回	H20.10.24	オカリナ：折井　ユミコ、琴：原野　学、ピアノ：高尾　公子
第８回	H20.11.17	オカリナ：折井　ユミコ、琴：原野　学、ピアノ：高尾　公子
第９回	H20.12.19	オカリナ：折井　ユミコ、ピアノ：中田　英仁、鈴・トライアングル：高尾　公子
第10回	H21. 1.26	オカリナ：折井　ユミコ、琴：原野　学、ピアノ：高尾　公子
第11回	H21. 2.20	オカリナ：折井　ユミコ、マリンバ：大山　史子、ピアノ：高尾　公子
第12回	H21. 3.30	オカリナ：折井　ユミコ、マリンバ：大山　史子、ピアノ：高尾　公子
第13回	H21. 4.24	オカリナ：折井　ユミコ、琴：原野　学、ピアノ：高尾　公子
第14回	H21. 5.25	オカリナ：折井　ユミコ、琴：原野　学、ピアノ：磯崎　裕代
第15回	H21. 6.26	オカリナ：折井　ユミコ、ウクレレ：西坂　孝治、ピアノ：磯崎　裕代
第16回	H21. 7.27	オカリナ：折井　ユミコ、ウクレレ：西坂　孝治、ピアノ：磯崎　裕代
第17回	H21. 8.24	オカリナ：折井　ユミコ、ウクレレ：西坂　孝治、ピアノ：磯崎　裕代
第18回	H21. 9.25	オカリナ：折井　ユミコ、ギター：高田　明彦、ピアノ：磯崎　裕代
第19回	H21.10.26	オカリナ：折井　ユミコ、ウクレレ：フェリーペ中村　裕、ピアノ：磯崎　裕代
第20回	H21.11.27	オカリナ：折井　ユミコ、ピアノ：中田　英仁
第21回	H21.12.25	オカリナ：折井　ユミコ、ピアノ：中田　英仁
第22回	H22. 1.25	オカリナ：折井　ユミコ、琴：原野　学、ピアノ：岩佐　暁子
第23回	H22. 2.26	オカリナ：折井　ユミコ、琴：原野　学、ピアノ：岩佐　暁子
第24回	H22. 3.29	オカリナ：折井　ユミコ、マリンバ：大山　史子
第25回	H22. 4.23	オカリナ：折井　ユミコ、マリンバ：大山　史子
第26回	H22. 5.31	オカリナ：折井　ユミコ、ヴァイオリン：中村　創、ピアノ：岩佐　暁子
第27回	H22. 6.25	オカリナ：折井　ユミコ、ヴァイオリン：中村　創、ピアノ：岩佐　暁子
第28回	H22. 7.26	オカリナ：折井　ユミコ、ギター：金光　秀彰、ピアノ：岩佐　暁子
第29回	H22. 8.27	オカリナ：折井　ユミコ、琴：渡谷　元子
第30回	H22. 9.27	オカリナ：折井　ユミコ、マリンバ：大山　史子
第31回	H22.10.22	オカリナ：折井　ユミコ、マリンバ：大山　史子、ピアノ：岩佐　暁子
第32回	H22.11.29	オカリナ：折井　ユミコ、オーボエ：大森　由理、ピアノ：岩佐　暁子
第33回	H22.12.24	オカリナ：折井　ユミコ、オーボエ：大森　由理、ファゴット：西牧　岳、ピアノ：岩佐　暁子
第34回	H23. 1.31	オカリナ：折井　ユミコ、琴：渡谷　元子、ピアノ：岩佐　暁子
第35回	H23. 2.28	オカリナ：折井　ユミコ、琴：渡谷　元子、ピアノ：岩佐　暁子
第36回	H23. 3.28	オカリナ：折井　ユミコ、琴：渡谷　元子、ピアノ：岩佐　暁子
第37回	H23. 4.25	オカリナ：折井　ユミコ、琴：渡谷　元子、ピアノ：岩佐　暁子
第38回	H23. 6.27	倉敷アカデミーアンサンブル弦楽五重奏
第39回	H23. 8.29	琴：渡谷　元子、湊　紀子
第40回	H23.10.31	ピアノ：友枝　彩、チェロ：佐藤　陽一、ヴァイオリン：河野　園子
第41回	H23.12.26	倉敷アカデミーヤングプレイヤーズ弦楽四重奏
第42回	H24. 3.26	オカリナ：折井　ユミコ、ピアノ：中田　英仁
第43回	H24. 5.28	倉敷アカデミーアンサンブル弦楽四重奏
第44回	H24. 8.27	ピアノ：長谷川　蕗、ヴァイオリン：仁熊　美鈴、チェロ：佐藤　陽一
第45回	H24.10.29	バイオリン：仁熊　美鈴、中原　千恵子、ビオラ：景山　奏、チェロ：江島　直之
第46回	H24.12.17	ピアノ：貫井　美愛、ヴァイオリン：仁熊　美鈴
第47回	H25. 3.25	オカリナ：折井　ユミコ、ピアノ：中田　英仁
第48回	H25. 6.24	オカリナ：折井　ユミコ、ピアノ：中田　英仁、中国箏：張　艶利
第49回	H25. 9.30	オカリナ：折井　ユミコ、琴：渡谷　元子、湊　紀子
第50回	H26. 1.27	オカリナ：折井　ユミコ、ピアノ：中田　英仁、コントラバス：原　巧一

勤続二十五年表彰者（平成25年１月12日現在）

嶋津　浩二（倉敷平成病院　放射線部　課長）
清水　蕗子（在宅総合ケアセンター　ショートステイ　師長）
竹本恵美子（倉敷平成病院　病歴管理課　事務）
武本　節子（倉敷平成病院　地域連携室　室長）
渡邉　英子（倉敷平成病院　医療サービス部　部長）
渡邉　広美（倉敷平成病院　医療安全対策部　部長）

勤続二十年表彰者

青木　菊江（地域包括支援センター　ケアマネ副主任）
乾　　里美（倉敷平成病院　４階東病棟　看護師）
江口　美樹（ピースガーデン倉敷　ショートステイ　介護科長）
角原　清歌（倉敷平成病院　外来　主任）
岸本　弥生（倉敷平成病院　医事課　主任）
榊原一二三（倉敷平成病院　看護副部長　２階病棟　師長）
佐藤　千栄（倉敷平成病院　外来　看護師）
森谷　理恵（倉敷老健　看護師）

勤続十年表彰者

青山　　雅（倉敷平成病院　生活習慣病センター　診療部長）
秋田　　望（倉敷平成病院　医療情報室　部長）
伊東　政敏（倉敷平成病院　循環器センター長）
岩部　絵里（倉敷平成病院　リハビリテーション部　OT科　副主任）
上野　昌子（ヘイセイホームヘルプSt.　介護主任）
内山　順治（ピースガーデン倉敷　施設長）
大西　洋史（倉敷老健　介護副主任）
大前　一恵（倉敷平成病院　外来　看護師）
岡崎　　浩（倉敷平成病院　脳ドックセンター　部長）
沖田　真一（ドリームガーデン倉敷　事務科長）
奥村美智子（倉敷平成病院　４階西病棟　師長）
小椋かおり（倉敷平成病院　２階病棟　介護副主任）
小田　真澄（倉敷平成病院　薬剤部　薬剤師）
工藤　悠子（倉敷平成病院　外来　看護師）

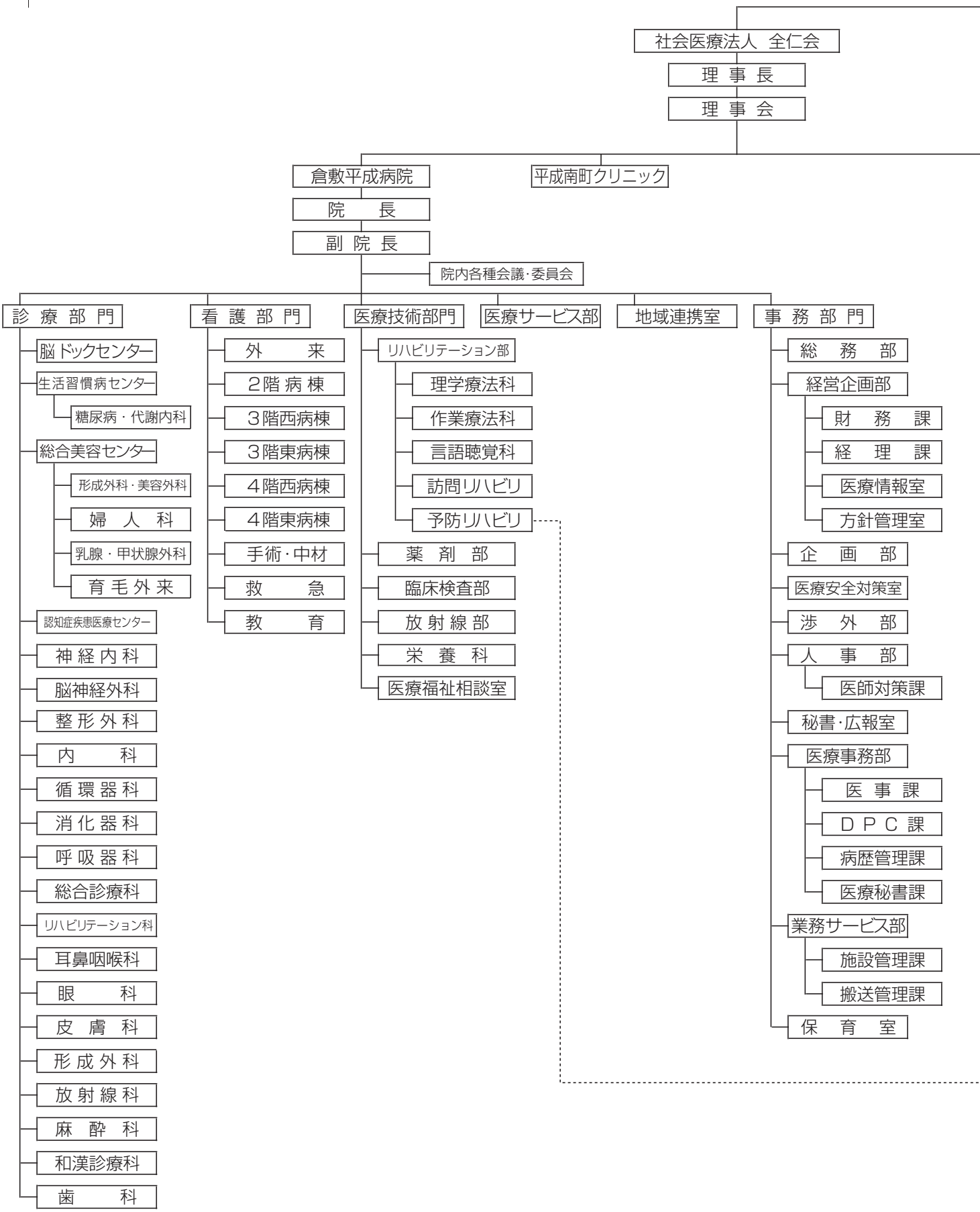
久米木幸恵（倉敷平成病院　放射線部　副主任）
篠山　英道（倉敷平成病院　副院長）
佐藤　宏明（倉敷平成病院　医療情報室　課長）
志摩あゆみ（倉敷平成病院　外来　看護師）
仙波　明弘（倉敷平成病院　放射線部　放射線技師）
竹下　　穣（ピースガーデン倉敷　特養　主任生活相談員）
玉田　二郎（平成南町クリニック　院長）
中條　正子（倉敷平成病院　４階西病棟　看護師）
中野　敬子（倉敷平成病院　医事課　事務）
松尾　　緑（倉敷老健　看護師）
宮ノ下三紀（倉敷平成病院　リハビリテーション部　OT科　科長）
森　　貴子（ヘイセイホームヘルプSt.　介護福祉士）
山本　健司（倉敷平成病院　２階病棟　看護師）
吉田　芽生（倉敷平成病院　４階東病棟　介護福祉士）

協力企業

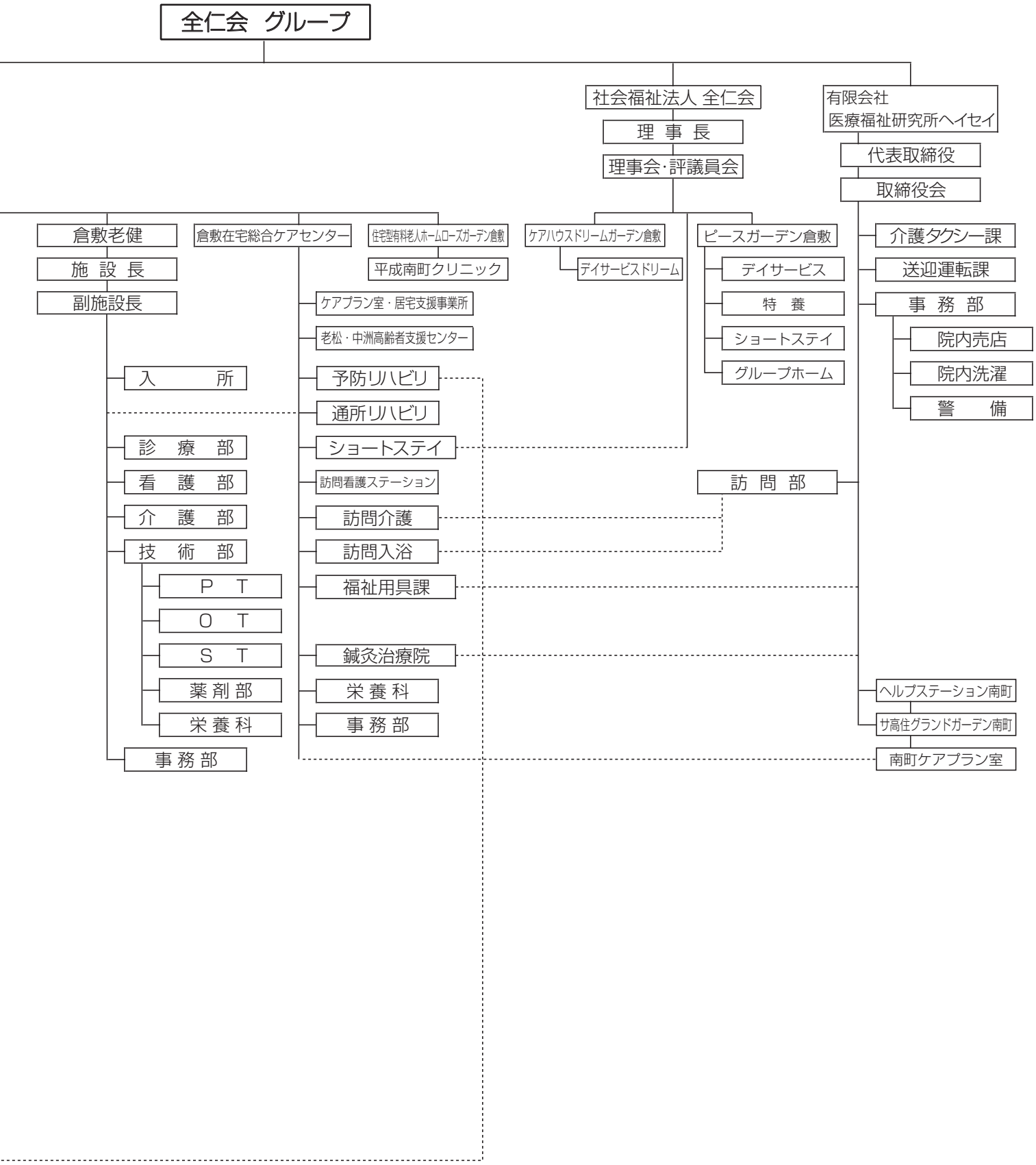
アイサービス（株）（給食）
（株）アールエコ（清掃）

（五十音順・敬称略）

全仁会グループ 組織図


社会医療法人 全仁会
理事長
理事会
倉敷平成病院
平成南町クリニック
院長
副院長
院内各種会議・委員会
診療部門
脳ドックセンター
生活習慣病センター
糖尿病・代謝内科
総合美容センター
形成外科・美容外科
婦人科
乳腺・甲状腺外科
育毛外来
認知症疾患医療センター
神経内科
脳神経外科
整形外科
内科
循環器科
消化器科
呼吸器科
総合診療科
リハビリテーション科
耳鼻咽喉科
眼科
皮膚科
形成外科
放射線科
麻酔科
和漢診療科
歯科
看護部門
外来
2階病棟
3階西病棟
3階東病棟
4階西病棟
4階東病棟
手術・中材
救急
教育
医療技術部門
リハビリテーション部
理学療法科
作業療法科
言語聴覚科
訪問リハビリ
予防リハビリ
薬剤部
臨床検査部
放射線部
栄養科
医療福祉相談室
医療サービス部
地域連携室
事務部門
総務部
経営企画部
財務課
経理課
医療情報室
方針管理室
企画部
医療安全対策室
渉外部
人事部
医師対策課
秘書・広報室
医療事務部
医事課
DPC課
病歴管理課
医療秘書課
業務サービス部
施設管理課
搬送管理課
保育室

平成26年４月１日


全仁会 グループ
社会福祉法人 全仁会
理 事 長
理事会･評議員会
有限会社
医療福祉研究所ヘイセイ
代表取締役
取締役会
倉敷老健
施 設 長
副施設長
入 所
診 療 部
看 護 部
介 護 部
技 術 部
P T
O T
S T
薬 剤 部
栄 養 科
事 務 部
倉敷在宅総合ケアセンター
ケアプラン室・居宅支援事業所
老松・中洲高齢者支援センター
予防リハビリ
通所リハビリ
ショートステイ
訪問看護ステーション
訪問介護
訪問入浴
福祉用具課
鍼灸治療院
栄 養 科
事 務 部
住宅型有料老人ホームローズガーデン倉敷
平成南町クリニック
ケアハウスドリームガーデン倉敷
デイサービスドリーム
ピースガーデン倉敷
デイサービス
特 養
ショートステイ
グループホーム
訪 問 部
介護タクシー課
送迎運転課
事 務 部
院内売店
院内洗濯
警 備
ヘルプステーション南町
サ高住グランドガーデン南町
南町ケアプラン室

職員名簿（平成26年４月１日現在）

社会医療法人　全仁会

役　　員

役職名	氏名
名誉理事長	高尾　武男
理事長	高尾聡一郎
副理事長	高尾　公子
常務理事	平川　訓己
理事	鈴木　健二
	高尾　芳樹
	篠山　英道
	伊東　政敏
	吉岡　　保
	大浜　栄作
	青山　　雅
	和田　　聡
	森　　幸威
	渋谷　　啓
	前田　憲男
	磯崎　宏二
	秋田　修一
監事	森安　武夫
	山口　俊範

医　　局

役職名	氏名
名誉院長（脳神経外科）	鈴木　健二
院長（整形外科）	平川　訓己
副院長（神経内科）	高尾　芳樹
副院長（脳神経外科）	篠山　英道
総合美容センター長(婦人科)	吉岡　　保
循環器センター長	伊東　政敏
脳ドックセンター長	大橋　勝彦
認知症疾患医療センター長	涌谷　陽介
生活習慣病センター診療部長	青山　　雅
脳ドックセンター検診部長	光井　行輝
脳神経外科部長	高尾聡一郎
麻酔科部長	和田　　聡
整形外科部長	渋谷　　啓
スポーツ整形外科部長	平川　宏之
耳鼻咽喉科部長	森　　幸威
消化器科部長	前田　憲男
内視鏡室室長（部長）	吉岡　　毅
総合診療科部長	内田　叔宏
総合診療科副部長	福井三恵子
リハビリテーション科部長	池田　健二
リハビリセンター長	高尾　祐子
放射線科部長	塚本　和充
美容外科・形成外科部長	華山　博美
婦人科医長	太田　郁子
呼吸器科医長	矢木　真一
皮膚科医長	嶋田　八恵
眼科医長	石口奈世理
神経内科医長	高宮　資宜
形成外科医長	石田　泰久
平成南町クリニック院長	玉田　二郎
脳ドックセンター	澤田ちづ子
和漢診療科（中医）	甄　　立学
和漢診療科	高尾　公子
歯科医師	芦田　昌和
神経内科（非常勤）	林　　紗織

脳ドックセンター

役職名	氏名
センター長	大橋　勝彦
検診部長	光井　行輝
医師	澤田ちづ子
保健師	栗野　綾乃
保健師パート	三木　　恵
看護師	松本由紀子
看護師パート	佐々木桂子
検査科長	内山　　晃
検査パート	三宅　栄子
	岡野　寛子
管理栄養士主任	時光美由紀
管理栄養士	武政奈津季
部長	岡崎　　浩
事務	三宅　規子
	笠井　宏美
	常清　　愛
	伊賀　里花
	松岡　未来

生活習慣病センター

役職名	氏名
診療部長	青山　　雅
看護師（兼）	岩崎紀代美
事務（兼）	四木　早苗
嘱託事務	池田　基朗

総合美容センター

役職名	氏名
センター長	吉岡　　保
美容外科・形成外科部長	華山　博美
婦人科医長	太田　郁子
看護師副主任	妹尾由香里
看護師	月城　友美
	坂田　幸子
	井上　愛子
事務	三宅　愛美
	上杉みなみ
	横田　智恵

認知症疾患医療センター

役職名	氏名
センター長（兼）	涌谷　陽介
保健師	高尾　聖子
精神保健福祉士	長山　洋子
社会福祉士（兼）	森　　智
臨床心理士（兼）	向原　知世

平成南町クリニック

役職名	氏名
管理者	高尾　公子
院長	玉田　二郎
看護師パート	近藤　宣子
事務	赤澤　容子

歯　　科

役職名	氏名
歯科医師	芦田　昌和
歯科衛生士主任	小林希和子
歯科衛生士	高橋和加子
	藤本　幸恵
	河野いづみ

薬　剤　部

役職名	氏名
部長	市川　大介
副主任	小田　真澄
薬剤師	木村　佳美
	中田　早苗
	安原　梨恵
	稲葉　佳南
	大西　優菜
	齋藤　文佳

放 射 線 部

役職名	氏名
部長	塚本　和充
課長	嶋津　浩二
主任	山田由美子
	平松　利勝
	久米木幸恵

役職名	氏名
放射線技師	仙波　明弘
	立住　睦海
	坪居　　諭
	川上　瑞栄
	正盛　杏奈
	武内　基記
	藤野　匡司
	山口　知子

臨床検査部

役職名	氏名
課長	森山　研介
主任	藤田　昌美
臨床検査技師	穴井　里恵
	亀山　有加
	大山　路子
	小橋　博子
	宮川　愛里
	美納　妙香
	木口　直哉
	谷口　育美
	濃野ありさ

栄　養　科

役職名	氏名
科長（兼）	吉岡　　毅
管理栄養士主任	小野　詠子
管理栄養士	蜂谷　洋香
	中野　聖子
	塩田　祐希
	平田　沙織

医療福祉相談室

役職名	氏名
室長（兼）	高尾　武男
課長	森　　智
科長	向川　真博
副主任	髙岡　憲一
相談員	小野田温美
	片山　沙希
	山﨑　智美
	大島　義弘

リハビリテーションセンター

役職名	氏名
センター長	高尾　祐子
副センター長	津田陽一郎

PT科

役職名	氏名
課長（兼）	津田陽一郎
科長	山下　昌彦
主任	井上　　優
	花田江利子
副主任	戸田　晴貴
	小畑　貴章
PT	江口　　健
	寺尾　圭一
	近藤　　洋
	隠明寺悠介
	知花亜希子
	佐山由志子
	大段　祐貴
	平田亜紗実
	田中　真琴
	田頭　優子
	伏見　恭一
	守安　　啓
	妹尾　祐太
	森岡　昭博
	中根　　航
	椋木　綾香
	室山　敦美
	大熊　　葵
	杉本　麻美
	河本　純希
	渡辺聡一郎
	奥田　朋樹
	竹田　沙布
	奥山　卓哉
	立部　貴公
	安藤　　駿
	片山　佳紀
	小野ちづる
	清水　亮祐
	小亀　淑子
	妹島　由幸
パート	妹尾佳代子

OT科

役職名	氏名
課長	新崎佐江子
科長	宮ノ下三紀
主任	服部　順子
	岩部　絵里
OT	加藤　舞子
	利守　加菜
	西　　悠太
	家守　正治
	千葉　義浩
	石田　　寛
	森本　明博
	山本　　幸
	池上　　舞
	水戸　　彩
	小林　礼佳
	辻田つぐみ
	那須野ちなみ
	加藤　陽一
	有時　由晋
	黒川　恵子
	山畑　美佳
	井戸　友美
	福井　理紗
	細田　万理
	大西　愛理
	長井健太郎
	安光まりあ
	野村　千尋

ST科

役職名	氏名
課長	藤本　憲正
副主任	林　　征子
ST	和田　　恵
	影山ユカリ
	山田美弥子
	小倉　　恵
	山田　　円
	小幡明日佳
	青柳　政芳
	田村　梨帆
	三宅　理華
	大下　真純
	清水絵梨香
臨床心理士副主任	上田　恵子
臨床心理士	向原　知世
認定心理士副主任	阿部　弘明
認定心理士	吉川　由起
	犬飼　一智
	村島　悠香

リハビリエイド

役職名	氏名
パート	大澤登美子
	家根橋美穂

訪問リハビリ

役職名	氏名
実務管理者（科長）	荻野　誉子
PT（兼）	岡崎　高弘
	津田陽一郎
	久川裕美子
	白神　侑祐
OT（兼）	野崎由里子
	桜井　佳奈
ST（兼）	藤本　憲正
	林　　征子

看　護　部

役職名	氏名
看護部長	武森三枝子
看護副部長	榊原一二三
教育担当師長	小山恵美子
看護部秘書	難波はるか

役職名	氏名
介護福祉士	山﨑　友紀
介護士	湯月　真理
介護士パート	山川　勝子
	岩下　宏子

手術・中材

役職名	氏名
主任	那須　裕美
看護師	角原　清歌
	木村恵里花
	佐藤　友紀
准看護師	高尾恵利子

眼　　科

役職名	氏名
視能訓練士	石井　雅子

外　　来

役職名	氏名
師長	立尾　且子
主任	田辺美紀子
副主任	仲井　香織
	本田　俊江
	岩崎紀代美
看護師	片山　智子
	志摩あゆみ
	大前　一恵
	工藤　悠子
	玉木　俊美
	宮田さおり
	赤松　　瞳
	平松　佳苗
	水田　由望
	小山　千沙
	宮田百合子
看護師パート	板谷　美幸
	宮武　優子
	山本由美子
	西岡千恵子
	梶田　優子
	櫻内美由紀
	東田奈津美
	木村　郁美
准看護師	佐藤　千栄
	石本　まみ
准看護師パート	朴　　鐘愛
介護福祉士	石田　淑子
介護福祉士パート	坂手めぐみ
介護士	山崎　美和
介護士パート	八木　涼香

2　　F

役職名	氏名
師長（兼）	榊原一二三
主任	篠田かおる
	猪木　初枝
	津田　朋子
副主任	坂井　誓子
看護師	黒田由美子
	荒木　典子
	森　　明子
	古城　範子
	藤本　貴子
	高橋　幸奈
	守屋　沙織
	赤澤　杏南
	的場　美幸
	石井　明美
	西谷　香梨
	小西　麻由
	池田明日香
	中山　晴佳
	松井　千尋
	薦田みどり
	舩本　朋美
	山田　　海
	波田奈津希
	間庭　　茜
	森末　加容
	森元　彩香
（時短職員）	西山　恭江
	坂本惠里香
准看護師	山本　健司
准看護師パート	石岡　篤子
介護副主任	川上奈津子
介護福祉士	藤原　裕子
	合田　悠起
	小原　らな
介護士	秋田　　海

3　F　西

役職名	氏名
師長	岡本なおみ
主任	北﨑　鈴子
副主任	細田　尚美
看護師	宗村　　彩
	向　　美香
	斉藤　奈津
	鳥上　厚誌
	柿本　愛深
	田村　成美
	坂本　祐樹
	谷岡香保梨
	田中　佐枝
	大倉　早織

役職名	氏名
	石井　桃子
	福井　里歩
	溝川　陽子
	伊丹　未紀
	加藤　亜実
	佐藤　真琴
	関水　千夏
（時短職員）	大久保和美
	樋野美紀子
准看護師	橋本　香奈
介護福祉士	岡田　　円
	片山　　翔
	三宅佐知子
介護士	中島　佳代
	水田　佳佑
看護補助パート	張　　安浩

3　F　東

役職名	氏名
師長	加納　由美
主任	池元　洋子
看護師	髙橋　奈那
	山下亜由美
	上化田裕美
	清水　美紀
	佐竹　美穂
	横佐古里砂
	後藤　周子
	佐藤　久美
	丸山　千尋
	藤原　　清
	柳田　佳奈
	長尾　泰代
	岡﨑　尚美
	小倉　朝日
	長嶋　菜摘
	山口　夏実
（時短職員）	志茂山久美
	斎藤　絵理
	中島　　愛
看護師パート	沖田　敦子
准看護師	片岡　幸枝
	神田　理奈
	小椋　佑弥
介護福祉士	難波美恵子
	川上　徳子
	塩見　里紗
介護士	小林　加奈
看護補助パート	江　　徳志

4　F　西

役職名	氏名
師長	奥村美智子

役職名	氏名
副主任	岡崎真由美
看護師	岡本　郁
	森岡　順子
	田中　宏枝
	鈴木結佑加
	諏訪美智子
	塩尻　雅子
	渡邊　未紀
	中山　雄太
	三島　幸子
	山本　美幸
	大塚　実紅
	中條　正子
（時短職員）	長田真理子
	中村　寿子
看護師パート	市村　絵美
准看護師	天野　公美
介護副主任	小椋かおり
介護福祉士	安藤　有香
	岩佐　紘樹
	大岡信太郎
	中村　直貴
	山﨑　真美
	和久田　篤
	一百野　望
介護士	宮崎　和江
看護補助パート	張　傑

4　F　東

役職名	氏名
師長	吉岡　文美
主任	永野　友美
看護師	安達　恵
	桝田　茜
	小林真由美
	大田　愛歌
	宇田　容子
	大原　知子
	今井　麻美
	武井　敏弘
	来間知衣里
	安田　美紀
	仁科　堅次
看護師パート	仙波　沙織
	石井　一恵
准看護師	乾　里美
介護主任	樋口　大祐
介護福祉士	吉田　芽生
	桑野　智章
	本田　貴文
	三宅　栄美
	河田　梨絵
	松尾　森絵
介護士	水畑　花菜

役職名	氏名
看護補助パート	汪　新云

事務部門

役職名	氏名
事務長	家村　益生

渉外部

役職名	氏名
部長	野上　隆

総務部

役職名	氏名
	岸　みゆき

経営企画部 財務課

役職名	氏名
部長	石川　英知

経営企画部 経理課

役職名	氏名
課長	安田　寛行
事務	守分　沙織

経営企画部 医療情報室

役職名	氏名
部長	秋田　望
課長	佐藤　宏明
主任	福山　浩
事務	力武　義治

経営企画部 方針管理室

役職名	氏名
（兼）	秋田　望
（兼）	石川　英知

人事部

役職名	氏名
部長（採用担当）	西坂　孝治
部長（労務担当）	板谷　尚昌
課長	安藤　浩和
主任	山本　篤司
事務	渡邊ひとみ

秘書・広報室

役職名	氏名
課長	三宅　裕代
事務	角井　春妃
	猪木　栄子
	中杉久美子

秘書課

役職名	氏名
課長（兼）	三宅　徹

業務サービス部 施設管理課

役職名	氏名
課長	金光　秀彰
主任	末廣　隆
	藤川　義則
事務	鈴木　裕子
駐車場管理パート	吉井　晃
	岡部　憲三

業務サービス部 搬送管理課

役職名	氏名
主任	小坂　聡弘

医療事務部 DPC課

役職名	氏名
課長	三宅　徹

医療事務部 病歴管理課

役職名	氏名
副主任	栢野　浩行
事務	仁科　貴文
	竹本恵美子

医療事務部 医療秘書課

役職名	氏名
主任	金光　ルミ
医療秘書	小森真理子
	小坂　真美
	上野　節子
	坂本奈緒子
医療秘書パート	大本　有香
	永富　直美
	清水　淳子
	水田かおり
	川端　美和

医療事務部 医事課

役職名	氏名
科長	高見　尚生
主任（外来担当）	岸本　弥生
主任（入院担当）	森永　聖史
副主任（教育担当）	石井　克明
副主任	赤澤　充章
事務	中野　敬子
	岡　真由美
	難波美智子
	嶋田真奈美
	重松真由美
	四木　早苗
	山本　由美
	澤根麻沙子
	竹花佑里恵
	阿部　恵
	岡田　直樹
	高倉　誠太
	宮脇三千江
	高下　仁美
	横内　憲子
	三宅　千絵
	小川美由紀
	菅野　莉加
	菅原　睦子
パート	秋田　章子
	坪井　操美
	奥口　麻紀
	小郷由美子
	安藤　康代
	能勢　弘子
	佐藤　晶子

地域連携室

役職名	氏名
室長	渡邉　英子
（兼）	森　　智

保　育　室

役職名	氏名
保育士副主任	佐藤　玉貴
保育士	福岡　明子
	難波　　彩
	堀口　夏奈
保育士パート	浅井あゆみ

介護老人保健施設　倉敷老健

役職名	氏名
施設長	大浜　栄作
副施設長	山田奈々子

入所

役職名	氏名
医師（兼）	大浜　栄作
	鈴木　健二
	伊東　政敏
看護部長（兼）	山田奈々子
副師長	湯谷美由紀
主任	渡辺　藤恵
看護師	小林　靖代
	森谷　理恵
	川西　弘子
	川西　国子
	藤木まつ子
	新谷　信恵
	桑原　百代
看護師パート	藤井　芳恵
	松田　　愛
准看護師（副主任）	景山ちづる
准看護師	木原　洋子
	若林　輝子
	松尾　　緑
	景山　貴子
	三宅　英子
介護科長	浜中　俊衣
	秋山　邦忠
介護主任	小迫　伸一
	中村　和夫
介護副主任	大西　洋史
	阿部　倫丈
介護福祉士	仲田　和世
	小林　里実
	中島　美紀
	井上　由佳
	土家　卓馬
	赤澤　麻衣
	横田　大地
	仲田　麻理
	伊達　健司
	塚本　秀之
	大塚　　繁
	細見　由佳
	尾嶋　彩乃
	小郷　　徹
	逸見　惇誉
	山下沙也加
	薮井千佐子
	松崎　久子
	小峠　勝己
	太田奈津子
	堀崎　有亮
	武政　茉衣
	藤岡千絵美
	濱田　慎五
	坪田　優貴
	角南美香子
	山﨑　脩平
	川西　麻子
	後藤　可奈
	大場　麻未
	頭應　　歩
	本郷　洋行
	木村　美佳
	大橋　邦子
	福岡　大貴
	井戸　将人
	藤原　愛弓
介護福祉士パート	有吉　純子
介護士	池田裕美子
	松川　大樹
	大谷　悌生
	末長　拓真
	小野　恵美
介護士パート	加藤美津枝
PT科長	檀上　　香
PT	大橋　美枝
	山﨑　　諒
OT	最相　伸彦
	西口　和希
ST	川上　有希
管理栄養士（兼）	中野　聖子

支援相談員

役職名	氏名
支援相談員	堀口　貴司
	小橋紗和子

介護支援専門員

役職名	氏名
	野上　弘子
（兼）	竹内　真矢

事務部

役職名	氏名
	竹内　真矢
	平川由香理
	佐藤　恵理

学習療法室

役職名	氏名
教育担当（兼）	山田奈々子
リーダー（兼）	阿部　弘明
サブリーダー（兼）	藤田　真弓
	柳井　健司
	小迫　伸一
	坂本　晋也
学習療法士パート	横田　裕子
	岩藤真由美
	北林　知里
	佐伯　奈美
	稲葉　智美
	大畑　尚子

倉敷在宅総合ケアセンター

役職名	氏名
センター長	高尾　武男

ケアプラン室（居宅介護支援事業所）

役職名	氏名
ケアマネ課長	難波　　忍
ケアマネ主任	山川　恭子
ケアマネジャー	永瀬　啓子
	黒坪　　磨
	東本　陽子
	髙橋　正恵
	三室　美希
	滝澤　順子
	難波佐千子
	中村　　綾
	岩井　順子
	西薗恵美子
	泊　　量博
	渡辺あけみ
	長田　由香
	西村　早織
	秋山　民子
ケアマネパート	三宅万貴子

地域包括支援センター

役職名	氏名
主任ケアマネ／副主任	青木　菊江
看護師	本郷　浩子
ケアマネジャー	小野佐和子
	中谷　真弓
	中塚満衣子
	岡本　寿子
社会福祉士	入江　麻紀
	寺崎　裕美
	亀井　一真

予防リハビリテーション

役職名	氏名
PT主任	樋野　稔夫
介護福祉士	叶　　智子
	小迫　早紀
	大島　栞奈
介護士	行本　結衣
PT	生田　容子
	服部　宏香
OT	柚木　法子
	川上ゆかり
OT（兼）	新崎佐江子
	千葉　義浩
ST（兼）	藤本　憲正

通所リハビリテーション

役職名	氏名
看護副部長	小林美智恵
看護師	片岡　和美
准看護師パート	佐藤　清美
	田中婦未子
介護主任	菅　　政道
介護副主任	大村　純二
	坂本　千尋
介護福祉士	佐伯　奈歩
	山﨑　由博
	宮河　悠子
	松田　日向
	山上　啓一
	須増　智美
	川原真由美
	石橋　美穂
	田中　弘貴
	吉國あゆみ
	中山　　馨
	阿部紗千恵
	川原菜々恵
	佐々木景子
	須尭　絢香
	小松美緒子
	中川久美子
	菅野麻依子
	佐々木美由紀
	安達　正行
	大西　康予
	倉上　　誠
	渡邉　昭子
	橋本　美穂
	出原　優子
介護福祉士パート	山下　佳香
介護士・運行担当主任	山口　節哉
介護士	白神カオル
	守谷　　薫
	西岡　静恵
	中山　風香
介護士パート	岡田　恵美
介護補助パート	石井　真之

役職名	氏名
	妹尾　祐希
PT	平坂　知子
PT（兼）	江口　　健
	妹尾　祐介
	伏見可菜子
	中根　更紗
	中塚　智恵
	橋本　麻美
	大榮　勇貴
	寺中　雅智
OT科長	黒川　直彦
OT	中江千香子
OT（兼）	加藤　舞子
	永野真理子
	金平　真実
ST（兼）	藤本　憲正
	木村　仁美
支援相談員	岡村　亜耶
	矢野　歩弥

訪問看護ステーション

役職名	氏名
所長	濵田ゆりか
副主任	真鍋　和子
	三宅千津子
看護師	浅沼　良美
	澤口　明子
	木村　　綾
	後藤　　香
	田辺　範子
（時短職員）	井川　　恵
	辻川ゆかり
パート	小川　和子
	山本　里織
	宇野美千子
	尾崎　玲子
PT科長（兼）	荻野　誉子
PT	岡崎　高弘
	久川裕美子
	梶谷啓太郎
	白神　侑祐
PTパート	苫野佐知子
OT	野崎由里子
	櫻井　佳奈
	三木真奈美
ST（兼）	藤本　憲正
	林　　征子

事務部

役職名	氏名
事務	三宅　浩子
	佐藤　真実

住宅型有料老人ホームローズガーデン倉敷

役職名	氏名
施設長	高尾　公子
副施設長・看護部長	武本　節子
総務部長	猪原　　徹
介護福祉士	本地　智美
管理栄養士	小幡　典子
事務主任	三宅　雄也
事務	藤原ありさ

社会福祉法人　全仁会

役　　員

役職名	氏名
理事長・評議員	高尾　武男
理事・評議員	高尾　公子
	秋田　修一
	三浦　一男
	小谷　眞三
	日向　　豊
理事	武部美智子
評議員	横田　修子
	高尾　祐子
	藤原　　隆
	白神三千子
	岡本　明治
	木戸　靖昭
	磯嶋　邦弘
	松尾　武司
	内山　順治
	大森　義隆
監事	江國　耕輔
	山本　光徳

倉敷在宅総合ケアセンター

ショートステイ

役職名	氏名
管理者　師長	清水　蕗子
嘱託医	高尾　武男
看護師	小野　義恵
	大田加代子
看護師パート	高田　志津
准看護師パート	小森　美加
介護科長	藤代　和正
介護副主任	管波　宏基
	井上　慎也
介護福祉士	藤原　昌代
	平田安佐美
	徳重　智美
	須増　康王
	田邉　美帆
	木曽田有紀
	衞藤　知子
	山本　紗弓
	藤井あゆみ
	飯田　晴美

役職名	氏名
	小野　志保
	藤田　恭輔
	川上　園永
介護士	小野　陽子
相談指導員	金崎　慶大
PT課長（兼）	鈴本　益史

ケアハウスドリームガーデン倉敷

役職名	氏名
施設長	有光　育代
事務科長	沖田　真一
生活相談員主任	池田　　豊
介護福祉士	大嶋　亜季
	新田千賀子
介護士パート	山本　理絵
管理栄養士	鍬野　倫子

デイサービスドリーム

役職名	氏名
管理者　介護主任	坂本　晋也
看護師	小林　里美
看護師パート	松田ゆかり
介護士	篠田　春恵
生活相談員	岡　　友美
	小林　博子

複合型介護施設ピースガーデン倉敷

役職名	氏名
施設長	武部美智子

事務部門

役職名	氏名
事務	白神　直美

デイサービス

役職名	氏名
管理者　介護科長	柳井　健司
看護師	後藤　頼子
看護師（兼）	藤田　真弓
看護師パート（兼）	日向　和栄
介護福祉士	寺山　真吾
	大森　美子
	河原　由佳
介護士	矢野　淳子
	豊島　賢代
介護士兼相談員	林　　孝光
介護士パート	西村　浩二
	稲葉　智美
生活相談員主任	仁熊　海太
PT（兼）	鈴本　益史

特養

役職名	氏名
管理者　施設長	武部美智子
嘱託医	玉田　二郎
介護科長	佐々木嘉信
師長（施設看護リーダー）	藤田　真弓
看護師	川田　順子
	濵本ひとみ
看護師パート（兼）	日向　和栄
介護主任	片山智恵子
介護福祉士	山室　摩美
	赤木　法子
	山本　和恵
	斎藤　優花
	安富真奈美
	大平　　暁
	田中　峰行
	古市　善巳
	秋田　道徳
	深田　夏生
介護士	石原　峯子
	小出　奈未
	江藤貴美子
OT機能訓練指導員副主任	眞壁　　忍
生活相談員	大谷　奈緒
ケアマネジャー	髙木三寿々
管理栄養士（兼）	平田　沙織

ショートステイ

役職名	氏名
管理者　介護科長	江口　美樹
嘱託医	玉田　二郎
師長（兼）	藤田　真弓
看護師	大林　綾子
	武田美穂子
PT課長	鈴本　益史
介護副主任	川村　香織
	三宅　　賢
介護福祉士	安原　恵里
	古賀　貴穂
	川村　浩彰
	佐々木智恵美
	平野　勝久
	宮﨑　裕美
	鮫島　雅史
	三宅　瑞穂
	今城　義幸
介護士	平松なつめ
生活相談員	卜部　由香
管理栄養士（兼）	平田　沙織
運転手パート	平野　政美

グループホーム

役職名	氏名
管理者　介護科長	赤澤　吾郎
師長（兼）	藤田　真弓
介護副主任	江國　　寛
	石森　裕子
介護福祉士	津島　亮太
	三石　陽子
	大島　拓也
	立花　　光
	渡邉千恵美
	西本　純子
	小田　恭子
	中村　優作
	浅沼　信子
介護福祉士パート	下岡　富江
介護士	原田　飛鳥
	中島　雅貴
OT機能訓練指導員副主任（兼）	眞壁　　忍

（有）医療福祉研究所ヘイセイ

役職名	氏名
代表取締役	矢野　英彦

訪問介護
ヘイセイホームヘルプステーション

役職名	氏名
介護主任	上野　昌子
介護副主任	林　　由美
介護福祉士	浮森久美子
	山本　久代
	森　　貴子
	楠田　理子
	本田　千秋
介護福祉士パート	阿部　亜紀
	本田　一恵
	江崎真由美
	西村千代子
	佐藤　泰子
	猪岡さち子
	坂東　寿枝
	岡部みどり
	永岡　靖子
	西本加代子
	髙橋エツ子
	野田　順子
ヘルパー１級パート	酒巻久仁子
	池ノ上タミ子
ヘルパー２級	津田せつ子
	難波美佐子
	小山貴代子
ヘルパー２級パート	三宅百合子
	谷　　幸
	堀田　郁子
	定久　末子
	久岡　芳子
	浅沼　文子
	梅田　典子

訪問入浴

役職名	氏名
科長／看護師	藤本恵美子
准看護師	池田　君子

役職名	氏名
介護主任	河原　基人
介護福祉士	横林　悦子
	竹之下直子
	上仲由紀子
	藤岡　　保
ヘルパー２級	岡田　啓利
看護師パート	三木　　恵
	田口　克呼
准看護師パート	山本　年子
介護福祉士パート	光田　文香

福祉用具

役職名	氏名
福祉用具・販売管理者　副主任	梶原加世子
介護福祉士	熱田　育子
	三宅　夏穂

介護タクシー

役職名	氏名
運転手	西村　元広
運転手パート	荒川　正二
	有本　八朗
	白石　信行
	松本賢二郎
	今井　昭二
	小林由里子

鍼　灸　院

役職名	氏名
院長（中医）	甄　　立学
鍼灸師	川上　萌美
	島村　亮潤

売店部門

役職名	氏名
売店パート	小椋　敦子
	里見　尚美
	谷川日出美
	玉木香代子
	松村世利子
	久野　師代
	川崎千加子
院内洗濯パート	森川美津子

事務部門

役職名	氏名
営業部長	内山　順治
科長	目黒　文夫
事務	長尾美穂子

送迎運転手

役職名	氏名
運転手パート	藤井　郁子
	末永　洋機
	鶴原　久夫
	横溝　良典
	岸　　達夫
	福森　　徹
	今吉　一正
	福利　敏弘
	山森　繁隆
	河野　　茂
	粟根　　昇
	寺山　智文
	国府　寿子
	堀尾　昌弘
	小野　敏夫
	松山　文雄
	古賀　辰男
	平松　憲正
	北村　清忠
	花田　恒彦
	小川　健一
	美濃　敏明
	佐藤　忠典
	三宅　啓二
	安藤　哲三
	山地　　守
	森山　功一
	八木　二郎
	平野　啓治
	有田　忠明
	福井　　斉
	犬飼貴美男
	加根　克己
	姫井　昌己

警　　備

役職名	氏名
警備パート	笠原喜久男
	山下　光利
	谷本　尚史

サービス付き高齢者向け住宅 グランドガーデン南町

役職名	氏名
ゼネラルマネージャー	竹下　　穣
師長	花巻　宏枝
看護師	髙原三枝子
管理栄養士	瀧川　　薫
営業担当主任	高尾　卓治
事務	山本奈美江

ヘルプステーション南町

役職名	氏名
管理者　介護主任	有働　泰裕
介護福祉士	宮原　祐輝
	藤枝　宏幸
	平田　忠弘
	森岡　輝子
	徳田　理恵
	関藤　真未
	甲谷　智子
	中尾　孝子
	松久保ひとみ
	林　　光代
	浦岡　　幸
	河野美奈子
	加島谷　淳
介護福祉士パート	酒見真希子
介護士	井上　郁恵
	西本　邦見
	中野　扶美
	和田　英里
	國守　孝江
	加藤　美和
	福島　聡実
介護士パート	齋藤久美子

南町ケアプラン室（居宅介護支援事業所）

役職名	氏名
ケアマネ課長	岩佐　暁子
ケアマネジャー	平松　和晃

編集後記

社会医療法人全仁会 25 周年記念誌をお届けします。記念誌は、これまで創立 5 周年、10 周年、15 周年に発行されており、今回は節目の 25 周年記念誌となりました。超ご多忙の中、本記念誌に心のこもったお祝いの言葉をお寄せ頂いた諸先生に心から御礼申し上げます。また、多忙な日常業務の中、全仁会グループ各部署ならびに各種委員会等のあゆみ・現状等を執筆して下さった責任者の諸氏に厚く御礼申しあげます。

社会医療法人全仁会二十五周年記念誌編集委員会

委員長　大浜　栄作

委　　員　平川　訓己　　高尾　芳樹
青山　　雅　　高尾　祐子
武森三枝子　　山田奈々子
津田陽一郎　　森山　研介
難波　　忍　　家村　益生
秋田　　望　　福山　　浩
栢野　浩行　　三宅　裕代
角井　春妃　　猪木　栄子
中杉久美子

社会医療法人 全仁会　二十五周年記念誌

発　行：平成 26 年（2014 年）5 月 31 日
編　集：社会医療法人全仁会二十五周年記念誌編集委員会
発行者：社会医療法人全仁会
理事長　高尾聡一郎
〒710-0826　岡山県倉敷市老松町 4 丁目 3-38
TEL (086) 427-1111 (代)
印刷所：友野印刷株式会社

社会医療法人 全仁会

二十五周年記念誌

25th Anniversary